ユーザーガイド

AWS コスト管理

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS コスト管理: ユーザーガイド

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

とは AWS Billing and Cost Management 1
の機能 AWS Billing and Cost Management 1
請求と支払い 1
コスト分析 2
コストの整理 2
予算編成と計画 3
コスト削減とコミットメント 3
関連サービス 3
AWS Billing Conductor 3
IAM 4
AWS Organizations 5
請求転送 5
AWS 料金表 API 5
AWS コスト管理の開始方法 7
にサインアップする AWS アカウント 7
管理アクセスを持つユーザーを作成する 7
必要な IAM ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチする 9
請求情報と使用状況を確認 9
AWS コスト管理機能の設定 10
次のステップ 10
請求情報とコスト管理 API を使用する 10
詳細情報 10
ヘルプの利用 11
コンソールのホームページを使用する 13
Billing and Cost Management ウィジェットの管理 13
コスト概要 14
コストモニター 15
コストの内訳 16
推奨されるアクション 16
コスト配分カバレッジ 17
コスト削減の機会 18
トップトレンド 19
請求データと Cost Explorer データの違いを知る 20
請求データ 20

Cost Explorer データ 20
償却コスト 20
AWS のサービス グループ化 21
当月の推定請求額 21
Rounding 21
割引、クレジット、返金、税金の表示 21
推奨アクションタイプについて 22
請求ビューによるコスト管理データアクセスの制御 29
カスタム請求ビューの開始方法 33
前提条件 34
コンソールにアクセスしてカスタム請求ビューを作成する 34
カスタム請求ビューの作成 35
カスタム請求ビューの共有 38
カスタム請求ビューの管理 40
カスタム請求ビューのフィルターの編集 41
カスタム請求ビューのソースの編集 41
カスタム請求ビューのタグの編集 42
カスタム請求ビューの削除 42
組織内でのカスタム請求ビューへの共有アクセス管理 43
AWS マネージド請求ビューについて 44
組織外でのカスタム請求ビューへの共有アクセス管理 44
カスタム請求ビューを使用したデータへのアクセス 45
カスタム請求ビュー 45
AWS マネージドビューの使用 47
請求ビューを使用した Cost Explorer レポートの表示 47
請求ビューを使用した予算の表示と作成 48
請求ビューを使用したエクスポートの表示と作成 50
ダッシュボードを使用したコストと使用状況データの可視化と分析 51
ダッシュボードの使用を開始する 52
前提条件 52
ダッシュボードへのアクセス 53
ダッシュボードのアクセス許可について 53
カスタムダッシュボードの作成 54
ウィジェットをダッシュボードに追加する 55
ダッシュボードのカスタマイズ 57
ウィジェットのタイプについて 57

ダッシュボードのエクスポート 59
エクスポートオプション 59
ダッシュボードの共有 61
ダッシュボードの管理 62
ダッシュボードの編集 62
ダッシュボードを削除する。 63
ダッシュボードの複製 64
ダッシュボードにタグを追加する 64
AWS Cost Explorer を使用してコストと使用状況を分析する 66
Cost Explorer を有効にする 67
Cost Explorer へのアクセスの管理 68
Cost Explorer を開始する 72
Cost Explorer を使用してデータを探索する 72
Cost Explorer をナビゲートする 73
Cost Explorer のコスト 73
Cost Explorer の傾向 73
日別の非ブレンドコスト 74
月別の非ブレンドコスト 74
非ブレンドの純コスト 75
最近の Cost Explorer レポート 75
償却コスト 75
償却純コスト 75
Cost Explorer グラフを使用する 76
期間ごとのコストを比較する 96
アクセス許可 97
コンソールにアクセスする 97
Cost Comparison の仕組みを理解する 97
コスト比較の実行 103
高度なコスト分析のためにより多くのデータを調べる 105
月単位の詳細度の複数年データ 105
詳細なデータ 106
月単位の推定使用量の概要を把握する 109
複数年データと詳細なデータの設定 111
AWS Cost Explorer一 API の使用 113
サービスエンドポイント 114
AWS Cost Explorer API を使用するための IAM アクセス許可の付与 114

AWS Cost Explorer API のベストプラクティス 114
Cost Explorer レポートを使用してコストを把握する 116
デフォルトの Cost Explorer レポートを使用する 116
コストと使用状況レポート 116
リザーブドインスタンスのレポート 117
Cost Explorer レポートを作成する 124
Cost Explorer レポートを表示する 125
Cost Explorer レポートを編集する 125
Cost Explorer レポートを削除する 126
設定を保存する 127
コストデータの CSV ファイルをダウンロードする 127
AWS Budgets によるコストの管理 129
AWS Budgets のベストプラクティス 131
AWS Budgets へのアクセスの制御 132
予算アクションについて 132
予算の設定 133
カスタム期間の予算について 133
コスト予算の設定時に使用する詳細オプション 134
AWS Budgets の更新頻度について 134
予算アラートの設定 134
Amazon SNS トピックを使用して予算アラートを設定する 134
予算のタグ付け 135
組織構造が変更された際の予算の確認 135
予算の作成 136
請求ビューの前提条件とモニタリング 136
チュートリアル 137
予算テンプレートの使用 (シンプル) 138
予算のカスタマイズ (アドバンスド) 139
予算作成方法 151
予算のフィルタリング 152
予算の表示 157
予算の読み取り 158
予算の編集 159
予算のダウンロード 160
予算のコピー 160
予算の削除 161

予算アクションを設定する 161
AWS Budgets が予算アクションを実行するためのロールの設定 162
予算アクションを設定する 164
予算アクションを確認して承認する 166
予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する 167
トラブルシューティング 169
通知の確認メールを確認または再送信する 169
SSE と を使用して Amazon SNS 予算アラートデータを保護する AWS KMS 170
チャットアプリケーションでの予算アラートの受信 171
AWS Budgets レポートを使用したメトリクスのレポート 176
AWS Budgets レポートの作成 176
AWS Budgets レポートの編集 177
AWS Budgets レポートのコピー 178
AWS Budgets レポートの削除 178
AWS コスト異常検出による異常な支出の検出 179
異常検出をセットアップする 180
Cost Explorer を有効にする 180
IAM を使用してアクセスを制御する 180
コンソールにアクセスする 181
クォータ 181
コスト異常検出のアクセス制御 181
リソースレベルのポリシーを使用したアクセスの制御 182
タグ (ABAC) を使用したアクセスの制御 184
AWS コスト異常検出の開始方法 185
コストモニターとアラートサブスクリプションを作成する 185
検出された異常の概要 191
異常を表示する 193
モニタータイプ 196
カスタマーモニターから AWS マネージドモニターへの移行 198
アラート設定を編集する 199
異常通知用の Amazon SNS トピックの作成 201
通知確認メールのメッセージの確認または再送信 203
SSE と を使用して Amazon SNS 異常検出アラートデータを保護する AWS KMS 170
チャットアプリケーションでの異常アラートの受信 207
コスト異常検出で EventBridge を使用する 210
例: コスト異常検出の EventBridge イベント 210

コスト異常検出での AWS ユーザー通知の使用 211
例: Anomaly Detected の EventBridge イベント 212
イベントのフィルタリング 213
コスト異常検出のオプトアウト 215
Cost Optimization Hub による機会の特定 217
Cost Optimization Hub の開始方法 218
Cost Optimization Hub でサポートされているアカウント 218
Cost Optimization Hub にオプトインするためのポリシー 219
Cost Optimization Hub の有効化 222
Compute Optimizer へのオプトイン 222
コンソールにアクセスする 222
Cost Optimization Hub のオプトアウト 223
AWS Organizations の信頼されたアクセス 223
管理者アカウントを委任する 226
Cost Optimization Hub の設定をカスタマイズする 227
節約額の推定モードの設定 228
コミットメントの設定 228
コスト最適化の機会を表示する 230
ダッシュボードの表示 231
コスト効率メトリクスを理解する 232
削減見込み額 232
最適化可能な総支出 233
コスト効率の表示 234
よくある質問 234
コスト最適化の機会の優先順位付け 235
コスト最適化戦略を理解する 235
削減の機会の表示 240
推奨アクションと推定削減額の表示 241
関連する推奨事項のグループ化 242
月間節約額の見積り 242
推定削減額の集計 243
サポートされているリソース 243
適切なサイズ設定に関する推奨事項によるコストの最適化 245
適切なサイズ設定に関する推奨事項の開始方法 245
適切なサイズ設定に関する推奨事項の使用 246
CloudWatch メトリクスを使用した推奨事項の強化 247

適切なサイズ設定に関する推奨事項の共有 248
適切なサイズ設定に関する推奨事項の計算の理解 249
一括請求 (コンソリデーティッドビリング) ファミリー 250
インスタンスがアイドルであるか、使用率が過小であるか、どちらでもないかを判断する 250
変更の推奨事項の生成 250
削減額の計算 251
Cost Explorer の予約について 251
予約レポートの使用 252
予約の失効アラートの管理 252
予約の推奨事項にアクセスする 252
サイズ柔軟な RI の RI 推奨事項 254
予約の推奨事項を表示する 255
予約の推奨事項を理解する 255
予約の推奨事項を変更する 256
予約の推奨事項を保存する 257
予約の推奨事項を使用する 264
料金見積りツールを使用して見積りを生成する 267
コンソール内 AWS 料金見積りツール とパブリック料金計算ツール 267
コンソールの機能 AWS 料金見積りツール 268
ワークロード見積り 268
請求見積り 268
の料金 AWS 料金見積りツール 268
の開始方法 AWS 料金見積りツール 269
でサポートされているアカウント AWS 料金見積りツール 269
料金見積りツールへのアクセス 269
AWS 料金見積りツール 概念を理解する 270
主要なコンセプト 270
料金、割引、購入コミットメントについて 272
割引前の料金 273
割引後の料金 273
購入コミットメント 276
メンバーアカウントの料金の設定 276
ワークロード見積り 277
ワークロード見積りの作成 277
新しいサービスの追加 278

新しいサービスの設定 ... 279
使用履歴の追加 ... 280
以前に保存した見積りの追加 ... 282
請求見積り ... 283
請求見積りで使用されるデータエンティティについて ... 284
請求シナリオの作成 ... 285
使用履歴の追加 ... 286
新しいサービスの追加 ... 287
以前に保存した見積りの追加 ... 288
メリット共有設定の追加 ... 289
Savings Plans の追加 ... 289
リザーブドインスタンスの追加 ... 290
古い請求シナリオと期限切れの請求シナリオ ... 291
請求見積りの作成 ... 292
請求見積りの表示 ... 293
見積りのエクスポート ... 296
手順 ... 297
での EventBridge の使用 AWS 料金見積りツール ... 297
Amazon EventBridge アクセス許可 ... 298
イベントメッセージの構造の例 ... 298
Amazon Q Developer でコストを管理する ... 300
概要: ... 300
できること ... 301
使用方法 ... 302
ユーザーエクスペリエンス ... 304
マルチアカウントコスト管理 ... 305
開始方法 ... 306
次の手順 ... 307
料金 ... 307
仕組み ... 308
エージェントアーキテクチャ ... 308
データソースと API 統合 ... 308
計算エンジン ... 311
API の透明性 ... 312
制限事項 ... 312
セキュリティとプライバシー ... 313

アクセス許可の概要 ... 313
コスト管理機能のアクセス許可 ... 313
q:PassRequest アクセス許可 ... 316
マルチアカウントアクセス ... 317
クロスリージョン呼び出し ... 317
データ保護 ... 318
Savings Plans でコストを管理する ... 319
セキュリティ ... 320
データ保護 ... 320
Identity and Access Management ... 321
ユーザータイプと請求に対するアクセス許可 ... 322
オーディエンス ... 322
アイデンティティを使用した認証 ... 324
ポリシーを使用したアクセスの管理 ... 326
アクセス管理の概要 ... 328
AWS コスト管理と IAM の連携方法 ... 331
アイデンティティベースのポリシーの例 ... 336
AWS コスト管理に IAM ポリシーを使用する ... 339
AWS コスト管理ポリシーの例 ... 365
アクセス制御を移行します ... 388
サービス間での不分別な代理処理の防止 ... 403
トラブルシューティング ... 404
サービスリンクロール ... 407
サービスにリンクされたロールの使用 ... 408
AWS マネージドポリシー ... 421
ログ記録とモニタリング ... 422
AWS コストと使用状況レポート ... 422
AWS Cost Explorer ... 423
AWS 予算 ... 423
AWS CloudTrail ... 423
AWS 料金見積りツール ... 423
を使用した AWS コスト管理 API コールのログ記録 AWS CloudTrail ... 424
コンプライアンス検証 ... 441
耐障害性 ... 441
インフラストラクチャセキュリティ ... 442
クォータと制限 ... 443

予算 443
予算レポート 444
Cost Explorer 444
AWS コスト異常検出 444
AWS 料金見積りツール 446
請求ビュー 446
AWS 請求とコスト管理ダッシュボード 446
ドキュメント履歴 447
..... cdlxiv

とは AWS Billing and Cost Management

AWS コスト管理ユーザーガイドへようこそ。

AWS Billing and Cost Management には、請求の設定、請求書の取得と支払い、コストの分析、整理、計画、最適化に役立つ一連の機能が用意されています。

使用を開始するには、要件に合った請求を設定します。個人または小規模な組織の場合、 AWS は提供されたクレジットカードに自動的に請求します。

大規模な組織では、 AWS Organizations を使用して複数の の料金を統合できます AWS アカウント。その後、請求書、税金、発注書、支払い方法を組織の調達プロセスに合わせて設定できます。

複数の がある場合は AWS Organizations、請求転送を使用して、1 つのアカウントからすべての組織を一元管理して支払います。

コストカテゴリまたはコスト配分タグを使用するか、 AWS Cost Explorerを使用して、チーム、アプリケーション、または環境にコストを割り当てることができます。また、お好みのデータウェアハウスやビジネスインテリジェンスツールにデータをエクスポートすることもできます。

クラウドの予算管理に役立つ機能の概要について説明します。

の機能 AWS Billing and Cost Management

トピック

- 請求と支払い
- コスト分析
- コストの整理
- 予算編成と計画
- コスト削減とコミットメント

請求と支払い

毎月の料金の把握、請求書の表示と支払い、請求、請求書、税金、支払いの設定を管理できます。

- [請求] ページ — 請求書のダウンロードや、詳細な月次請求データの確認により、請求額の計算方法を把握できます。
- [発注書] — 組織独自の調達プロセスに準拠する発注書を作成および管理します。

- [支払い] — 未払いまたは支払期日を過ぎた支払い残高と支払い履歴を把握できます。
- 支払いプロファイル – さまざまな AWS のサービス プロバイダーまたは組織の一部に複数の支払い方法を設定します。
- [クレジット] — クレジット残高を確認し、クレジットの適用先を選択します。
- [請求設定] — 電子メールによる請求書の配信と、クレジット共有、アラート、割引共有の設定を有効にします。
- 請求転送 – 請求と財務管理をセキュリティとガバナンスの管理から分離します。これにより、1 つの AWS 組織が複数の AWS 組織でコストデータと AWS 請求書に一元的にアクセスできます。

コスト分析

コストを分析し、詳細なコストと使用状況データをエクスポートして、支出を予測します。

- AWS Cost Explorer — コストと使用状況のデータを、ビジュアル、フィルタリング、グループ化で分析できます。コストを予測し、カスタムレポートを作成できます。
- [データエクスポート] — Billing and Cost Management データセットからカスタムデータエクスポートを作成します。
- コスト異常検出 – がコスト異常 AWS を検出したときに自動アラートを設定し、予期しないコストを削減します。
- AWS 無料利用枠— 無料利用枠サービスの現在の使用状況と予測使用状況を監視して、予期しないコストが発生しないようにします。
- [コスト配分データの分割] — 共有の Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) リソースの詳細なコストと使用状況データを有効にします。
- [コスト管理設定] — メンバーアカウントが表示できるデータの管理、アカウントデータの粒度の変更、コスト最適化設定の構成を行います。

コストの整理

チーム、アプリケーション、エンドカスタマー全体のコストを整理できます。

- [コストカテゴリ] — チーム、アプリケーション、または環境にコストをマッピングし、Cost Explorer とデータエクスポートでこれらのディメンションに沿ってコストを表示します。共有コストを配分する分割料金ルールを定義します。
- [コスト配分タグ] — リソースタグを使用してコストを整理し、Cost Explorer とデータエクスポートでコスト配分タグごとに表示します。

予算編成と計画

計画されたワークロードのコストを見積もり、コストを追跡および管理するための予算を作成します。

- [予算] — コストと使用量のカスタム予算を設定して組織全体のコストを管理します。また、コストが定義したしきい値を超えるとアラートを受信します。
- [コンソール内の料金見積りツール] – この機能を使用して、割引や購入契約を用いた計画クラウドコストの見積もりを行います。
- パブリック料金計算ツールウェブサイト – オンデマンド料金で AWS のサービスを使用するためのコスト見積もりを作成します。

コスト削減とコミットメント

リソースの使用量を最適化し、柔軟な価格設定モデルを使用して請求額を削減します。

- AWS Cost Optimization Hub - 未使用リソースの削除、サイズの適正化、Savings Plans、予約など、カスタマイズされた推奨事項に基づいて節約の機会を特定します。
- [Savings Plans] — 柔軟な価格設定モデルにより、オンデマンド料金に比べて請求額を削減できます。Savings Plans 在庫を管理し、購入推奨事項を確認して、購入分析や、Savings Plans の利用状況とカバレッジの分析を行います。
- [予約] – Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)、Amazon Redshift、Amazon DynamoDB などのキャパシティを、割引を適用して予約します。

関連サービス

AWS Billing Conductor

Billing Conductor は、クラウドサービスを直接購入する AWS パートナーの再販 AWS のサービス、ソリューション、 AWS および顧客のショーバックおよびチャージバックワークフローをサポートするカスタム請求サービスです AWS。毎月の請求データの代替バージョンをカスタマイズできます。このサービスは、お客様とその顧客またはビジネスユニット間の請求関係をモデル化します。

Billing Conductor は、 AWS 毎月の請求方法を変更しません。代わりに、このサービスを使用して、特定の請求期間における特定の顧客に対する料金を設定、生成、表示できます。また、これを使用し

て、グループに適用するレートと、同じアカウントの実際のレートとの差異を分析することもできます AWS。

Billing Conductor の設定の結果として、管理アカウントはAWS Billing and Cost Management コンソールの請求詳細ページに適用されるカスタムレートを確認することもできます。管理アカウントは、請求グループごとに AWS コストと使用状況レポートを設定することもできます。

請求転送ユーザーが請求転送アカウントにサインインすると、Billing Conductor は、請求を転送する AWS 組織の管理アカウント (請求ソースアカウント) が、請求転送アカウントの料金で設定された使用量のみを表示できるようにします。

Billing Conductor の詳細については、「AWS Billing Conductor ユーザーガイド」を参照してください。請求転送の詳細については、「外部アカウントへの請求管理の転送」を参照してください。

IAM

AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して、アカウントまたは組織の誰が請求情報とコスト管理コンソールの特定のページにアクセスできるかを制御できます。例えば、請求書や、料金、アカウントアクティビティ、予算、支払い方法、クレジットに関する詳細情報へのアクセスを制御できます。IAM は の機能です AWS アカウント。IAM へのサインアップに必要な作業はありません。また、使用しても料金は発生しません。

アカウントを作成するときは、アカウント内のすべての AWS のサービス およびリソースへの完全なアクセス権を持つ 1 つのサインイン ID から始めます。この ID は AWS アカウントのルートユーザー と呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー資格情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。

ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

デフォルトでは、アカウント内の IAM ユーザーおよびロールは、Billing and Cost Management コンソールにアクセスできません。アクセスを許可するには、[IAM アクセスをアクティブ化] 設定を有効にします。詳細については、「About IAM Access」を参照してください。

AWS アカウント 組織に複数の がある場合は、コスト管理の設定ページを使用して、Cost Explorer データへのリンクされたアカウントアクセスを管理できます。詳細については、「Cost Explorer へのアクセスの管理」を参照してください。

IAM の詳細については、「IAM ユーザーガイド」を参照してください。

AWS Organizations

組織の一括請求機能を使用して、複数の AWS アカウントの請求と支払いを統合できます。組織ごとに、すべてのメンバーアカウントの使用料金を支払う管理アカウントがあります。

一括請求には次の利点があります。

- 1 つの請求書 – 複数のアカウントに対して 1 つの請求書を受け取るだけで済みます。
- 簡単な追跡 – 複数のアカウントでの料金を追跡し、コストと使用状況の統合データをダウンロードできます。
- 使用状況の結合 – 組織内のアカウントすべての使用量を結合し、料金のボリューム割引、リザーブドインスタンスの割引、および Savings Plans を共有できます。その結果、会社、部門、またはプロジェクトでの料金が個々のスタンドアロンアカウントと比較して低くなります。詳細については、「従量制割引」を参照してください。
- [追加料金なし] – 一括請求は追加コストなしで提供されます。

組織の詳細については、AWS Organizations ユーザーガイドを参照してください。

請求転送

請求転送を使用して、1 つのアカウント AWS Organizations から複数の を一元管理して支払うことができます。

請求転送により、管理アカウントは、一括請求を管理および支払う外部管理アカウントを指定できます。これにより、セキュリティ管理の自律性を維持しながら、請求が一元化されます。請求転送を設定するには、外部アカウント (請求転送アカウント) が管理アカウント (請求ソースアカウント) に請求転送の招待を送信します。招待が承諾されると、外部アカウントが請求書転送アカウントになります。その後、請求書転送アカウントは、招待で指定された日付から、請求書ソースアカウントの一括請求書を管理して支払います。

詳細については、「外部アカウントへの請求管理の移管」を参照してください。

AWS 料金表 API

AWS Price List API は、 AWS サービス、製品、料金情報をプログラムでクエリできる一元化されたカタログです。一括 API を使用して、JSON 形式と CSV 形式の両方で利用可能なup-to-date AWS サービス情報を一括で取得できます。

詳細については、AWS 「料金表 API とは」を参照してください。

AWS コスト管理の開始方法

このセクションでは、 AWS コスト管理コンソールを使用して を開始するために必要な情報を提供します。最初のステップとして、 AWS アカウントにサインアップし、IAM ユーザーを設定する必要があります。

にサインアップする AWS アカウント

がない場合は AWS アカウント、次の手順を実行して作成します。

にサインアップするには AWS アカウント

1. https://portal.aws.amazon.com/billing/signup を開きます。
2. オンラインの手順に従います。

   サインアップ手順の一環として、電話またはテキストメッセージを受け取り、電話キーパッドで検証コードを入力します。

   にサインアップすると AWS アカウント、 AWS アカウントのルートユーザー が作成されます。ルートユーザーには、アカウントのすべての AWS のサービス とリソースへのアクセス権があります。セキュリティベストプラクティスとして、ユーザーに管理アクセス権を割り当て、ルートユーザーアクセスが必要なタスクの実行にはルートユーザーのみを使用するようにしてください。

AWS サインアッププロセスが完了すると、 から確認メールが送信されます。https://aws.amazon.com/ の [マイアカウント] をクリックして、いつでもアカウントの現在のアクティビティを表示し、アカウントを管理することができます。

管理アクセスを持つユーザーを作成する

にサインアップしたら AWS アカウント、日常的なタスクにルートユーザーを使用しないように AWS アカウントのルートユーザー、 を保護し AWS IAM アイデンティティセンター、 を有効にして管理ユーザーを作成します。

を保護する AWS アカウントのルートユーザー

1. ルートユーザーを選択し、 AWS アカウント E メールアドレスを入力して、アカウント所有者AWS マネジメントコンソールとして にサインインします。次のページでパスワードを入力します。

   ルートユーザーを使用してサインインする方法については、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「ルートユーザーとしてサインインする」を参照してください。
2. ルートユーザーの多要素認証 (MFA) を有効にします。

   手順については、IAM ユーザーガイドの AWS アカウント 「ルートユーザー (コンソール) の仮想 MFA デバイスを有効にする」を参照してください。

管理アクセスを持つユーザーを作成する

1. IAM アイデンティティセンターを有効にします。

   手順については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「AWS IAM アイデンティティセンターの有効化」を参照してください。
2. IAM アイデンティティセンターで、ユーザーに管理アクセスを付与します。

   を ID ソース IAM アイデンティティセンターディレクトリ として使用する方法のチュートリアルについては、「 AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「デフォルトを使用してユーザーアクセスを設定する IAM アイデンティティセンターディレクトリ」を参照してください。

管理アクセス権を持つユーザーとしてサインインする

- IAM アイデンティティセンターのユーザーとしてサインインするには、IAM アイデンティティセンターのユーザーの作成時に E メールアドレスに送信されたサインイン URL を使用します。

  IAM Identity Center ユーザーを使用してサインインする方法については、AWS サインイン「 ユーザーガイド」の AWS 「 アクセスポータルにサインインする」を参照してください。

追加のユーザーにアクセス権を割り当てる

1. IAM アイデンティティセンターで、最小特権のアクセス許可を適用するというベストプラクティスに従ったアクセス許可セットを作成します。

手順については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「アクセス許可セットを作成する」を参照してください。

2. グループにユーザーを割り当て、そのグループにシングルサインオンアクセス権を割り当てます。

   手順については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「グループを追加する」を参照してください。

必要な IAM ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチする

AWS アカウント所有者は、 AWS アカウントの請求情報とコスト管理データを表示または管理する必要がある特定のユーザーにアクセス許可を付与できます。Billing and Cost Management コンソールへのアクセス許可のアクティベートを開始するには、「IAM ユーザーガイド」の「IAM tutorial: Delegate access to the billing console」を参照してください。

請求とコスト管理に固有の IAM ポリシーの詳細については、「請求情報とコスト管理での ID ベースのポリシー (IAM ポリシー) の使用」を参照してください。

請求とコスト管理ポリシーの例の一覧については、「請求情報とコスト管理ポリシーの例」を参照してください。

請求情報と使用状況を確認

Billing and Cost Management コンソールの機能を使用して、現在の AWS 料金と AWS 使用状況を表示します。

Billing and Cost Management コンソールを開いて使用量と料金を表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [請求] を選択して、現在の料金の詳細を参照します。

   [支払い] を選択して、支払い履歴を参照します。

   [Data Exports] を選択して、コストと使用状況、コスト最適化の推奨事項など、請求とコスト管理データのエクスポートを作成します。

請求コンソール機能の詳細については、「AWS Billing User Guide」を参照してください。

のセットアップと使用の詳細については AWS Data Exports、AWS Data Exports 「 ユーザーガイド」を参照してください。

AWS コスト管理機能の設定

AWS コスト管理機能をアクティブ化するために必要なプロセスを確認します。

- AWS Cost Explorer: Cost Explorer を有効にする
- AWS 予算: AWS Budgets のベストプラクティス
- AWS Budgets レポート: AWS Budgets レポートを使用したメトリクスのレポート
- AWS コスト異常検出: 異常検出をセットアップする
- Cost Optimization Hub: Cost Optimization Hub の開始方法
- Savings Plans: 「Savings Plans User Guide」の「Getting started with Savings Plans」を参照してください。
- AWS 料金見積りツール: 料金見積りツールを使用して見積りを生成する

次のステップ

これで、 AWS コスト管理がセットアップされたので、使用可能な機能を使用する準備が整いました。このガイドの残りの部分は、コンソールを使用してジャーニーをナビゲートするのに役立ちます。

請求情報とコスト管理 API を使用する

AWS Billing and Cost Management API リファレンスを使用して、いくつかの AWS コスト管理機能をプログラムで使用します。

詳細情報

プレゼンテーション、仮想ワークショップ、ブログ投稿などの AWS コスト管理機能の詳細については、「 を使用したクラウド財務管理 AWS」ページを参照してください。

仮想ワークショップは、[サービス] ドロップダウンを選択して目的の機能を選択することによって見つけることができます。

ヘルプの利用

AWS コスト管理機能の詳細については、いくつかのリソースを使用できます。

AWS ナレッジセンター

すべての AWS アカウント所有者は、アカウントと請求のサポートに無料でアクセスできます。AWS ナレッジセンターにアクセスすると、質問に対する回答をすばやく見つけることができます。

質問またはリクエストを検索するには

1. AWS ナレッジセンターを開きます。
2. [Billing Management] を選択します。
3. トピックのリストをスキャンして、類似する質問を見つけます。

へのお問い合わせ サポート

への問い合わせ サポート は、質問について AWS アソシエイトと通信するための最も迅速かつ直接的な方法です。 は、サポート担当者に連絡するための直接電話番号を発行 サポート しません。次のプロセスを使用して、アソシエイトに電子メールまたは電話で連絡をしてもらうことができます。

個別の技術サポートのみがサポートプランを必要とします。詳細については、「サポート」を参照してください。

About: Account and Billing Support を指定する サポート ケースを開くには、ルートアカウントの所有者 AWS としてサインインするか、サポートケースを開くための IAM アクセス許可が必要です。詳細については、「サポート User Guide」の「Accessing サポート」を参照してください。

AWS アカウントを閉鎖した場合でも、 にサインイン サポート して過去の請求書を表示できます。

に問い合わせるには サポート

1. サインインして サポート センターに移動します。
2. [ケースを作成] を選択します。
3. [Create case (ケースを生成)] ページで、[Account and billing (アカウントと請求)] を選択し、フォームの必須フィールドに入力します。
4. フォームに入力したら、問い合わせオプションで、E メールの応答にウェブを選択するか、 サポート 担当者からの電話をリクエストするために電話を選択します。インスタントメッセージングは、請求に関するお問い合わせにはご利用いただけません。

にサインインできない場合に に連絡する サポート には AWS

1. パスワードを回復するか、[AWS アカウント サポート] でフォームを送信します。。
2. [リクエスト情報] セクションで照会タイプを選択します。
3. [お問い合わせ内容をご記入ください。]セクションに入力してください。
4. [Submit] を選択してください。

> **Note**
>
> 請求転送を使用する場合は、まず請求転送アカウントの所有者に連絡してください。アカウント所有者がコストデータを管理して AWS 請求書を受け取るためです。請求書転送アカウント情報を確認するには、請求書転送ページのアウトバウンド請求タブに移動します。

AWS Billing and Cost Management ホームページの使用

請求情報とコスト管理のホームページを使用して、 AWS クラウド財務管理データの概要を確認し、より迅速かつ情報に基づいた意思決定を行うことができます。コストの大まかな傾向と要因を理解し、注意が必要な異常値や予算超過を迅速に特定し、推奨アクションを検討し、コスト配分範囲を把握し、節約の機会を特定します。

このページのデータは から取得されます AWS Cost Explorer。以前に Cost Explorer を使用したことがない場合、このページにアクセスすると自動的に有効になります。このページに新しいデータが表示されるまでに最大 24 時間かかります。データは、利用可能な場合 24 時間ごとに一度以上更新されます。ホームページの Cost Explorer データは、分析目的に合わせて調整されています。つまり、データの AWS のサービスへのグループ分け方法、割引、クレジット、返金、税金の表示方法の違い、当月における推定請求額のタイミングの違い、四捨五入により、データが請求書や [請求] ページと異なる場合があります。

詳細については、「請求データと Cost Explorer データの違いを知る」を参照してください。

AWS クラウド 財務管理の詳細については、 AWS Billing and Cost Management コンソールの開始方法ページを参照してください。トピックを選択してから、特定のコンソールページまたはドキュメントのリンクを使用することができます。

Billing and Cost Management ウィジェットの管理

ウィジェットを移動またはサイズ変更することで、ウィジェットの表示方法をカスタマイズできます。

Billing and Cost Management ウィジェットを管理する

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. (オプション) Billing and Cost Management ホームページをカスタマイズするには、ウィジェットをドラッグアンドドロップで移動するか、ウィジェットのサイズを変更します。
3. 各推奨事項に基づいてアクションを実行したり、詳細を確認したりするには、ウィジェット内のデータを確認し、ウィジェット内のリンク先に移動します。
4. レイアウトをリセットするには、[レイアウトをリセット] を選択し、[リセット] を選択します。

以下のウィジェットを使用できます。

- コスト概要
- コストモニター
- コストの内訳
- 推奨されるアクション
- コスト削減の機会
- トップトレンド

コスト概要

コスト概要ウィジェットでは、前月の支出と比較した現在のコスト傾向を簡単に確認できます。

[請求] ページで当月の推定請求額を表示するには、[請求書を表示] を選択します。

コスト概要ウィジェットに表示されるすべての指標には、クレジットと返金は含まれていません。つまり、ホームページには、[請求] ページや請求書とは異なる数値が表示される場合があります。ウィジェットには以下の指標が表示され、Cost Explorer で表示するように選択できます。

- [今月の初めから今日までのコスト] — 当月の推定コストです。このトレンド指標は、当月のコストを同じ期間の前月のコストと比較します。
- [同期間の前月のコスト] — 同じ期間の前月のコストです。例えば、今日が 2 月 15 日の場合、ウィジェットには 1 月 1 ~ 15 日までの前月のコストも表示されます。

> **Note**
>
> トレンドの計算は、各月の日数によって影響を受ける場合があります。例えば、7 月 31 日のトレンド指標は 7 月 1 ~ 31 日までのコストを調べ、6 月 1 ~ 30 日のコストと比較します。

- [当月の予測コストの合計] — 当月の推定総コストの予測です。
- [前月のコストの合計] — 前月の総コストです。詳細については、各指標を選択して Cost Explorer でコストを表示するか、[請求書を表示] を選択して、[請求] ページで当月の推定請求額を確認してください。

> **Note**
>
> このウィジェットの指標には、クレジットと返金は含まれていません。ここに表示されるコストは、[請求] ページや請求書に記載されているコストと異なる場合があります。

Cost Explorer へのアクセスの詳細については、「Cost Explorer で予測する」を参照してください。

コストモニター

このウィジェットは、コストと使用状況の予算、および が AWS 検出したコスト異常をすばやく表示し、修正できるようにします。

- [予算状況] — コストと使用量の予算のいずれかが超過した場合に警告します。

  ステータスは以下のようになります。
- [OK] — コストと使用量の予算を超えていません。
- [予算超過] — コストと使用量の予算を超えています。実際のコストが 100% より大きくなっています。超過した予算の数と警告アイコンが表示されます。
- [セットアップが必要です] — コストと使用量の予算をまだ作成していません。

ステータスインジケーターを選択して [予算] ページに移動し、各予算の詳細を確認するか、予算を作成します。予算ステータスインジケーターには、コストと使用予算に関する情報のみが表示されます。カバレッジ、Savings Plans の利用状況、予約状況を追跡するために作成した予算は、このウィジェットには表示されません。コスト異常ステータスは、現在の月の最初の日以降に がコストの異常 AWS を検出した場合に警告します。ステータスは以下のようになります。

- [OK] — 当月のコスト異常は検出されていません。
- [異常検出] — コスト異常が検出されました。検出された異常の数と警告アイコンが表示されます。
- [セットアップが必要です] — 異常検出モニターはまだ作成されていません。

ステータスインジケーターを選択して [コスト異常検出] ページに移動し、検出された各異常の詳細を確認するか、異常検出モニターを作成します。コスト異常ステータスインジケーターには、当月に

検出されたコスト異常に関する情報のみが表示されます。すべての異常履歴を表示するには、[コスト異常検出] ページにアクセスしてください。

予算の詳細については、「 でコストを管理する AWS Budgets」を参照してください。

異常検出モニターの詳細については、「AWS 異常検出で異常な使用料を検出する」を参照してください。

コストの内訳

このウィジェットでは過去 6 か月間のコストの内訳が表示されるため、コストの傾向と要因を把握できます。コストの内訳については、ドロップダウンリストからオプションを選択してください。

- サービス
- AWS リージョン
- メンバーアカウント (AWS Organizations 管理アカウント用)
- コスト配分タグ
- コストカテゴリ

コストカテゴリまたはコスト配分タグキーを選択した場合は、グラフにカーソルを合わせると値が表示されます。

コストと使用状況を詳しく調べるには、[Cost Explorer でコストを分析] を選択します。Cost Explorer を使用すると、アベイラビリティーゾーン、インスタンスタイプ、データベースエンジンなどのディメンションを追加して、コストと使用状況を視覚化、グループ化、フィルタリングできます。

Cost Explorer の詳細については、「Cost Explorer を使用してデータを探索する」を参照してください。

推奨されるアクション

このウィジェットは、 AWS クラウド財務管理のベストプラクティスを実装し、コストを最適化するのに役立ちます。これには、推奨されるアクションが優先度順に表示されます。重要なアラートが最上部に表示され、その後にアドバイザリ警告と情報提供的な推奨アクションが続きます。

ベストプラクティスとして、重大アラートを毎日監視し、支払い問題や予算超過といった即時的アクションに焦点を当てることをお勧めします。勧告的警告は週 1 回の頻度で確認します。

推奨されるアクションウィジェットを使用する

1. それぞれの推奨事項については、リンクをクリックしてアカウントに対するアクションを実行してください。デフォルトでは、ウィジェットには最大 4 つの推奨アクションが表示されます。
2. その他の推奨アクションを読み込むには、[その他のアクションを読み込む] を選択します。
3. 重要ではない推奨アクションを非表示にするには、右上隅の [X] アイコンを選択します。重大なアラートは、対処されるまで表示され続けます。非表示にされた重要でない推奨アクションは、7 日後に再び表示されます。

> **Note**
>
> 推奨されるアクションを表示するには、 AWS サービスへの IAM アクセス許可が必要です。例えば、`budgets:DescribeBudgets` を除くすべての Billing and Cost Management アクションに対するアクセス権があれば、ページ上で予算以外のすべての推奨事項を確認できます。不足している IAM アクションをポリシーに追加することについてのエラーメッセージを参照してください。
> すべての推奨アクションを表示するには、新しい IAM 許可である `bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions` が必要になります。詳細については、「Understanding recommended action types」を参照してください。
> さまざまな推奨アクションタイプと、対応する IAM ポリシー許可 (推奨アクションを表示するために必要なもの) の完全なリストについては、「Billing and Cost Management recommended actions policies」を参照してください。

推奨アクションの分類の詳細については、「Understanding recommended action types」を参照してください。

コスト配分カバレッジ

組織内でコストを可視化し、説明責任を果たすには、チーム、アプリケーション、環境、またはその他の面にコストを配分することが重要です。このウィジェットには、コストカテゴリとコスト配分タグに未割り当てのコストが表示されるため、コストを整理するためのアクションを取るべき部分がわかります。

コスト配分カバレッジは、作成したコストカテゴリまたはコスト配分タグキーに値が割り当てられていないコストの割合として定義されます。

Example例

- 今月の支出額は 100 USD で、コストを個々のチームごとに整理するためのコストカテゴリ (Team という名前) を作成しました。
- チーム A のコストカテゴリの値は 40 USD、チーム B のコストカテゴリの値は 35 USD です。また未割り当ての 25 USD があります。
- この場合、コスト配分カバレッジは 25/100 = 25% です。

未配分コスト指標が低いということは、コストは組織にとって重要な側面に沿って適切に配分されているということです。詳細については、「リソースのタグ付けのベストプラクティス」ホワイトペーパーの「コスト配分戦略の構築」を参照してください。 AWS

このウィジェットは、当月の直近の未割り当てコスト率を前月のすべての未割り当てコスト率と比較します。このウィジェットには、最大 5 つのコスト配分タグキーまたは 5 つのコストカテゴリが表示されます。コスト配分タグキーまたはコストカテゴリのいずれかが 5 つを超える場合は、ウィジェットの設定を使用して必要なものを指定してください。

Cost Explorer を使用して未割り当てのコストをより詳細に分析するには、コストカテゴリまたはコスト配分名を選択します。

コストカテゴリまたはコスト配分タグのコスト配分カバレッジを向上させるには、 AWS タグエディタを使用してコストカテゴリルールを編集したり、リソースのタグ付けを改善したりできます。

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- コストカテゴリによる AWS コストの管理
- AWS コスト配分タグの使用
- Using Tag Editor

コスト削減の機会

このウィジェットには、コストと AWS の請求額の削減に役立つ Cost Optimization Hub からの推奨事項が表示されます。これには次が含まれる場合があります。

- 未使用のリソースを削除する
- 過剰にプロビジョニングされたリソースを適切なサイズに調整する
- Savings Plans を購入または予約する

削減の機会ごとに、ウィジェットには毎月の推定削減額が表示されます。推定削減額は重複せず、推奨される削減機会ごとに自動的に調整されます。

Example例

- ###### A と###### B の 2 つの Amazon EC2 インスタンスがあるとします。
- Savings Plans を購入した場合、###### A のコストを 20 USD、###### B のコストを 10 USD 削減できるため、合計 30 USD の削減になります。
- ただし、###### B がアイドル状態の場合、ウィジェットは Savings Plans を購入する代わりにこのインスタンスを終了するように勧める場合があります。削減の機会があれば、アイドル状態の###### B を終了することでどれだけ削減できるかがわかります。

このウィジェットで節約できる機会を確認するには、Cost Optimization Hub ページにアクセスするか、コスト管理設定ページを使用してオプトインできます。

請求転送を使用する場合、節約の機会はオンデマンドコスト (交渉割引、 AWS Partner Network プログラム割引、リザーブドインスタンスおよび Savings Plans 割引のないコスト) に基づいて計算されます。請求転送がアクティブな間のコスト最適化のベストプラクティスについては、「外部アカウントへの請求管理の転送」を参照してください。

トップトレンド

このウィジェットには、過去 2 か月間で最も顕著なコスト変化の概要が簡単に表示されます。

- コスト変動の上位 10 件を絶対金額差でソートして表示します
- パーセンテージと絶対値の両方の変化を表示します
- 変化が発生した特定のサービス、アカウント、またはリージョンを強調表示します
- 任意のトレンドを選択して、Cost Explorer の [比較] ビューで詳しく分析できます

コストの傾向をさらに詳しく調べるには、[コストエクスプローラーでコストトレンドを表示] を選択します。

コストの比較に関する詳細については、「Comparing your costs between time periods」を参照してください。

請求データと Cost Explorer データの違いを知る

請求データ

請求データは、 AWS Billing and Cost Management コンソールの請求書と支払いページ、および AWS 発行する請求書に表示されます。請求データは、前月の請求期間における実際の請求額と、その月のサービス利用状況に基づき現在の請求期間に発生した推定請求額を把握するのに役立ちます。請求書は、支払うべき金額を表します AWS。

Cost Explorer データ

Cost Explorer データは次の場所に表示されます。

- Billing and Cost Management ホームページ
- Cost Explorer、Budgets、コスト異常検出のページ
- カバレッジと使用状況に関するレポート

Cost Explorer は詳細な分析をサポートしているため、節約の機会を特定できます。Cost Explorer データは、より詳細なディメンション (アベイラビリティーゾーンやオペレーティングシステムなど) を提供します。また、請求データと比較すると違いが見られる可能性のある特徴が含まれています。[Cost Management] 設定ページでは、連結アカウントへのアクセスや、履歴データおよび詳細なデータの設定など、Cost Explorer データの設定を管理できます。詳細については、「Cost Explorer へのアクセスの管理」を参照してください。

償却コスト

請求データは、常に現金ベースで表示されます。これは、 が毎月 AWS 請求する金額を表します。例えば、9 月に全額前払いの 1 年間の Savings Plan sを購入すると、 AWS は 9 月の請求期間中にその Savings Plan sの全額を請求します。その際、請求データには、Savings Plans の 9 月の全費用が含まれます。これにより、 AWS 請求書の理解、検証、支払いを時間どおりに行うことができます。

一方、Cost Explorer データを使用して、償却されたコストを表示することもできます。コストが償却されると、前払い料金がその契約期間全体に分配、つまり償却されます。前の例では、Cost Explorer を使用して Savings Plans の償却ビューを表示できます。1 年分全額前払いの Savings Plans 購入は、契約対象の 12 か月間に均等に分散されます。償却コストを参考に、予約ポートフォリオや Savings Plans に関連する 1 日の実効コストを把握できます。

AWS のサービス グループ化

請求データでは、 AWS 請求は請求書 AWS のサービス の にグループ化されます。詳細な分析に役立つように、Cost Explorer では一部のコストを異なる方法でグループ化します。

例えば、Amazon Elastic Compute Cloud のコンピューティングコストを、Amazon Elastic Block Store ボリュームや NAT ゲートウェイなどの付随的なコストとの比較で把握するとします。Cost Explorer は、Amazon EC2 のコストを単一のグループに分類する代わりに、コストを [EC2 - インスタンス] と [EC2 - その他] にグループ化します。

別の例として、データ転送コストの分析に役立つように、Cost Explorer は転送コストをサービスごとにグループ化します。請求データでは、データ転送コストは [データ転送] という名前の 1 つのサービスにグループ化されます。

当月の推定請求額

請求データと Cost Explorer データは、1 日に 1 回以上更新されます。更新される頻度は異なる場合があります。その結果、月次の推定料金に差異が発生することがあります。

Rounding

請求データと Cost Explorer データは、別の精度で処理されます。例えば Cost Explorer のデータは、時間単位およびリソースレベルの精度で利用できます。請求データは月単位で、リソースレベルの詳細は提供されません。その結果として、四捨五入によって請求データと Cost Explorer データに差異が発生する場合があります。これらのデータソースが異なる場合は、請求書に記載されている金額が最終的な AWSへの未払い金額になります。

割引、クレジット、返金、税金の表示

[請求] ページ (例えば、[サービス別料金] タブ) の請求データには返金が含まれませんが、Cost Explorer データには含まれます。返金が行われると、他の請求タイプとの差異が発生する場合があります。

例えば、税金の一部が返金されたとします。[請求] ページの [サービス別税金] タブには、引き続き税額の全額が表示されます。Cost Explorer データには、返金後の税額が表示されます。

請求転送を使用して請求元アカウントで Billing and Cost Management コンソールにサインインする場合、請求ページ、Cost Explorer、または でクレジット、返金、または税金を表示することはできません AWS Cost and Usage Report。」

推奨アクションタイプについて

推奨アクションは、予算、支払い、コスト最適化、コストの異常、IAM アクセス許可、税金設定に関する請求とコスト管理に関連して実施すべき最も重要なアクションを自動的に特定し、優先順位付けします。

推奨アクションは、緊急性、財務上の影響、アカウントの関連性に基づいて 3 つのレベルに分類されます。

1. 重要なアラート: これは、延滞している支払いや有効期限切れの支払い方法など、アカウントの状態に影響を与える可能性がある優先度の高い項目です。
2. アドバイザリ警告: これは、予算、税金設定、クレジットなど、設定済みリソースに関する重要な通知であり、コスト削減の機会を特定するのに役立ちます。
3. 情報提供: これは、クラウド財務管理を改善するためのベストプラクティスおよび最適化の機会に関する情報です。

次の表は、重要度と機能別に整理された、推奨されるさまざまなアクションの概要を示しています。

> **Note**
>
> * これらのアクションタイプは常に表示されます。追加のアクションタイプには、`bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions` アクセス許可が必要です。詳細については、請求情報とコスト管理の推奨アクションポリシーを参照してください。

緊急度	機能	アクションタイプ	推奨されるアクション	例
重要なアラート	PAYMENTS	支払い期限が到来	支払いをする	603.23 USD、50.02 EUR の未払いがあります。AWS サービスの使用が中断される可能性を回避するために、

緊急度	機能	アクションタイプ	推奨されるアクション	例
				支払いを行ってください。
	PAYMENTS	無効な支払い方法	支払い方法を確認する	デフォルトの支払い方法が無効です。 AWS サービスの使用に伴う支払いの失敗や潜在的な中断を回避するには、銀行に連絡して理由を確認し、支払いページにアクセスして支払い方法を確認してください。
	PAYMENTS	支払い方法の有効期限切れ	支払い設定を確認し、デフォルトの支払い方法を更新します。	デフォルトの支払い方法が期限切れです。請求書の支払いの失敗や AWS サービスの中断の可能性を回避するには、カード情報を更新するか、別の支払い方法に切り替えます。

緊急度	機能	アクションタイプ	推奨されるアクション	例
	IAM	推奨アクションのアクセス許可を更新する*	管理者に連絡して、ロールに新しい IAM アクセス許可を追加します。	`bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions` を含む推奨アクション一覧を表示するには、新しい IAM アクセス許可が必要です。
アドバイザリ警告	TAX_SETTINGS	税登録情報を修正	税設定を確認し、税登録番号を更新します。	税登録 ID が無効です。
	TAX_SETTINGS	免税証明書を更新	税設定を確認し、免税証明書を更新します。	30 日以内に期限切れとなる、またはすでに期限切れの免税証明書が 2 件あります。
	IAM	詳細なアクセス許可への移行*	Billing and Cost Management の詳細なアクセス許可に移行します。	新しい IAM アクセス許可に移行して、将来の Billing and Cost Management の機能へのアクセスを失わないようにしてください。

緊急度	機能	アクションタイプ	推奨されるアクション	例
	BUDGETS	予算アラートの確認*	予算とアラートのしきい値を確認します。Cost Optimization Hub にアクセスして、コスト削減の機会を特定することもできます。	5 件の予算アラートがしきい値を超えています。
	BUDGETS	超過した予算の確認*	予算値を確認します。Cost Optimization Hub にアクセスして、コスト削減の機会を特定することもできます。	7 件の予算がしきい値を超えており、さらに 2 件は今後しきい値を超える見込みです。
	FREE_TIER	無料利用枠アラートの確認*	無料利用枠の使用状況を確認し、予期しないコスト発生を防ぎます。	3 つのサービスで無料利用枠の使用量が 85% を超えています。

緊急度	機能	アクションタイプ	推奨されるアクション	例
	COST_ANOMALY_DETECTION	異常値の確認*	コスト異常モニターと関連するしきい値を確認します。Cost Optimization Hub にアクセスして、コスト削減の機会を特定することもできます。	過去 90 日間に 2 件のコスト異常が検出され、合計コスト影響額は 1,000 USD です。
	RESERVATIONS	期限切れ間近の予約の確認*	有効期限が近いリザーブドインスタンスを確認し、ワークロード最適化のために新規購入を計画します。	30 日以内に有効期限を迎える予約が 2 件あります。
	SAVINGS_PLANS	期限切れ間近の Savings Plans の確認*	有効期限が近い Savings Plans を確認し、将来の購入をキューに追加します。	30 日以内に有効期限を迎える Savings Plans が 2 件あります。

緊急度	機能	アクションタイプ	推奨されるアクション	例
情報提供	PAYMENTS	支払い期限到来	支払いをする	603.23 USD、50.02 EUR の支払いが必要です。AWS サービスの使用が中断される可能性を回避するには、お支払いください。
	COST_OPTIMIZATION_HUB	コスト削減機会の推奨事項の確認*	Cost Optimization Hub にアクセスして、コスト削減の機会を確認します。	削減機会の推奨事項に従うことで、1,000 USD を節約できます。
	COST_OPTIMIZATION_HUB	Cost Optimization Hub の有効化*	Cost Optimization Hub にオプトインして、削減機会の推奨事項の生成を開始します。	オプトインして、削減機会の推奨事項の生成を開始します。
	BUDGETS	予算の作成*	予算を作成して、コストと使用量、コミットメントカバレッジと使用率をモニタリングします。	コストと使用量が予算額を超えた場合にアラートを受け取るためのコスト予算を作成します。

緊急度	機能	アクションタイプ	推奨されるアクション	例
	BUDGETS	Savings Plans 予算の作成*	Savings Plans の予算を作成して、コミットメントカバレッジと使用率をモニタリングします。	Savings Plans の予算を作成して、Savings Plans のコミットメントカバレッジと使用率をモニタリングします。
	BUDGETS	予約予算の作成*	予約予算を作成して、コミットメントカバレッジと使用率をモニタリングします。	予約予算を作成して、リザーブドインスタンスのコミットメントカバレッジと使用率をモニタリングします。
	ACCOUNT	代替請求連絡先の追加*	請求連絡先を追加します。	請求連絡先を追加します。
	COST_ANOMALY_DETECTION	異常モニターの作成*	コスト異常を能動的に識別するためのコスト異常モニターを作成します。	コスト異常を自動的に検出するコスト異常モニターを作成します。

請求ビューによるコスト管理データアクセスの制御

Billing View は、 AWS 環境内のコスト管理データへのアクセスを管理および制御するのに役立つ機能です。請求ビューを使用すると、コスト管理データが AWS リソースとして表現されます。リソースベースのポリシーを使用すると、 AWS 請求情報とコスト管理ツールを使用する際にアカウントがアクセスできるデータを設定できます。請求ビューは、一意の Amazon リソースネーム (ARN) によって識別されます。この ARN をアイデンティティベースポリシーで参照することで、その請求ビューに含まれるコスト管理データに対して特定の IAM アクションを実行できます。

請求ビューには 4 つの異なるタイプがあります。

型	説明	管理者	共有可能か？
プライマリ請求ビュー	デフォルトでは、各アカウントは自身のプライマリ請求ビューにアクセスできます。このビューには、そのアカウントに関連付けられたすべてのコスト管理データが含まれます。組織の管理アカウントの場合、組織内のすべてのアカウントで発生したコスト管理データが含まれます。 AWS Organizations を使用していないスタンドアロン AWS アカウントおよび組織内のメンバーアカウントの場合、プライマリ請求ビューには、個々のアカウント内	AWS	他のアカウントと共有できない

型	説明	管理者	共有可能か？
	で発生したすべてのコスト管理データが含まれます。 アカウントが請求グループ (標準または請求転送) の一部である場合、プライマリビューには、管理アカウントまたは請求転送アカウントによって制御されるコストデータが表示されます。		
請求グループの請求ビュー	AWS Billing Conductor を有効にしたアカウントは、各請求グループに対応する請求グループ請求ビューにもアクセスできます。請求グループの詳細については、AWS Billing Conductor ユーザーガイドの請求グループを参照してください。	AWS	他のアカウントと共有できない

型	説明	管理者	共有可能か？
カスタム請求ビュー	お客様は、組織をまたいだコスト可視化を提供するカスタム請求ビューを作成および削除できます。これらの請求ビューは、プライマリ請求ビューまたは他のカスタム請求ビューから派生させることができ、複数の組織に属する複数アカウントのコスト管理データを統合します。フィルターを適用することで、ビューに含める組織横断データのサブセットを指定できます。	お客様	組織内および組織外のアカウントと共有可能

型	説明	管理者	共有可能か？
請求転送ビュー	請求転送を請求転送アカウントとして使用すると、転送の開始時点から請求転送ビューにアクセスできます。 請求転送には 2 つのビュータイプがあります。 - マイビュー: 請求書転送アカウントが財務責任を負う請求データを表示します - ショーバック/チャージバックビュー: ショーバックまたはチャージバックの目的で設定された請求データを表示します	>AWS	他のアカウントと共有できない

請求ビューを使用すると、組織の管理 (支払者) アカウントからカスタム請求ビューを作成できます。これは、アクセスできるフィルタリングされた一連のコスト管理データを含めるように定義できます。その後、カスタム請求ビューのリソースを他のアカウントと共有できます。カスタム請求ビューがアカウントと共有されると、そのアカウントはカスタム請求ビューで定義されたコスト管理データにアクセスできるようになります。

カスタム請求ビューを使用することで、管理アカウントにアクセスせずに、関連するコスト管理データへのアクセス権をエンドユーザーとアプリケーション所有者に付与できます。 AWS Organizations を有効にしているお客様は、管理アカウントのプライマリ請求ビューに含まれるコスト管理データから、コスト配分タグまたはアカウントで絞り込んだデータを含むカスタム請求ビューを作成できます。また、複数の組織からのコスト管理データを 1 つのカスタム請求ビューに統合することもできます。

カスタム請求ビューを使用する主な利点は次のとおりです。

- 効率的なアクセス: 複数のメンバーアカウントを管理する事業部門の所有者が、各アカウントに個別にアクセスすることなく、部門全体のコスト管理データすべてにアクセスできるようになります。これにより、エンドユーザーの作業時間が短縮され、手動でデータを集計する必要もなくなります。
- データの統合: 複数の組織にまたがるコスト管理データを統合できます。これにより、中央チームは複数の組織にわたるコスト管理データをまとめて確認できる一括ビューを利用できます。
- 管理アカウントへのアクセス削減: 複数アカウントにまたがるコスト管理データへアクセスするために、エンドユーザーが組織の管理アカウントへアクセスする必要がなくなります。
- ネイティブ AWS コスト管理アクセス: Cost Explorer と AWS Billing and Cost Management ホームページを使用して、組織全体のエンドユーザーが AWS 支出を個別に視覚化、理解、予測できるようにします。

カスタム請求ビューを他のアカウントと共有することで、アプリケーション所有者は Cost Explorer と AWS Budgets を使用してアプリケーションレベルの AWS 支出をモニタリングでき、中央チームは複数の組織にわたる支出をモニタリングできます。これにより、中央チームが複数の組織から情報を手動で集約する必要がなくなり、エンドユーザーがコスト管理データにアクセスするために管理アカウントへアクセスする必要もなくなります。以下の各セクションでは、カスタム請求ビューの作成、共有、管理、利用の各手順について説明します。

トピック

- カスタム請求ビューの開始方法
- カスタム請求ビューの作成
- カスタム請求ビューの共有
- カスタム請求ビューの管理
- 請求ビューを使用したコスト管理データへのアクセス

カスタム請求ビューの開始方法

AWS Billing and Cost Management のカスタム請求ビューを使用すると、組織内外のアカウントからコスト管理データにアクセスできるようになります。これらのビューを作成できるのは、組織の管理アカウントのみです。カスタム請求ビューを作成して共有すると、共有先のアカウントに対して特定のコスト管理データへのアクセス権を付与できます。共有先アカウントのエンドユーザーは、ナビゲーションペインに表示される共有カスタム請求ビューの一覧からビューを選択できます。例え

ば、複数のメンバーアカウントにまたがる事業部門のすべてのコスト管理データを含むカスタム請求ビューを定義し、関連するアカウントに共有できます。共有先のエンドユーザーは、管理アカウントへの直接アクセスを必要とせず、その事業部門に紐づくすべてのアカウントとリソースにわたるコストを Cost Explorer でモニタリングおよび分析できます。さらに、複数の共有カスタム請求ビューのデータを組み合わせたカスタム請求ビューを作成することで、複数の組織にまたがるコスト管理データを統合し、一元的なコストモニタリングを行うことも可能です。

前提条件

カスタム請求ビューを作成するには、きめ細かな AWS コスト管理アクションを使用する必要があります。 AWS Organizations ユーザーの場合、一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。詳細については、「請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールの AWS アクセス許可の変更」ブログを参照してください。きめ細かなアクションは、スタンドアロン AWS アカウントを持っている場合、または 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に作成された Organizations の一部 AWS である場合に既に有効です。

カスタム請求ビューを共有するには、 AWS Resource Access Manager (AWS RAM) を使用してリソースを作成および共有する権限を持つ IAM プリンシパルを使用して、組織の管理アカウントにアクセスする必要があります。共有カスタム請求ビューを受け取るメンバーアカウントには、権限は必要ありません。組織外でカスタム請求ビューを共有する場合は、 AWS RAM を使用してリソース共有の招待を承諾する権限を持つ IAM プリンシパルで、共有先アカウントにアクセスする必要があります。カスタム請求ビューを共有するための IAM アクションの詳細については、AWS 「Resource Access Manager ユーザーガイド AWS 」の「RAM と IAM の連携方法」を参照してください。

> **Note**
>
> カスタム請求ビューを作成、更新、削除、共有するには、適切な IAM アクションを有効にする必要があります。カスタム請求ビューを管理するための IAM アクションの詳細については、AWS 「コスト管理のためのアイデンティティベースのポリシー (IAM ポリシー) の使用」を参照してください。

コンソールにアクセスしてカスタム請求ビューを作成する

コンソールで請求ビューにアクセスしてカスタム請求ビューを作成するには、2 つの方法があります。

- コンソールのナビゲーションペインからアクセスする方法: まだカスタム請求ビューを作成していない、またはカスタム請求ビューにアクセスできない場合は、ナビゲーションペインから請求ビューにアクセスできます。
- コスト管理設定からアクセスする方法: [コスト管理設定] に移動して請求ビューにアクセスすることもできます。

請求ビューにアクセスするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. 次のいずれかの方法を選択して、カスタム請求ビューの作成を開始します。
   - コンソールのナビゲーションペインから:
     a. ナビゲーションペインで、[請求ビューを選択] メニューを選択します。
     b. ドロップダウンリストから、[新しいビューを作成] を選択します。
   - コスト管理設定から:
     a. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
     b. [請求ビュー] タブを選択します。

カスタム請求ビューの作成

カスタム請求ビューを使用すると、組織内外のアカウントに対して、特定のコスト管理データへのアクセスを制御しながら付与できます。カスタム請求ビューには、管理アカウントのプライマリ請求ビューに含まれるコスト管理データの一部が含まれます。作成後、これらのカスタム請求ビューリソースを関連するアカウントと共有して、組織全体でカスタマイズされたデータ可視化を実現できます。さらに、複数の共有カスタム請求ビューのデータを組み合わせたカスタム請求ビューを作成することで、複数の組織にまたがるコスト管理データを統合し、企業全体で一元的なコストモニタリングを行うことも可能です。AWS Billing Conductor を使用している場合、カスタム請求ビューには、請求グループに属するアカウントからアクセスされる場合でも、標準の AWS 請求に基づくコスト管理データが含まれます。

> **Note**
>
> カスタム請求ビューを作成するには、詳細な AWS Cost Management アクションを使用する必要があります。詳細については、「前提条件」を参照してください。

組織のデータを使用してカスタム請求ビューを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [請求ビュー] タブを選択します。
4. [ビューを作成] を選択します。
5. フィルタリングに使用する 1 つのディメンションを選択し、カスタム請求ビューに含める値を指定します。

   - [コスト配分タグ]: このフィルターは、コスト配分タグを使用して支出を整理および管理する場合に推奨されます。このフィールドは 1 つのキーに制限されていますが、そのキー内で複数の値を指定できます。例えば、キーが Cost Center で、値が 80,432 または 78,925 であるコスト配分タグを持つすべての使用状況レコードを含むカスタム請求ビューを作成できます。コスト配分タグに関する詳細については、AWS コスト配分タグを使用したコストの整理と追跡を参照してください。
   - [アカウント]: このフィルターを使用すると、1 つ以上のアカウント ID を選択して、特定のアカウントのコスト管理データを請求ビューに含めることができます。これは、組織内の特定のアカウントまたはアカウントグループに焦点を当てたカスタム請求ビューを作成する際に便利です。
   - [フィルターなし (すべてのデータ)]: このフィルターを使用すると、組織内のすべてのコスト管理データが含まれます。
6. [カスタム請求ビュー名] に、カスタム請求ビューの内容を識別しやすい短くわかりやすい名前を入力します。これにより、ユーザーはナビゲーションペインの [請求ビューを選択] メニューからカスタム請求ビューを選択する際にその内容を理解しやすくなります。
7. (オプション)[カスタム請求ビューの説明] に、カスタム請求ビューの内容に関する詳細情報を入力します。この説明は [請求ビュー] タブに表示されます。
8. (オプション) カスタム請求ビューにタグを追加します。タグの詳細については、「AWS 全般のリファレンスガイド」の「AWS リソースのタグ付け」を参照してください。

   1. [新しいタグを追加] をクリックします。
   2. タグのキーと値を入力します。
   3. タグを追加するには、[新しいタグを追加] を選択します。追加できるタグの最大数は 50 です。

9. 設定内容を確認して [作成] を選択します。カスタム請求ビューが作成されると、一意の Amazon リソースネーム (ARN) が割り当てられ、識別子として使用されます。

複数のソースを使用してカスタム請求ビューを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [請求ビュー] タブを選択します。
4. [マルチソースビューを作成] を選択します。
5. 最大 20 個のソースビューを選択します。新しいビューには、選択した各ソースビューのコスト管理データが含まれます。
6. [次へ] を選択します。
7. フィルタリングに使用する 1 つのディメンションを選択し、カスタム請求ビューに含める値を指定します。

   - [コスト配分タグ]: このフィルターは、コスト配分タグを使用して支出を整理および管理する場合に推奨されます。このフィールドは 1 つのキーに制限されていますが、そのキー内で複数の値を指定できます。例えば、キーが Cost Center で、値が 80,432 または 78,925 であるコスト配分タグを持つすべての使用状況レコードを含むカスタム請求ビューを作成できます。コスト配分タグに関する詳細については、AWS コスト配分タグを使用したコストの整理と追跡を参照してください。
   - [アカウント]: このフィルターを使用すると、1 つ以上のアカウント ID を選択して、特定のアカウントのコスト管理データを請求ビューに含めることができます。これは、組織内の特定のアカウントまたはアカウントグループに焦点を当てたカスタム請求ビューを作成する際に便利です。
   - [フィルターなし (すべてのデータ)]: このフィルターを使用すると、組織内のすべてのコスト管理データが含まれます。
8. [カスタム請求ビュー名] に、カスタム請求ビューの内容を識別しやすい短くわかりやすい名前を入力します。これにより、ユーザーはナビゲーションペインの [請求ビューを選択] メニューからカスタム請求ビューを選択する際にその内容を理解しやすくなります。
9. (オプション)[カスタム請求ビューの説明] に、カスタム請求ビューの内容に関する詳細情報を入力します。この説明は [請求ビュー] タブに表示されます。
10. (オプション) カスタム請求ビューにタグを追加します。タグの詳細については、「AWS 全般のリファレンスガイド」の「AWS リソースのタグ付け」を参照してください。

1. [新しいタグを追加] をクリックします。
2. タグのキーと値を入力します。
3. タグを追加するには、[新しいタグを追加] を選択します。追加できるタグの最大数は 50 です。

11. [次へ] を選択します。
12. 設定内容を確認して [作成] を選択します。カスタム請求ビューが作成されると、一意の Amazon リソースネーム (ARN) が割り当てられ、識別子として使用されます。

カスタム請求ビューを作成すると、そのビューは自分のアカウント内でのみ利用できます。自身のアカウントのナビゲーションペインにある [請求ビューを選択] メニューからアクセスすることで、その内容に Cost Explorer を使用してアクセスできます。また、[コスト管理の設定] ページの [請求ビュー] タブでもカスタム請求ビューの定義内容を確認できます。カスタム請求ビューを他のアカウントと共有できます。共有アカウントは [請求ビューを選択] メニューからカスタム請求ビューにアクセスし、そこで定義されたコスト管理データにアクセスできます。詳細については、カスタム請求ビューの共有を参照してください。

カスタム請求ビューの共有

カスタム請求ビューは、組織内および組織外のアカウントと共有できます。ただし、「プライマリ」タイプおよび「請求グループ」タイプの請求ビューは共有をサポートしていません。

> **Note**
>
> 組織内のメンバーアカウントが Cost Explorer を使用して共有されたカスタム請求ビューにアクセスするには、管理アカウントがそのメンバーアカウントに Cost Explorer へのアクセス権を付与している必要があります。共有されたカスタム請求ビューへアクセスする際に、メンバーアカウントが割引、クレジット、返金にアクセスできるかどうかは、連結アカウントへのアクセス、連結アカウントの払い戻しとクレジット、連結アカウント割引など、現在の Cost Explorer の設定によって決まります。詳細については、Cost Explorer 設定を使用してアクセスを制御するを参照してください。

カスタム請求ビューを共有するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます

2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [請求ビュー] タブを選択します。
4. 共有設定ページにアクセスするには、次のいずれかを実行します。
   - 共有したいカスタム請求ビューを選択し、[ビューを共有] を選択します。
   - 共有したいカスタム請求ビューの名前を選択し、[詳細を表示] ページで [共有] タブを選択します。
5. [共有] を選択します。
6. カスタム請求ビューは、組織内および組織外のアカウントと共有できます。[選択] から次のいずれかを選択します。
   - [AWS 組織内] を選択して、組織内のアカウントと共有します。
   - [任意のアカウント] を選択して、共有するアカウント ID を手入力します。
7. カスタム請求ビューの管理権限を選択します。管理権限は、共有先アカウントが共有リソースをどのように操作できるかを定義します。管理権限の詳細については、Managing permissions in AWS RAM を参照してください。
8. カスタム請求ビューを共有するアカウントを選択します。
   - AWS 組織内で共有する場合は、共有するメンバーアカウントを選択します。
   - 任意のアカウントと共有する場合は、共有する 12 桁の AWS アカウント ID を手入力します。組織外のアカウントと共有する場合、受信側アカウントは、ビューにアクセスするための招待を承諾する必要があります。
9. カスタム請求ビューを共有する組織のメンバーアカウントを選択します。
10. [共有] を選択します。

> **Note**
>
> カスタム請求ビューでは、共有に AWS Resource Access Manager (AWS RAM) を使用します。カスタム請求ビューを共有すると、AWS リソース共有が自動的に作成されます。AWS RAM を使用して、組織内の特定のアカウントとカスタム請求ビューのリソースを直接共有できます。AWS RAM とリソースを共有するための権限が必要なのは管理アカウントのみであり、共有されたリソースを受け取るメンバーアカウント側には権限は不要です。
> AWS の組織単位全体との共有やカスタム管理ポリシーの定義など、より高度なユースケースを行う場合は、AWS RAM を使用してリソース共有を直接作成します。カスタム請求ビューが、AWS アカウント以外の IAM プリンシパルと AWS RAM を通じて直接共有されて

いる場合、これらの共有は [詳細を表示] ページの [共有] タブにある [共有している他のプリンシパル] に表示されます。AWS RAM で直接作成されたリソース共有は、AWS RAM 内でのみ管理できます。

カスタム請求ビューが共有されると、[詳細を表示] ページの [共有] タブから、そのビューにアクセスできるアカウントを確認できます。AWS Billing Conductor を使用している場合、カスタム請求ビューには標準の AWS 請求に基づくコスト管理データが含まれており、請求グループに属するアカウントからアクセスされる場合でも同様です。また、AWS RAM で作成したすべてのリソース共有の一覧を確認することもできます。詳細については、AWS RAM で作成したリソース共有の表示を参照してください。

カスタム請求ビューの共有権限はいつでも編集できるため、どのアカウントがコスト管理データへアクセスできるかを柔軟に管理できます。詳細については、カスタム請求ビューへの共有アクセスの管理を参照してください。

カスタム請求ビューの管理

カスタム請求ビューの作成者は、リソースを他のアカウントと共有した後でも、リソースを完全に制御できます。カスタム請求ビューの定義を更新して、組織の変更を反映することができます。また、どのアカウントがカスタム請求ビューへアクセスできるかを管理したり、カスタム請求ビューを削除して、共有されているすべてのアカウントのアクセスを即座に無効化することもできます。ビューへのアクセス権を付与されたアカウントは、カスタム請求ビューの定義を変更することはできません。これにより、どのアカウントが特定のコスト管理データにアクセスできるかを、作成者が完全に制御できるようになります。

既存のカスタム請求ビューの定義はいつでも変更できます。編集すると、更新されたカスタム請求ビューがすぐに有効になります。ビューにアクセス権を持つすべてのアカウント (共有先のメンバーアカウントを含む) は、更新後の定義に基づいたコスト管理データを直ちに参照できます。

トピック

- カスタム請求ビューのフィルターの編集
- カスタム請求ビューのソースの編集
- カスタム請求ビューのタグの編集
- カスタム請求ビューの削除
- 組織内でのカスタム請求ビューへの共有アクセス管理

- AWS マネージド請求ビューについて
- 組織外でのカスタム請求ビューへの共有アクセス管理

カスタム請求ビューのフィルターの編集

カスタム請求ビューのフィルターを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [請求ビュー] タブを選択します。
4. フィルターの編集ページにアクセスするには、次のいずれかを実行します。

    - 編集するカスタム請求ビューを選択します。[アクション] を選択し、ドロップダウンリストから [ビューを編集] を選択します。
    - 編集する請求ビューを選択します。[設定の詳細] タブを選択し、[データフィルタリング条件] の横にある [編集] を選択します。
5. [ビューを編集] ページで、フィルターディメンションを変更します。
6. [保存] を選択します。

カスタム請求ビューのソースの編集

カスタム請求ビューのソースを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [請求ビュー] タブを選択します。
4. フィルターの編集ページにアクセスするには、次のいずれかを実行します。

    - 編集するカスタム請求ビューを選択します。[アクション] を選択し、ドロップダウンリストから [ビューを編集] を選択します。
    - 編集する請求ビューを選択します。[設定の詳細] タブを選択し、[データフィルタリング条件] の横にある [編集] を選択します。

5. [ソースを編集] ページで、ビューで使用されるソースを変更します。
6. [保存] を選択します。

カスタム請求ビューのタグの編集

カスタム請求ビューのタグを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [請求ビュー] タブを選択します。
4. フィルターの編集ページにアクセスするには、次のいずれかを実行します。

   - 編集するカスタム請求ビューを選択します。[アクション] を選択し、ドロップダウンリストから [ビューを編集] を選択します。
   - 編集する請求ビューを選択します。[設定の詳細] タブを選択し、[データフィルタリング条件] の横にある [編集] を選択します。
5. [タグを管理] ページで、ビューに使用されるタグを変更します。
6. [保存] を選択します。

カスタム請求ビューの削除

カスタム請求ビューを削除すると、すべてのユーザーのカスタム請求ビューへのアクセスが完全に削除されます。このアクションを元に戻すことはできません。カスタム請求ビューを削除すると、そのビューは、管理アカウントとビューが共有されたメンバーアカウントのナビゲーションペインの [請求ビューを選択] メニューに表示されなくなります。削除されたカスタム請求ビューの URL にアクセスしようとしたエンドユーザーには、エラーメッセージが表示されます。

カスタム請求ビューを削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [請求ビュー] タブを選択します。

4. 削除するカスタム請求ビューを選択します。
5. [アクション] を選択し、ドロップダウンリストから [ビューを削除] を選択します。
6. 表示されたダイアログボックスで、[削除] を選択します。

カスタム請求ビューに関連付けられたリソース共有を変更することで、どのアカウントがそのビューにアクセスできるかを管理できます。アカウントをリソース共有に追加すると、そのアカウントはカスタム請求ビューにアクセスできるようになります。リソース共有からアカウントを削除すると、そのアカウントはカスタム請求ビューへのアクセス権を失います。

組織内でのカスタム請求ビューへの共有アクセス管理

> **Note**
>
> カスタム請求ビューでは、共有に AWS Resource Access Manager (AWS RAM) を使用します。カスタム請求ビューを共有すると、 AWS リソース共有が自動的に作成されます。 AWS RAM コンソールから直接リソース共有を変更することもできます。RAM でのリソース共有の変更の詳細については、「RAM AWS でのリソース共有の更新」を参照してください。 AWS

組織内でカスタム請求ビューにアクセスできるアカウントを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [請求ビュー] タブを選択します。
4. 共有設定ページにアクセスするには、次のいずれかを実行します。
   - 共有を更新したいカスタム請求ビューを選択して [アクション] を選択し、ドロップダウンリストから [共有アカウントを編集] を選択します。
   - 共有を更新したいカスタム請求ビューの名前を選択し、[詳細を表示] ページで [共有] タブを選択します。
5. [共有] タブで、[編集] を選択します。
6. 組織内でカスタム請求ビューにアクセスさせたいメンバーアカウントを選択します。
7. [共有] を選択します。

> **Note**
>
> AWS RAM は、複数のリソース共有に属する 1 つのリソースもサポートしています。カスタム請求ビューが複数のリソース共有に属している場合、[共有を編集] ページに [共有を選択] というラベルのドロップダウンが表示され、現在選択しているカスタム請求ビューが属するすべてのリソース共有が一覧表示されます。リソース共有を選択すると、そのリソース共有に含めるアカウントや除外するアカウントを変更できます。

AWS マネージド請求ビューについて

AWS マネージド請求ビューは、アカウントを Billing Conductor 請求グループにマッピングするか、請求転送を使用するときに作成されます。

AWS マネージド請求ビューには、請求グループビューと請求転送請求ビューの 2 種類があります。

請求転送請求ビューの 2 つのタイプ:

- マイビュー - 請求書転送アカウントが財務的責任を負う請求データを表示します
- ショーバック/チャージバックビュー - ショーバックまたはチャージバックの目的で設定された請求データを表示します

AWS はこれらの請求ビューを作成および管理するため、直接更新または削除することはできません。 コスト管理設定の請求ビュータブには、現在カスタムビューのみが表示され、 AWS マネージドビューは表示されません。

AWS マネージドビュー名を更新するには、関連付けられたリソース (請求グループまたは請求転送) の名前を更新します。 AWS マネージドビューは、関連付けられたリソースが削除または取り消されても保持されます。

組織外でのカスタム請求ビューへの共有アクセス管理

> **Note**
>
> カスタム請求ビューでは、共有に AWS Resource Access Manager (AWS RAM) を使用します。カスタム請求ビューを共有すると、 AWS リソース共有が自動的に作成されます。 AWS RAM コンソールから直接リソース共有を変更することもできます。RAM でのリソース共有

の変更の詳細については、「RAM AWS でのリソース共有の更新」を参照してください。AWS

組織外でカスタム請求ビューにアクセスできるアカウントを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [請求ビュー] タブを選択します。
4. 共有設定ページにアクセスするには、次のいずれかを実行します。
   - 共有を更新したいカスタム請求ビューを選択して [アクション] を選択し、ドロップダウンリストから [外部共有を編集] を選択します。
   - 共有を更新したいカスタム請求ビューの名前を選択し、[詳細を表示] ページで [共有] タブを選択します。[組織外で共有する] の横にある [編集] を選択します。
5. カスタム請求ビューにアクセスさせたいアカウント ID を選択します。
6. [共有] を選択します。

> **Note**
>
> AWS RAM は、複数のリソース共有に属する 1 つのリソースもサポートしています。カスタム請求ビューが複数のリソース共有に属している場合、[共有を編集] ページに [共有を選択] というラベルのドロップダウンが表示され、現在選択しているカスタム請求ビューが属するすべてのリソース共有が一覧表示されます。リソース共有を選択すると、そのリソース共有に含めるアカウントや除外するアカウントを変更できます。

請求ビューを使用したコスト管理データへのアクセス

カスタム請求ビュー

お使いのアカウントにカスタム請求ビューへのアクセス権がある場合、そのカスタム請求ビューで定義されたコスト管理データにアクセスできます。これは、お客様のアカウントが所有し、プライマリ請求ビューに含まれているコスト管理データに加えて利用できるデータです。プライマリ請求ビュー

は、すべての AWS 請求ツールとコスト管理ツールをサポートします。カスタム請求ビューのデータにアクセスするには、Cost Explorer または AWS 請求とコスト管理のホームページを使用できます。Cost Explorer は、カスタム請求ビューに対して追加機能を提供します。これにより、そのデータに基づいて予測を作成したり、Cost Explorer の保存済みレポートにアクセスしたりできます。

カスタム請求ビューを選択するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求ビューを選択] メニューを選択します。デフォルトで選択されているのは、現在ログインしているアカウントのコスト管理データを表す [プライマリビュー] です。
3. ドロップダウンリストの [カスタムビュー] セクションから、コスト管理データにアクセスするために使用したいカスタム請求ビューを選択します。
4. 使用したいカスタム請求ビューがリストに表示されていない場合は、[すべてのビューを見る] を選択して [請求ビュー] ダイアログボックスを開きます。
5. [ビュー名を検索] 検索フィールドを使用して、[請求ビュー] テーブル内のカスタム請求ビューを絞り込みます。
6. アクセスしたいカスタム請求ビューが見つかったら、それを選択し、[選択] を選択します。

カスタム請求ビューを選択すると、 AWS Billing and Cost Management コンソールの内容が更新され、選択したカスタム請求ビューで定義されたコスト管理データが反映されます。また、コンソールのナビゲーションペインも更新され、選択したカスタム請求ビューでサポートされているツールのみが表示されます。別の AWS 請求およびコスト管理ツールに移動すると、現在選択されているカスタム請求ビューが維持されます。

> **Note**
>
> AWS Billing and Cost Management ホームページのすべてのウィジェットがカスタム請求ビューをサポートしているわけではありません。選択したカスタム請求ビューに含まれるコスト管理データは、「コスト概要」、「コスト内訳」、「コスト配分の範囲」の各ウィジェットに表示されます。「推奨アクション」、「割引サービス」、「コストモニター」の各ウィジェットでは、カスタム請求ビューを使用している場合、推奨アクション、割引サービス、またはコストモニターは表示されません。

AWS マネージドビューの使用

AWS マネージド請求ビューを選択するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、請求ビューモードを有効にします。
3. ドロップダウンリストから、請求転送ビューを選択します。

   ドロップダウンには、最近アクセスした 10 個のビューが表示されます。すべてのビューを表示するには、ドロップダウンメニューの下部にある「すべてのビューを表示」を選択します。
4. Billing vieBilling ビューモーダルから、 `billing group view`または を選択しますbilling `transfer views`。
5. 検索バーを使用して、テーブル内のすべての列の結果をフィルタリングします。

   これらのパラメータを使用してビューを検索します。

   - ビュー名 (部分一致、先頭)

   - アカウント ID (完全一致)

   - タイプ (または の `BILLING_TRANSFER`完全一致`BILLING_TRANSFER_SHOWBACK`)

   - 請求期間 (月を選択)
6. 目的の請求ビューを選択し、選択を選択します。

請求転送のショーバック/チャージバックビューと請求グループビュー AWS Cost and Usage Report は、 AWS Cost and Usage Report (ベータ版ではレガシーのみがサポートされています)、Cost Explorer、および 請求ページで分析できます。

請求ビューを使用した Cost Explorer レポートの表示

Cost Explorer には、コストと使用状況レポートとリザーブドインスタンスレポートの 2 種類のデフォルトレポートが用意されています。「コストと使用状況レポート」タイプの Cost Explorer レポートのみがカスタム請求ビューと AWS マネージド請求ビューでサポートされています。「リザーブドインスタンスレポート」はカスタム請求ビューと AWS マネージド請求ビューでは使用できません。Cost Explorer では、Cost Explorer クエリの結果をレポートとして保存することで、独自のレポートを作成することもできます。Cost Explorer レポートは、カスタム請求ビューと組み合わせて

使用することで、Cost Explorer レポートとして保存されたクエリを利用して、カスタム請求ビューに含まれるコスト管理データへアクセスできます。

新しい Cost Explorer レポートを作成する際に、レポート定義の一部として保存されるのは Cost Explorer クエリのみです。現在選択されているカスタム請求ビューと AWS マネージド請求ビューは、レポートの一部として保存されません。Cost Explorer レポートの詳細については、Cost Explorer レポートを使用してコストを把握するを参照してください。

保存済み Cost Explorer レポートを表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、請求ビューモードを有効にします。デフォルトで選択されているのは、現在ログインしているアカウントのコスト管理データを表す [プライマリビュー] です。
3. ドロップダウンリストから、カスタムビューまたはAWS マネージドビュー (`billing group` または `billing transfer` ビュー) を選択します。コスト管理データへのアクセスに使用するカスタム請求ビューを選択します。
4. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer 保存済みレポート] を選択します。
5. アクセスするレポートを選択します。

> **Note**
>
> Cost Explorer の設定と請求ビューの選択は、ブラウザのお気に入りまたはブックマークとして保存できます。この保存されたリンクに戻ると、Cost Explorer はページを更新して、請求ビューのコスト管理データと保存された設定を表示します。この機能を使用すると、頻繁に使用される設定と請求ビューの組み合わせにすばやくアクセスできるため、時間と労力を節約できます。

請求ビューを使用した予算の表示と作成

AWS Budgets は、プライマリ請求ビューとカスタム請求ビューをサポートしているため、組織内の複数のアカウントでフィルタリングされたコストと使用状況データに基づいて予算を作成および管理できます。この機能により、管理アカウントへのアクセスを必要とせずに、組織全体で分散型のクラウドコスト管理を実現できます。

新しい予算を作成する際には、新しい予算を作成するときに、請求ビューを選択して、予算が追跡するコストと使用状況データの範囲を定義できます。選択した請求ビューは、予算定義の一部として保存されます。

請求ビューを使用して予算を作成すると、予算はその請求ビューの範囲内のコストと使用状況データのみを追跡します。例えば、特定の部門またはプロジェクトのコストのみを追跡する予算を作成できます。これにより、組織構造やコスト配分戦略に合わせて、より詳細な予算管理が可能になります。

請求ビューを使用して予算を表示または作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[請求ビューを選択] メニューを選択します。デフォルトで選択されているのは、現在ログインしているアカウントのコスト管理データを表す [プライマリビュー] です。
3. ドロップダウンリストから使用する請求ビューを選択します。
   - プライマリビュー: 現在のアカウントのコスト管理データを表示します。
   - カスタムビュー: 定義された基準に基づいてフィルタリングされたコスト管理データを表示します。
   - AWS マネージド請求ビュー (請求転送ビューと請求グループビュー): Billing Transfer を介して請求を転送する請求ソースアカウントのコスト管理データと、 を介して請求グループに含まれるアカウントのコスト管理データを表示します。
4. ナビゲーションペインで、[予算] を選択します。
5. 既存の予算については、選択している請求ビューを使用して作成された予算のみが予算リストに表示されます。
6. 新しい予算については、[予算を作成] を選択し、予算作成ワークフローに従います。選択した請求ビューは、新しい予算に自動的に適用されます。詳細については、予算の作成を参照してください。

> **Note**
>
> 請求ビューで作成された予算は、対応する請求ビューが選択されている場合にのみ表示および管理できます。別の請求ビューに切り替えた場合、これらの予算は予算リストに表示されません。

請求ビューを使用したエクスポートの表示と作成

AWS コスト管理データエクスポートは、詳細なコストと使用状況レポートの生成に役立つプライマリビュー、請求グループビュー、請求転送ビューをサポートします。組織内の複数のアカウント間でデータをフィルタリングできます。データエクスポートを作成するときに、請求ビューを選択して、含めるコストと使用状況データを定義できます。これにより、管理アカウントへのアクセスを必要とせずに、特定の部門やプロジェクトに集中できます。

エクスポートをカスタマイズするには、特定のデータディメンション、期間、アカウントを選択します。 AWS コスト管理では、将来の使用に備えてすべての設定を保存します。サービスは、エクスポートされたデータを指定された Amazon Simple Storage Service バケットにスケジュールに従って自動的に配信し、外部分析ツールとの統合を可能にします。

請求ビューを使用してエクスポートを表示または作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、請求ビューを有効にします。デフォルトで選択されているのは、現在ログインしているアカウントのコスト管理データを表す [プライマリビュー] です。
3. ドロップダウンリストから使用する請求ビューを選択します。

   - プライマリビュー: 現在のアカウントのコスト管理データを表示します。
   - 請求グループビュー: 請求グループに含まれるアカウントのコスト管理データを 経由で表示します。
   - Billing Transfer ビュー: AWS 請求責任を移管したアカウントのコスト管理データを表示します。
4. ナビゲーションペインで [データエクスポート] を選択します。
5. 既存のエクスポートの場合、エクスポートリストには、選択した請求ビューを使用して作成されたエクスポートのみが表示されます。
6. 新しいエクスポートの場合は、エクスポートの作成を選択し、エクスポート作成ワークフローに従います。選択した請求ビューは、新しいエクスポートに自動的に適用されます。

> **Note**
>
> カスタム請求ビューは現在、データエクスポートではサポートされていません。他のすべての請求ビュータイプがサポートされています。

ダッシュボードを使用したコストと使用状況データの可視化と分析

AWS Billing and Cost Management Dashboards を使用すると、コストと使用状況データのカスタマイズされたビューを 1 ページで作成して共有できます。Cost Explorer のデータと Savings Plans およびリザーブドインスタンスのカバレッジと使用率メトリクスを組み合わせて、 AWS 支出パターンに関する包括的なインサイトを提供する、ウィジェットと呼ばれるグラフとテーブルのコレクションを作成できます。

ダッシュボードの主な機能:

- 複数の可視化タイプを使用して、コストと使用状況データを表示するカスタムダッシュボードを作成できます。
- ウィジェットのサイズ変更や配置によってダッシュボードレイアウトをカスタマイズし、重要な情報を強調できます。
- ダッシュボードは、 AWS 組織内外のアカウントと安全に共有します。
- 頻繁に使用するダッシュボードをお気に入りとしてマークして、すばやくアクセスできるようにします。

ダッシュボードの一般的なユースケースは次のとおりです。

- サービス、リージョン、チーム間の支出傾向を分析し、コストパターンを特定します。
- Savings Plans とリザーブドインスタンスの使用率とカバレッジをモニタリングしてコミットメントを最適化します。
- 組織全体で一貫性を維持するため、標準化されたコスト報告手法を確立します。
- 特定のチーム、プロジェクト、または事業部向けのターゲット財務レポートを作成します。

> **Important**
>
> - これらのレポートに表示された現在の請求期間の料金は、見積りの料金です。このダッシュボードに表示されている見積りの料金、またはお客様に送信する通知に表示される料金は、この明細書期間の実際の料金と異なる場合があります。このダッシュボードに提示される見積りの料金には、この明細書期間中にこのページを閲覧した日以降に生じた使用

料金が含まれていないためです。1 回限りの手数料とサブスクリプション料金は、それらが発生した日時点で、使用料金および定期料金とは個別に算出されます。

- 予測請求額は過去の請求額に基づいて見積もられるため、予測期間の実際の請求額とは異なる場合があります。予測料金は、お客様の便宜のためにのみ提供されており、このダッシュボードを閲覧した日以降に発生したサービスの利用状況の変化は考慮されていません。
- 表示される日付は協定世界時 (UTC) に基づいています。

トピック

- ダッシュボードの使用を開始する
- カスタムダッシュボードの作成
- ウィジェットをダッシュボードに追加する
- ダッシュボードのエクスポート
- ダッシュボードの共有
- ダッシュボードの管理

ダッシュボードの使用を開始する

AWS Billing and Cost Management Dashboards は、コストと使用状況データを視覚化するウィジェットのコレクションです。各ダッシュボードには最大 20 個のウィジェットを配置でき、コスト、使用状況、Savings Plans、リザーブドインスタンスのカバレッジと使用率を表示できます。ダッシュボードの強力な機能の 1 つとして、組織内外で共有できるため、コストの共同管理が可能になります。

前提条件

ダッシュボードを作成または使用する前に、以下を確認してください。

- Billing and Cost Management コンソールへのアクセスに必要な IAM ユーザーおよびロールのアクセス許可が有効化されている。IAM アクションの詳細については、「Using identity-based policies (IAM policies) for AWS Cost Management」を参照してください。
- Billing AWS and Cost Management AWS のきめ細かな IAM アクションを有効にしました。詳細については、AWS 「請求、コスト管理、アカウントコンソールのアクセス許可の変更」を参照してください。

- (オプション) 組織内でダッシュボードを共有する予定がある場合は、 AWS Organizations との AWS RAM 共有を有効にしました。詳細については、AWS 「 Resource Access Manager ユーザーガイド AWS 」の「RAM と IAM の連携方法」を参照してください。

> **Note**
>
> AWS CloudFormation を使用したダッシュボードの作成は現在サポートされていません。

ダッシュボードを組織のメンバーアカウントと共有するには、 AWS Resource Access Manager (AWS RAM) を使用してリソースを作成および共有する権限を持つ IAM プリンシパルを使用して、組織の管理アカウントにアクセスする必要があります。共有ダッシュボードを受け取るメンバーアカウントには、権限は必要ありません。詳細については、「ダッシュボードの共有」を参照してください。ダッシュボードを共有するための IAM アクションの詳細については、AWS 「 Resource Access Manager ユーザーガイド」の「RAM AWS と IAM の連携方法」を参照してください。

ダッシュボードへのアクセス

ダッシュボードには、Billing and Cost Management コンソールからアクセスできます。

ダッシュボードにアクセスするには:

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。

ダッシュボードのアクセス許可について

ダッシュボードのアクセス許可は、IAM ポリシーによって管理されます。ダッシュボードを効率的に操作するには、ダッシュボードの管理に必要なアクセス許可と、基盤となるデータへのアクセスに必要なアクセス許可の両方を理解する必要があります。

必要なダッシュボードのアクセス許可には以下が含まれます。

- `CreateDashboard` - 新しいダッシュボードを作成する
- `GetDashboard` - ダッシュボードの詳細を表示する
- `UpdateDashboard` - 既存のダッシュボードを変更する

- DeleteDashboard - ダッシュボードを削除する
- ListDashboards - 使用可能なダッシュボードを表示する

ダッシュボードのすべてのアクセス許可を付与する IAM ポリシーの例を以下に示します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "bcm-dashboards:CreateDashboard",
                "bcm-dashboards:GetDashboard",
                "bcm-dashboards:UpdateDashboard",
                "bcm-dashboards:DeleteDashboard",
                "bcm-dashboards:ListDashboards"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

ダッシュボードを操作する際、ユーザーにはダッシュボードリソース自体へアクセスするためのアクセス許可と、基盤となるコストおよび使用状況データ API へアクセスするためのアクセス許可が必要です。共有ダッシュボードの場合、アクセス許可は RAM AWS を通じて管理されます。

カスタムダッシュボードの作成

ダッシュボードでは、複数のウィジェットを 1 つの画面にまとめて表示することで、AWS のコストや使用状況データを可視化およびモニタリングできます。特定のメトリクスを追跡したり、サービスやリージョン間でコストを比較したり、組織内外と標準化されたビューを共有したりするために、カスタムダッシュボードを作成できます。

ダッシュボードを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. [ダッシュボードの作成] を選択します。

   ダッシュボードはデフォルト名で作成されます。名前を変更するか、必要に応じて説明を追加できます。

   - 名前はアカウント内で一意である必要があり、最大 50 文字使用できます。
   - オプションの説明には、200 文字まで入力できます。

> **Note**
>
> 自動保存はデフォルトで有効になっており、すべての変更が自動的に保存されます。

ダッシュボードを作成すると、一意の Amazon リソースネーム (ARN) が割り当てられ、最初は空の状態になります。ダッシュボードは作成したアカウント内でのみ利用できます。コストと使用状況データを表示するためにウィジェットを追加できます。詳細については、ダッシュボードへのウィジェットの追加を参照してください。

ダッシュボードの設定が完了したら、組織内外の他のアカウントと共有できます。詳細については、ダッシュボードの共有を参照してください。

ウィジェットをダッシュボードに追加する

ダッシュボードでは、ウィジェットを使用してデータを可視化できます。ウィジェットは、コストや使用状況の情報を表示する設定可能なコンポーネントです。各ダッシュボードには最大 20 個のウィジェットを含めることができ、複数の可視化を 1 つのビューにまとめられます。ウィジェットを使用することで、グラフやテーブルを通じてコストと使用状況を分析できます。

特定のデータを表示するカスタムウィジェットを作成したり、あらかじめ定義されたウィジェットを追加したりできます。各ウィジェットは、フィルターや期間を使用してカスタマイズできます。ダッシュボード全体を制御する場合は、すべてのウィジェットに同時に適用されるグローバルな日付範囲フィルターを使用できます。また、ウィジェットごとに異なる期間を設定することも可能で、デー

タの表示や比較方法に柔軟性を持たせられます。ダッシュボードのレイアウトもカスタマイズでき、ウィジェットのサイズや位置を調整して、理想的なビューを作成できます。

例えば、Savings Plans のカバレッジと使用率のグラフを、サービス別やリージョン別のコストおよび使用状況データと組み合わせて、コスト最適化の取り組みを追跡するためのダッシュボードを作成できます。これらを組み合わせた可視化により、支出パターンを分析し、データに基づいた財務判断を行えるようになります。

ウィジェットを追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. 新しいダッシュボードを作成または既存のダッシュボードを更新します。
4. [ウィジェットを追加] を選択し、次のいずれかを選択します。
   - [カスタムウィジェット] - 新しい可視化を作成します。
   - [事前定義済みウィジェット] - これらのウィジェットは、最も一般的なユースケース用に事前設定されており、レポートニーズに合わせてさらにカスタマイズできます。
5. ウィジェットパネルで、ウィジェットをダッシュボードにドラッグします。

   > **Note**
   >
   > デフォルトの可視化は棒グラフです。

6. [ウィジェットパラメータの編集] パネルで、以下を設定します。
   - 期間と詳細度
   - ディメンションでグループ化
   - フィルター
   - コスト集計およびその他のデータ設定
7. ビジュアライゼーション型を変更するには
   - ウィジェットの右上隅にある 3 つの縦並びの点を選択します。
   - [ビジュアライゼーションタイプを変更] を選択します。
   - [折れ線グラフ]、[棒グラフ]、[積み上げ棒グラフ]、または [表] を選択します。

> **Note**
>
> 自動保存はデフォルトで有効になっており、すべての変更が自動的に保存されます。

ダッシュボードのカスタマイズ

ウィジェットを追加した後は、ダッシュボードのレイアウトや設定をカスタマイズできます。重要な情報を強調するために、ウィジェットを別の位置にドラッグしたり、サイズを変更したりできます。

期間は、ダッシュボードレベルとウィジェットレベルの両方で管理できます。

- すべてのウィジェットに適用されるダッシュボードレベルの期間を設定します。この設定は一時的なもので、ダッシュボードを離れたり更新したりするとリセットされます。
- 個々のウィジェット期間を設定します。これらの設定は各ウィジェットに保存され、ダッシュボードに戻った際にも保持されます。

ウィジェットのタイプについて

ダッシュボードは、AWS のコスト、使用状況、リソースコミットメントのモニタリングおよび分析に役立ちます。2 種類のウィジェットを使用できます。コスト、使用状況、コミットメントメトリクスを追跡するために最初から設定するカスタムウィジェットと、あらかじめ設定された期間別のコスト内訳を表示するウィジェットです。

ウィジェットタイプ	ウィジェット名	ウィジェットの説明
カスタム	コスト	すべての AWS サービスにわたる合計コストを可視化し、サービス、リージョン、カスタムタグ別の内訳を表示します。
	使用	すべての AWS サービスにわたる合計使用状況を可視化し、リソース消費パターンの把握に役立ちます。

ウィジェットタイプ	ウィジェット名	ウィジェットの説明
	Savings Plans の使用状況	Savings Plans コミットメントの利用状況を表示し、未使用または部分的に使用されているコミットメントを確認できます。
	Savings Plans カバレッジ	使用状況のうち、Savings Plans によってカバーされている割合を表示します。
	予約の使用状況	リザーブドインスタンスの使用状況を表示します。
	予約カバレッジ	使用状況のうち、リザーブドインスタンスによってカバーされている割合を表示します。
事前定義	サービス別の月別コスト	過去 6 か月間のすべての AWS サービスにわたる月間コストの合計を可視化します。
	連結アカウント別の月別コスト	過去 6 か月間のすべての AWS リンクアカウントにわたる月間コストの合計を可視化します。
	毎月の EC2 実行時間のコスト	過去 6 か月間の月間 EC2 実行時間コストを可視化します。
	日別コスト	過去 6 か月間の AWS 日次コストを可視化します。
	AWS Marketplace のコスト	過去 6 か月間の AWS Marketplace コストを可視化します。

これらのウィジェットはすべて、必要に応じて最も関連性の高いデータを表示するようにカスタマイズでき、包括的で洞察に富んだダッシュボードを作成できます。

ダッシュボードのエクスポート

ダッシュボードは、オフライン分析と共有のための柔軟なエクスポートオプションを提供します。ダッシュボード全体を PDF レポートとしてエクスポートしたり、個々のウィジェットデータを CSV または PDF 形式でエクスポートしたりできます。

エクスポートオプション

- PDF エクスポート: AWS コンソールにアクセスできないステークホルダーとオフラインで表示および共有できるように、ダッシュボード全体を PDF ファイルとしてエクスポートします。単一のウィジェットの視覚化を PDF ファイルにエクスポートすることもできます。
- CSV エクスポート: スプレッドシートアプリケーションでの詳細な分析のために、CSV 形式のファイルで個々のウィジェットからデータをエクスポートします。

ダッシュボードを PDF としてエクスポートするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. エクスポートするダッシュボードを選択します。
4. Actions を選択し、ドロップダウンリストから Export PDF を選択します。
5. PDF プレビューがロードされるのを待ち、レイアウトを確認して PDF のエクスポートを選択します。
6. PDF ファイルが生成され、デバイスにダウンロードされます。

ウィジェットを PDF としてエクスポートするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. ダッシュボード名をクリックして、エクスポートするダッシュボードを開きます。
4. エクスポートするウィジェットを見つけます。

5. ウィジェットメニュー (3 つのドット) を開き、エクスポートと PDF を選択します。
6. PDF プレビューがロードされるのを待ち、レイアウトを確認して PDF のエクスポートを選択します。
7. PDF ファイルが生成され、デバイスにダウンロードされます。

> **Note**
>
> ウィジェットに大量のデータが含まれている場合、または長い時間範囲を使用している場合、ビジュアルがページ境界内に収まるように、ウィジェットのレイアウトを変更したり、一部のデータを PDF エクスポートから除外したりできます。これは、PDF ドキュメントの読みやすさと適切なフォーマットを維持するために必要です。
> 完全なデータエクスポートを確実に行うには:
>
> 1. エクスポートを確定する前に PDF プレビューを確認する
> 2. データが切り捨てられているか除外されていることに気付いた場合は、PDF プレビューをキャンセルします。
> 3. ウィジェットの時間範囲をより短い期間に編集する (例: 年単位から四半期単位または月単位に変更)
> 4. ウィジェットフィルターを調整して、表示されるデータボリュームを減らす
> 5. PDF を再度プレビューして、すべての重要なデータが含まれていることを確認します。

ウィジェットデータを CSV としてエクスポートするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. ダッシュボード名をクリックして、エクスポートするダッシュボードを開きます。
4. エクスポートするウィジェットを見つけます。
5. ウィジェットメニュー (3 つのドット) を開き、エクスポートを選択してから CSV を選択します。
6. CSV ファイルがデバイスにダウンロードされます。

ダッシュボードの共有

ダッシュボードは、AWS Organization 内のアカウントや外部アカウント (AWS Resource Access Manager を使用) と共有できます。ダッシュボードを共有しても、共有されるのはダッシュボード設定のみで、参照元のデータは共有されません。共有先は、ダッシュボードのレイアウトやウィジェット設定にアクセスでき、独自のアクセス許可に基づいてデータが表示されます。

共有される設定には、すべてのフィルター値、タグキーとタグ値、ウィジェットのパラメータが含まれます。例えば、特定のアカウントのデータを表示するようにフィルタリングされたウィジェットがある場合、そのアカウント番号は共有先のユーザーにもフィルター設定内で表示されます。同様に、ダッシュボードで使用しているタグキーやタグ値も、共有された設定内で表示されます。

ダッシュボードを共有するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. 共有するダッシュボードを選択します。
4. [共有] を選択します。
5. 共有先のアカウントを選択します。
   - AWS Organization 内のアカウントと共有
   - 外部の AWS アカウントと共有
6. アクセス許可を設定します。
   - 読み取り専用アクセス (「閲覧可能」) の共有先はダッシュボードを表示できますが、変更はできません。
   - 編集アクセス (「編集可能」) の共有先はダッシュボードの設定を表示および変更できます。
7. [共有] を選択します。

ダッシュボードを共有すると、AWS RAM 内に新しいリソース共有が自動的に作成されます。AWS Organizations との AWS RAM 共有が有効になっている場合、受信側アカウントのユーザーは (アイデンティティベースの IAM アクセス許可に従って) 共有されたダッシュボードにすぐにアクセスできます。Organizations との AWS RAM 共有が有効になっていない場合、受信側アカウントの管理者はリソース共有の招待を受け入れる必要があります。

Note

- 組織外と共有する場合、受信者は AWS RAM で共有招待を受け入れる必要があります。受信者は AWS RAM コンソールで [共有されたダッシュボード] の [リソース共有] に移動し、共有が作成されたのと同じリージョンにいることを確認します。[リソース共有] で招待を選択して承諾すると、共有されたダッシュボードが受信者の Billing and Cost Management コンソールの [ダッシュボード] に表示されます。招待がすぐに表示されない場合、受信者は使用している AWS アカウントとリージョンが正しいことを確認してください。
- 共有されたダッシュボードを表示または編集するには、受信側アカウントのユーザーに適切な IAM アクセス許可 (`ListDashboards`、`GetDashboard` など) が必要です。
- 共有ダッシュボードのデータを表示するには、そのデータを提供する基盤の API (`GetCostAndUsage` など) へのアクセス許可も必要です。
- 共有ダッシュボードへのアクセスはいつでも取り消すことができます。

ダッシュボードの管理

ダッシュボードを作成して共有した後は、時間の経過とともに管理する必要があります。このセクションでは、ダッシュボードの編集、削除、複製の方法や、整理しやすくするためのタグの追加方法について説明します。

トピック

- ダッシュボードの編集
- ダッシュボードを削除する。
- ダッシュボードの複製
- ダッシュボードにタグを追加する

ダッシュボードの編集

ニーズの変化に応じて、既存のダッシュボードを修正し、常に有用で関連性の高い状態に保つことができます。

ダッシュボードを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. 編集するダッシュボードを選択します。

ダッシュボードを削除する。

ダッシュボードを削除すると、共有先のアカウントを含むすべてのユーザーがそのダッシュボードへアクセスできなくなります。このアクションを元に戻すことはできません。ダッシュボードが削除されると、所有者の [すべてのダッシュボード] タブや、共有を受けたユーザーの [共有されたダッシュボード] タブに表示されなくなります。削除されたダッシュボードの URL にアクセスしようとすると、エラーメッセージが表示されます。

共有されているダッシュボードを削除する場合、特に組織全体で標準的なレポートテンプレートとして使用されているダッシュボードについては、影響を受けるすべてのチームに事前に通知してください。

ダッシュボードを削除しても、可視化の設定が削除されるだけで、基盤となるコストや使用状況データや、同様のデータを表示している他のダッシュボードには影響しません。

ダッシュボードを削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. 削除するダッシュボードを選択します。
4. [アクション] を選択し、ドロップダウンリストから [ダッシュボードを削除] を選択します。
5. 表示されるダイアログボックスで、[確認] を入力し、[削除] を選択します。

> **Note**
>
> このアクションを元に戻すことはできません。

ダッシュボードの複製

既存のダッシュボードのバリエーションを作成する必要がある場合は、ダッシュボードを複製できます。例えば、サービス別のコストを追跡するダッシュボードを複製し、コピーを変更してリージョンやコスト配分タグなど別のディメンションでコストを追跡するようにできます。これにより、ゼロから新しいダッシュボードを作成するよりも時間を節約できます。

ダッシュボードを複製すると、元のダッシュボードと同じウィジェット設定を持つ独立したコピーが作成されます。新しいダッシュボード名には元の名前に「duplicate」が付加された状態で表示され、必要に応じていつでも変更できます。その後、元のダッシュボードに加えた変更は複製側に影響せず、複製側の変更も元のダッシュボードには影響しません。

ダッシュボードを複製するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. 複製するダッシュボードを選択します。
4. [アクション] を選択し、ドロップダウンリストから [ダッシュボードを複製] を選択します。
5. 表示されるダイアログボックスで、新しいダッシュボードの名前と説明を変更できます。
6. [複製] を選択します。

共有されているダッシュボードを複製することもできます。複製されたダッシュボードはユーザーのアカウントに属し、元のダッシュボードで持っていたアクセス許可に関係なく、複製後のダッシュボードには編集権限が完全に付与されます。

ダッシュボードにタグを追加する

タグを使用すると、ダッシュボードに説明的なラベルを付けて識別、整理、管理できるようになります。作成元の部門を識別したり、プロジェクトや取り組みごとに追跡したり、用途を示したり、異なる環境向けに分類したりするためにタグを付けることができます。例えば、部門 = マーケティングやプロジェクト = コスト最適化-2025 のようなタグを使用して、ダッシュボードを分類できます。

組織内に多数のダッシュボードがある場合、タグは特に有用です。タグを使用すると、特定のダッシュボードをフィルタリングして検索したり、タグの値に基づいて IAM ポリシーでアクセスを制御したり、異なるチームで類似の目的を持つダッシュボードを追跡したりできます。また、AWS CLI

や SDK を使用する場合、タグは関連するダッシュボードをグループとして管理する際にも役立ちます。

ダッシュボードにタグを追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[ダッシュボード] を選択します。
3. タグ付けするダッシュボードを選択します。
4. [アクション] を選択し、ドロップダウンリストから [タグを管理] を選択します。
5. [新しいタグを追加] をクリックします。
6. タグのキーと、オプションで値を入力します。
7. タグを追加するには、[新しいタグを追加] を選択します。追加できるタグの最大数は 50 です。
8. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

変更を保存すると、タグがダッシュボードに適用され、フィルタリングやアクセス制御に利用できるようになります。

AWS Cost Explorer を使用してコストと使用状況を分析する

AWS Cost Explorer は、コストと使用状況を表示および分析できるツールです。メイングラフ、Cost Explorer のコストと使用状況レポート、または Cost Explorer RI レポートを使用して、使用状況とコストを調べることができます。過去 13 か月までのデータを表示したり、今後 18 か月間に費やす可能性のある金額を予測したり、購入するリザーブドインスタンスのレコメンデーションを取得したりできます。Cost Explorer により、さらに調べる必要がある分野を特定し、コストを把握するために使用できる傾向を確認できます。

Cost Explorer ユーザーインターフェイスを使用したコストと使用状況を表示は無料です。Cost Explorer API を使用して、プログラムでデータにアクセスすることもできます。ページ分割された API リクエストごとに 0.01 USD の料金が発生します。Cost Explorer は一旦有効にしたら無効にすることはできません。

さらに、Cost Explorer の構成済みのビューには、コストの傾向が一目でわかる情報が表示され、必要に応じてビューを簡単にカスタマイズできます。

Cost Explorer に初めてサインアップすると、 は当月と過去 13 か月間のコストに関するデータを AWS 準備し、次の 18 か月間の予測を計算します。当月のデータは約 24 時間後に表示可能になります。残りのデータはさらに数日かかります。Cost Explorer は、24 時間ごとに少なくとも一度コストデータを更新します。ただし、これは請求アプリケーションのアップストリームデータに依存し、一部のデータは 24 時間より後に更新される可能性があります。サインアップ後、Cost Explorer はデフォルトで最大 13 か月の履歴データ (そのデータがある場合) 、当月、および今後 18 か月間の予測コストを表示できます。Cost Explorer を初めて使用する際、Cost Explorer は各セクションの説明とともにコンソールの主要な部分について説明します。

Cost Explorer は、 AWS コストと使用状況レポートと詳細な請求レポートの生成に使用されるのと同じデータセットを使用します。データを包括的に確認するために、カンマ区切り値 (CSV) ファイルでダウンロードできます。

トピック

- Cost Explorer を有効にする
- Cost Explorer を開始する
- Cost Explorer を使用してデータを探索する
- 期間ごとのコストを比較する
- 高度なコスト分析のためにより多くのデータを調べる

- AWS Cost Explorer の API の使用

Cost Explorer を有効にする

AWS コスト管理コンソールで初めて Cost Explorer を開くと、そのアカウントのために Cost Explorer が有効化されます。Cost Explorer は、API を使用して有効にできません。Cost Explorer を有効にすると、AWS は当月および過去 13 か月間のコストに関するデータを準備し、その後、次の 12 か月分の予測値を計算します。当月のデータは約 24 時間後に表示可能になります。残りのデータはさらに数日かかります。Cost Explorer は、24 時間ごとに少なくとも一度コストデータを更新します。

Cost Explorer を有効にするプロセスの中で、アカウントのコスト異常検出が、AWS により自動的に設定されます。コスト異常検出は、AWS コスト管理の一機能です。この機能では、機械学習モデルを使用して、デプロイされている AWS のサービス 内の異常な支出パターンを検出および警告します。コスト異常検出の使用開始時、AWS のサービス モニターと日次サマリーアラートのサブスクリプションが AWS により設定されます。アカウント内の AWS のサービス の大部分で、100 USD を上回り予想支出額の 40% を超える異常な支出があると、アラートが送信されます。詳細については、「制限事項」と「AWS 異常検出で異常な使用料を検出する」を参照してください。

> **Note**
>
> コスト異常検出はいつでもオプトアウトできます。詳細については、「コスト異常検出のオプトアウト」を参照してください。

自分のアカウントが、管理アカウントにより Cost Explorer が有効化されている組織のメンバーアカウントである場合は、Cost Explorer を起動できます。自分のアカウントのアクセス権が、組織の管理アカウントにより拒否される場合もあることに注意してください。詳細については AWS Organizations の一括請求を参照してください。

> **Note**
>
> アカウントの組織内での状況により、以下のように表示が可能なコストと使用状況のデータが決定します。
>
> - スタンドアロンアカウントが組織に加わります。これ以降、そのアカウントは、スタンドアロンであった期間のコストと使用状況データにアクセスできなくなります。

- メンバーアカウントは、この組織からスタンドアロンアカウントに移行されます。以降、そのアカウントは、組織のメンバーであった期間のコストと使用状況のデータにアクセスできなくなります。アカウントからアクセス可能なのは、スタンドアロンアカウントとして生成したデータのみです。
- メンバーアカウントは、組織 A から B に移行します。これ以降、このアカウントでは、組織 A のメンバーであった期間のコストと使用状況のデータにアクセスできなくなります。このアカウントでアクセスできるのは、組織 B のメンバーとして生成したデータのみです。
- アカウントが以前所属していた組織に再び加わります。その後、このアカウントでは、過去のコストと使用状況データに再びアクセスできるようになります。

AWS のコストと使用状況レポートまたは請求明細レポートの受信にサインアップしても、自動的に Cost Explorer は有効になりません。これを行うには、以下の手順に従います。

Cost Explorer にサインアップするには

1. で Billing and Cost Management コンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/costmanagement/
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer] を選択します。
3. [Cost Explorer へようこそ] ページで [Cost Explorer の起動] を選択します。

Cost Explorer へのアクセスの制御方法については、「Cost Explorer へのアクセスの管理」を参照してください。

Cost Explorer へのアクセスの管理

Cost Explorer へのアクセスは、次の方法で管理できます。

- 管理アカウントを使用すると、ルートユーザーとして Cost Explorer を有効化できます。この場合、すべてのメンバーアカウントが自動的に有効化されます。
- メンバーアカウントが有効化された後は、管理アカウント内から Cost Explorer の設定を変更できます。Cost Explorer 内でアクセス可能な情報を管理できるようになります。これには、費用、返金またはクレジット、割引、リザーブドインスタンス (RI) の推奨事項が含まれます。

- 管理アカウントレベルで Cost Explorer を有効にしたら、ユーザーの IAM ポリシーを管理できます。例えば、ユーザーに対し Cost Explorer への完全なアクセス権を付与したり、アクセスを拒否したりできます。

このトピックでは、Cost Explorer でのアクセス権管理の方法に関する情報を提供します。

請求情報とコスト管理ページへのアクセス権の管理の詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。

Cost Explorer の IAM ポリシーを参照するには、「AWS コスト管理にアイデンティティベースのポリシー (IAM ポリシー) を使用する」を参照してください。

一括請求 (コンソリデーティッドビリング)の詳細については、「AWS Organizationsの一括請求 (コンソリデーティッドビリング)」を参照してください。

トピック

- Cost Explorer へのアクセス権を付与する
- Cost Explorer 設定を使用してアクセスを制御する
- ユーザーの Cost Explorer へのアクセス権を管理する

Cost Explorer へのアクセス権を付与する

ルートアカウントの認証情報を使用して管理アカウントにサインインしている場合は、Cost Explorer のアクセスを有効化できます。ルートアカウントの認証情報は、Billing and Cost Management コンソールから提供されます。管理アカウントレベルで Cost Explorer を有効にすると、すべての組織アカウントの Cost Explorer が有効になります。組織のすべてのアカウントにアクセス権が付与されるため、アクセス権を個別に許可または拒否することはできません。

Cost Explorer 設定を使用してアクセスを制御する

管理アカウントは、Cost Explorer へのアクセス権をすべてのメンバーアカウントに付与するか、一切付与しないのどちらかを選択できます。個々のメンバーアカウントごとにアクセス権をカスタマイズすることはできません。

の管理アカウント AWS Organizations は、管理アカウントとメンバーアカウントの両方で発生したコストに関するすべての請求情報とコスト管理情報にフルアクセスできます。メンバーアカウントは、自分の Cost Explorer のコストと使用状況のデータにのみアクセスできます。

デフォルトでは、 の管理アカウントはすべてのコストを課金対象レートで AWS Organizations 表示します。組織が Billing Conductor に加入している場合、管理アカウントにも見積レートでのコストが表示されます。メンバーアカウントの Cost Explorer ビューは、Billing Conductor の設定によって異なります。

管理アカウントの所有者は、以下の操作を行うことができます。

- Cost Explorer のすべてのコストを表示します。
- 自分のメンバーアカウントのコスト、返金、クレジット、および RI 推奨事項を表示する許可をすべてのメンバーアカウントに付与します。

メンバーアカウントの所有者は、組織の他のアカウントのコスト、返金、および RI 推奨事項を確認できません。一括請求 (コンソリデーティッドビリング)の詳細については、「AWS Organizationsの一括請求 (コンソリデーティッドビリング)」を参照してください。

AWS アカウント 所有者で一括請求を使用していない場合は、Cost Explorer を含むすべての請求情報とコスト管理情報にフルアクセスできます。

Billing Conductor に登録している場合、メンバーアカウントの Cost Explorer ビューは、メンバーアカウントが請求グループに属しているかどうかによって異なります。

メンバーアカウントが請求グループに属している場合:

- メンバーアカウントには、すべての費用が見積レートで表示されます。
- 連結アカウントアクセス、連結アカウントの払い戻しとクレジット、連結アカウント割引、時間単位およびリソースレベルのデータ、および分割コスト配分データなどの Cost Explorer の設定は、メンバーアカウントには適用されません。

メンバーアカウントが請求グループに属している場合:

- メンバーアカウントには、請求可能な料金で費用が表示されます。
- Cost Explorer の設定はメンバーアカウントに適用されます。

詳細については、「Billing Conductor ユーザーガイド」を参照してください。

組織アカウントステータスのユースケース

次のように、アカウントの組織内での状況により、表示できるコストと使用状況のデータが決定します。

- スタンドアロンアカウントが組織に加わります。これ以降、そのアカウントは、スタンドアロンであった期間のコストと使用状況データにアクセスできなくなります。
- メンバーアカウントは、この組織からスタンドアロンアカウントに移行されます。これ以降、アカウントでは、以前に組織のメンバーだった期間のコストと使用状況データにアクセスできなくなります。アカウントからアクセスが可能なのは、スタンドアロンアカウントとして生成したデータに対してのみです。
- メンバーアカウントは、組織 A から組織 B に移行されます。以降、そのアカウントでは、組織 A でのコストと使用状況のデータにアクセスできなくなり、アクセスできるのは、組織 B のメンバーとして生成したデータのみとなります。
- アカウントは、以前所属していた組織に再び加わります。その後、このアカウントでは、過去のコストと使用状況データに再びアクセスできるようになります。

Cost Explorer 設定を使用したメンバーアカウントのアクセスコントロール

組織のすべてのメンバーアカウントへのアクセス権を許可または制限できます。管理アカウントレベルでアカウントを有効にすると、デフォルトですべてのメンバーアカウントにコストと使用状況データへのアクセスが許可されます。

Cost Explorer データへのメンバーアカウントのアクセス権を制御するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [設定] ページで、[一般] タブの [メンバーアカウントのアクセス許可] で、[連結アカウントのアクセス] を選択またはクリアします。
4. [設定を保存] を選択します。

ユーザーの Cost Explorer へのアクセス権を管理する

管理アカウントレベルで Cost Explorer を有効にしたら、IAM を使用して個々のユーザーの請求データへのアクセスを管理できます。これで、すべてのメンバーアカウントにアクセス権を付与するのではなく、アカウントごとに個別のレベルでアクセスを付与または取り消すことができます。

ユーザーは、請求情報とコスト管理コンソールからページを閲覧するための明示的な許可を与えられていることが必要です。適切なアクセス許可を使用すると、ユーザーはユーザーが属する AWS アカウントのコストを表示できます。ユーザーに必要な許可を付与するポリシーについては、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。

Cost Explorer を開始する

Cost Explorer を有効にすると、AWS コスト管理コンソールから起動できます。

Cost Explorer を起動するには

- で Billing and Cost Management コンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/costmanagement/

これにより、[コスト] ダッシュボードが開き、次の情報が表示されます。

- 現在までの月の見積もり費用
- その月の予測コスト
- 日次費用のグラフ
- 上位 5 つのコストトレンド
- 最近表示したレポートのリスト

Cost Explorer を使用してデータを探索する

Cost Explorer ダッシュボードでは、Cost Explorer により、過去 1 か月の推定コスト、同月の予測コスト、日別コストのグラフ、上位 5 つのコストの傾向、最近表示したレポートのリストが表示されます。

すべてのコストには、前日までの使用量が反映されます。例えば、今日の日付が 12 月 2 日だとすると、データには 12 月 1 日までの使用状況が反映されます。

> **Note**
>
> 現在の請求期間では、データは請求アプリケーションのアップストリームデータに依存し、一部のデータが 24 時間より後に更新される場合があります。

- Cost Explorer のコスト
- Cost Explorer の傾向
- 日別の非ブレンドコスト
- 月別の非ブレンドコスト

- 非ブレンドの純コスト
- 最近の Cost Explorer レポート
- 償却コスト
- 償却純コスト

Cost Explorer をナビゲートする

左側のペインのアイコンを使用して、次の操作を行います。

- メイン Cost Explorer ダッシュボードへの移動
- デフォルト Cost Explorer レポートのリストの表示
- 保存されたレポートのリストの表示
- 予約に関する情報の表示
- 予約の推奨事項の表示

Cost Explorer のコスト

[Cost Explorer] ページの上部には、[Month-to-date costs (今月の初めから今日までのコスト)] と [Forecasted month end costs (月末の予測コスト)] があります。[今月の初めから今日までのコスト] では、今月これまでに発生した見積り料金が表示され、先月の同じ時点と比較されます。[Foreccasted month end costs (月末の予測コスト)] では、月末に支払わなければならない、Cost Explorer による見積り額を表示し、前月の実際のコストと比較します。[今月の初めから今日までのコスト] と [月末の予測コスト] には返金は含まれません。

Cost Explorerのコストは、米ドルでのみ表示されます。

Cost Explorer の傾向

[***this month*** trends (今月の傾向)] セクションでは、Cost Explorer は最上位のコストの傾向を示します。たとえば、特定のサービスに関連するコストが増大、または特定のタイプの RI のコストが増大したことがわかります。すべてのコストの傾向を確認するには、傾向セクションの右上隅にある [すべての傾向を表示] を選択します。

傾向をより詳細に理解するには、これを選択します。その傾向の計算元のコストを表示する Cost Explorer チャートに移動します。

日別の非ブレンドコスト

Cost Explorer ダッシュボードの中央に、Cost Explorer により現在の非ブレンドコストの日別グラフが表示されます。グラフを作成するために使用するフィルターとパラメータにアクセスするには、右上隅の [Explore costs (コストの確認)] を選択します。これにより、ユーザーは、Cost Explorer レポートページに移動します。デフォルト Cost Explorer レポートにアクセスし、グラフを作成するために使用されるパラメータを変更できます。Cost Explorer レポートには、CSV ファイルとしてデータをダウンロードし、レポートとして特定のパラメータを保存するなどの追加機能が用意されています。詳細については、「Cost Explorer レポートを使用してコストを把握する」を参照してください。日別の非ブレンドコストには返金は含まれません。

月別の非ブレンドコスト

月別の詳細度

非ブレンドコストを月別の詳細度で表示して、月額料金に適用された割引を確認できます。コストを予測する際は、デフォルトで割引が含まれます。非ブレンドコストを表示するには、[Cost Explorer] のページを開いて、ナビゲーションペインから [Cost Explorer] を選択します。割引はグラフの [RI ボリューム割引] として表示されます。割引額は請求情報とコスト管理コンソールに表示されるディスカウント額と揃えられています。

請求情報とコスト管理コンソールで詳細を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [請求] を選択します。
3. 割引を表示するには、[クレジット、割引合計、税金請求書] の下で、[割引合計] の横にある矢印を選択します。

月別の合計料金

[RI ボリューム割引] を除外することで月別合計料金を表示できます。

月別ビューから RI ボリューム割引を除外するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. 左のペインで、[Cost Explorer] を選択します。

3. [コストと使用状況] を選択します。
4. [フィルター] ペインで、[料金タイプ] を選択します。
5. [RI ボリューム割引] を選択します。
6. ドロップダウンを開くには、[以下の内容のみ含める] を選択し、[以下の内容のみ除外する] を選択します。
7. [フィルターの適用] を選択します。

非ブレンドの純コスト

該当する割引がすべて計算された後の純コストを表示できます。ベストプラクティスとしては、まだ返金やクレジットなどの手動調整を実行する必要があります。これらは割引後の金額であるため、[RI ボリューム割引] は表示されなくなります。

最近の Cost Explorer レポート

Cost Explorer ダッシュボードの下部には、最近アクセスしたレポート、アクセス日時、レポートに戻るリンクのリストがあります。これにより、レポートの切り替え、または最も便利なレポートを記憶できます。

Cost Explorer レポートの詳細については、「Cost Explorer レポートを使用してコストを把握する」を参照してください。

償却コスト

これにより、Amazon EC2 リザーブドインスタンスや Savings Plans などの AWS コミットメントのコストを、選択期間の使用全体に分散して確認できます。 AWS は、ブレンドされていない前払い料金と定期的な予約料金を組み合わせて償却コストを見積もり、前払い料金または定期的な料金が適用される期間における実効レートを計算します。日別表示で、Cost Explorer は前払い料金の未使用分を毎月初日または購入日に表示します。

償却純コスト

これにより、実際のコストが時間の経過とともにどのように適用されるかを示す追加のロジックで割引した後、Amazon EC2 リザーブドインスタンスや Savings Plans などの AWS コミットメントのコストを確認できます。通常、Savings Plans とリザーブドインスタンスには前払いまたは定期的な月額料金が関連付けられているため、正味償却コストデータセットは、前払い料金または定期料金が適用される期間に割引後の料金がどのように償却されるかを示すことにより、実際のコストを明らかにします。

Cost Explorer グラフを使用する

デフォルトでは、請求可能レートでのコストを、非ブレンド原価の現金ベースのビューとして表示することも、発生主義ベースのビューとして表示することもできます。キャッシュベース表示では、キャッシュが受領または支払われるときに費用が記録されます。加算ベース表示では、収入または支出が発生した際に、その金額が記録されます。過去の最大 13 か月分と今月のデータを表示でき、また次の 12 か月間にどのくらい使用する可能性があるかを予測します。データの時間範囲を指定したり、時間データを日または月ごとに表示することもできます。

デフォルトで、Cost Explorer は、[日別の非ブレンドコスト] グラフでは [グループ化の条件] フィルターを使用します。[Group By] (グループ単位) フィルターを使用すると、Cost Explorer のグラフには、[Group By] フィルターに最大 10 の値のデータが表示されます。データに追加の値が含まれている場合、グラフには 9 本の棒、または折れ線が表示され、残りのすべての項目は 10 本目に集計されて表示されます。グラフの下のデータテーブルには、グラフで集計された個々のサービスのデータの内訳が表示されます。

組織が Billing Conductor に登録されている場合、請求グループに登録されているメンバーアカウントには、Billing Conductor で設定された見積りレートで Cost Explorer に自動的にコストが表示されます。メンバーアカウントは、現在の請求グループに参加した時点からの費用と使用状況を確認できますが、現在の請求グループに参加する前の期間の請求データにはアクセスできなくなります。見積り請求データのバックフィルが必要な場合は、Billing Conductor チームに見積りバックフィルをリクエストするサポートチケットを送信してください。

詳細については、「Billing Conductor ユーザーガイド」を参照してください。

トピック

- グラフの変更
- Cost Explorer データテーブルを読み取る
- Cost Explorer で予測する

グラフの変更

グラフを作成するために Cost Explorer が使用するパラメータを変更して、様々なデータセットを確認することができます。

- グラフの形式を選択する
- 表示するデータの時間範囲の選択

- フィルタータイプ別のデータのグループ化
- 表示するデータのフィルタリング
- 詳細オプションの選択

グラフの形式を選択する

Cost Explorer では、コストデータのグラフ表示で 3 種類の形式を使用できます。

- 棒グラフ (Bar)
- 積み上げ棒グラフ (Stack)
- 折れ線グラフ (Line)

スタイルを設定するには、グラフの右上にあるいずれかのビューを選択します。

表示するデータの時間範囲の選択

月次または日次の詳細度でコストデータを表示するように選択したり、あらかじめ設定された時間範囲を使用したり、また、カスタムで開始日と終了日を設定したりできます。

データの詳細度と期間を設定するには

1. Cost Explorer を起動します。
2. [日別]、[月別]、または [時間別] の時間単位を選択します。

   > **Note**
   >
   > 時間単位の詳細度を有効にするには、管理アカウントとして Cost Explorer コンソールの [Preferences] (設定) ページを開き、そこからオプトインします。時間単位の詳細度を有効にすると、情報は、過去 14 日間で利用可能になります。

3. 月別または日別のデータでは、カレンダーを開き、レポートのカスタム時間範囲を定義します。または、代わりに、カレンダーの下に表示されるドロップダウンを使用して、事前設定された時間範囲 ([Auto-select] (自動選択)) を選択します。数多くの履歴または予測の範囲から選択できます。選択する時間範囲の名前がカレンダーに表示されます。

   時間単位の詳細度は、請求転送 (ショーバック/チャージバックビューと請求グループビュー) には使用できません。

4. [Apply] (適用) を選択します。

履歴の時間範囲オプション

Cost Explorer では、月は暦月として定義されます。日は午前 12 時 00 分 00 秒から午後 11 時 59 分 59 秒までと定義されます。以上の定義により、時間範囲の [過去 3 か月] を選択すると、過去 3 か月間のコストデータを表示します。これには今月は含まれません。例えば、2017 年 6 月 6 日にグラフを表示し、[過去 3 か月] を選択した場合、2017 年の 3 月、4 月、5 月のデータがグラフに表示されます。すべての時間は協定世界時 (UTC) です。

過去のコストおよび将来の予測コストの両方において時間範囲が選択できます。

次のリストは、Cost Explorer による過去のコストの各時間範囲オプションを定義します。

- カスタム

  カレンダーコントロールを使用して [From] 日付と [To] 日付のデータを表示します。
- 1D (過去 1 日間)

  前日のコストデータを表示します。
- 7D (過去 7 日間)

  前日とその前の 6 日間のコストデータを表示します。
- Current Month

  当月のコストデータと予測データを表示します。
- 3M (過去 3 か月間)

  過去 3 か月のコストデータは表示されますが、当月のデータは表示されません。
- 6M (過去 6 か月間)

  過去 6 か月のコストデータは表示されますが、当月のデータは表示されません。
- 1Y (過去 12 か月間)

  過去 12 か月のコストデータは表示されますが、当月のデータは表示されません。
- MTD (今月の初めから今日まで)

  現在の暦月のコストデータを表示します。
- YTD (現在までの当年分)

現在の暦年のコストデータを表示します。

予測の時間範囲オプション

[日別] または [月別] 時間の詳細度では、Cost Explorer で予測コストを表示するオプションがあります。次のリストは、予測データの各時間範囲オプションを定義します。[履歴] 時間範囲と [予測] 時間範囲を一緒に表示する選択ができます。たとえば、3 か月 (3M) の [履歴] 時間範囲を選択し、3 か月 (+3M) の [予測] 時間範囲を選択できます。レポートには、過去 3 か月の履歴データと、次の 3 か月の予測データが含まれます。[履歴] 時間範囲をクリアし、予測のみを表示するには、もう一度 [履歴] 時間範囲を選択します。

> **Note**
>
> 予測日を選択すると、現在の日付のコストと使用状況のデータが [予測] として表示されます。現在の日付のコストと使用状況は履歴データには含まれません。

- カスタム

  カレンダーコントロールを使用して [From] 日付と [To] 時間範囲の予測データを表示します。
- +1M

  翌月の予測データを表示します。このオプションは、[日別] 時間の詳細度を選択した場合に利用可能です。
- +3M

  翌 3 か月の予測データを表示します。このオプションは、[日別] または [月別] 時間の詳細度を選択した場合に利用可能です。
- +18M

  今後 18 か月間の予測データを表示します。このオプションは、[月別] 時間の詳細度を選択した場合に利用可能です。

フィルタータイプ別のデータのグループ化

[Group by] ボタンを使用して、Cost Explorer でフィルタータイプ別のコストデータのグループを表示します。デフォルトでは、Cost Explorer はグループ化を使用しません。グループ化したグラフで

は、予測を利用できません。[Group by] オプションを選択しないと、Cost Explorer では、指定した日付範囲の総コストが表示されます。

フィルタタイプ別にデータをグループ化するには

1. Cost Explorer を起動します。
2. (オプション) [フィルター] 制御を使用して、コストデータの表示を設定します。
3. [Group By] オプションを選択して、グループ化のカテゴリを選びます。グラフの下にあるデータテーブルでも、選択したカテゴリによってコストの数値がグループ化されます。

表示するデータのフィルタリング

Cost Explorer を使用すると、次の 1 つ以上の値で AWS コストを表示する方法をフィルタリングできます。

- API オペレーション:
- アベイラビリティーゾーン（AZ）
- 請求エンティティ
- 料金タイプ
- すべて含める
- [インスタンスタイプ]。
- 法人
- 連結アカウント
- プラットフォーム
- 購入オプション
- リージョン
- リソース
- サービス
- タグ:
- テナンシー
- 使用タイプ
- 使用タイプグループ

Cost Explorer を使用して、最も頻繁に使用するサービス、トラフィックのほとんどがどのアベイラビリティーゾーン (AZ) にあり、どのメンバーアカウント AWS が最も頻繁に使用するかを確認できます。また、複数のフィルターを適用して重なったデータセットを表示できます。例えば、Amazon EC2 に最も費用がかかったメンバーアカウントを特定するには、[リンクされたアカウント] と [サービス] フィルターを使用します。

データをフィルターするには

1. Cost Explorer を開きます。
2. [フィルター] で、値を選択します。選択すると、新しいコントロールに追加のオプションが表示されます。
3. 新しいコントロールで、グラフに表示する項目を各リストから選択します。または、検索ボックスに入力すると、Cost Explorer は自動的に選択内容を入力します。フィルターを選択してから、[フィルターの適用] を選択します。

> **Note**
>
> コストにフィルターを適用するたびに、Cost Explorer で新しいグラフが作成されます。ただし、ブラウザのブックマーク機能を使用して設定を保存し、繰り返し使用できます。予測は保存されないため、保存されたグラフに再度アクセスすると最新の予測が Cost Explorer により表示されます。

複数のフィルターを使用したり、フィルターの種類によるデータのグループ化をしたり、[詳細オプション] タブオプションを選択することによって、コスト分析の絞り込みを続けることができます。

フィルターを組み合わせて共通するデータを表示する

Cost Explorer では、選択したすべてのフィルターで共通のデータを表すグラフが表示されます。このビューを使用して、コストデータのサブセットを分析できます。例えば、[サービス] フィルターで Amazon EC2 および Amazon RDS サービスに関連するコストを表示するように設定してから、フィルターを使用して [リザーブド] を選択したと仮定します。コストグラフには、指定した 3 か月間に Amazon EC2 と Amazon RDS コストのリザーブドインスタンスにかかった費用が月別に表示されます。

Note

- AWS Cost Explorer のコストと使用状況レポートは、最大 1024 個のフィルターを使用できます。
- 一度に 1 つのサービスのみによって、RI の使用率レポートをフィルタリングすることができます。以下のサービスでのみ、これを行うことができます。
  - Amazon EC2
  - Amazon Redshift
  - Amazon RDS
  - ElastiCache
  - OpenSearch Service

フィルターおよび論理オペレーション (AND/OR)

複数のフィルター、また各フィルターの複数の値を選択したとき、Cost Explorer により、選択内容に対して論理演算子 AND および OR をエミュレートするルールが適用されます。各フィルター内で、Cost Explorer によりフィルタータイプの選択内容に対して論理 OR フィルターがエミュレートされます。これは、結果のグラフが各項目の集計コストを加算することを意味します。前の例を見ると、選択したサービス Amazon EC2 と Amazon RDS の両方のバーがあることがわかります。

複数のフィルターを選択した場合、Cost Explorerで選択内容に対して論理演算子 AND が適用されます。より具体的な例では、[サービス] フィルターを使用し、Amazon EC2 と Amazon RDS のコストを含めるように指定してから、[購入オプション] フィルターを適用して 1 つの購入オプションを選択したと仮定します。Amazon EC2 および Amazon RDS で発生した [予約されていない] 料金のみが表示されます。

フィルターおよびグループ化オプション

Cost Explorer では、次のグループ別にフィルタリングできます。

API オペレーション:

サービスに対するリクエストおよびサービスによって実行されるタスク (Amazon S3 に対する書き込みおよび取得リクエストなど)。

アベイラビリティーゾーン

リージョン内で、他のアベイラビリティーゾーン内で障害が発生しても影響を受けない独立した場所。アベイラビリティーゾーンは、同じリージョン内の他のアベイラビリティーゾーンに低価格かつ低レイテンシーのネットワーク接続を提供します。

請求エンティティ

請求書またはトランザクションが他のサービスの購入用 AWS Marketplace であるか、他の AWS サービスの購入用であるかを特定するのに役立ちます。可能な値は以下のとおりです:

- AWS: の 以外の AWS サービスのトランザクションを識別します AWS Marketplace。
- AWS Marketplace: 購入先を識別します AWS Marketplace。

料金タイプ

さまざまな種類の料金または手数料。

- クレジット: アカウントに適用される AWS クレジット。
- サイクル外のその他の料金: 前払いの予約料金やサポート料金以外のすべてのサブスクリプション料金。
- 定期的な予約料金: アカウントへの定期的な料金。一部前払いまたは前払いなしのリザーブドインスタンスを から購入する場合 AWS、インスタンスの使用料金を下げる代わりに定期的な料金を支払います。定期的な料金は、 がアカウントに AWS 請求する毎月 1 日に急増する可能性があります。
- 返金: 受け取った返金。返金は、データテーブルに独立した行項目として表示されます。返金額はコスト計算の負の値を表すため、グラフの項目としては表示されません。グラフには正の値のみ表示されます。
- 予約適用使用量: 予約割引 AWS を適用した使用量。
- Savings Plan 適用済み使用量: Savings Plans によってカバーされているオンデマンド料金。非ブレンドコスト表示では、これはオンデマンド料金で対象となる使用量を表します。償却コスト表示では、これは Savings Plan 料金で対象となる使用量を表します。Savings Plan の対象となる使用量明細項目は、対応するSavings Plan 否定項目によって相殺されます。
- Savings Plan 相殺額: 対応する Savings Plans 適用済み使用量に関連して、Savings Plans の特典によって相殺されるコスト。
- Savings Plans 定期料金: 前払いなしまたは一部前払いの Savings Plans に対応する、毎時間発生する定期的な料金。Savings Plan 定期料金は、前払いなしまたは一部前払い Savings Plan を購入した日に、最初に請求書に追加されます。初回購入後、 は時間単位の定期料金 AWS を追加します。

全額前払いの Savings Plans の場合、明細項目には請求期間中に未使用の Savings Plans の部分が表示されます。例えば、Savings Plans が請求期間に 100% 使用された場合、償却コストビューには「0」と表示されます。「0」より大きい数字は、未使用の Savings Plans を示します。

- Savings Plans の前払い料金: 全額前払いまたは一部前払い Savings Plan を購入した際に発生する、一度限りの前払い料金。。
- サポート料金: サポートプランの AWS 料金。からサポートプランを購入すると AWS、サービスサポートと引き換えに月額料金が発生します。月額料金は、 がアカウントに AWS 請求する毎月 1 日に急増する可能性があります。
- 税金: コストチャートの手数料や料金に関連付けられるすべての税金。Cost Explorer では、すべての税金がコストの 1 つのコンポーネントとして追加されます。5 つ以下のフィルターを選択すると、Cost Explorer に税金支出が 1 つのバーとして表示されます。6 つ以上のフィルターを選択する場合には、Cost Explorer は 5 つの棒、スタック、または線を表示し、税金を含むすべての残りのアイテムを 6 番目の棒、スタック断面、または [その他] とラベル付けされた折れ線に集計します。

  [RI 前払い料金]、[RI 定期料金]、[サポート料金] をグラフから除外しても、料金に関連付けられた税金は Cost Explorer に表示され続けます。

  Cost Explorer は、[月別] ドロップダウンを選択した場合にのみ、グラフに税金コストを表示します。コストグラフをフィルタリングするときは、次のルールによって税金を含めるかどうかが決まります。

  1. [リンクされたアカウント] 以外のフィルターを単独または他のフィルターと組み合わせて選択した場合、税金は除外されます。
  2. [リンクされたアカウント] フィルターを選択した場合、税金は含まれます。
- 前払い予約料金: アカウントに請求される前払い料金。から全額前払いまたは一部前払いのリザーブドインスタンスを購入すると AWS、インスタンスの使用料金を下げる代わりに前払い料金が発生します。前払い料金は、購入する日数または月数のグラフに応じた額となります。
- 使用状況: 予約割引を適用 AWS しなかった使用状況。

インスタンスタイプ

Amazon EC2 ホスト、Amazon RDS インスタンスクラス、Amazon Redshift ノード、または Amazon ElastiCache ノードの起動時に指定した RI のタイプ。インスタンスタイプは、インスタンスをホストするコンピュータのハードウェアを決定するものです。

法人

特定の製品またはサービスの登録販売者。ほとんどの場合、請求書を発行する事業体と法律上の事業体は同じです。サードパーティーの AWS Marketplace トランザクションでは、値が異なる場合があります。可能な値は以下のとおりです:

- Amazon Web Services – AWS サービスを販売する事業体。
- Amazon Web Services India Private Limited – インドの AWS サービスのリセラーとして機能するインドのローカルエンティティ。

連結アカウント

組織内のメンバーアカウント。詳細については、AWS 「Organizations の一括請求」を参照してください。

プラットフォーム

RI が動作するオペレーティングシステム。[プラットフォーム] は、[Linux] または [Windows] から選択します。

購入オプション

Amazon EC2 インスタンスに対して選択した支払い方法。これにはリザーブドインスタンス、スポットインスタンス、スケジュールされたインスタンス、オンデマンドインスタンスが含まれます。

リージョン

がリソースを AWS ホストする地理的領域。

リソース

リソースの一意の識別子。

> **Note**
>
> リソースの詳細度を有効にするには、管理アカウントとして Cost Explorer 設定ページを通じてオプトインします。これは Amazon EC2 インスタンスで利用できます。

サービス

AWS 製品。利用可能なサービスについては、「AWS の製品とサービス」を参照してください。このディメンションを使用して、AMI、ウェブサービス、およびデスクトップアプリのコストを

含めて、特定の AWS Marketplace ソフトウェア別にコストをフィルタできます。詳細については、「What is AWS Marketplace?」ガイドを参照してください。

> **Note**
>
> RI 使用率レポートは、 一度に Amazon EC2、Amazon Redshift、Amazon RDS、および ElastiCache のうちの 1 つのサービスでのみフィルターできます。

タグ:

ビジネス内の特定の領域やエンティティに関連付けられたコストを追跡するために使用できるラベル。タグの操作の詳細については、「コスト配分のユーザー定義のコスト配分タグとユーザー属性の適用」および「コスト配分のアカウントタグ」を参照してください。 https://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/user-attributes-cost-allocation.html

テナンシー

Amazon EC2 インスタンスが共有またはシングルテナントハードウェアでホストされるかどうかを指定します。テナンシーの値には、Shared (Default) (共有 (デフォルト))、[Dedicated] (専有)、[Host] (ホスト) などがあります。

使用タイプ

使用タイプは、各サービスが特定タイプのリソースの使用量を測定するために使用する単位です。たとえば、`BoxUsage:t2.micro(Hrs)` 使用タイプは Amazon EC2 `t2.micro` インスタンスの実行時間に基づいてフィルタリングします。

使用タイプグループ

使用タイプグループは、特定カテゴリの使用タイプを 1 つのフィルタにまとめるフィルタです。例えば、`BoxUsage:c1.medium(Hrs)`、`BoxUsage:m3.xlarge(Hrs)`、`BoxUsage:t1.micro(Hrs)` がすべて、数時間実行される Amazon EC2 インスタンスのフィルターである場合、それらのフィルターは `EC2: Running Hours` フィルターにまとめられます。

使用タイプグループは、DynamoDB、Amazon EC2、ElastiCache、Amazon RDS、Amazon Redshift、Amazon S3 で利用できます。アカウントに使用できる特定のグループは、使用したサービスによって決まります。使用できるグループのリストを以下に示します (ただし、これらに限定されるものではありません)。

- DDB: Data Transfer - Internet (In)

DynamoDB データベースに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- DDB: Data Transfer - Internet (Out)

  DynamoDB データベースから転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- DDB: Indexed Data Storage

  DynamoDB に保存した GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- DDB: Provisioned Throughput Capacity - Read

  DynamoDB データベースによって使用された読み込みキャパシティーのユニット数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- DDB: Provisioned Throughput Capacity - Write

  DynamoDB データベースによって使用された書き込みキャパシティーのユニット数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: CloudWatch - Alarms

  使用した CloudWatch アラームの数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: CloudWatch - Metrics

  使用した CloudWatch メトリクスの数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: CloudWatch - Requests

  実行した CloudWatch リクエストの数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: Data Transfer - CloudFront (Out)

  Amazon EC2 インスタンスから CloudFront ディストリビューションへ転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: Data Transfer - CloudFront (In)

  Amazon EC2 インスタンスへ CloudFront ディストリビューションから転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: Data Transfer - Inter AZ

  複数の異なる AZ で Amazon EC2 インスタンス内外やインスタンス間で転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: Data Transfer - Internet (In)

AWS ネットワーク外から Amazon EC2 インスタンスに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- EC2: Data Transfer - Internet (Out)

  Amazon EC2 インスタンスから AWS ネットワーク外のホストに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- EC2: Data Transfer - Region to Region (In)

  別の AWS リージョンから Amazon EC2 インスタンスに転送される GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- EC2: Data Transfer - Region to Region (Out)

  Amazon EC2 インスタンスから別の AWS リージョンに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- EC2: EBS - I/O Requests

  Amazon EBS ボリュームに対して実行した I/O リクエストの数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: EBS - Magnetic

  Amazon EBS 磁気ボリュームに保存した GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: EBS - Provisioned IOPS

  Amazon EBS 用にプロビジョニングした IOPS/月に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: EBS - SSD(gp2)

  Amazon EBS ボリュームによって使用された汎用ストレージの GB 数/月に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: EBS - SSD(io1)

  Amazon EBS ボリュームによって使用されたプロビジョンド IOPS SSD ストレージの GB 数/月に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: EBS - Snapshots

  Amazon EBS スナップショットに保存された GB 数/月に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: EBS - Optimized

Amazon EBS 最適化インスタンスによって使用された MB 数/インスタンス時間に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: ELB - Running Hours

  Elastic Load Balancing ロードバランサーが実行された時間に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: Elastic IP - Additional Address

  実行中の Amazon EC2 インスタンスにアタッチした Elastic IP アドレスに関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: Elastic IP - Idle Address

  実行中の Amazon EC2 インスタンスにアタッチしなかった Elastic IP アドレスに関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: NAT Gateway - Data Processed

  ネットワークアドレス変換ゲートウェイ (NAT ゲートウェイ) によって処理された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: NAT Gateway - Running Hours

  NAT ゲートウェイが実行された時間に関連するコストに基づくフィルタリング。

- EC2: Running Hours

  Amazon EC2 インスタンスが実行された時間に関連するコストに基づくフィルタリング。

  この [使用タイプグループ] には、以下の [使用タイプ] のみが含まれます。

  - BoxUsage
  - DedicatedUsage
  - HostBoxUsage
  - HostUsage
  - ReservedHostUsage
  - SchedUsage
  - SpotUsage
  - UnusedBox

- ElastiCache: Running Hours

Amazon ElastiCache ノードが実行された時間に関連するコストに基づくフィルタリング。

- ElastiCache: Storage

  Amazon ElastiCache に保存した GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Running Hours

  Amazon RDS データベースが実行された時間に関連するコストに基づくフィルタリング。

  この [使用タイプグループ] には、以下の [使用タイプ] のみが含まれます。

  - AlwaysOnUsage
  - BoxUsage
  - DedicatedUsage
  - HighUsage
  - InstanceUsage
  - MirrorUsage
  - Multi-AZUsage
  - SpotUsage

- RDS: Data Transfer – CloudFront – In

  CloudFront ディストリビューションから Amazon RDS に転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Data Transfer – CloudFront – Out

  CloudFront ディストリビューションから Amazon RDS データ転送に転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Data Transfer – Direct Connect Locations – In

  Direct Connect ネットワークに接続を介して、Amazon RDS に転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Data Transfer – Direct Connect Locations – Out

  Direct Connect ネットワークに接続を介して、Amazon RDS から転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Data Transfer – InterAZ

複数の異なるアベイラビリティーゾーンで Amazon RDS バケット内外やバケット間で転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Data Transfer – Internet – In

  Amazon RDS データベースに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Data Transfer – Internet – Out

  Amazon RDS データベースから転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Data Transfer – Region to Region – In

  別の AWS リージョンから Amazon RDS インスタンスに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- RDS: Data Transfer – Region to Region – Out

  Amazon RDS インスタンスから別の AWS リージョンに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- RDS: I/O Requests

  Amazon RDS インスタンスに対して実行した I/O リクエストの数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Provisioned IOPS

  Amazon RDS 用にプロビジョンした IOPS/月に関連するコストに基づくフィルタリング。

- RDS: Storage

  Amazon RDS に保存した GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- Redshift: DataScanned

  Amazon Redshift ノードがスキャンした GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- Redshift: Running Hours

  Amazon Redshift ノードが実行された時間に関連するコストに基づくフィルタリング。

- S3: API Requests - Standard

  GET および他のすべての標準ストレージ Amazon S3 リクエストに関連するコストに基づくフィルタリング。

- S3: Data Transfer - CloudFront (In)

CloudFront ディストリビューションから Amazon S3 に転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- S3: Data Transfer - CloudFront (Out)

  CloudFront ディストリビューションから Amazon S3 に転送された GB 数 (Amazon S3 バケットから CloudFront ディストリビューションにアップロードされたデータの量など) に関連するコストに基づくフィルタリング。

- S3: Data Transfer - Inter AZ

  複数の異なるアベイラビリティーゾーンで Amazon S3 バケット内外やバケット間で転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

- S3: Data Transfer - Internet (In)

  AWS ネットワーク外から Amazon S3 バケットに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- S3: Data Transfer - Internet (Out)

  Amazon S3 バケットから AWS ネットワーク外のホストに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- S3: Data Transfer - Region to Region (In)

  別の AWS リージョンから Amazon S3 に転送される GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- S3: Data Transfer - Region to Region (Out)

  Amazon S3 から別の AWS リージョンに転送された GB 数に関連するコストに基づくフィルタ。

- S3: Storage - Standard

  Amazon S3 に保存した GB 数に関連するコストに基づくフィルタリング。

詳細オプションの選択

[詳細オプション] を使って特定の種類のデータを含める、または含めないを選択することで、Cost Explorer におけるデータの表示をカスタマイズできます。

データを含める、または含めないを選択するには

1. で Billing and Cost Management コンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/costmanagement/
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer] を選択します。
3. 右側のペインの [詳細オプション] にある [次で集計したコスト:] で、次のいずれかを選択します。

   - [非ブレンドコスト]: このコスト測定基準は、使用コストを反映します。[料金タイプ] 別にグループ化された場合、非ブレンドコストは割引をそれぞれの明細項目に分けます。これにより、受け取った各割引の金額を確認できます。
   - [償却コスト]: このコスト測定基準は、前払いの実質のコストと、請求期間にわたる毎月の予約手数料を反映しています。デフォルトでは、Cost Explorer はリザーブドインスタンスの料金を課金された日付のスパイクとして表示します。ただし、償却コストとしてコスト表示を選択すると、コストは請求期間全体の償却で示されます。　つまり、このコストは実質的な日別レートに分割されます。AWS では、非ブレンドコストを前払い予約料金および繰り返し予約料金の償却部分と組み合わせることで償却コストを見積もります。日別表示では、Cost Explorer は前払い予約料金および RI の定期料金の未使用分を毎月 1 日に表示します。

     例えば、Alejandro が一部前払い `t2.micro` RI を月額料金 30 USD の前払いで 1 年契約するとします。月額料金は、2.48 USD です。Cost Explorer は、この RI のコストを毎月 1 日のスパイクとして表示します。アレハンドロが [償却コスト] を 1 か月 (30 日) と選択すると、Cost Explorer チャートは、0.165 USD を示します。これは、EC2 実質レートを 1 日の時間数で乗算した日別実質レートで示します。

     償却コストは 2018 年以前の請求期間には利用できません。使用していない予約の量を表示するには、購入オプション別に分類します。
   - [ブレンドコスト]: このコスト測定基準は、一括請求 (コンソリデーティッドビリング) 全体の平均使用コストを反映しています。AWS Organizations の一括請求機能を使用する場合は、ブレンドコストを使用してコストを表示できます。詳細については、「ブレンドレートとコスト」を参照してください。
   - [非ブレンド純コスト]: このコスト測定基準は、割引後のコストを反映しています。
   - [償却純コスト]: このコスト測定基準は、RI のボリューム割引などの割引を含みながら、前払いおよび毎月の予約料金を償却します。
4. [その他のデータ設定] で、以下から選択します。

- [予測される値を表示]: Cost Explorer は、過去のコストに基づいて、選択した予測期間に費やされる量について AWS による予測を表示します。
- [タグ付けされていないリソースのみ表示]: Cost Explorer には、コスト配分タグがあるリソースと、コスト配分タグがないリソースの両方のコストがデフォルトで含まれます。コストに追加するタグ付けされていないリソースを見つけるには、[タグ付けされていないリソースのみ表示] を選択します。コスト配分タグに関する詳細については、「Organizing and tracking costs using AWS cost allocation tags」を参照してください。
- [カテゴリ化されていないリソースのみを表示]: デフォルトでは、Cost Explorer には、コストカテゴリにマッピングされているリソースと、コストカテゴリにマップされていないリソースの両方のコストが含まれます。コストに追加する分類されていないリソースを見つけるには、[カテゴリ化されていないリソースのみを表示] を選択します。コストカテゴリの詳細については、「Organizing costs using AWS Cost Categories」を参照してください。

Cost Explorer データテーブルを読み取る

データテーブルは、Cost Explorer 各グラフの後に続きます。データテーブルは、グラフが示すコストの数値を表示します。グラフにグループ化を使用している場合、データテーブルにはグラフ用に選択したフィルタータイプに応じた総計が表示されます。グラフにグループ化を使用していない場合、テーブルには過去と予測されるコストデータの総計が表示されます。グラフの完全なデータセットを .csv ファイルとしてダウンロードできます。

> **Note**
>
> RI 使用率レポートと削減額レポートの場合、テーブルの最大サイズは 20 行です。データがこれを超えた場合は、切り詰められて表示されます。

グループ化されたデータテーブルの各行は、フィルタータイプオプション (API オペレーション、アベイラビリティーゾーン、 AWS サービス、カスタムコスト配分タグ、インスタンスタイプ、メンバーアカウント、購入オプション、リージョン、使用タイプ、または使用タイプグループ) のいずれかの値です。列は時間間隔を表します。例えば、データテーブルは、選択したサービスの過去 3 か月間のコストを別々の列に表示します。次に、データテーブルの最後の列に、3 か月間で集計された合計が表示されます。

> **Note**
>
> データ転送コストは、それらが関連付けられている Amazon EC2 や Amazon S3 などのサービスに含まれます。これらは、データテーブルの独立した明細項目またはグラフの棒として表されることはありません。

非グループ化されないデータでは、行はコストを示します。列は時間間隔を表します。

Cost Explorer で予測する

レポートの将来の時間範囲を選択して予測を作成します。詳細については、「表示するデータの時間範囲の選択」を参照してください。以下のセクションでは、Cost Explorer によって作成される予測の精度とその読み方について説明します。

予測は、選択した予測期間に AWS サービスを使用する量の予測です。この予測は、過去の使用状況に基づいています。予測を使用して AWS 請求書を見積もり、予測に基づいて のアラームと予算を設定できます。予測とは推測であることより、予測された請求額は見積もりとなり、各ご利用期間の実際の請求額とは異なる場合もあります。

天気予測のように、請求予測には精度に差が生じる場合があります。精度は、予測間隔によって異なります。予測間隔が広いほど、予測の範囲は広くなります。たとえば、特定の月の予算が 100 USD に設定されているとします。80% の予測間隔では、90 から 100 の間で平均 95 の支出が予測される可能性があります。予測帯域の範囲は、過去の支出のボラティリティ (変動) によって異なります。過去の支出の一貫性と予測可能性が高いほど、予測支出の予測範囲は狭くなります。

Cost Explorer の予測では、80% の予測間隔になります。 AWS に 80% の予測間隔を予測するのに十分なデータがない場合、Cost Explorer は予測を提供しません。この状況は、請求サイクルが 1 回未満のアカウントによく見られます。

予測の読み方

Cost Explorer の予測の読み方は、使用するグラフのタイプによって異なります。予測は、折れ線グラフと棒グラフの両方で利用できます。

80% の予測間隔の表示は、グラフのタイプごとに異なります。

- 折れ線グラフでは、予測間隔はコスト線の両側にある一連の線として表示されます。
- 棒グラフでは、予測間隔が棒の上部の両側にある 2 本の線で示されます。

コストを予測する際は、デフォルトで割引が含まれます。

> **Note**
>
> 返金などの臨時割引を予測に含める場合は、[純非ブレンドコストを表示] を使用することをおすすめします。さまざまなコストの詳細については、「Cost Explorer の詳細オプション」を参照してください。

一括請求 (コンソリデーティッドビリング) での予測の利用

で一括請求機能を使用する場合 AWS Organizations、予測はすべてのアカウントのデータを使用して計算されます。組織に新しいメンバーアカウントを追加すると、組織の新しい利用パターンが分析されるまで、予測には新しいメンバーアカウントは含まれません。一括請求 (コンソリデーティッドビリング)の詳細については、「AWS Organizationsの一括請求 (コンソリデーティッドビリング)」を参照してください。

AI の説明による予測の理解

Cost Explorer は、予測の背後にある主要な要因を理解するのに役立つ AI を活用した説明を提供します。これらの自然言語の説明は Cost Explorer コンソールから利用でき、季節的なパターン、使用状況の傾向、サービス固有の変更など、予測コストに影響する主な要因について詳しく説明します。AI の説明は、最適化の機会を特定し、ステークホルダーに予測の理論的根拠を伝え、コスト予測の信頼性を高めるのに役立ちます。これらの説明にアクセスするには、Cost Explorer コンソールで予測を生成し、「予測の説明の生成」オプションを選択します。

期間ごとのコストを比較する

コスト比較は、 AWS 支出の変化をすばやく特定して理解するのに役立つ Cost Explorer の機能です。この機能は、選択した 2 つの月のコスト差分を自動的に分析し、最も大きなコスト要因を強調表示して、その変動理由を示します。この機能を使用すると、コンソールと API の両方にアクセスして、 AWS 支出全体のコストの変化を分析できます。

主な利点:

- サービス、アカウント、リージョン間で最も大きなコスト変動をすばやく特定します。
- 使用量の変化や割引の変動を含む、コスト要因の詳細な内訳を提供します。
- 手作業によるコスト分析にかかる時間を、数時間から数秒へと短縮します。
- Cost Explorer で追加料金なしで利用できます。

アクセス許可

Cost Comparison の機能のデータにアクセスするには、次の IAM アクセス許可が必要です。

- `ce:GetCostAndUsageComparisons`
- `ce:GetCostComparisonDrivers`

これらのアクセス許可により、コストおよび使用量の比較データや、コスト要因を取得できるようになります。

コンソールにアクセスする

コンソールでコストの変動を分析するには、[上位のトレンド] ウィジェットまたは Cost Explorer を使用できます。

コンソールにアクセスするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. 次のいずれかを実行します。
   - コンソールのホームページで、[上位のトレンド] ウィジェットを表示します。このウィジェットには、直前の 2 か月間で最も大きかったコスト変動上位 10 件が示されます。
   - ナビゲーションペインで [Cost Explorer] を選択し、[レポートパラメータ] パネルで [比較] を選択します。

重大なコスト変動を早期に把握できるよう、[上位のトレンド] ウィジェットを定期的に見直してください。このウィジェットの詳細については、上位のトレンドを参照してください。

Cost Comparison の仕組みを理解する

Cost Comparison を使用すると、選択した 2 つの月の間で発生したコスト変動を引き起こしている主要なコスト要因を自動的に特定して展開することで、クラウド支出をすばやく把握できます。Cost Comparison は、使用量の変動から、Savings Plans のカバレッジや適用クレジットなどのコミットメントベース割引の変化に至るまで、これらのコスト差分の詳細な内訳を提供し、数時間にわたる手動調査を不要にします。

コンソールのホームページにある [上位のトレンド] ウィジェットは、Cost Comparison を自動的に適用して、サービス、アカウント、リージョン全体で最も大きなコスト変動を表示します。このウィジェットの詳細については、上位のトレンドを参照してください。

Cost Comparison は 2 つの方法で使用できます。

- 任意の Cost Explorer のディメンションおよびコストメトリクスに対して、任意の 2 か月 (ベースライン月と比較月) をクエリします。Cost Comparison は、次の方法でコストを分析します。
  - ベースライン月で、選択した各ディメンションの合計コストを計算します。
  - これらを比較月のコストと比較します。
  - 得られた各ディメンション値を、コスト差の絶対値でランク付けします。
  - 各ディメンションについて、増加または減少の上位 10 件を返します。

  例:

  次の例では、Cost Comparison は 2025 年 4 月 (ベースライン月) と 2025 年 3 月 (比較月) のコストを比較した際に、最も大きな変動を示した 4 つのサービスを特定しました。

サービス	2025 年 3 月	2025 年 4 月	変更
Amazon RDS	8,787.98 USD	72,124.46 USD	+63,336.48 USD
SageMaker	16,523.00 USD	31,890.00 USD	+15,367.00 USD
Amazon Connect	5,144.00 USD	17,902.00 USD	+12,758.00 USD
EC2	68,708.00 USD	60,463.00 USD	- 8,245.00 USD

- 特定のサービス、アカウント、リージョン、またはその他のディメンション値に関連するコスト変動について、詳細なコスト要因をリクエストします。Cost Comparison:
  - 最も大きな変動を引き起こしている特定の使用タイプを特定します。
  - ベースライン月と比較月のそれぞれで、請求タイプごとの合計コストを計算します。
  - 結果をコスト差の絶対値でランク付けします。
  - 請求タイプごとのコスト変動の内訳を提供し、ターゲットを絞ったコスト削減の機会を特定できるようにします。

  例:

次の例では、Cost Comparison は、選択した 2 か月の間で発生した 63,336.48 USD のコスト差の要因となった、ドイツ、フランクフルト (欧州リージョン) の 2 つの RDS インスタンスを特定しました。各インスタンスについて、Cost Comparison は追加のコスト要因とその影響も特定しました。最初のインスタンス (EU-InstanceUsage:db.r6g.8xl) では、コストと使用量が増加する一方で、リザーブドキャパシティのカバレッジが低下していました。これは、使用量の増加が今後も継続すると見込まれる場合、追加のリザーブドキャパシティを購入する機会があることを示唆しています。2 番目のインスタンス (EU-InstanceUsage:db.t4g.xl) では、前月と比べてコストと使用量が増加し、適用クレジットが減少していました。このインスタンスについては、リザーブドキャパシティ購入の可能性を評価するための使用量増加の調査と、クレジットが想定外に減少した理由の調査が必要です。

コスト要因							
サービス	使用タイプ		ベースライン月	比較月	差分	Unit	コンソール専用のコスト要因の説明
Amazon RDS	EU-InstanceUsage:db.r6g.8xl	JSAGE_CHANGE	4,599.11	36,855.11	32,256.00	USD	Amazon RDS: EU-InstanceUsage:db.r6g.8xl のコスト変動は +32,256.00 USD • オンデマンド使用量が 701.4% 増加し、コストが 32,256.00 USD 増加 • リザー
Amazon RDS		JSAGE_CHANGE	995.01	8,034.73	7,039.72	時間	
Amazon RDS		RESERVATION_APPLIED_USAGE_CHANGE	1,236.99	646.04	-590.95	時間	

コスト要因							
サービス	使用タイプ		ベースライン月	比較月	差分	Unit	コンソール専用のコスト要因の説明
							ブドインスタンスの対象となる使用量が 47.77% 減少

コスト要因							
サービス	使用タイプ		ベースライン月	比較月	差分	Unit	コンソール専用のコスト要因の説明
Amazon RDS	EU-InstanceUsage:db.t4g.8xl	JSAGE_CHANGE	5,386.21	36,047.21	30,661.00	USD	Amazon RDS: EU-InstanceUsage:db.t4g.8xl のコスト変動は +30,661.00 USD • オンデマンド使用量が 569.2% 増加し、コストが 30,661.00 USD 増加 • 適用されたク
Amazon RDS		JSAGE_CHANGE	1,074.66	7,192.18	6,117.52	時間	
Amazon RDS		CREDIT_USAGE_CHANGE	1,157.34	737.86	-419.48	USD	

コスト要因							
サービス	使用タイプ		ベースライン月	比較月	差分	Unit	コンソール専用のコスト要因の説明
							レジットが 1,157.34 USD から 737.86 USD (36% 減少)

ビジネスの特定領域におけるコスト変動を分析する必要がある場合は、タグやコストカテゴリなどの別のディメンションにフォーカスできるよう、フィルターを選択します。Cost Comparison は、Cost Explorer で利用できるすべてのコストメトリクス (非ブレンド、純非ブレンド、純償却など) をサポートしており、ニーズに合わせて最も意味のある形でデータを柔軟に表示できます。Cost Comparison は、選択した特定のコストメトリクスやディメンションに基づいて、コスト要因を動的に更新します。

コスト比較の実行

過去 13 か月以内の任意の 2 か月のコストを比較して、 AWS 支出の変化を特定して理解できます。月単位の複数年データを有効にしている場合は、最大 38 か月まで遡ることができます。詳細については、複数年と詳細なデータの設定を参照してください。

> **Note**
>
> Cost Comparison の機能のデータにアクセスするには、IAM アクセス許可が必要です。詳細については、アクセス許可を参照してください。

詳細なコスト比較を実行するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer] を選択します。
3. [レポートパラメータ] パネルで、[比較] を選択します。
4. [日付範囲] では、次のいずれかを選択します。
   - [相対 (前月比)]: 当月と前月を比較します。
   - [絶対 (カスタム)]: 過去 13 か月以内の 2 か月 (または毎月の詳細度で複数年データを有効にしている場合は最大 38 か月) を比較します。
5. [グループ化の条件] で、[ディメンション] (サービス、リンクされたアカウント、リージョン、タグなど) を選択します。

   > **Note**
   > リソース別のグループは、コスト比較には使用できません。

6. 追加のフィルターを適用して、分析を特定のサービス、アカウント、またはその他のコストディメンションに絞り込みます。

   > **Note**
   > リソース別のフィルターは、コスト比較には使用できません。

7. コスト変更の詳細な内訳を表示します。
   - 選択した 2 つの期間のコスト比較を示すグラフとテーブルを調べます。
   - Cost Explorer によって自動的に強調表示される上位 3 つのコスト比較要因を確認します。これらは、コストの増減に最も大きく寄与した要因を示します。
   - [すべて表示] を選択すると、すべてのコスト比較要因の一覧が表示されます。
   - 各コスト比較要因について、Cost Explorer は、使用量の変化、割引の変動、その他の請求タイプ (料金、クレジットなど) を含む、コスト変動の具体的な理由を提供します。
   - [レポートのパラメータ] にある Cost Explorer のフィルターを使用して、ビジネスのさまざまな側面を分析できます。グラフとテーブルはリアルタイムで更新されるため、特定のサービス、アカウント、タグ、またはその他のディメンションに対するコスト変動を詳細に分析できます。

高度なコスト分析のためにより多くのデータを調べる

Cost Explorer では、当月および過去 13 か月までの AWS コストと使用状況データが日次および月次の詳細度で利用できます。このデータは、コンソールで、または Cost Explorer API を使用してクエリできます。

過去 14 日間の複数年データ (月単位の詳細度) およびより詳細なデータ (時間単位および日単位の詳細度) を有効にできます。有効にすると、このデータはコンソールまたは Cost Explorer API で使用できます。

トピック

- 月単位の詳細度の複数年データ
- 詳細なデータ
- 月単位の推定使用量の概要を把握する
- 複数年データと詳細なデータの設定

月単位の詳細度の複数年データ

デフォルトの 14 か月の履歴データを使用して四半期レベルまたは月レベルでコスト分析を実行できますが、前年比のコストを評価したり、長期的なコスト傾向を特定したりする場合は、Cost Explorer で複数年データを有効にする必要があります。

組織全体で、月単位の詳細度で最大 38 か月の複数年データを有効にできます。複数年のデータを使用して、より長い期間にわたってコスト分析を実行することで、ビジネスやアプリケーションが成熟するにつれて、またはインフラストラクチャの最適化を実装した後に、 AWS コストの変化を追跡できます。

有効にすると、複数年データは 48 時間以内に利用可能になります。Savings Plans と予約の使用率とカバレッジレポートではこのデータがサポートされていないため、このデータは Cost Explorer でのみ利用できることに注意してください。

Cost Explorer で複数年データを有効にするには、「複数年データと詳細なデータの設定」を参照してください。

> **Note**
>
> 組織内の複数年データは、3 か月連続で組織内の誰もアクセスしていない場合、無効になります。ただし、データが必要な場合は、[コスト管理の詳細設定] で再度有効にできます。

複数年データは、Cost Explorer の請求可能な費用に対してのみ使用できます。 AWS Billing Conductor にオンボーディングしている場合、この機能を使用することはできません。

詳細なデータ

Cost Explorer では、次の 3 つの機能を通じて、時間単位およびリソースレベルの詳細度を提供します。

- 日単位の詳細度におけるリソースレベルのデータ
- 時間単位の詳細度 (リソースレベルのデータなし) のすべての AWS サービスのコストと使用状況データ
- 時間単位の詳細度における EC2 インスタンス (Elastic Compute Cloud) リソースレベルのデータ

詳細なコストと使用状況の分析における詳細なデータの使用計画に基づいて、これらの機能の 1 つまたはすべてを有効にします。

Cost Explorer で詳細なデータを有効にする方法については、「複数年データと詳細なデータの設定」を参照してください。

Note

きめ細かなデータの可視性は、課金対象データを表示する請求ビューでのみ使用できます。Billing Conductor を標準請求グループまたは請求転送請求グループのアカウントとして使用する場合、Cost Explorer で詳細なデータを表示することはできません。

トピック

- 日単位の詳細度におけるリソースレベルのデータ
- 時間単位の詳細度 (リソースレベルのデータなし) のすべての AWS サービスのコストと使用状況データ
- 時間単位の詳細度における EC2 インスタンス (Elastic Compute Cloud) リソースレベルのデータ

日単位の詳細度におけるリソースレベルのデータ

Cost Explorer では、選択した AWS サービスのリソースレベルのデータを、過去 14 日間について日単位の詳細度で有効にできます。

[グループ化条件: リソース] を適用して、リソースレベルのデータを有効にしたリソース ID 別にサービスのコストを把握できます。リソースレベルのデータを有効にしていないサービスに関連するコストは、Cost Explorer の [リソース ID がありません] に表示されます。特定のサービスにおけるリソースレベルのコストに焦点を当てたい場合は、Cost Explorer で [リソース] フィルターを選択し、分析するサービスを選択し、すべてのリソース (特定のリソースを考慮しない場合) または特定のリソース ID を選択して、その特定のリソースによって発生するコストと使用状況を把握します。

リソースレベルのデータを使用して、コスト要因を特定します。 AWS コストの分散や異常を分析するときは、最初にサービス別にグループ化して、どのサービスが分散や異常の原因であるかを把握できます。次に、Cost Explorer でそのサービスをフィルタリングし、リソース別にグループ化して、そのサービスにおけるリソースあたりのコストのビューを作成できます。Cost Explorer の表とグラフを使用して、どの特定のリソースが通常の使用パターンから逸脱し、相違や異常の原因になっているかを把握します。S3 バケットへの支出など、特定のリソースへの支出が時間の経過とともにどのように変化したかを把握したい場合、[リソース] フィルターでそのリソース ID を選択すれば、Cost Explorer でそのリソースを絞り込めます。さらに、リソースレベルのデータは、どの特定のリソースが Savings Plans および予約のコミットメントを消費しているかを把握するのに役立ちます。このビューを作成するには、[Savings Plan の対象使用量] または [適用された予約の使用] の料金タイプをフィルタリングし、リソース別にグループ化し、Savings Plans と予約を購入した特定のサービスを絞り込めます。

有効にすると、日単位の詳細度におけるリソースレベルのデータが 48 時間以内に利用可能になります。このデータは、Savings Plans および予約の使用率とカバレッジレポートでは使用できません。

> **Note**
>
> 日単位の詳細度に設定された組織のリソースレベルのデータは、3 か月連続で組織内の誰もアクセスしていない場合、無効になります。ただし、データが必要な場合は、[コスト管理の詳細設定] で再度有効にできます。
> Cost Explorer には、サービスあたりのコストが最も高いリソースの上位 5,000 個が表示されます。リソースが 5,000 個を超える場合は、コンソールにすべて表示されない場合があります。ただし、リソース ID を使用してこれらのリソースを検索することはできます。コストと使用状況レポート (CUR) を使用して、すべてのリソースに関連付けられたコストと使用状況を CSV ファイルとして取得することを検討してください。

時間単位の詳細度 (リソースレベルのデータなし) のすべての AWS サービスのコストと使用状況データ

デフォルトでは、Cost Explorer では日単位および月単位の詳細度で最大 14 か月のデータが利用できます。ただし、過去 14 日間の時間単位の詳細度にオプトインできます。

時間単位の詳細度を使用して、最も詳細な時間レベルでコストと使用状況パターンをモニタリングできます。このようなデータは、 AWS 使用量のピーク時間と、そのピーク時間にコストがどの程度かかるかを理解するために特に役立ちます。Savings Plans またはリザーブドインスタンスの購入を検討している場合は、時間単位の詳細度を使用すれば、1 時間あたりの平均支出を把握して最適な購入を行うことができます。アーキテクチャの微調整を検討している場合や、新しいプロジェクトの開始を計画している場合は、時間単位の詳細度を有効にすると、デベロッパーが時間単位のアーキテクチャのパフォーマンスをモニタリングし、最適化の機会を特定するのに役立ちます。

有効にすると、Cost Explorer で、また Savings Plans の使用率およびカバレッジレポートで、時間単位の詳細度のデータが 48 時間以内に利用可能になります。

時間単位の詳細度における EC2 インスタンス (Elastic Compute Cloud) リソースレベルのデータ

Cost Explorer では、過去 14 日間について、EC2 リソースレベルのデータを時間単位の詳細度で有効にできます。このデータを使用すると、Cost Explorer の各 EC2 インスタンスレベルで、時間単位のコストと使用状況を表示できます。これにより、リソースをグループ化し、EC2 サービスの Cost Explorer ビューをフィルタリングすることで、各 EC2 インスタンスで発生するコストと使用状況を把握できます。

このようなデータは、相違や異常を分析するのに役立ちます。例えば、EC2 コストが急増した場合、時間単位の詳細度を使用して相違が始まった時期を特定し、コストをリソース別にグループ化して、急増の原因となっている EC2 インスタンスを特定できます。相違の原因をその正確な時間まで特定できるため、デベロッパーは、アーキテクチャのどの変更によってこの相違が生じたか、またはこれが本当の異常かトラフィックの増加による正常な急増かを理解することができます。購入する EC2 リザーブドインスタンスの数を検討している場合は、1 時間あたりに実行されるインスタンスの数とタイプを理解することが役立ちます。リザーブドインスタンスを最大限活用できるように、十分な情報に基づいて判断できるためです。現在 Savings Plans またはリザーブドインスタンスがある場合は、EC2 リソースレベルのデータを時間単位の詳細度で有効にして、Savings Plans またはリザーブドインスタンスを使用している特定のインスタンスを把握します。

有効にすると、EC2 リソースレベルのデータを 48 時間以内に時間単位の詳細度で利用できます。このデータは、Savings Plans と予約の使用率およびカバレッジレポートでは使用できません。

月単位の推定使用量の概要を把握する

Cost Explorer で詳細なデータを有効にすると、Cost Explorer で組織のためにホストする必要がある使用状況レコードの数が増えます。クエリにできるだけ早く応答できるように、Cost Explorer は組織のために保存する詳細なデータの量を制限します。

> **Note**
>
> EC2-Instances (Elastic Compute Cloud - Compute) リソースレベルのデータと、すべての AWS サービスのコストと使用状況データを時間単位の詳細度 (リソースレベルのデータなし) で有効にすると、コストと使用状況に対して報告された時間単位の使用レコードが減少します。これは、EC2 の時間単位の使用状況レコードが [EC2 インスタンス] に移動し、レポートされるためです。

[コスト管理の詳細設定] では、詳細なデータ設定選択の推定使用状況レコード数を表示し、Cost Explorer のデータ制限にどの程度近いかを把握することができます。「Cost Explorer のデータしきい値の制限を把握する」を参照してください。

Cost Explorer の時間単位の詳細度は有料機能であり、コストは時間単位の使用状況レコード数によって異なります。時間単位の詳細度機能に対する推定使用状況レコード数を把握することは、この機能を有効にする前にコストを見積もるのに役立ちます。「Cost Explorer の時間単位の詳細度に対するコストの見積もり」を参照してください。

> **Note**
>
> [コスト管理の詳細設定] に表示される使用状況レコードは、組織全体のものであり、過去の平均的な使用状況に基づく見積もりです。過去、現在、または将来の月における実際の使用状況レコードは、これらの値とは異なる場合があります。新規 AWS のお客様で、 AWS 少なくとも 1 か月間 を使用していない場合、データが不足しているため、使用状況レコードを見積もることはできません。

トピック

- Cost Explorer のデータしきい値の制限を把握する
- Cost Explorer の時間単位の詳細度に対するコストの見積もり

Cost Explorer のデータしきい値の制限を把握する

Cost Explorer は、日単位の詳細度におけるリソースレベルのデータに対して最大 5 億の使用状況レコードをサポートし、時間単位の詳細度機能 (時間単位の詳細度における EC2 リソースレベルのデータと、リソースのないすべてのサービスに対する時間単位の詳細度) に対して最大 5 億の使用状況レコードをサポートします。

Cost Explorer で最適なカスタマーエクスペリエンスが確実に提供されるようにするため、推定使用状況レコードがこれらの制限を超える場合、データしきい値エラーが表示され、設定は保存できません。

リソースレベルのデータを日単位の詳細度で設定する際にデータしきい値エラーが表示される場合は、リソースレベルのデータを有効にするサービスの数を減らすことができます。エラーが解決しない場合は、コストと使用状況レポート (CUR) を使用してデータを取得することを検討してください。CUR にリソース ID を記述するよう設定できます。

時間単位の詳細度を設定するときにデータしきい値エラーが表示される場合は、リソースレベルのデータと EC2 リソースレベルのデータを時間単位の詳細度で使用せずに、すべてのサービスについて時間単位のコストデータまたは使用状況データを選択することを検討してください。エラーが解決しない場合は、コストと使用状況レポート (CUR) を使用してデータを取得することを検討してください。CUR を設定し、リソース ID を使用してコストと使用状況の情報を時間単位の詳細度で取得できます。

Cost Explorer の時間単位の詳細度に対するコストの見積もり

Cost Explorer は、日単位では 1 件の使用状況レコードあたり 0.00000033 USD で時間単位の詳細度データを提供します。これは、月単位では 1,000 件の使用状況レコードあたり 0.01 USD に換算されます。使用状況レコードは、特定のリソースと使用状況タイプの明細項目に対応します。

Cost Explorer は、過去 14 日間に Cost Explorer でホストされた時間単位の使用状況レコードの合計に基づいて毎日請求します。例えば、過去 1 か月間、毎日 1 つの EC2 インスタンスを実行し、時間単位の詳細度が有効になっている場合、Cost Explorer は 1 日あたり 336 レコード (24 時間 x 14 日) をホストし、1 日あたり 0.0001 USD (1 レコードあたり 0.00000033 USD x 336 レコード) を請求します。その結果、毎月の請求額は 0.003 USD (1 日あたり 0.0001 USD x 30) になります。

提供された推定使用量レコード数については、提供された計算式を使用してコストを自分で計算することも、 AWS 料金計算ツールを使用することもできます。

> **Note**
>
> きめ細かなデータの可視性は、課金対象データを表示する請求ビューでのみ使用できます。Billing Conductor を標準請求グループまたは請求転送請求グループのアカウントとして使用する場合、Cost Explorer で詳細なデータを表示することはできません。

複数年データと詳細なデータの設定

管理アカウントを使用して、Cost Explorer で複数年データと詳細なデータを有効にできます。これは、コンソールの [コスト管理の詳細設定] で行います。

ただし、複数年データと詳細なデータを有効にするには、まずアクセスを管理して [コスト管理の詳細設定] を表示および編集する必要があります。「IAM を使用してアクセスを制御する」を参照してください。

> **Note**
>
> きめ細かなデータの可視性は、課金対象データを表示する請求ビューでのみ使用できます。Billing Conductor を標準請求グループまたは請求転送請求グループのアカウントとして使用する場合、Cost Explorer で詳細なデータを表示することはできません。

複数年データと詳細なデータを設定するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. 最大 38 か月間の履歴データを取得するには、[月単位の詳細度の複数年データ] を選択します。
4. リソースレベルまたは時間単位の詳細なデータを有効にするには、次のオプションを検討してください。

   > **Note**
   >
   > 過去 14 日間について、時間単位のデータと日単位のリソースレベルのデータを利用できます。

- 時間単位の詳細度
  - リソースレベルのデータなしですべての AWS サービスの時間単位のデータを取得するには、時間単位の詳細度ですべてのサービスのコストと使用状況データを選択します。 AWS
  - 時間単位の詳細度でインスタンスレベルの EC2 のコストと使用状況を追跡するには、[EC2 インスタンス (Elastic Compute Cloud) リソースレベルのデータ] を選択します。
- 日単位の詳細度
  - リソースレベルのデータを日単位の詳細度で選択して、個別またはすべての AWS サービスのリソースレベルのデータを取得します。
  - リソースレベルのデータを有効にする [日単位の詳細度のAWS サービス] ドロップダウンリストからサービスを選択します。

> **Note**
>
> ドロップダウンリストに含まれているのは、組織で過去 6 か月間に使用されたサービスのみです。コストが高い順にランク付けされます。

5. [設定を保存] を選択します。

> **Note**
>
> データ設定の変更が Cost Explorer に反映されるまでに最大 48 時間かかります。また、設定を保存した後、48 時間は追加の変更を行うことはできません。
> 設定の推定データ量が Cost Explorer の制限を超えている場合、データしきい値の制限に達して設定の保存ができないことを示すエラーが表示されます。「Cost Explorer のデータしきい値の制限を把握する」を参照してください。

IAM を使用してアクセスを制御する

AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して、個々のユーザーのコスト管理設定へのアクセスを管理できます。これで、IAM ロールまたはユーザーごとに個別のレベルでアクセスを付与または取り消すことができます。設定を表示および編集するには、`ce:GetPreferences`、`ce:UpdatePreferences`、`ce:GetDimensionValues`、および `ce:GetApproximateUsageRecords` のアクションを追加する必要があります。

以下は、複数年データと詳細なデータを有効にするために、[コスト管理の詳細設定] を表示および編集するためのアクセスを提供する関連アクションを含むサンプル IAM ポリシーです。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "ce:GetPreferences",
                "ce:UpdatePreferences",
                "ce:GetDimensionValues",
                "ce:GetApproximateUsageRecords"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS Cost Explorer— API の使用

Cost Explorer API を使用すると、コストと使用状況データをプログラムでクエリできます。合計月次コストや 1 日の総使用状況などの集計データに対してクエリを実行することができます。また、実稼働環境の DynamoDB データベーステーブルの日次書き込みオペレーションの数など、詳細なデータをクエリすることもできます。

SDK AWS を提供するプログラミング言語を使用する場合は、SDK を使用することをお勧めします。すべての AWS SDKs は、 AWS Cost Explorer API を使用する場合と比較して、リクエストの署名プロセスを大幅に簡素化し、時間を大幅に節約します。また、SDK は開発環境と容易に統合されるため、関連するコマンドへのアクセスが簡単です。

使用できる SDK については、「Amazon Web Services のツール」を参照してください。 AWS Cost Explorer API の詳細については、 AWS Billing and Cost Management API リファレンスを参照してください。

サービスエンドポイント

Cost Explorer API には次のエンドポイントが用意されています。

https://ce.us-east-1.amazonaws.com

AWS Cost Explorer API を使用するための IAM アクセス許可の付与

ユーザーには、 AWS Cost Explorer API をクエリするための明示的なアクセス許可が付与されている必要があります。ユーザーに必要な許可を付与するポリシーについては、「コストと使用状況の表示」を参照してください。

AWS Cost Explorer API のベストプラクティス

Cost Explorer API を使用する場合のベストプラクティスは、次のとおりです。

トピック

- Cost Explorer API へのアクセスを設定するためのベストプラクティス
- Cost Explorer API のクエリに関するベストプラクティス
- Cost Explorer API コストを最適化するためのベストプラクティス

Cost Explorer API へのアクセスを設定するためのベストプラクティス

Cost Explorer API のクエリを実行するためには、ユーザーは明示的な許可を付与されている必要があります。Cost Explorer API へのアクセス権をユーザーに付与すると、そのユーザーは、そのアカウントで使用可能なすべてのコストと使用状況のデータのクエリを実行できるようになります。ユーザーに必要な許可を付与するポリシーについては、「コストと使用状況の表示」を参照してください。

Cost Explorer API へのアクセスを設定する場合は、ユーザーのために一意のロールを作成することをお勧めします。Cost Explorer API へのクエリアクセスを複数のユーザーに付与する場合は、それぞれにロールを作成することをお勧めします。

Cost Explorer API のクエリに関するベストプラクティス

Cost Explorer API に対してクエリを実行するときは、必要なデータのみを受け取るように、フィルタリング条件を使用してクエリを絞り込むことをお勧めします。これを行うには、時間範囲の間隔を小さく制限するか、フィルタを使用してリクエストから返る結果セットを制限します。これにより、クエリでアクセスするデータセットが大きい場合と比べて、データは早く返ります。

クエリに 1 つ以上のグループ化ディメンションを追加した場合、結果のサイズは大きくなり、クエリのパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。ユースケースによっては、データをフィルタリングするのが合理的です。

Cost Explorer API では、最大 13 か月分の履歴データと今月のデータにアクセスできます。また、3 か月分のコスト予測データを日次レベルで表示したり、12 か月分のコスト予測データを月次レベルで表示したりすることもできます。

Cost Explorer API コストを最適化するためのベストプラクティス

Cost Explorer API の料金は、ページ分割されたリクエストごとに請求されるため、クエリを送信する前に、アクセスするデータセットを正確に識別することをお勧めします。

AWS 請求情報は 1 日に最大 3 回更新されます。Cost Explorer API の一般的なワークロードとユースケースでは、1 日に 1 回から数回のコールパターンのケイデンスが想定されています。入手可能な最新のデータを入手するには、必要な期間に対してクエリを実行します。

Cost Explorer API を使用してアプリケーションを作成する場合は、キャッシュレイヤーを含むようにアプリケーションを設計することをお勧めします。これにより、エンドユーザーの基になるデータを定期的に更新できますが、組織内のユーザーがアクセスする度にクエリがトリガーされることはありません。

Cost Explorer レポートを使用してコストを把握する

Cost Explorer では、デフォルトレポートが用意されていますが、レポートを作成するために使用するフィルターと制約を変更することもできます。Cost Explorer には、レポートを保存する方法も用意されています。設定自体をブックマークとして保存することができ、グラフを作成するために Cost Explorer で使用したデータを CSV ファイルでダウンロードできます。または保存されたレポートとして Cost Explorer 設定を保存することができます。Cost Explorer は保存されたレポートを保持し、それらのリストをレポートページにデフォルトの Cost Explorer レポートとともに掲載します。

トピック

- デフォルトの Cost Explorer レポートを使用する
- Cost Explorer レポートを作成する
- Cost Explorer レポートを表示する
- Cost Explorer レポートを編集する
- Cost Explorer レポートを削除する
- Cost Explorer の設定をブックマークまたはお気に入りとして保存する
- コストデータの CSV ファイルをダウンロードする

デフォルトの Cost Explorer レポートを使用する

Cost Explorer にはいくつかのデフォルトのレポートが用意されています。これらのレポートを変更することはできませんが、使用して独自のカスタムレポートを作成できます。

- コストと使用状況レポート
- リザーブドインスタンスのレポート

コストと使用状況レポート

Cost Explorer にはコストを理解するための次のレポートが用意されています。

- AWS Marketplace
- 日別コスト
- 連結アカウント別の月別コスト
- サービス別の月別コスト

- 毎月の EC2 実行時間のコストと使用状況

AWS Marketplace

AWS Marketplace レポートには AWS Marketplace での消費量が表示されます。

日別コスト

[日次コスト] レポートには、過去 6 か月で消費した量、および翌月の予測消費量が示されます。

連結アカウント別の月別コスト

[Monthly costs by linked account (連結アカウント別の月別コスト)] レポートには、連結、またはメンバーアカウントのグループごとに、過去 6 か月のコストが表示されます。上位 5 つのメンバーアカウントは個別に表示され、残りは 1 つの棒グラフにまとめられます。

サービス別の月別コスト

[サービス別の月別コスト] レポートには、サービスごとにまとめられた、過去 6 か月のコストが表示されます。上位 5 つのサービスが個別に表示され、残りは 1 つの棒グラフにまとめられます。

毎月の EC2 実行時間のコストと使用状況

[毎月の EC2 実行時間のコストと使用状況] レポートには、アクティブなリザーブドインスタンス (RI) での消費量が表示されます。

リザーブドインスタンスのレポート

Cost Explorer では予約を理解するための次のレポートが用意されています。

予約レポートには、時間または正規化された単位で Amazon EC2 のカバレッジと使用率が表示されます。正規化された単位を使用することで、統一された方法で複数のサイズのインスタンスの Amazon EC2 使用量を表示することができます。例えば、`xlarge` インスタンスと `2xlarge` インスタンスを実行するとします。両方のインスタンスを同じ時間実行した場合、両方のインスタンスにインスタンス時間が 1 つしか表示されなくても、`2xlarge` インスタンスでは `xlarge` インスタンスの 2 倍の予約量が使用されます。インスタンス時間の代わりに正規化された単位を使用して、`xlarge` インスタンスは 8 つの正規化ユニットを使用し、`2xlarge` インスタンスは 16 の正規化ユニットを使用しました。詳細については、EC2 リザーブドインスタンスの新たなインスタンスサイズの柔軟性を参照してください。

- RI 使用率レポート
- RI カバレッジレポート

RI 使用率レポート

RI 使用率レポートは、Amazon EC2、Amazon Redshift、Amazon RDS、Amazon OpenSearch Service および Amazon ElastiCache リザーブドインスタンス (RI) の使用率、RI による削減額、RI を浪費した額、選択した時間範囲で RI の購入から得られた純削減額を示します。これにより、RI を過剰購入していないか判断できます。

RI 使用率グラフには、アカウントが使用した RI の時間数が表示されます。これは、すべての RI とサービスを統合した使用状況 (使用率) の把握とモニタリングに役立ちます。また、予約購入で節約したオンデマンドインスタンスコスト、未使用の予約の償却コスト、および予約購入による純削減総額も示されます。AWS では、純削減総額を計算するために、予約の削減額から未使用の予約のコストを差し引きます。

次の表では、削減可能額の例を示します (すべてのコストは USD 単位)。

RI 使用率の例

アカウント	RI 使用率	RI 購入済み時間数	RI 使用済み時間数	RI 未使用時間数	RI 使用済み時間数のオンデマンドコスト	RI 有効原価	純削減額	削減可能総額
Martha	0.50	100	50	50	$200	$150	$50	$250
Liu Jie	0.75	100	75	25	$300	$150	$150	$250
Saanvi	1.00	50	50	0	$200	$75	$125	$125

上の表に示すように、Martha、Liu Jie、および Saanvi は、RI を 1.50 USD/時間、オンデマンド時間を 4.00 USD/時間で購入しています。この例をさらに分析することで、各自が RI を購入した場合の削減額を確認できます。

- Martha は、RI を 100 時間、150 USD で購入しています。彼女は 50 時間を使用しています。同じ時間数をオンデマンドインスタンスで使用した場合のコストは 200 USD です。オンデマンド時間コストの 200 USD から RI のコストを差し引いて、50 USD の削減になります。削減額を最適化するには、RI 購入済み時間数の使用率を高めるか、RI を変換して他のインスタンスに充当するか、RI Marketplace で RI を販売することができます。RI Marketplace で RI を販売する方法の詳細については、「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の「リザーブドインスタンスマーケットプレイスで Amazon EC2 のリザーブドインスタンスを販売する」を参照してください。
- Liu Jie は、RI を 100 時間、150 USD で購入しています。彼は 75 時間を使用しています。同じ時間数をオンデマンドインスタンスで使用した場合のコストは 300 USD です。オンデマンド時間コストの 300 USD から RI のコストを差し引いて、150 USD の削減になります。
- Saanvi は、RI を 50 時間、75 USD で購入しています。彼女は 50 時間をすべて使用しています。同じ時間数をオンデマンドインスタンスで使用した場合のコストは 200 USD です。オンデマンド時間コストの 200 USD から RI のコストを差し引いて、125 USD の削減になります。

これらのレポートでは、使用率ターゲットと呼ばれる使用率のしきい値を定義し、使用率ターゲットに到達する RI と しきい値を下回る RI を特定します。これらのレポートでは、RI 使用率として、購入済みの RI 時間のうち該当するインスタンスで使用される時間の割合がパーセント単位に四捨五入されて表示されます。

ターゲット使用率は、グラフ内では点線で示され、グラフ下の表では RI 使用率の欄に着色されたステータスバーとして示されています。ステータスバーが赤色の RI は使用時間数がゼロです。ステータスバーが黄色の RI はターゲット使用率を下回っています。ステータスバーが緑色の RI はターゲット使用率に達しています。灰色のバーのインスタンスは、予約を使用していません。ターゲット使用率は、[表示オプション] セクションで変更できます。グラフからターゲット使用率の線を削除するには、[グラフにターゲット行を表示する] チェックボックスをオフにします。使用率ターゲットを下回った場合に AWS で通知するように予算を作成することもできます。詳細については、「AWS Budgets によるコストの管理」を参照してください。

グラフにフィルタを適用すると、購入アカウント、インスタンスタイプなどを分析することができます。RI レポートは、RI 固有のフィルターと Cost Explorer の標準フィルターを組み合わせて使用します。RI 固有のフィルタは、Cost Explorer RI 使用率と RI Coverage Reports でのみ利用できます。これらは、AWS が Cost Explorer フィルターを使用する他の場所では利用できません。以下のフィルタが利用可能です。

- [アベイラビリティーゾーン] – 特定のアベイラビリティーゾーンで RI 使用率をフィルタリングします。

- [インスタンスタイプ] – t2.micro や m3.medium など、特定のインスタンスタイプで RI 使用率をフィルタリングします。これは、db.m4 などの Amazon RDS インスタンスクラスと、dc2.large などの Amazon Redshift および ElastiCache ノードタイプにも適用されます。
- [連結アカウント] – 特定のメンバーアカウントで予約をフィルタリングします。
- [プラットフォーム] – Linux や Windows など、プラットフォームで RI 使用率をフィルタリングします。また、Amazon RDS データベースエンジンにも適用されます。
- [リージョン] – 米国東部 (バージニア北部) やアジアパシフィック (シンガポール) など、特定のリージョンで RI 使用率をフィルタリングします。
- [スコープ] (Amazon EC2) – Amazon EC2 使用率をフィルタリングして特定のアベイラビリティーゾーンまたはリージョン用に購入された RI を表示します。
- [テナンシー] (Amazon EC2) – 専有やデフォルトなど、テナンシーで Amazon EC2 使用率をフィルタリングします。専有テナンシーの RI は単一のテナント用に予約されています。デフォルトテナンシーの RI は、別の RI とハードウェアを共有できます。

使用率ターゲットの変更や RI のフィルタに加え、単一の RI または RI のグループを選択してグラフに表示できます。グラフに表示する対象として、単一の RI または RI のグループを選択するには、図の下にある表で RI の横にあるチェックボックスをオンにします。同時に選択できるリース数は最大 10 です。

Cost Explorer では、すべての RI の合算した使用率がグラフに表示され、個別の RI 予約の使用率がグラフの下のテーブルに表示されます。このテーブルには、各 RI 予約に関する情報のサブセットも表示されます。各予約に関する以下の情報は、ダウンロード可能な .csv ファイルで確認できます。

- [アカウント名] – RI 予約を所有するアカウントの名前です。
- [サブスクリプション ID] – RI 予約に対する一意のサブスクリプション ID です。
- [予約 ID] – RI 予約の一意の ID です。
- [インスタンスタイプ] – t2.micro、db.m4、dc2.large などの RI インスタンスクラス、インスタンスタイプ、またはノードタイプです。
- [RI 使用率] – 購入済みの RI 時間のうち、該当するインスタンスで使用された割合です。
- [購入済みの RI 時間] – RI の予約に対して購入された正規化済み時間数。
- [使用済みの RI 時間] – 一致するインスタンスによって消費された、購入済みの正規化時間数。
- [未使用の RI 時間] – 一致するインスタンスによって使用されなかった、購入済みの正規化時間数。

> **Note**
>
> RI Hours メトリクスは、正規化係数を使用して計算されます。

- [アカウント ID] – RI 予約を所有するアカウントの一意の ID です。
- [開始日] – RI の開始日です。
- [終了日] – RI の有効期限日です。
- [RI 数]- 予約に関連付けられている RI の数です。
- [スコープ] – RI が特定のアベイラビリティーゾーンまたはリージョン用であるかどうかを示します。
- [リージョン] – RI が使用可能なリージョンです。
- [アベイラビリティーゾーン] – RI が使用可能なアベイラビリティーゾーンです。
- [プラットフォーム] (Amazon EC2) – RI の対象プラットフォームです。
- [テナンシー] (Amazon EC2) – RI が共有インスタンスまたはハードウェア専有インスタンス用であるかどうかを示します。
- [支払いオプション] – RI が完全な前払い、一部前払い、前払いなし RI のいずれであるかを示します。
- [オファリングタイプ] – RI がコンバーティブルまたはスタンダードのいずれであるかを示します。
- [オンデマンド費用同等額] – RI 使用済み時間数のコストをパブリックオンデマンド料金に換算した額です。
- [償却前払い料金] – この予約の前払いコストを RI 期間全体にならしたものです。
- [償却済みの定期料金] – 予約の月別コストを RI 期間全体にならしたものです。
- [有効な RI コスト] – 購入した RI 時間の前払い料金の償却と定期的な料金の償却の合計です。
- [純削減額] – Cost Explorer が推定する、予約を購入した場合の削減額です。
- [節約可能額] – RI 全体を使用した場合に見込まれる削減総額です。
- [平均オンデマンド料金] – 使用した RI 時間のオンデマンド料金です。一定期間にわたってオンデマンド料金を表示すると、オンデマンド料金にはその期間に行われた価格変更が反映されます。

  指定した期間に使用量がない場合、平均オンデマンド料金は、[N/A] と表示されます。
- [総資産価値] – 予約期間の実質費用です。合計アセット値は、開始日と終了日またはキャンセル日の両方を考慮に入れます。

- [有効な 1 時間あたりの料金] – 合計 RI 料金の実質的時間料金です。時間料金では、前払い料金と定期的な料金の両方を考慮に入れます。
- [前払い料金] – 購入した RI 時間の 1 回限りの前払い料金です。
- [時間ごとの定期料金] – 毎月の RI 料金の有効な時間あたりの料金です。時間当たりの定期的な料金は、定期的な料金のみを考慮に入れます。
- [未使用時間の RI 料金] – 使用しなかった RI 時間で費やした時間です。

この情報を使用すると、選択した時間範囲での使用済み RI 時間数と、予約しても使用していない RI 時間数を追跡できます。

毎日の RI 利用率グラフには、過去 3 か月分の RI 使用率が 1 日ごとに表示されます。毎月の RI 利用率グラフには、過去 12 か月分の RI 使用率が月ごとに表示されます。

RI カバレッジレポート

RI カバレッジレポートでは、RI でカバーした Amazon EC2、Amazon Redshift、Amazon RDS、Amazon OpenSearch Service および Amazon ElastiCache インスタンスの時間数、オンデマンドインスタンスに費やした額、予約数を増やした場合に削減できたと推定される額を示します。これによって、RI の購入が不足しているかどうかがわかります。

RI カバリッジグラフには、アカウントのインスタンス時間のうち、予約でカバーした割合が表示されます。これは、すべての RI を統合したカバリッジの把握とモニタリングに役立ちます。また、オンデマンドインスタンスに費やした額および予約数を増やした場合に削減できたと推定される額も表示されます。

RI でどのくらいを対象とするかをカバレッジターゲットと呼ばれるしきい値で定義し、これによってどこで RI をさらに予約できるかがわかります。

ターゲットカバレッジは点線としてグラフに表示され、平均カバレッジはグラフ下の表に着色されたステータスバーで表示されます。ステータスバーが赤色のインスタンスは RI カバレッジがないインスタンスを示します。ステータスバーが黄色のインスタンスはカバレッジターゲットを下回ります。ステータスバーが緑色のインスタンスはカバレッジターゲットを達成しています。灰色のバーのインスタンスは、予約を使用していません。カバレッジターゲットは、[表示オプション] セクションで変更できます。グラフからカバレッジターゲットの線を削除するには、[グラフにターゲット行を表示する] チェックボックスを外します。カバレッジターゲットを下回った場合に AWS から通知を受けるようにカバレッジ予算を作成することもできます。詳細については、「AWS Budgets によるコストの管理」を参照してください。

RI カバレッジレポートは、RI 使用率フィルタの代わりにCost Explorerフィルタを使用します。グラフにフィルタを適用すると、購入アカウント、インスタンスタイプなどを分析することができます。RI レポートは、RI 固有のフィルターと Cost Explorer の標準フィルターを組み合わせて使用します。RI 固有のフィルターを利用できるのは Cost Explorer RI 使用率レポートと RI カバレッジレポートのみであり、Cost Explorer フィルターを使用する AWS の他のレポートでは利用できません。以下のフィルタが利用可能です。

- [アベイラビリティーゾーン] – 特定のアベイラビリティーゾーンで RI 使用率をフィルタリングします。
- [インスタンスタイプ] – t2.micro や m3.medium など、特定のインスタンスタイプで RI 使用率をフィルタリングします。これは、db.m4 などの Amazon RDS インスタンスクラスにも適用されます。
- [Linked Account] – 特定のメンバーアカウントで RI 使用率をフィルタします。
- [プラットフォーム] – Linux や Windows など、プラットフォームで RI 使用率をフィルタリングします。また、Amazon RDS データベースエンジンにも適用されます。
- [リージョン] – 米国東部 (バージニア北部) やアジアパシフィック (シンガポール) など、特定のリージョンで RI 使用率をフィルタリングします。
- [スコープ] (Amazon EC2) – Amazon EC2 使用率をフィルタリングして特定のアベイラビリティーゾーンまたはリージョン用に購入された RI を表示します。
- [テナンシー] (Amazon EC2) – 専有やデフォルトなど、テナンシーで Amazon EC 使用率をフィルタリングします。専有 RI は単一のテナント用に予約され、デフォルト RI は、別の RI とハードウェアを共有していることもあります。

カバレッジターゲットの変更や、使用可能なフィルタでの RI のフィルタに加え、単一のインスタンスタイプまたはインスタンスタイプのグループを選択してグラフに表示できます。単一のインスタンスタイプまたはインスタンスタイプのグループを選択してグラフに表示するには、図の下にある表でインスタンスタイプの横にあるチェックボックスをオンにします。同時に選択できるインスタンス数は最大 10 です。

Cost Explorer では、すべてのインスタンスタイプについて合算したカバレッジがグラフに表示され、個別のインスタンスタイプのカバレッジはグラフの下の表に表示されます。このテーブルには、各インスタンスタイプに関する情報のサブセットも表示されます。各インスタンスタイプに関する以下の情報は、ダウンロード可能な .csv ファイルで確認できます。

- [インスタンスタイプ] (Amazon EC2)、[インスタンスクラス] (Amazon RDS)、または[ノードタイプ] (Amazon Redshift/Amazon ElastiCache) – RI インスタンスクラス、インスタンスタイプ、またはノードタイプ (t2.micro、db.m4、dc2.large など) です。
- [データベースエンジン] (Amazon RDS) – カバレッジをフィルタリングして、[Amazon Aurora]、[MySQL]、[Oracle] など特定のデータベースエンジンを対象とする RI を表示します。
- [デプロイオプション] (Amazon RDS) – Amazon RDS カバレッジをフィルタリングして、マルチ AZ 配置など、特定のデプロイオプションを対象とする RI を表示します。
- [リージョン] – us-east-1 など、インスタンスが実行されたリージョンです。
- [プラットフォーム] (Amazon EC2) – RI の対象プラットフォーム。
- [テナンシー] (Amazon EC2) – RI が共有インスタンス、ハードウェア専用インスタンス、ホストインスタンス用のいずれであるか。
- [平均カバレッジ] – 予約の対象になっている使用時間の平均数。
- [RI が対象とする時間] – 予約の対象になっている使用時間数。
- [オンデマンド時間] – 予約の対象外の使用時間数。
- [オンデマンドコスト] – オンデマンドインスタンスに費やした額。
- [合計実行時間] – 対象の時間と対象でない時間の両方を含む、使用時間の合計数。

この情報を使用して、使用した時間数とそのうちで RI の対象となった時間数を追跡できます。

日別のグラフは、過去 3 か月の 1 日ごとにアカウントが使用した RI 時間数を表示します。月別のグラフでは、過去 12 か月間の RI カバレッジが月別に表示されます。

Cost Explorer レポートを作成する

コンソールを使用して、Cost Explorer クエリの結果をレポートとして保存できます。

> **Note**
>
> Cost Explorer レポートは変更することができます。これらのレポートは監査目的に使用しないことを強くお勧めします。

Cost Explorer レポートを保存するには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます

2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer 保存済みレポート] を選択します。
3. [新しいレポートを作成] を選択します。これにより、すべての Cost Explorer 設定がデフォルト設定にリセットされます。
4. レポートタイプを選択します。
5. [レポートを作成] を選択します。
6. Cost Explorer 設定をカスタマイズします。
7. [レポートライブラリに保存] を選択します。
8. [レポートライブラリに保存] ダイアログボックスで、レポートの名前を入力し、[レポートを保存する] を選択します。

Cost Explorer レポートを表示する

コンソールを使用して、保存された Cost Explorer レポートを表示できます。

保存されたレポートを表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer 保存済みレポート] を選択します。

Cost Explorer レポートを編集する

コンソールを使用して Cost Explorer レポートを編集できます。

レポートを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer 保存済みレポート] を選択します。
3. 編集するレポートを選択します。

> **Note**
>
> 事前定義されたレポートを編集することはできません。事前定義されたいずれかのレポートをレポートの開始点として選択する場合は、新しいレポート名をレポート名フィールドに入力し、この手順を続行します。

4. Cost Explorer 設定をカスタマイズします。
5. [保存] を選択して既存のレポートを上書きするか、[新しいレポートとして保存] を選択します。
6. [レポートライブラリに保存] ダイアログボックスで、レポートの名前を入力し、[レポートを保存する] を選択します。

Cost Explorer レポートを削除する

コンソールを使用して、保存された Cost Explorer レポートを削除できます。

保存されたレポートを削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer 保存済みレポート] を選択します。
3. 削除するレポートの横にあるチェックボックスをオンにします。

> **Note**
>
> [レポート] ページには、事前定義された、削除できないレポートが含まれています。これらのデフォルトレポートは、ロックアイコンで識別できます。ただし、カスタムレポートは削除できます。

4. [削除] を選択します。
5. [レポートの削除] ダイアログボックスで、[削除] を選択します。

Cost Explorer の設定をブックマークまたはお気に入りとして保存する

日付、フィルター、チャートスタイル、グループ化の条件、および詳細設定を保存するには、Cost Explorer URL をブラウザでお気に入りまたはブックマークとして保存します。保存したリンクを表示すると、Cost Explorer では、選択した時間範囲における現在のコスト データを使用してページを更新し、最新の予測を表示します。この機能を使用すると、頻繁に更新する必要のある設定を保存できます。また、グラフのカスタムの時間範囲を使用したり、固定された開始日と終了日を設定したりして、特定の時間範囲の設定を保存することもできます。

> **Warning**
>
> 複数の構成を保存する場合は、各ブックマークおよびお気に入りに一意の名前を必ず付けることで、新しい URL の保存時に、古い構成を上書きしてしまうことを回避できます。

コストデータの CSV ファイルをダウンロードする

包括的な詳細を確認する場合は、グラフ生成のため Cost Explorer で使用されるコストデータをカンマ区切り値 (CSV) ファイルでダウンロードできます。このデータは、グラフの下のデータテーブルに表示されるものと同じです。データテーブルでは、グラフに使用する完全なデータセットが表示されない場合があります。詳細については、「Cost Explorer データテーブルを読み取る」を参照してください。

CSV ファイルをダウンロードするには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. CSV ファイルで表示されるオプションを使用するように Cost Explorer を構成します。
3. [CSV のダウンロード] を選択します。

CSV ダウンロードの形式について、以下の点に注意してください。

- CSV ファイルを表形式で表示する場合、ファイルの列はコストを表し、行は時間を表します。コンソールの Cost Explorer データテーブルと比較すると、列と行は転置されます。
- このファイルは、小数点以下 15 桁までの精度でデータを表示します。

- ファイルには、日付が YYYY-MM-DD 形式で表示されます。

AWS Budgets によるコストの管理

AWS Budgets を使用して、 AWS コストと使用状況を追跡し、アクションを実行できます。 AWS Budgets を使用して、リザーブドインスタンス (RIs) または Savings Plans の合計使用率とカバレッジメトリクスをモニタリングできます。 AWS Budgets を初めて使用する場合は、「」を参照してくださいAWS Budgets のベストプラクティス。

AWS Budgets を使用すると、simple-to-complexコストと使用状況の追跡を有効にできます。それらの例を以下に示します。

- アカウントに関連付けられているすべてのコストを追跡するために、固定目標金額で月別コスト予算を設定します。実際 (発生後) の支出と予測 (発生前) の支出の両方についてアラートを表示するように選択できます。
- 変動目標金額で月別コスト予算を設定し、それ以降の月ごとに予算目標が 5 % 増加します。その後、予算額の 80% の通知を構成し、アクションを適用できます。例えば、アカウント内で追加のリソースをプロビジョニングする機能を拒否するカスタム IAM ポリシーを自動的に適用できます。
- 特定のサービスのサービスの制限内に収まるように、固定使用量および予測された通知を用いて月別使用予算を設定します。
- RI または Savings Plans を追跡するために、日別使用率またはカバレッジの予算を設定します。特定の日の使用率が 80% を下回ったときに、E メールと Amazon SNS トピックを通じて通知を受けるように選択できます。
- 会計年度、プロジェクト期間、または助成金期間に合わせて、カスタム期間の予算を設定します。例えば、2025 年 4 月 15 日から 2025 年 7 月 15 日までの予算を作成して、3 か月のプロジェクトを追跡できます。

AWS 予算情報は 1 日に最大 3 回更新されます。通常、更新は前回の更新から 8 ~ 12 時間後に発生します。Budgets は、ブレンドコスト、非ブレンドコスト、純非ブレンドコスト、償却コスト、純償却コストを追跡できます。Budgets では、割引、返金、サポート手数料、税金などの料金を含めたり、除外したりできます。

以下のタイプの予算を作成できます。

- コスト予算: サービスの支出上限を設定し、コストが設定したしきい値に近づいた場合や超過した場合にアラートを受け取ります。

- 使用量予算: 1 つ以上のサービスに対して使用量の上限を設定し、使用量が設定したしきい値に近づいた場合や超過した場合に通知を受け取ります。
- RI 使用率の予算: RI の使用率に関するしきい値を定義し、使用率がこのレベルを下回った際にアラートを受け取ることで、未使用または使用率の低い RI を特定できます。
- RI カバレッジの予算: カバレッジのしきい値を設定し、RI の対象となるインスタンス時間の割合がこのレベルを下回るとアラートを受け取るため、予約の対象となる使用量をモニタリングできます。
- Savings Plans の使用率の予算: Savings Plans の使用率に関するしきい値を設定し、使用率がこのレベルを下回った際に通知を受け取ることで、未使用または使用率の低い Savings Plans を特定できます。
- Savings Plans のカバレッジの予算: カバレッジのしきい値を定義し、Savings Plans の対象となる使用量の割合がこのレベルを下回るとアラートを受け取るため、Savings Plans の対象となる使用量を追跡できます。

オプションの通知を設定し、コストまたは使用量の予算額を超えたか、超えることが予測される場合に警告を受け取ることができます。または、RI または Savings Plans の予算の目標使用量とカバレッジを下回った場合。通知は Amazon SNS トピック、E メールアドレス、またはその両方に送信できます。詳細については、「予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する」を参照してください。

組織で一括請求を使用している場合、管理アカウントは IAM ポリシーを使用して、メンバーアカウントの予算へのアクセスを管理できます。デフォルト設定上、メンバーアカウントの所有者は自分の予算を作成することができますが、他アカウントの予算を作成または更新することはできません。ロールを作成し、これらのユーザーに対して特定アカウントの予算の作成、編集、削除、または読み取りの許可を付与できます。ただし、クロスアカウントの使用はサポートしていません。

予算は、予算を作成したアカウントへのアクセスが許可され、予算自体へのアクセスが許可されているユーザーに対してのみ表示されます。例えば、管理アカウントは特定のメンバーアカウントのコストを追跡する予算を作成できますが、メンバーアカウントはマスターアカウントへのアクセス権を付与された場合にのみ当該予算を表示できます。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。詳細については AWS Organizations、AWS Organizations 「 ユーザーガイド」を参照してください。

> **Note**
>
> 料金が発生すると、 AWS Budgets から料金の通知を受け取るまでに遅延が生じる場合があります。この遅延は、 AWS リソースが使用されてからリソースの使用に課金されるまでの

時間差が原因です。 AWS 予算から通知を受ける前に、追加のコストや使用量が発生して予算通知のしきい値を超える場合があり、通知を受け取った後も実際のコストまたは使用量が増減し続ける場合があります。

トピック

- AWS Budgets のベストプラクティス
- 予算の作成
- 予算の表示
- 予算の編集
- 予算のダウンロード
- 予算のコピー
- 予算の削除
- 予算アクションを設定する
- 予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する
- チャットアプリケーションでの予算アラートの受信

AWS Budgets のベストプラクティス

予算を使用する場合は、次のベストプラクティスに注意してください。

トピック

- AWS Budgets へのアクセスの制御
- 予算アクションについて
- 予算の設定
- カスタム期間の予算について
- コスト予算の設定時に使用する詳細オプション
- AWS Budgets の更新頻度について
- 予算アラートの設定
- Amazon SNS トピックを使用して予算アラートを設定する
- 予算のタグ付け

- 組織構造が変更された際の予算の確認

AWS Budgets へのアクセスの制御

ユーザーが AWS Billing and Cost Management コンソールで予算を作成できるようにするには、ユーザーが以下を実行することを許可する必要があります。

- 請求情報の表示
- Amazon CloudWatch アラームの作成
- Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) 通知を作成する

AWS Budgets コンソールで予算を作成することをユーザーに許可する方法については、「ユーザーに予算の作成を許可する」を参照してください。

また、Budgets API を使用してプログラムで予算を作成することもできます。Budgets API へのアクセスを設定する場合は、プログラムによるリクエストを作成するために一意のユーザーロールを作成することをお勧めします。これにより、組織内の誰が AWS Budgets コンソールと API にアクセスできるかをより正確に定義できます。Budgets API へのクエリアクセスを複数のユーザーに付与するには、それぞれにロールを作成することをお勧めします。

予算アクションについて

マネージドポリシーの使用

予算アクションの開始に役立つ AWS 管理ポリシーは 2 つあります。1 つはユーザー用、もう 1 つは予算用です。これらのポリシーは関連しています。1 つ目のポリシーでは、ユーザーがロールを予算サービスに渡すようにし、2 つ目のポリシーでは、予算がアクションを実行できるようにします。

ユーザーと AWS Budgets に適切なアクセス許可を設定して割り当てていない場合、 AWS Budgets は設定されたアクションを実行できません。適切な設定と実行を確保するために、これらの管理ポリシーを設定して AWS Budgets アクションが意図したとおりに動作するようにしました。これらの IAM ポリシーを使用して、新機能が含まれている場合に AWS Budgets の既存の IAM ポリシーを更新する必要がないようにすることをお勧めします。デフォルトで、マネージドポリシーに新しい機能を追加します。

マネージドポリシーの詳細については、「マネージドポリシー」を参照してください。

AWS Budgets アクションの詳細については、予算アクションを設定する「」セクションを参照してください。

Amazon EC2 Auto Scaling を使用する

予算アクションを使用して Auto Scaling グループ (ASG) 内の Amazon EC2 インスタンスを停止する場合、Amazon EC2 Auto Scaling はインスタンスを再起動するか、新しいインスタンスを起動して停止したインスタンスを置き換えます。したがって、「予算停止アクションは Amazon EC2/Amazon RDS の予算アクションには有効ではない」というのは、ASG を管理している起動設定が使用するロールに対する許可を削除する 2 つ目の予算アクションを組み合わせない限り有効ではありません。

予算の設定

AWS Budgets を使用して、コスト、使用状況、予約使用率、予約カバレッジに基づいてカスタム予算を設定します。

AWS Budgets を使用すると、定期的に、または特定の期間に予算を設定できます。ただし、予算アラートの受信が予期せず停止されないように、予算は定期的に設定することをお勧めします。

カスタム期間の予算について

カスタム期間の予算を最大限に活用し、より効果的に予算を管理するために、次の点を考慮してください。

- 適切な予算期間を設定します。予算サイクルに合わせて開始日と終了日を選択します。終了日は開始日から 3 年以内である必要があります。
- 予算の計算を理解します。予算の追跡には、開始日から終了日までの全期間が使用されます。金額の計算には日付 (UTC 00:00) のみが使用されます。開始日は計算に含まれますが、終了日は計算に含まれません。
- 予測アラートを最適化します。予測は最大 3 年先まで設定できます。現在の日付が終了日の 12 か月以内に入ると予測が開始されます。アラートのトリガーは、この 12 か月の期間内に制限されます。
- 継続的なモニタリングを維持します。カスタム期間の予算は自動更新されず、終了日に期限切れとなります。継続的にモニタリングするために、予算を定期的に確認し、必要に応じて終了日を延長します。
- 請求サイクルを考慮します。より正確に追跡できるよう、カスタム期間の予算を請求サイクルに合わせて設定します。
- 他の予算タイプと併用します。カスタム期間の予算を、月次、四半期、年次の予算と組み合わせることで、より包括的な財務モニタリングを行います。

コスト予算の設定時に使用する詳細オプション

コスト予算は、ブレンドコスト、非ブレンドコスト、純非ブレンドコスト、償却コスト、純償却コストで集計できます。コスト予算には、返金、クレジット、前払いの予約料金、定期的な予約料金、予約以外のサブスクリプションコスト、税金、サポート料金を含めたり除外したりすることができます。

AWS Budgets の更新頻度について

AWS Budgets がリソースのモニタリングに使用する請求データは、少なくとも 1 日に 1 回更新されます。予算情報と関連アラートは、このデータ更新間隔に従って、更新、送信される点に注意してください。

予算アラートの設定

予算アラートは、最大 10 個のメールアドレスと 1 つのアラートにつき、1 つの Amazon SNS トピックに送信できます。予算は、実際の値または予測値に対して警告するように設定できます。

実際のアラートは、予算が実際のアラートしきい値に達したときに、予算期間ごとに 1 回のみ送信されます。

予測ベースの予算アラートは、予算ごと、予算期間ごとに送信されます。予測値が超過した場合に予算の期間中にアラートのしきい値を超えると、予算期間内に複数回アラートが発生する場合があります。

AWS では、予算予測を生成するために約 5 週間の使用状況データが必要です。予測使用量に基づきアラートを出すように予算を設定した場合、この予算アラートは、過去の使用状況の情報が十分に得られるまでトリガーされません。

次の動画では、予算アラートを設定して支出を管理することの重要性を強調しています。また、アカウントのセキュリティを強化するための多要素認証 (MFA) の使用についても言及しています。

[AWS 多要素認証 (MFA) と AWS Budgets アラートを設定する方法]

Amazon SNS トピックを使用して予算アラートを設定する

Amazon SNS トピックに通知を送信する予算を作成する際は、既存の Amazon SNS トピックを持っているか、Amazon SNS トピックを作成する必要があります。Amazon SNS トピックでは、E メールに加えて SMS 経由で通知を送信できます。

予算の通知が正しく送信されるようにするには、トピックに通知を送信する許可が予算にある必要があり、また Amazon SNS 通知トピックへのサブスクリプションを承認する必要があります。詳細については、「予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する」を参照してください。

予算のタグ付け

タグを使用して AWS Budgets リソースへのアクセスを制御できます。リソースレベルのアクセス許可を使用して、 AWS Identity and Access Management (IAM) ポリシーの 1 つ以上の AWS Budgets リソースへのアクセスを許可または拒否することもできます。これにより、予算管理と監査が容易になり、ガバナンスと情報セキュリティが向上します。 AWS Budgets リソースで許可されるユーザー、ロール、アクションを指定できます。

予算にタグを追加するには、Billing and Cost Management コンソールで AWS Budgets を使用するか、 Budgets API を使用してプログラムで Budgets を使用します。

AWS Budgets リソースを作成するとき、または後でコンソールまたは `TagResource`オペレーションを使用してタグを追加できます。

AWS Budgets リソースのタグを表示するには、 コンソールを使用するか、 `ListTagsForResource`オペレーションを呼び出します。

AWS Budgets リソースからタグを削除するには、 コンソールを使用するか、 `UntagResource`オペレーションを呼び出します。

> **Note**
>
> AWS 予算はコスト配分のタグをサポートしていません。つまり、タグ情報はコストと使用状況データには表示されません。例えば、データエクスポート、コストと使用状況レポート、Cost Explorer ではタグ情報を確認できません。

組織構造が変更された際の予算の確認

メンバーアカウントが AWS Organization を離れると、予算の動作が大幅に変わります。以下の点に注意してください。

- AWS 予算は、メンバーアカウントが組織を離れた後に発生したコストのみを追跡します。
- この追跡動作が変化しても通知は送信されません。
- アカウント離脱前の過去のコストデータは、予算の計算やアラートに含まれません。

組織の変更が発生した場合、特にメンバーアカウントが組織を離れる場合は、 AWS 定期的に Budgets 設定を確認してください。新しいスタンドアロンアカウントの状態を反映するように予算のしきい値や設定を更新し、継続的なコストモニタリングを確保します。

予算の作成

コストと使用量を追跡してアクションを取るように予算を作成できます。予算を作成して、リザーブドインスタンス (RI) や Savings Plans 使用率およびカバレッジを追跡することもできます。デフォルトで、単一のアカウント、 組織の管理アカウント、およびメンバーアカウントが予算を作成できます。

予算を作成すると、 AWS Budgets は Cost Explorer グラフを提供し、発生したコストと使用状況を確認できます。Cost Explorer をまだ有効にしていない場合、このグラフは空白になり、最初の予算の作成時に AWS Budgets によって Cost Explorer が有効になります。Cost Explorer を有効にしないで、予算を作成することができます。または AWS Budgets が Cost Explorer を有効にした後、このグラフが表示されるまでに最大 24 時間かかる場合があります。

予算は次の 2 つの方法で作成および設定できます。

- 予算テンプレートの使用 (シンプル)
- 予算のカスタマイズ (アドバンスド)

請求ビューの前提条件とモニタリング

AWS Budgets は請求ビューをサポートしているため、組織内の複数のアカウントでフィルタリングされたコストと使用状況データに基づいて予算を作成および管理できます。予算を作成する際には、予算が追跡するコストおよび使用状況データの範囲を定義するために、請求ビューを選択できます。請求ビューを使用してコスト管理データへのアクセスを制御する方法については、請求ビューによるコスト管理データアクセスの制御を参照してください。

> **Note**
>
> AWS は、請求転送アカウントの請求転送ビューをサポートしていません。

予算で請求ビューを使用する前に、次のアクセス許可要件を考慮してください。

- クロスアカウントの請求ビューを使用する場合、ソースアカウントの管理者は以下を付与する必要があります。
  - ターゲットアカウント/ユーザーが予算を作成できるようにするために必要な請求ビューに対する `budgets:ModifyBudget` アクセス許可
  - 請求ビューのデータにアクセスするために必要な `billing:GetBillingViewData` アクセス許可
- ターゲットアカウント/ユーザーには以下も必要です。
  - Budgets サービスプリンシパルの `iam:CreateServiceLinkedRole` アクセス許可 (budgets.amazonaws.com):
- サービスにリンクされたロールは、請求ビューへのアクセスのヘルスステータスをモニタリングします。
  - `HEALTHY`: 予算が請求ビューのデータに正常にアクセスできていることを示します
  - `UNHEALTHY`:予算が請求ビューのデータにアクセスできないことを示します。これは、アクセス許可が取り消された場合や請求ビューが削除された場合に発生する可能性があります。異常なステータスの理由は次のとおりです。
    - `BILLING_VIEW_NO_ACCESS`: 予算に関連付けられた請求ビューへのアクセスが削除 (共有解除)
    - `INVALID_FILTER`:予算のフィルターが無効であることを示します。これは、管理アカウントがリンクアカウントに変更された際に、そのアカウントが自組織外のアカウントを参照する予算を保持していた場合に発生します。この状況では予算の支出更新が一時停止されます。

チュートリアル

ウォークスルーチュートリアルを使用して、 AWS Budgets で目標を達成する方法を学ぶこともできます。

チュートリアルにアクセスするには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[予算] を選択します。
3. [Overview] (概要) の横にある [Info] (情報) を選択します。
4. ヘルプパネルで、[Tutorials] (チュートリアル) を選択します。

予算テンプレートの使用 (シンプル)

推奨設定のテンプレートを使用して予算を作成できます。Budget テンプレートは、 に必要な 5 ステップのワークフローとは異なり、単一ページのワークフローで AWS Budgets の使用を開始する簡単な方法です予算のカスタマイズ (アドバンスド)。

テンプレートを使用して予算を作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[予算] を選択します。
3. ページの上部で、[予算を作成] を選択します。
4. [予算設定] で、[テンプレートを使用 (シンプル)] を選択します。
5. [テンプレート] で、ユースケースに合うテンプレートを選択します。
   - 支出ゼロ予算: 支出が AWS 無料利用枠の制限を超えた後に通知する予算。
   - [月次コスト予算]: 毎月の予算で、予算額を超過した場合、または超えることが予測される場合に通知されます。
   - [日次の Savings Plans のカバレッジ予算]: 設定した目標を下回ると通知される、Savings Plans のカバレッジ予算です。これは、オンデマンド支出をより早く特定するのに役立ちます。これにより、新しいコミットメントの購入を検討できるようになります。
   - [1 日の予約使用率予算]: 定義された目標を下回ると通知される、リザーブドインスタンスの使用率予算です。これは、すでに購入済みの時間単位でのコミットメントの一部が使用されていない時間を特定するために役立ちます。
6. 特定のテンプレートの詳細と設定を更新します。
7. [予算を作成] をクリックします。

各テンプレートにはデフォルト設定がありますが、後で変更できます。これにより、予算の大部分を作成してから、連結アカウントやコストカテゴリフィルターの追加など、高度なワークフローで特定の設定を編集できます。設定を変更するには、[Template settings] (テンプレートの設定) で [Custom] (カスタム) を選択します。

例えば、AWS CLI や CloudFormation でオフラインで使用するためのテンプレートをダウンロードすることもできます。テンプレートをダウンロードするには、[Template settings] (テンプレートの設定) で [JSON] を選択します。

予算のカスタマイズ (アドバンスド)

予算をカスタマイズして、ユースケースに固有のパラメータを設定できます。期間、開始月、特定のアカウントをカスタマイズできます。カスタマイズされた予算を作成するには、5 つのステップのワークフローが必要です。

次を追跡する 4 つの予算タイプから選択できます。

- コスト (「コスト予算の作成」を参照)
- 使用状況 (「使用量の予算の作成」を参照)
- Savings Plans (「Savings Plans 予算を作成する」を参照)
  - Savings Plans の使用状況
  - Savings Plans カバレッジ
- 予約 (「予約予算の作成」を参照)
  - 予約の使用状況
  - 予約カバレッジ

コスト予算の作成

この手順を使用して、コストに基づいて予算を作成します。

コストの予算を作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[予算] を選択します。
3. ページの上部で、[予算を作成] を選択します。
4. [Budget setup] (予算の設定) で、[Customize (advanced)] (カスタマイズ (高度)) を選択します。
5. [Budget types] (予算タイプ) で、[Cost budget] (コストの予算) を選択します。次に、[次へ] を選択します。
6. [詳細] の [予算名] で、予算の名前を入力します。予算名はアカウント内で一意でなければなりません。A〜Z、a〜z、スペース、および次の文字を使用できます。

```
_.:/=+-%@
```

7. [予算額を設定] の [期間] で、実際の支出と予測される支出を予算でリセットする頻度を選択します。

   - [日]: 毎日リセット
   - [月]: 毎月リセット
   - [四半期]: 四半期ごとにリセット
   - [年]: 毎年リセット
   - [カスタム]: 独自の開始日と終了日を指定してリセット

   > **Note**
   >
   > [月] および [四半期] では、予算計画機能を使用して、将来の予算額を設定することができます。[カスタム] の期間は、標準的なリセットオプション以外の期間に合わせて設定できます。例えば、会計年度やプロジェクトの期間に一致する予算期間を作成することができます。

8. [Budget renewal type] (予算の更新タイプ) では、予算期間後にリセットする予算の [Recurring budget] (定期的な予算) を選択します。または、予算期間後にリセットされない 1 回限りの予算の [期限切れになる予算] を選択します。
9. 予算金額に対する追跡を開始する開始日または期間を選択します。[期限切れになる予算] では、予算が終わる終了日または期間を選択します。

   すべての予算の時刻は協定世界時 (UTC) 形式です。
10. [Budgeting method] (予算作成方法) で、予算期間ごとの予算金額を決定する方法を選択します。

    - [Fixed] (固定): 各予算期間でモニタリングする金額を 1 つ設定します。
    - [Planned] (計画): 各予算期間でモニタリングする金額を複数設定します。
    - [Auto-adjusting] (自動調整): 指定した期間における支出パターンに基づいて自動的に調整するための、予算額を設定します。

    各作成手段の詳細については、「the section called “予算作成方法”」を参照してください。
11. 選択した期間の予算額を入力します。この値が、予算が追跡する対象となる金額です。
12. (オプション) [予算の範囲] の下の [フィルター] で、[フィルターを追加] を選択して 1 つまたは複数の available filters を適用します。予算タイプの選択により、コンソールに表示されるフィルターのセットが決まります。

> **Note**
>
> 連結アカウント内で [リンクされたアカウント] フィルターを使用することはできません。

13. (オプション) [予算の範囲] の下の [詳細オプション] で、コストを集計する方法を選択します。

    - [ブレンドコストを使用する]: アカウント間で平均化されたコストを表示します。リザーブドインスタンスや Savings Plans のメリットが均等に分配されます。コミットメントのメリットを共有する組織に有用です。
    - [非ブレンドコストを使用する]: 利用された時点で課金された実際のリソース料金を表示します。アカウント単位での追跡に適しています。
    - [純非ブレンドコストを使用する]: 割引やクレジット適用後の実際のコストを表示します。最終的なコストのモニタリングに役立ちます。
    - [償却コストを使用する]: 前払い分と継続的な支払いを利用期間にわたって按分したコストを表示します。月ごとの一貫した予算計画に役立ちます。
    - [純償却コストを使用する]: 割引やクレジットを適用したうえで、支払い額を期間で按分したコストを表示します。長期的な予算計画に適しています。

14. [次へ] を選択します。
15. [アラートのしきい値を追加] を選択します。
16. [Set alert threshold] (アラートのしきい値の設定) の下にある [Threshold] (しきい値) で、それに到達することが通知を送信する条件となる値を入力します。絶対値または割合 (%) を指定します。例えば、200 ドルの予算があるとします。160ドル (予算の 80%) で通知されるには、絶対予算では **160** またはパーセンテージ予算では **80** と入力します。

    金額の横で、[絶対値] を選択して、コストがしきい値の額を超えた場合に通知されるようにします。または、[予算金額の %] を選択して、コストがしきい値のパーセンテージを超えた場合に通知されるようにします。

    しきい値の横で、[実際] を選択して、実際の支出のアラートを作成します。または、[予測] を選択して、予測支出のアラートを作成します。
17. (オプション) [Notification preferences] (通知設定) の下の [Email recipients (E メールの受信者)] で、アラートに通知したい E メールアドレスを入力します。複数の E メールアドレスを入力する場合は、カンマで区切ります。通知は、最大 10 個の E メールアドレスに送信できます。

18. (オプション) [Notification preferences] (通知設定) の下の [Amazon SNS Alerts] (Amazon SNS アラート) で、Amazon SNS トピックの Amazon リソースネーム (ARN) を入力します。トピックを作成する手順については、予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する を参照してください。

> **Important**
>
> Amazon SNS 通知を用いた予算を作成すると、指定した E メールアドレスに Amazon SNS より確認メールが送信されます。件名は「AWS Notification - Subscription Confirmation」です。受信者は、今後の通知を受信するには確認メールで [サブスクリプションを確認] を選択する必要があります。

19. (オプション) AWS Chatbot アラートの通知設定で、予算アラートを Amazon Chime または Slack チャットルームに送信するように AWS Chatbot を設定できます。これらのアラートは AWS Chatbot コンソールで設定します。
20. [次へ] を選択します。
21. (オプション) Attach アクションでは、アラートのしきい値を超えたときに AWS Budgets がユーザーに代わって実行するアクションを設定できます。詳細と手順については、予算アクションを設定するには を参照してください。
22. [次へ] を選択します。

> **Note**
>
> 続行するには、アラートごとに以下のパラメータの少なくとも 1 つを設定する必要があります。
>
> - 通知の E メール受信者
> - 通知用の Amazon SNS トピック
> - 予算アクション

23. 予算設定を確認し、[予算の作成] を選択します。

使用量の予算の作成

この手順を使用して、使用量に基づく予算を作成します。

使用量の予算を作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[予算] を選択します。
3. ページの上部で、[予算を作成] を選択します。
4. [Budget setup] (予算の設定) で、[Customize (advanced)] (カスタマイズ (高度)) を選択します。
5. [Budget types] (予算タイプ) で、[Usage budget] (使用予算) を選択します。次に、[次へ] を選択します。
6. [詳細] の [予算名] で、予算の名前を入力します。予算名はアカウント内で一意でなければなりません。A〜Z、a〜z、スペース、および次の文字を使用できます。

```
_.:/=+-%@
```

7. [予算を組むものを選ぶ] の [予算の対象] で、[使用タイプグループ] または [使用タイプ] を選択します。使用タイプグループは、同じ測定単位を持つ使用タイプのコレクションです。例えば、時間単位の使用量を測定する各リソースは、1 つの使用タイプグループにまとめられます。
   - [使用タイプグループ] では、予算でモニタリングする測定単位と該当するサービス使用状況を選択します。
   - [使用タイプ] では、予算がモニタリングする特定のサービス使用量の測定値を選択します。
8. [予算額の設定] の下の [期間] で、実際の使用量と予測される使用量を予算でリセットする頻度を選択します。
   - [日]: 毎日リセット
   - [月]: 毎月リセット
   - [四半期]: 四半期ごとにリセット
   - [年]: 毎年リセット
   - [カスタム]: 独自の開始日と終了日を指定してリセット

> **Note**
>
> [月] および [四半期] では、予算計画機能を使用して、将来の予算額を設定することができます。[カスタム] の期間は、標準的なリセットオプション以外の期間に合わせて設定

できます。例えば、会計年度やプロジェクトの期間に一致する予算期間を作成することができます。

9. [予算更新タイプ] では、各予算期間の終了時にリセットする予算の [定期予算] を選択します。または、所定の予算期間後にリセットされない 1 回限りの予算では、[期限切れになる予算] を選択します。
10. 予算金額に対する追跡を開始する開始日または期間を選択します。[期限切れになる予算] では、予算が終わる終了日または期間を選択します。

    すべての予算の時刻は協定世界時 (UTC) 形式です。
11. [Budgeting method] (予算作成方法) で、予算期間ごとの予算金額を決定する方法を選択します。

    - [Fixed] (固定): 各予算期間でモニタリングする金額を 1 つ設定します。
    - [Planned] (計画): 各予算期間でモニタリングする金額を複数設定します。
    - [Auto-adjusting] (自動調整): 指定した期間における使用パターンに基づいて自動的に調整するための、予算額を設定します。

    各作成手段の詳細については、the section called “予算作成方法” を参照してください。
12. (オプション) [Budget scope] (予算スコープ) の下の [Filters] (フィルター) で、[Add filter] (フィルターの追加) を選択して 1 つまたは複数の available filters を適用します。予算タイプの選択により、コンソールに表示されるフィルターのセットが決まります。

    > **Note**
    >
    > 連結アカウント内で [リンクされたアカウント] フィルターを使用することはできません。

13. [次へ] を選択します。
14. [アラートのしきい値を追加] を選択します。
15. [Set alert threshold] (アラートのしきい値の設定) の下にある [Threshold] (しきい値) で、それに到達することが通知を送信する条件となる値を入力します。絶対値または割合 (%) を指定します。例えば、200 時間の予算があるとします。160時間 (予算の 80%) で通知されるには、絶対予算では **160** またはパーセンテージ予算では **80** と入力します。

金額の横にある [絶対値] を選択して、使用量がしきい値を超えたときに通知されるようにします。または、[予算金額の %] を選択して、使用量がしきい値を超えたときに通知されるようにします。

しきい値の横にある [実際] を選択して、実際の使用量に関するアラートを作成します。または、[予測] を選択して、予測される使用量に関するアラートを作成します。

16. (オプション) [Notification preferences] (通知設定) の下の [Email recipients (E メールの受信者)] で、アラートに通知したい E メールアドレスを入力します。複数の E メールアドレスを入力する場合は、カンマで区切ります。通知は、最大 10 個の E メールアドレスに送信できます。
17. (オプション) [Notification preferences] (通知設定) の下の [Amazon SNS Alerts] (Amazon SNS アラート) で、Amazon SNS トピックの Amazon リソースネーム (ARN) を入力します。トピックを作成する手順については、予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する を参照してください。

> **Important**
>
> Amazon SNS 通知を用いた予算を作成すると、指定した E メールアドレスに Amazon SNS より確認メールが送信されます。件名は「AWS Notification - Subscription Confirmation」です。受信者は、今後の通知を受信するには確認メールで [サブスクリプションを確認] を選択する必要があります。

18. (オプション) AWS Chatbot アラートの通知設定で、予算アラートを Amazon Chime または Slack チャットルームに送信するように AWS Chatbot を設定できます。これらのアラートは AWS Chatbot コンソールで設定します。
19. [次へ] を選択します。
20. (オプション) Attach アクションでは、アラートのしきい値を超えたときに AWS Budgets がユーザーに代わって実行するアクションを設定できます。詳細と手順については、予算アクションを設定するには を参照してください。
21. [次へ] を選択します。

> **Note**
>
> 続行するには、アラートごとに以下のパラメータの少なくとも 1 つを設定する必要があります。
>
> - 通知の E メール受信者

- 通知用の Amazon SNS トピック
- 予算アクション

22. 予算設定を確認し、[予算の作成] を選択します。

Savings Plans 予算を作成する

この手順を使用して、特に Savings Plans の使用率またはカバリッジのための予算を作成します。

> **Note**
>
> Savings Plans の使用率とカバレッジのメトリクスが生成されるまでに最大 48 時間かかります。これは、コストと使用状況データの時間枠よりも長くなります。

Savings Plans 予算を作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[予算] を選択します。
3. ページの上部で、[予算を作成] を選択します。
4. [Budget setup] (予算の設定) で、[Customize (advanced)] (カスタマイズ (高度)) を選択します。
5. [Budget types] (予算タイプ) で、[Savings Plans budget] (Savings Plans の予算) を選択します。次に、[次へ] を選択します。
6. [詳細] の [予算名] で、予算の名前を入力します。予算名はアカウント内で一意でなければなりません。A〜Z、a〜z、スペース、および次の文字を使用できます。

```
_.:/=+-%@
```

7. [使用率のしきい値] の [期間] で、追跡される使用率またはカバレッジを予算がリセットする頻度を選択します。

- [日]: 毎日リセット
- [月]: 毎月リセット
- [四半期]: 四半期ごとにリセット
- [年]: 毎年リセット

- [カスタム]: 独自の開始日と終了日を指定してリセット

すべての予算の時刻は協定世界時 (UTC) 形式です。

> **Note**
>
> [カスタム] の期間は、標準的なリセットオプション以外の期間に合わせて設定できます。例えば、会計年度やプロジェクトの期間に一致する予算期間を作成することができます。

8. [支出をモニタリングする] では、[Savings Plans の使用率] を選択して、使用した Savings Plans はどの程度かを追跡します。または、[Savings Plans のカバレッジ] を選択して、Savings Plans の対象になっているインスタンスの使用量はどの程度かを追跡できます。

   使用率しきい値には、 AWS 通知する使用率を入力します。例えば、90% の Savings Plans 使用率を超えるように維持する場合の使用率の予算では、「**90** 」と入力します。全体の Savings Plans 使用率が 90% を下回ると、予算によって通知されます。

   カバレッジしきい値には、 AWS 通知するカバレッジの割合を入力します。例えば、80% を超えるように維持する場合のカバリッジの予算では、「**80**」と入力します。全体のカバリッジが 80% を下回ると、予算によって通知されます。

9. (オプション) [Budget scope] (予算スコープ) の下の [Filters] (フィルター) で、[Add filter] (フィルターの追加) を選択して 1 つまたは複数の available filters を適用します。予算タイプの選択により、コンソールに表示されるフィルターのセットが決まります。

   > **Note**
   >
   > 連結アカウント内で [リンクされたアカウント] フィルターを使用することはできません。

10. [次へ] を選択します。
11. [通知設定] の [E メールの受信者] で、アラートで通知する E メールアドレスを入力します。複数の E メールアドレスを入力する場合は、カンマで区切ります。通知は、最大 10 個の E メールアドレスに送信できます。
12. (オプション) [Amazon SNS Alerts] (Amazon SNS アラート) では、Amazon SNS トピックの Amazon リソースネーム (ARN) を入力します。トピックを作成する手順については、予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する を参照してください。

> **Important**
>
> Amazon SNS 通知を用いた予算を作成すると、指定した E メールアドレスに Amazon SNS より確認メールが送信されます。件名は「AWS Notification - Subscription Confirmation」です。受信者は、今後の通知を受信するには確認メールで [サブスクリプションを確認] を選択する必要があります。

13. (オプション) [AWS Chatbot アラート] では、 AWS Chatbot を設定して、Amazon Chime または Slack チャットルームに予算アラートを送信するよう選択できます。これらのアラートは AWS Chatbot コンソールを使用して設定します。
14. [次へ] を選択します。

> **Note**
>
> 続行するには、通知用に E メール受信者または Amazon SNS トピックを少なくとも 1 つ設定する必要があります。

15. 予算設定を確認し、[予算の作成] を選択します。

予約予算の作成

この手順を使用して、RI 使用率またはカバレッジの予算を作成します。

> **Note**
>
> 予約の使用率とカバレッジのメトリクスが生成されるまでに最大 48 時間かかります。これは、コストと使用状況データの時間枠よりも長くなります。

予約予算を作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[予算] を選択します。
3. ページの上部で、[予算を作成] を選択します。
4. [Budget setup] (予算の設定) で、[Customize (advanced)] (カスタマイズ (高度)) を選択します。

5. [Budget types] (予算タイプ) で、[Reservation budget] (予約予算) を選択します。次に、[次へ] を選択します。
6. [詳細] の [予算名] で、予算の名前を入力します。予算名はアカウント内で一意でなければなりません。A〜Z、a〜z、スペース、および次の文字を使用できます。

   ```
   _.:/=+-%@
   ```

7. [使用率のしきい値] の [期間] で、追跡される使用率またはカバレッジを予算がリセットする頻度を選択します。

   - [日]: 毎日リセット
   - [月]: 毎月リセット
   - [四半期]: 四半期ごとにリセット
   - [年]: 毎年リセット
   - [カスタム]: 独自の開始日と終了日を指定してリセット

   すべての予算の時刻は協定世界時 (UTC) 形式です。

   > **Note**
   >
   > [カスタム] の期間は、標準的なリセットオプション以外の期間に合わせて設定できます。例えば、会計年度やプロジェクトの期間に一致する予算期間を作成することができます。

8. [支出をモニタリングする] では、[予約の使用率] を選択して、使用した予約はどの程度かを追跡します。または、[予約のカバレッジ] を選択して、予約の対象になっているインスタンスの使用量はどの程度かを追跡できます。
9. [サービス] では、予算を追跡するサービスを選択します。
10. 使用率しきい値には、 AWS 通知する使用率を入力します。例えば、90% の RI 使用率を超えるように維持する場合の使用率の予算では、「**90**」と入力します。全体の RI 使用率が 90% を下回ると、予算によって通知されます。

    カバレッジしきい値には、 AWS 通知するカバレッジの割合を入力します。例えば、80% を超えるように維持する場合のカバリッジの予算では、「**80**」と入力します。全体のカバリッジが 80% を下回ると、予算によって通知されます。

11. (オプション) [Budget scope] (予算スコープ) の下の [Filters] (フィルター) で、[Add filter] (フィルターの追加) を選択して 1 つまたは複数の available filters を適用します。予算タイプの選択により、コンソールに表示されるフィルターのセットが決まります。

> **Note**
>
> 連結アカウント内で [リンクされたアカウント] フィルターを使用することはできません。

12. [次へ] を選択します。
13. [通知設定] の [E メールの受信者] で、アラートで通知する E メールアドレスを入力します。複数の E メールアドレスを入力する場合は、カンマで区切ります。通知は、最大 10 個の E メールアドレスに送信できます。
14. (オプション) [Amazon SNS Alerts] (Amazon SNS アラート) では、Amazon SNS トピックの Amazon リソースネーム (ARN) を入力します。トピックを作成する手順については、予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する を参照してください。

> **Important**
>
> Amazon SNS 通知を用いた予算を作成すると、指定した E メールアドレスに Amazon SNS より確認メールが送信されます。件名は「AWS Notification - Subscription Confirmation」です。受信者は、今後の通知を受信するには確認メールで [サブスクリプションを確認] を選択する必要があります。

15. (オプション) [AWS Chatbot アラート] では、 AWS Chatbot を設定して、Amazon Chime または Slack チャットルームに予算アラートを送信するよう選択できます。これらのアラートは AWS Chatbot コンソールを使用して設定します。
16. [次へ] を選択します。

> **Note**
>
> 続行するには、通知用に E メール受信者または Amazon SNS トピックを少なくとも 1 つ設定する必要があります。

17. 予算設定を確認し、[予算を作成] を選択します。

予算作成方法

費用の予算枠、もしくは使用量の予算額を、以下のいずれかの方法で設定できます。これらの予算は、従来の方法で予算を組んでいる場合でも (計画のための追跡など)、支出をモニタリングしてコストがしきい値を超えたときにアラートを受信する場合でも設定できます。

[固定]

固定予算を選択した場合は、毎予算期間でモニタリングする金額が同額に設定されます。例えば、毎期間の予算を、100 USD を基準にモニタリングするためには固定方式の予算額を使用します。

[Planned] (計画)

計画による予算作成は、月別または四半期単位の予算に対してのみ使用できます。計画による予算では、各期間で複数の金額を設定し、それぞれの予算をモニタリングできます 例えば、月別の支出に計画による予算を適用すると、最初の月には 100 USD を基準に、2 か月目には 110 USD を基準にし、その後の月については別の金額を基準にして、支出のモニタリングが行えます。

計画による予算では、最大 12 か月または 4 四半期までの期間について予算額を設定できます。12 か月または 4 四半期が経過した後は、予算額は最後の期間での金額に固定されます。

[Auto-adjusting] (自動調整)

自動調整による予算では、指定した期間での支出または使用量に基づいて予算額が動的に設定されます。履歴または予測を基に選択した時間範囲が、予算の自動調整のためのベースラインとなります。

新しい期間の開始時に、 AWS Budgets はベースライン時間範囲内のコストまたは使用状況データから予算額を計算します。アカウントの AWS コストや使用量に対する期待に最も適した時間範囲を選択してください。選択した時間範囲での使用量が、平均的な想定を下回っている場合には、必要以上に多くの予算アラートが表示されることがあります。また、使用量が平均的な予想を上回る時間範囲を選択すると、必要な数の予算アラートが表示されなくなる可能性があります。

支出の自動調整による予算作成には、例えば、過去 6 か月をベースラインに設定します。このシナリオでは、過去 6 か月間の各予算期間の平均支出額が 100 USD の場合、新しい期間の予算は 100 USD に自動調整されます。

AWS Budgets が支出または使用量の変化に基づいて予算額を更新すると、すべての予算アラート通知サブスクライバーは、予算額が変更されたという通知を受け取ります。

> **Note**
>
> - AWS Budgets では、支出や使用量に関するデータが存在しないベースライン期間内の開始時点の情報は、自動調整の予算額の算出に使用しません。例えば、ベースラインの時間範囲を過去 4 四半期に設定するとします。ただし、第 1 四半期のアカウントには支出に関するデータがありません。この場合、 AWS Budgets は過去 3 四半期のみから自動調整された予算額を計算します。
> - 予算の作成時または編集時には、一時的な予測金額を見ることができます。予算を保存すると、自動的に算出された予算が最初に設定されます。

予算のフィルタリング

選択した予算タイプに基づいて、使用可能な予算フィルターを 1 つ以上選択できます。

API オペレーション

アクション (例: `CreateBucket`) を選択します。

アベイラビリティーゾーン

予算を作成するリソースが実行されている `Availability zone` を選択します。

請求エンティティ

請求書または取引が他の AWS サービスの購入用 AWS Marketplace であるか、購入用であるかを特定するのに役立ちます。可能な値は以下のとおりです:

- AWS: の 以外の AWS サービスのトランザクションを識別します AWS Marketplace。
- AWS Marketplace: 購入を識別します AWS Marketplace。

料金タイプ

さまざまな種類の料金または手数料。

- クレジット: アカウントに適用される AWS クレジット。
- サイクル外のその他の料金: 前払いの予約料金やサポート料金以外のすべてのサブスクリプション料金。
- 定期的な予約料金: アカウントへの定期的な料金。一部前払いまたは前払いなしのリザーブドインスタンスを から購入する場合 AWS、インスタンスの使用料金を下げる代わりに定期的な料金を支払います。定期的な料金は、 がアカウントに AWS 請求する毎月 1 日に急増する可能性があります。

- 返金: 受け取った返金。返金は、データテーブルに独立した行項目として表示されます。返金額はコスト計算の負の値を表すため、グラフの項目としては表示されません。グラフには正の値のみ表示されます。
- 予約適用使用量: 予約割引 AWS を適用した使用量。
- Savings Plan 適用済み使用量: Savings Plans によってカバーされているオンデマンド料金。非ブレンドコスト表示では、これはオンデマンド料金で対象となる使用量を表します。償却コスト表示では、これは Savings Plan 料金で対象となる使用量を表します。Savings Plan の対象となる使用量明細項目は、対応するSavings Plan 否定項目によって相殺されます。
- Savings Plan 相殺額: 対応する Savings Plans 適用済み使用量に関連して、Savings Plans の特典によって相殺されるコスト。
- Savings Plans 定期料金: 前払いなしまたは一部前払いの Savings Plans に対応する、毎時間発生する定期的な料金。Savings Plan 定期料金は、前払いなしまたは一部前払い Savings Plan を購入した日に、最初に請求書に追加されます。初回購入後、時間ごとの定期料金が AWS によって加算されます。全額前払いの Savings Plans の場合、明細項目には請求期間中に未使用の Savings Plans の部分が表示されます。例えば、Savings Plans が請求期間に 100% 使用された場合、償却コストビューには「0」と表示されます。「0」より大きい数字は、未使用の Savings Plans を示します。
- Savings Plans の前払い料金: 全額前払いまたは一部前払い Savings Plan を購入した際に発生する、一度限りの前払い料金。。
- サポート料金: AWS がサポートプランに対して請求する課金 サポートプランを から購入すると AWS、サービスサポートと引き換えに月額料金が発生します。月額料金は、 がアカウントに AWS 請求する毎月 1 日に急増する可能性があります。
- 税金: コストチャートの手数料や料金に関連付けられるすべての税金。Cost Explorer では、すべての税金がコストの 1 つのコンポーネントとして追加されます。5 つ以下のフィルターを選択すると、Cost Explorer に税金支出が 1 つのバーとして表示されます。6 つ以上のフィルターを選択する場合には、Cost Explorer は 5 つの棒、スタック、または線を表示し、税金を含むすべての残りのアイテムを 6 番目の棒、スタック断面、または [その他] とラベル付けされた折れ線に集計します。
- 前払い予約料金: アカウントに請求される前払い料金。から全額前払いまたは一部前払いのリザーブドインスタンスを購入すると AWS、インスタンスの使用料金を下げる代わりに前払い料金が発生します。前払い料金は、購入する日数または月数のグラフに応じた額となります。
- 使用状況: 予約割引を適用 AWS しなかった使用状況。

コストカテゴリ

この予算で追跡するコストカテゴリグループと価値を選択します。コストカテゴリの設定の詳細については、AWS Cost Categoriesを使用したコストの整理」を参照してください。

インスタンスファミリー

この予算を使用して追跡するインスタンスのファミリーを選択します。

インスタンスタイプ

この予算を使用して追跡するインスタンスのタイプを選択します。

請求書を発行する事業体

請求書を発行する AWS エンティティ。可能な値は以下のとおりです:

- Amazon Web Services, Inc. – 世界中のお客様に請求書を発行する事業体 (該当する場合)。
- Amazon Web Services India Private Limited – インドを拠点とするお客様に請求書を発行する事業体。
- Amazon Web Services South Africa Proprietary Limited – 南アフリカのお客様に請求書を発行する事業体。

法人

特定の製品またはサービスの登録販売者。ほとんどの場合、請求書を発行する事業体と法律上の事業体は同じです。サードパーティーの AWS Marketplace トランザクションでは、値が異なる場合があります。可能な値は以下のとおりです:

- Amazon Web Services – AWS サービスを販売する事業体。
- Amazon Web Services India Private Limited – インドの AWS サービスのリセラーとして機能するインドのローカルエンティティ。

> **Note**
>
> お客様のアカウントが EMEA (トルコと南アフリカを除く) にあり、その出品者が EMEA で適格である場合、お客様の購入のマーケットプレイスの運営者は Amazon Web Services EMEA SARL です。購入にはサブスクリプションが含まれます。出品者が EMEA で適格ではない場合、購入についてのマーケットプレイスの運営者は Amazon Web Services, Inc. です。詳細については、「AWS Europe」を参照してください。

連結アカウント

予算を作成する一括請求ファミリーのメンバーである AWS アカウントを選択します。詳細については、AWS 請求ユーザーガイドのAWS Organizationsの一括請求を参照してください。

> **Note**
>
> このフィルターはメンバーアカウント内で使用しないでください。現在のアカウントがメンバーアカウントの場合、`linked account` によるフィルタリングはサポートされていません。

プラットフォーム

RI が動作するオペレーティングシステムを選択します。[プラットフォーム] は、[Linux] または [Windows] から選択します。

購入オプション

[On Demand Instances]、[Standard Reserved Instances]、または [Savings Plans] を選択します。

リージョン

予算を作成するリソースが実行されているリージョンを選択します。

Savings Plans のタイプ

予算を組むタイプとして、[Compute Savings Plans (Savings Plans のコンピューティング)] と [EC2 Instance Savings Plans] のいずれかを選択します。Savings Plans タイプフィルターは、Savings Plans 使用率の予算に対してのみ使用できます。

スコープ

RI のスコープを選択します。スコープはリージョンあるいはゾーンのいずれかになります。

サービス

AWS サービスを選択します。請求エンティティ、請求エンティティ、法人エンティティと組み合わせると、サービスディメンションを使用して特定の AWS Marketplace 購入でコストをフィルタリングすることもできます。これには、特定の AMI、ウェブサービス、およびデスクトップアプリのコストが含まれます。詳細については、「 とは」を参照してください AWS Marketplace。

> **Note**
>
> このフィルターは、コスト、Savings Plans やリザーブドインスタンス (RI) の使用状況、または Savings Plans と RI カバレッジの予算にのみ使用できます。Cost Explorer には、AWS Marketplace ソフトウェア販売者の収益や使用状況は表示されません。
> Savings Plans の使用状況、RI の使用状況、Savings Plans のカバレッジレポート、RI のカバレッジレポートでは、一度に 1 つのサービスのみで、次のサービスのみをフィルタリングできます。
>
> - Amazon Elastic Compute Cloud
> - Amazon Redshift
> - Amazon Relational Database Service
> - Amazon ElastiCache
> - Amazon OpenSearch Service

タグ:

タグを有効にした場合は、リソースタグを選択します。タグは、リソースのコストを整理し、詳細レベルで追跡するために使用できるラベルです。 AWS 生成のタグとユーザー定義タグがあります。ユーザー定義タグキーは `user:` プレフィックスを使用する必要があります。タグを使用するには、それを有効にする必要があります。詳細については、AWS「生成されたコスト配分タグのアクティブ化」および「ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化」を参照してください。

テナンシー

他のユーザーと RI を共有するかどうかを選択します。[テナンシー] は、[専用] または [デフォルト] から選択します。

使用タイプ

使用タイプは、各サービスが特定タイプのリソースの使用量を測定するために使用する単位です。S3 などのフィルターを選択してから、DataTransfer-Out-Bytes (GB) などの使用タイプの値を選択すると、コストは S3 DataTransfer-Out-Bytes (GB) に制限されます。特定の測定単位のみの使用料の予算を作成できます。[使用タイプグループ] ではなく [使用タイプ] を選択した場合、予算は、使用タイプについて使用可能なすべての測定単位をモニタリングします。

使用タイプグループ

使用タイプグループは、同じ測定単位を持つ使用タイプのコレクションです。[使用タイプグループ] と [使用タイプ] の両方のフィルターを選択した場合、Cost Explorer は自動的にグループの測定単位に制限される使用タイプを表示します。例えば、EC2: Running Hours (Hrs) グループを選択したうえで、[使用タイプ] に対し EC2-Instances フィルターを選択するとします。Cost Explorer には、測定が時間単位で行われる使用タイプのみが表示されます。

予算の表示

[予算の概要] ページには予算の状態の概要が表示されます。予算は、次のデータとともにフィルタリング可能なテーブルに一覧表示されます。

- 予算期間中に予算に計上した現在のコストと使用量
- 予算期間中の予算されたコストと使用量
- 予算期間中の予想使用量またはコスト
- 予算額と比較したコストまたは使用量を示す割合
- 予算額と比較した予測コストまたは使用量を示す割合
- 予算に関連付けられている請求ビューとそのヘルスステータス:
  - HEALTHY: 予算が請求ビューのデータに正常にアクセスできていることを示します
  - UNHEALTHY: 予算が請求ビューのデータにアクセスできないことを示します。これは、アクセス許可が取り消された場合やビューが削除された場合に発生する可能性があります。

> **Note**
>
> クロスアカウント請求ビューに基づいて予算の予算パフォーマンス履歴にアクセスする場合は、billing:GetBillingViewData アクセス許可が必要です。このアクセス許可は、オペレーションによってソースアカウントの請求ビューから過去のコストと使用状況データが提供されるために必要となります。
> AWS は、請求書転送アカウントの請求転送ビューをサポートしていません。

予算の表示方法

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます

2. ナビゲーションペインで [予算] を選択します。
3. 予算についてのフィルタとコストの変動を表示するには、予算のリストからその予算の名前を選択します。

> **Note**
>
> [Overview] (概要) テーブルのチェックボックスをオンにすると、複数の予算に関する情報を一度に表示できます。これにより、右側に分割ビューパネルが開き、アラートを並べ替えたりフィルタリングしたりして、予算レポートをカスタマイズできます。

予算の読み取り

予算に関する詳細情報を表示するには、2 つの方法があります。

- テーブルで予算を選択し、右側の予算履歴とアラートのステータスが表示された分割ビューパネルを開きます。分割ビューパネルでは、ナビゲーションボタンを使用して、ページを離れずに予算間を移動できます。ナビゲーションボタンを使用するには、一度に 1 つの予算を選択します。複数の予算が選択されている場合、ナビゲーションボタンは非表示になります。
- 予算名を選択して、予算詳細ページを表示します。このページには、次の情報が含まれます。
  - [現行と予算] – 現在の発生コストと予算コストを比較します。
  - [予測と予算] – 予測コストと予算コストを比較します。
  - [アラート] – 予算の状態に関するすべてのアラートと通知。
  - [詳細] — 予算の額、タイプ、期間、およびその他の追加パラメータ。
  - [予算履歴]タブ – 予算の履歴を表示するグラフとテーブル。QUARTERLY 予算には過去 4 四半期の履歴が表示され、MONTHLY 予算には過去 12 か月の履歴が表示されます。ANNUAL 予算の予算履歴は使用できません。

    予算期間に対する予算額を変更した場合、テーブル内の予算額が最新の予算額です。例えば、1 月に月額の予算を 100 に設定し、2 月に予算を 200 に変更した場合、テーブルの 2 月の行には 200 の予算のみが表示されます。
  - アラートタブ — 予算の状態に関するアラートの詳細 (アラートのしきい値を超えるための条件を説明している定義を含む)。
- [カスタム] 期間を使用する予算の場合、次の情報を表示できます。
  - [現行と予算] – 現在発生しているコストを、対象期間の合計予算と比較します。

- [残り時間] - カスタム予算期間の残り期間を表示します。
- [履歴データ] - 次の期間に基づいて、予算の履歴データを表示します。
  - リザーブドインスタンス (RI) および Savings Plans (SP) 予算の場合: 最大 14 か月分の履歴データ
  - コストと使用量の予算の場合:
    - 複数年データが有効な場合 - 最大 38 か月分の履歴データ
    - 複数年データが無効な場合 - 最大 14 か月分の履歴データ
  - 日次ビューの場合: 最大 14 か月分の履歴データ
  - 月次ビューの場合: 最大 12 か月分の履歴データ

この情報を使用して、過去のコストと使用状況が予算とどれほど合っているのかを確認できます。テーブルを作成するために Budgets で使用したすべてのデータを次の手順によってダウンロードすることもできます。

CSVファイルで予算をダウンロードするには

1. https://console.aws.amazon.com/cost-management/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [予算] を選択します。
3. 予算についてのフィルターとコストの変動を表示するには、予算のリストからその予算名を選択します。
4. [予算履歴] タブで、[CSV 形式でダウンロード] を選択します。
5. 画面上の指示に従います。

予算の編集

> **Note**
>
> 予算名を編集することはできません。

予算を編集するには

1. で Billing and Cost Management コンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/cost-management/
2. ナビゲーションペインで [予算] を選択します。
3. [予算] ページで、予算のリストから、編集する予算を選択します。
4. [編集] を選択します。
5. 編集するパラメータを変更します。予算名を変更することはできません。
6. 各ページで変更を行ったならば、[Next] を選択します。
7. [保存] を選択します。

予算のダウンロード

CSV ファイルとして予算をダウンロードできます。ファイルには、すべての予算のすべてのデータ (予算名、現在値と予測値、予算値など) が含まれます。

予算をダウンロードするには

1. で Billing and Cost Management コンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/cost-management/
2. ナビゲーションペインで [予算] を選択します。
3. [CSV のダウンロード] を選択します。
4. ファイルを開くか保存します。

予算のコピー

既存の予算を新しい予算にコピーできます。これを行うことで、フィルターと通知の設定を元の予算から保持したり、変更したりできます。請求情報とコスト管理では、新しい予算を作成するページのフィールドに値が自動的に入力されます。このページで予算パラメータを更新できます。

予算をコピーするには

1. で Billing and Cost Management コンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/cost-management/
2. ナビゲーションペインで [予算] を選択します。

3. 予算のリストから、コピーする予算を選択します。
4. ページの上部で、[Actions (アクション)] を選択してから、[Copy (コピー)] を選択します。
5. 更新するパラメータを変更します。予算名を変更する必要があります。
6. 各ページで必要な変更を行ったならば、[Next] を選択します。
7. [予算をコピー] を選択します。

予算の削除

予算およびその関連付けられた E メールと Amazon SNS の通知はいつでも削除できます。ただし、予算は削除後に回復することはできません。予算を削除すると、その予算に関連付けられているすべての E メール通知および通知サブスクライバーも削除されます。

予算を削除するには

1. で Billing and Cost Management コンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/cost-management/
2. ナビゲーションペインで [予算] を選択します。
3. 予算のリストから、削除する予算を 1 つ以上選択します。
4. ページの上部で、[Actions (アクション)] を選択してから、[Delete (削除)] を選択します。
5. [確認] を選択してください。

予算アクションを設定する

AWS 予算が特定のコストまたは使用量のしきい値を超えた場合、 Budgets を使用してユーザーに代わってアクションを実行できます。これを行うには、しきい値を設定した後、自動的に実行するか、手動承認後に実行するように予算アクションを設定します。

使用可能なアクションには、IAM ポリシーまたはサービスコントロールポリシー (SCP) の適用が含まれます。また、アカウント内の特定の Amazon EC2 または Amazon RDS インスタンスをターゲットにすることも含まれます。予算期間中に新しいリソースをプロビジョニングする必要がないように、SCP を使用できます。

> **Note**
>
> 管理アカウントから、別のアカウントに SCP を適用できます。ただし、別のアカウントで Amazon EC2 または Amazon RDS インスタンスをターゲットにすることはできません。

また、複数のアクションを設定して、同じ通知しきい値で開始することもできます。例えば、その月の予測コストの 90% に達したときに自動的に開始するようにアクションを設定できます。それを行うには、次のアクションを実行します。

- ユーザー、グループ、またはロールが Amazon EC2 の追加リソースをプロビジョニングする能力を制限するカスタム Deny IAM ポリシーを適用します。
- US East (N. Virginia) us-east-1 の特定の Amazon EC2 インスタンスをターゲットにします。

トピック

- AWS Budgets が予算アクションを実行するためのロールの設定
- 予算アクションを設定する
- 予算アクションを確認して承認する

AWS Budgets が予算アクションを実行するためのロールの設定

予算アクションを使用するには、 AWS Budgets のサービスロールを作成する必要があります。サービスロールとは、サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける IAM ロールです。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除できます。詳細については、IAM ユーザーガイドの AWS のサービスに許可を委任するロールを作成するを参照してください。

AWS Budgets がユーザーに代わってアクションを実行できるようにするには、サービスロールに必要なアクセス許可を付与する必要があります。次のテーブルは、サービスロールに付与できる許可を一覧表示します。

予算アクションの許可ポリシー	指示
AWS リソースを制御するアクセス許可を付与します	これは AWS マネージドポリシーです。

予算アクションの許可ポリシー	指示
	マネージドポリシーをアタッチする手順については、IAM ユーザーガイドの「アイデンティティの許可ポリシーとしてマネージドポリシーを使用するには (コンソール)」を参照してください。
AWS Budgets に IAM ポリシーと SCPs の適用を許可する	このサンプルポリシーは、インラインポリシーまたはカスタマーマネージドポリシーとして使用できます。 インラインポリシーを埋め込む手順については、IAM ユーザーガイドの「ユーザーまたはロールのインラインポリシーを埋め込むには (コンソール)」を参照してください。 カスタマーマネージドポリシーを作成する手順については、IAM ユーザーガイドの「IAM ポリシーの作成 (コンソール) 」を参照してください。
AWS Budgets が IAM ポリシーと SCPsし、ターゲット EC2 インスタンスと RDS インスタンスを適用できるようにする	このサンプルポリシーは、インラインポリシーまたはカスタマーマネージドポリシーとして使用できます。 インラインポリシーを埋め込む手順については、IAM ユーザーガイドの「ユーザーまたはロールのインラインポリシーを埋め込むには (コンソール)」を参照してください。 カスタマーマネージドポリシーを作成する手順については、IAM ユーザーガイドの「IAM ポリシーの作成 (コンソール) 」を参照してください。

予算アクションを設定する

予算または使用量の予算のアラートに予算アクションをアタッチできます。新しい予算で予算アクションを設定するには、まず コスト予算の作成 または 使用量の予算の作成 のステップに従います。既存のコストまたは使用量の予算で予算アクションを設定するには、まず 予算の編集 のステップに従います。次に、予算を作成または編集する [アラートを設定する] ステップに到達したならば、次の手順に従います。

予算アクションを設定するには

1. 新しいアラートに対して予算アクションを設定するには、[アラートしきい値の追加] を選択します。既存のアラートで予算アクションを設定するには、ステップ 7 に進みます。
2. [アラートのしきい値の設定] の下の [しきい値] で、通知を受けるために到達するのに必要な値を入力します。絶対値または割合 (%) を指定します。例えば、200 ドルの予算があるとします。160ドル (予算の 80%) で通知されるには、絶対予算では **160** またはパーセンテージ予算では **80** と入力します。

   金額の横で、[絶対値] を選択して、コストがしきい値の額を超えた場合に通知されるようにします。または、[予算金額の %] を選択して、コストがしきい値のパーセンテージを超えた場合に通知されるようにします。

   しきい値の横で、[実際] を選択して、実際の支出のアラートを作成します。または、[予測] を選択して、予測支出のアラートを作成します。
3. (オプション) [通知設定 - オプション] の下の [E メールの受信者] で、アラートに通知したい E メールアドレスを入力します。複数の E メールアドレスを入力する場合は、カンマで区切ります。通知には、最大 10 個の E メールアドレスを関連付けることができます。
4. (オプション) [通知設定 - オプション] の下の [Amazon SNS アラート] で、Amazon SNS トピックの Amazon リソースネーム (ARN) を入力します。トピックを作成する手順については、「予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する」を参照してください。

> **Important**
>
> Amazon SNS 通知を用いた予算を作成すると、指定した E メールアドレスに Amazon SNS より確認メールが送信されます。件名は「AWS Notification - Subscription Confirmation」です。受信者は、今後の通知を受信するには確認メールで [サブスクリプションを確認] を選択する必要があります。

5. (オプション) [通知設定 - オプション] の下の、[チャットアプリケーションの Amazon Q Developer アラート] で Amazon Chime または Slack チャットルームに予算アラートを送信するようチャットアプリケーションの Amazon Q Developer を設定できます。これらのアラートは、チャットアプリケーションの Amazon Q Developer コンソールで設定します。
6. [次へ] を選択します。
7. [アクションをアタッチする - オプション] では、[アクションを追加する] を選択します。

   a. 「IAM ロールの選択」で、 AWS Budgets がユーザーに代わってアクションを実行することを許可する IAM ロールを選択します。

   > **Note**
   >
   > IAM ロールと AWS Budgets に適切なアクセス許可を設定して割り当てなかった場合、 AWS Budgets は設定されたアクションを実行できません。許可の管理を簡素化するには、マネージドポリシーを使用することをお勧めします。これにより、AWS Budgets アクションが意図したとおりに動作し、新機能が追加されるたびに AWS Budgets の既存の IAM ポリシーを更新する必要がなくなります。これは、新しい機能と能力がデフォルトでマネージドポリシーに追加されるからです。管理ポリシーの詳細については、「マネージドポリシー」を参照してください。

   IAM ロールの許可の詳細と例については、「AWS Budgets が IAM ポリシーと SCPsし、ターゲット EC2 インスタンスと RDS インスタンスを適用できるようにする」を参照してください。

   b. 予算のしきい値を超えたときに適用するアクションタイプで、 AWS Budgets がユーザーに代わって実行するアクションを選択します。

   IAM ポリシーの適用、サービスコントロールポリシー (SCP) のアタッチ、特定の Amazon EC2 インスタンスまたは Amazon RDS インスタンスのターゲットを選択できます。1 つのアラートに複数の予算アクションを適用できます。SCP を適用できるのは管理アカウントのみです。

   c. 選択したアクションに応じて、アクションを適用するリソースに関連するフィールドに入力します。

   d. [このしきい値を超えたときにこのアクションを自動的に実行しますか] で、[はい] または [いいえ] を選択します。[いいえ] を選択した場合は、[アラートの詳細] ページでアクション

を手動で実行します。手順については、「予算アクションを確認して承認する」を参照してください。

e. [このアクションを実行したときにどのようにアラートを受け取るか] で、[このしきい値の定義時に同じアラート設定を使用する] または [別のアラート設定を使用する] を選択します。別のアラート設定を使用するには、このアクションに固有の [通知設定] に入力します。

8. [次へ] を選択します。

> **Note**
>
> 続行するには、以下のアラートを少なくとも 1 つ設定する必要があります
>
> - 通知の E メール受信者
> - 通知用の Amazon SNS トピック
> - 予算アクション

9. 予算設定を確認し、[予算の作成] または [保存] を選択します。

アクションを作成したら、アクション列の AWS 予算ページからそのステータスを表示できます。この列には、設定済みのアクション数、承認待ちのアクション (承認が必要)、および正常に完了したアクションが表示されます。

予算アクションを確認して承認する

アクションの設定に関係なく、アクションが保留中であるか、または既にお客様に代わって実行されていることを知らせる通知を受け取ります。通知には、アクションの「予算の詳細」ページへのリンクが含まれています。また、 AWS Budgets ページの予算名を選択して、[予算の詳細] ページに移動することもできます。

[予算の詳細] ページで、予算アクションを確認して承認することができます。

予算アクションを確認して承認するには

1. [予算の詳細] ページの [アラート] セクションで、[承認が必要] を選択します。
2. [アクション] ポップアップで、アクションが必要なアラートの名前を選択します。
3. [アラートの詳細] ページの [アクション] セクションで、承認が必要なアクションを確認します。
4. 実行するアクションを選択し、[アクションの実行] を選択します。

5. [はい、実行します] を選択します。

保留中のアクションはアクション履歴pendingのステータスから移動し、最新のアクションが一番上に表示されます。 AWS 予算には、過去 60 日間に設定および実行されたアクションが表示されます。アクションの完全な履歴を表示するには、 を使用する AWS CloudTrail か、`DescribeBudgetActionHistories` API を呼び出します。

前のアクションを取り消す

[アクション履歴] テーブルから、以前に完了したアクションを確認して元に戻すことができます。各ステータスは次のように定義されています。

- スタンバイ - AWS 予算はアクションを積極的に評価しています。
- 承認が必要 - アクションが開始され、承認を待機しています。
- 完了 - アクションは正常に完了しました。
- Reversed - アクションは元に戻され、 AWS Budgets は残りの予算期間のアクションを評価しなくなります。

AWS Budgets で同じ期間中に逆引きされたアクションを再評価する場合は、リセットを選択できます。例えば、読み取り専用ポリシーを開始したけれども、マネージャから承認を受けて予算を増やし、現在の期間に予算額を調整した場合に、これを行うことができます。

予算の通知に関する Amazon SNS トピックを作成する

Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) トピックに通知を送信する予算を作成する際は、既存の Amazon SNS トピックを用意するか、トピックを作成する必要があります。Amazon SNS トピックでは、E メールに加えて SNS 経由で通知を送信できます。予算には、トピックに通知を送信するための許可が必要です。

Amazon SNS トピックを作成し、予算に許可を付与するには、Amazon SNS コンソールを使用します。

> **Note**
>
> Amazon SNS トピックは、設定する Budgets と同じアカウントにある必要があります。クロスアカウントでの Amazon SNS はサポートされていません。

Amazon SNS 通知トピックを作成し、許可を付与するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/sns/v3/home で Amazon SNS コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[トピック] を選択します。
3. [トピックの作成] を選択します。
4. [名前] に通知トピックの名前を入力します。
5. (オプション) [表示名] に、通知を受け取るときに表示する名前を入力します。
6. [アクセスポリシー] で、[アドバンスト] を選択します。
7. ポリシーのテキストフィールドで、"Statement": [の後に以下のテキストを追加します。

```
{
  "Sid": "E.g., AWSBudgetsSNSPublishingPermissions",
  "Effect": "Allow",
  "Principal": {
    "Service": "budgets.amazonaws.com"
  },
  "Action": "SNS:Publish",
  "Resource": "your topic ARN",
   "Condition": {
        "StringEquals": {
          "aws:SourceAccount": "<account-id>"
        },
        "ArnLike": {
          "aws:SourceArn": "arn:aws:budgets::<account-id>:*"
        }
      }
}
```

8. E.g., AWSBudgetsSNSPublishingPermissions を文字列に置き換えます。Sid はポリシー内で一意であることが必要です。
9. [トピックの作成] を選択します。
10. [詳細] の下で、ARN を保存します。
11. [編集] を選択します。
12. [アクセスポリシー] の下で、[#### ARN] を、ステップ 10 の Amazon SNS トピック ARN と置き換えます。
13. [変更の保存] を選択します。

トピックは [トピック] ページのトピックのリストに表示されます。

トラブルシューティング

予算通知の Amazon SNS トピックを作成するときに、以下のエラーメッセージが表示されることがあります。

SNS ARN 形式に準拠してください

置き換えた ARN に構文エラーがあります (ステップ 9)。ARN の構文とフォーマットが正しいかどうかを確認します。

無効な SNS トピック

AWS Budgets は SNS トピックにアクセスできません。SNS トピックのリソースベースのポリシーで、budgets.amazonaws.com にこの SNS トピックにメッセージを発行する機能を許可していることを確認します。

SNS トピックは暗号化されています

SNS トピックで [暗号化] を有効にしています。SNS トピックは、追加の許可がないと機能しません。トピックの暗号化を無効にし、[予算の編集] ページを更新します。

通知の確認メールを確認または再送信する

通知を使用して予算を作成すると、Amazon SNS 通知も作成されます。通知を送信するには、Amazon SNS 通知トピックへのサブスクリプションを承認する必要があります。

通知サブスクリプションが受け入れられていることを確認するか、サブスクリプション確認メールを再送信するには、Amazon SNS コンソールを使用します。

通知のステータスを確認するか、通知の確認メールを再送信するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/sns/v3/home で Amazon SNS コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [サブスクリプション] を選択します。
3. [サブスクリプション] ページで、[フィルター] に budget と入力します。予算通知のリストが表示されます。

4. 通知のステータスを確認します。[ステータス] で、サブスクリプションが承認されず確認されていない場合は PendingConfirmation が表示されます。
5. (オプション) 確認リクエストを再送信するには、確認が保留中のサブスクリプションを選択し、[リクエストの確認] を選択します。Amazon SNS により、通知にサブスクライブしているエンドポイントに確認リクエストが送信されます。

   エンドポイントの各所有者が E メールを受信したら、[サブスクリプションを確認] リンクを選択して通知を有効化する必要があります。

SSE と を使用して Amazon SNS 予算アラートデータを保護する AWS KMS

サーバー側の暗号化 (SSE) を使用すると、暗号化されたトピックで機密データを転送できます。SSE は、 AWS Key Management Service () で管理されるキーを使用して Amazon SNS メッセージを保護しますAWS KMS。

AWS マネジメントコンソール または AWS Service Development Kit (SDK) を使用して SSE を管理するには、Amazon Simple Notification Service 入門ガイドのAmazon SNSトピックのサーバー側の暗号化 (SSE) の有効化」を参照してください。

を使用して暗号化されたトピックを作成するには AWS CloudFormation、 AWS CloudFormation ユーザーガイドを参照してください。

Amazon SNS が受信したメッセージはすぐに、SSE によって暗号化されます。メッセージは暗号化されて保存され、送信時にのみ Amazon SNS を使用して復号化されます。

AWS KMS アクセス許可の設定

SSE を使用する前に、 AWS KMS キーポリシーを設定する必要があります。この設定により、トピックを暗号化できるだけでなく、メッセージを暗号化および復号できます。 AWS KMS アクセス許可の詳細については、「 AWS Key Management Service デベロッパーガイドAWS KMS 」の「API アクセス許可: アクションとリソースのリファレンス」を参照してください。

IAM ポリシーを使用して、 AWS KMS キーのアクセス許可を管理することもできます。詳細については、「 での IAM ポリシーの使用 AWS KMS」を参照してください。

> **Note**
>
> Amazon SNS からメッセージを送受信するようにグローバルアクセス許可を設定できますが、 では、特定のリージョンで AWS KMS keys (KMS キー) の完全な ARN に名前を付ける AWS KMS 必要があります。これは、IAM ポリシーの [リソース] セクションにあります。KMS キーのキーポリシーで必要な許可を付与していることを確認する必要があります。そのためには、Amazon SNS で暗号化されたメッセージを作成するプリンシパルと消費するプリンシパルをユーザーとして KMS キーポリシーで指定します。

AWS Budgets と暗号化された Amazon SNS トピック間の互換性を有効にするには

1. KMS キーを作成します。
2. KMS キーポリシーに以下のテキストを追加します。
3. SNS トピックに対して SSE を有効にします。

> **Note**
>
> 暗号化された Amazon SNS トピックに発行するアクセス許可を AWS Budgets に付与するのと同じ KMS キーを使用していることを確認してください。

4. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

チャットアプリケーションでの予算アラートの受信

Amazon Q Developer を使用して、Amazon Chime、Microsoft Teams、Slack で予算アラートを受信してモニタリングします。

Amazon Chime

Slack および Amazon Chime で予算アラートの受信を開始するには

1. AWS Budgets に移動し、新しい予算を作成するか、既存の予算を編集します。
2. 予算設定で、[アラートの設定] を選択します。
3. Amazon SNS トピックをアラートの受信者として、特定のアラートに追加します。

> **Note**
>
> AWS Budgets が Amazon SNS トピックに発行するアクセス許可を持っていることを確認するには、「予算通知用の Amazon SNS トピックの作成」を参照してください。

4. 予算設定を完了して保存します。
5. Amazon Chime を開きます。
6. [Amazon Chime] で、Amazon Q Developer を介して通知を受信するようにセットアップするチャットルームを選択します。
7. 右上のルーム設定アイコンを選択し、[ウェブフックとボットを管理] を選択します。

   Amazon Chime は、チャットルームに関連付けられたウェブフックを表示します。
8. ウェブフックで、[URL をコピー] を選択し、[完了] を選択します。

   チャットルームに新しいウェブフックを作成する必要がある場合は、[ウェブフックを追加] を選択し、[名前] フィールドにウェブフックの名前を入力し、[作成] を選択します。
9. Amazon Q Developer in chat applications コンソールを開きます。
10. [新しいクライアントを設定] を選択します。
11. [Amazon Chime]、[設定] の順に選択します。
12. [設定の詳細] で、設定の名前を入力します。名前はアカウント全体で一意である必要があり、後で編集することはできません。
13. Amazon Chime ウェブフックを設定するには、次の手順を実行します。

    1. [ウェブフック URL] には、Amazon Chime からコピーしたウェブフックの URL を貼り付けます。
    2. [ウェブフックの説明] では、次の命名規則 (Chat_room_name/Webhook_name) を使用して Webhook の目的を記述します。これにより、Amazon Chime ウェブフックを Amazon Q Developer 設定に関連付けることができます。
14. この設定のログ記録を有効にする場合は、[Amazon CloudWatch Logs にログを発行する] を選択します。詳細については、Amazon CloudWatch Logs for Amazon Q Developer を参照してください。

> **Note**
>
> Amazon CloudWatch Logs の使用には追加料金がかかります。

15. [アクセス許可] は、次のように IAM アクセス許可を設定します。

    1. [IAM ロール] には、[テンプレートを使用して IAM ロールを作成する] を選択します。代わりに既存のロールを使用する場合は、[IAM ロール] リストから選択します。既存の IAM ロールを使用するには、Amazon Q Developer で使用するように変更する必要があります。詳細については、Configuring an IAM Role for Amazon Q Developer を参照してください。
    2. [Role name] (ロール名) に名前を入力します。有効な文字: a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9
    3. [ポリシー] テンプレートで、[通知の許可] を選択します。これは、Amazon Q Developer が提供する IAM ポリシーです。CloudWatch アラーム、イベント、ログ、および Amazon SNS トピックに必要な読み取りおよびリスト許可を提供します。

16. Amazon Chime ウェブフックに通知を送信する SNS トピックを設定します。

    1. SNS リージョンでは、この Amazon Q Developer サブスクリプションの SNS トピックをホストする AWS リージョンを選択します。
    2. [SNS トピック] には、クライアントサブスクリプションの SNS トピックを選択します。このトピックでは、Amazon Chime ウェブフックに送信されるコンテンツを決定します。リージョンに追加の SNS トピックがある場合は、同じドロップダウンリストから選択できます。

       > **Note**
       >
       > 予算アラートは、複数の Amazon SNS トピックおよびリージョンに送信することができます。
       > Amazon SNS トピックの 1 つ以上が、予算の Amazon SNS トピックに一致する必要があります。

    3. 別のリージョンから通知サブスクリプションに SNS トピックを追加する場合は、[別のリージョンを追加] を選択します。

17. [設定] を選択します。

その他の詳細については、Amazon Q Developer in chat applications 管理者ガイドのチュートリアル: Amazon Chime の使用を開始するを参照してください。

Microsoft Teams

Microsoft Teams で予算アラートの受信を開始するには

1. AWS Budgets に移動し、新しい予算を作成するか、既存の予算を編集します。
2. 予算設定で、[アラートの設定] を選択します。
3. Amazon SNS トピックをアラートの受信者として、特定のアラートに追加します。

> **Note**
>
> AWS Budgets が Amazon SNS トピックに発行するアクセス許可を持っていることを確認するには、「予算通知用の Amazon SNS トピックの作成」を参照してください。

4. 予算設定を完了して保存します。
5. Amazon Q Developer をチームに追加します。
6. Amazon Q Developer in chat applications コンソールを開きます。
7. [新しいクライアントを設定] を選択します。
8. [Microsoft Teams]、[設定] の順に選択します。
9. Microsoft Teams のチャネル URL をコピーして貼り付けます。
10. [設定] を選択します。
11. Microsoft Teams の認可ページで、[承諾] を選択します。

その他の詳細については、Amazon Q Developer in chat applications 管理者ガイドのチュートリアル: Microsoft Teams の使用を開始するを参照してください。

Slack

Slack で予算アラートの受信を開始するには

1. AWS Budgets に移動し、新しい予算を作成するか、既存の予算を編集します。
2. 予算設定で、[アラートの設定] を選択します。
3. Amazon SNS トピックをアラートの受信者として、特定のアラートに追加します。

> **Note**
>
> AWS Budgets が Amazon SNS トピックに発行するアクセス許可を持っていることを確認するには、「予算通知用の Amazon SNS トピックの作成」を参照してください。

4. 予算設定を完了して保存します。
5. Amazon Q Developer を Slack ワークスペースに追加します。
6. Amazon Q Developer in chat applications コンソールを開きます。
7. [新しいクライアントを設定] を選択します。
8. [Slack]、[設定] の順に選択します。
9. 右上のドロップダウンリストから、Amazon Q Developer で使用する Slack ワークスペースを選択します。
10. [許可] を選択します。

その他の詳細については、Amazon Q Developer in chat applications 管理者ガイドのチュートリアル: Slack の使用を開始するを参照してください。

AWS Budgets レポートを使用したメトリクスのレポート

AWS Budgets では、日単位、週単位、または月単位で既存の予算のパフォーマンスをモニタリングし、そのレポートを最大 50 の E メールアドレスに配信するようにレポートを設定できます。

スタンドアロンアカウントまたは AWS Organizations 管理アカウントごとに最大 50 個のレポートを作成できます。各予算レポートは、配信されるレポート 1 件につき 0.01 USD かかります。これは、レポートの受信者数に関係なく行われます。たとえば、日次の予算レポートは 1 日あたり 0.01 USD、週次の予算レポートは 1 週間あたり 0.01 USD、月次の予算レポートは 1 か月あたり 0.01 USD かかります。

組織で一括請求を使用している場合、管理アカウントは IAM ポリシーを使用して、メンバーアカウントの予算へのアクセスを管理できます。デフォルト設定上、メンバーアカウントの所有者は自分の予算を作成することができますが、他アカウントの予算を作成または更新することはできません。IAM を使用して、メンバーアカウントのユーザーに、管理アカウントの予算の作成、更新、削除、または読み取りを許可できます。これは、別のアカウントに予算の管理を許可する場合などに行います。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。詳細については AWS Organizations、AWS Organizations 「 ユーザーガイド」を参照してください。

トピック

- AWS Budgets レポートの作成
- AWS Budgets レポートの編集
- AWS Budgets レポートのコピー
- AWS Budgets レポートの削除

AWS Budgets レポートの作成

AWS Budgets レポートを作成するには、次の手順に従います。

AWS Budgets レポートを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Budget Reports (予算レポート)] を選択します。
3. ページの右上で、[Create Budget report (予算レポートの作成)] を選択します。
4. レポートに含める予算を選択します。最大 50 件の予算を選択できます。

> **Note**
>
> それ以上選択した場合は、選択を 50 件以下の予算に変更するまで次のステップに進むことができません。

5. [レポートの頻度] で、[日別]、[週別] 、または [月別] を選択します。

   - [週別] レポートを選択した場合: [曜日] で、レポートを配信してもらう曜日を選択します。
   - [月別] レポートを選択した場合: [月の日] で、レポートを配信してもらう月の暦日を選択します。28 日より後の日を選択し、翌月にその日がない場合、レポートはその月の最終日に配信されます。

   レポートは、指定した日の 0:00 UTC+0 頃に配信されます。
6. [E メール受信者] では、レポートの配信先の E メールアドレスを入力します。複数の E メールアドレスを入力する場合は、カンマで区切ります。予算レポートごとに最大 50 人の E メール受信者を含めることができます。
7. [予算レポート名] では、予算レポートの名前を入力します。この名前は予算レポートの E メールの件名で表示されます。レポート名はいつでも変更できます。
8. [予算レポートの作成] を選択します。

レポートは AWS Budgets Reports ダッシュボードに表示されます。ダッシュボードで、レポートを [レポート名] でフィルタリングできます。各レポートについて、ダッシュボードには [頻度]、[含められる予算]、および [受信者] も表示されます。

AWS Budgets レポートの編集

この手順を使用して、 AWS Budgets レポートを編集できます。

AWS Budgets レポートを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Budget Reports (予算レポート)] を選択します。
3. 編集するレポートの名前を選択します。
4. [予算レポートの編集] ページで、編集するパラメータを変更します。

5. [保存] を選択します。

AWS Budgets レポートのコピー

AWS Budgets レポートをコピーするには、次の手順に従います。

AWS Budgets レポートをコピーするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Budget Reports (予算レポート)] を選択します。
3. レポートのリストから、コピーするレポートを選択します。
4. ページの上部で、[Actions (アクション)] を選択してから、[Copy (コピー)] を選択します。
5. 更新するパラメータを変更します。
6. [予算レポートの作成] を選択します。

AWS Budgets レポートの削除

AWS Budgets レポートを削除するには、次の手順に従います。

AWS Budgets レポートを削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Budget Reports (予算レポート)] を選択します。
3. レポートのリストから、削除するレポートを選択します。
4. ページの上部で、[Actions (アクション)] を選択してから、[Delete (削除)] を選択します。
5. [確認] を選択してください。

AWS コスト異常検出による異常な支出の検出

AWS コスト異常検出は、機械学習モデルを使用して、デプロイされた の異常な支出パターンを検出して警告する機能です AWS のサービス。

AWS コスト異常検出の使用には、次の利点があります。

- 集約されたレポートについての個別アラートが、E メールまたは Amazon SNS トピックにより送信されます。

  Amazon SNS トピックの場合、Amazon SNS トピックを Slack チャネルまたは Amazon Chime チャットルームにマッピングするチャットアプリケーション設定で Amazon Q Developer を作成します。詳細については、「チャットアプリケーションでの異常アラートの受信」を参照してください。
- 機械学習手法を使用して支出パターンを評価することで、誤検出アラートを最小限に抑えることができます。例えば、時期的な増加や自然な増加を週別または月別で評価することができます。
- 異常の根本原因を調査し、ドルの影響に基づいてランク付けし AWS のサービス、、リージョン AWS アカウント、または使用タイプの 4 つのディメンションに分割できます。
- コストの評価方法は設定が可能です。すべての を AWS のサービス 個別に分析するか、特定のメンバーアカウント、コスト配分タグ、またはコストカテゴリを分析するかを選択します。

請求データが処理されると、 AWS コスト異常検出は 1 日に約 3 回実行され、正味の非ブレンドコストデータ (つまり、適用されるすべての割引が計算された後の正味コスト) の異常をモニタリングします。アラートの受け取りには若干の遅延が発生することがあります。コスト異常検出では Cost Explorer のデータを使用しますが、データには最大 24 時間の遅延があります。その結果、使用状況が発生してから異常を検出するまでに最大 24 時間かかる場合があります。新しいモニターを作成する場合、新しい異常の検出を開始するまでに 24 時間かかることがあります。新しいサービスサブスクリプションでは、そのサービスの異常を検出する前に、10 日間のサービス使用状況の履歴データが必要です。

> **Note**
>
> コスト異常検出はいつでもオプトアウトできます。詳細については、「コスト異常検出のオプトアウト」を参照してください。
> コスト異常検出は、請求転送を使用する請求ソースアカウントでは使用できません。コスト異常検出は、請求転送ビューをサポートしていません。

トピック

- 異常検出をセットアップする
- コスト異常検出のアクセス制御
- AWS コスト異常検出の開始方法
- カスタマーモニターから AWS マネージドモニターへの移行
- アラート設定を編集する
- 異常通知用の Amazon SNS トピックの作成
- チャットアプリケーションでの異常アラートの受信
- コスト異常検出で EventBridge を使用する
- コスト異常検出での AWS ユーザー通知の使用
- コスト異常検出のオプトアウト

異常検出をセットアップする

このセクションの概要では、 で AWS コスト異常検出を開始する方法について説明します AWS Billing and Cost Management。

トピック

- Cost Explorer を有効にする
- IAM を使用してアクセスを制御する
- コンソールにアクセスする
- クォータ

Cost Explorer を有効にする

AWS Cost Anomaly Detection は Cost Explorer の機能です。 AWS コスト異常検出にアクセスするには、Cost Explorer を有効にします。コンソールを使用してCost Explorer を有効にする方法については、「Cost Explorer を有効にする」を参照してください。

IAM を使用してアクセスを制御する

管理アカウントレベルで Cost Explorer を有効にしたら、 AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーの請求データへのアクセスを管理できます。これで、すべてのユー

ザーへのアクセスを許可するのではなく、ユーザーロールごとに個別のレベルでアクセスを付与または取り消すことができます。

ユーザーは、請求情報とコスト管理コンソールからページを表示するための明示的な許可を与えられていることが必要です。適切なアクセス許可があれば、ユーザーはユーザーが属 AWS アカウントする のコストを表示できます。ユーザーに必要な許可を付与するポリシーについては、「請求情報とコスト管理アクションポリシー」を参照してください。

コスト異常検出に対するリソースレベルのアクセス制御と属性ベースのアクセス制御 (ABAC) の使用に関する詳細については、コスト異常検出のアクセス制御 を参照してください。

コンソールにアクセスする

セットアップが完了したら、 AWS コスト異常検出にアクセスします。

AWS コスト異常検出にアクセスするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[コスト異常検出] を選択します。

クォータ

デフォルトのクォータについては、AWS コスト異常検出 を参照してください。

コスト異常検出のアクセス制御

コスト異常モニターと異常サブスクリプションには、リソースレベルのアクセス制御と属性ベースのアクセス制御 (ABAC) タグを使用できます。異常モニターと異常サブスクリプションリソースには、それぞれ一意の Amazon リソースネーム (ARN) があります。各機能にタグ (キーバリューペア) をアタッチすることもできます。 AWS アカウント内のユーザーロール、またはグループにきめ細かなアクセス制御を提供するために、リソース ARN と ABAC タグの両方を使用することができます。

リソースレベルのアクセス制御とABAC (属性ベースのアクセス制御) タグの詳細については、「AWS コスト管理と IAM の連携方法」を参照してください。

> **Note**
>
> コスト異常検出では、リソースベースのポリシーはサポートされていません。リソースベースのポリシーは、 AWS リソースに直接アタッチされます。ポリシーと許可の違いに関する詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「アイデンティティベースおよびリソースベースのポリシー」を参照してください。

リソースレベルのポリシーを使用したアクセスの制御

リソースレベルのアクセス許可を使用して、IAM ポリシーで 1 つ、もしくは複数のコスト異常検出リソースへのアクセスを許可または拒否できます。または、リソースレベルのアクセス許可を使用して、すべてのコスト異常検出リソースへのアクセスを許可または拒否します。

IAM を作成する際は、次の Amazon リソースネーム (ARN) 形式を使用します。

- `AnomalyMonitor` リソース ARN

  ```
  arn:${partition}:ce::${account-id}:anomalymonitor/${monitor-id}
  ```

- `AnomalySubscription` リソース ARN

  ```
  arn:${partition}:ce::${account-id}:anomalysubscription/${subscription-id}
  ```

IAM エンティティが異常モニターまたは異常サブスクリプションを取得および作成できるようにするには、このサンプルポリシーと同様のポリシーを使用します。

> **Note**
>
> - `ce:GetAnomalyMonitor` と `ce:GetAnomalySubscription` の場合、ユーザーにはリソースレベルのアクセス制御のすべてがあるか、まったくないかのどちらかになります。これには、ポリシーが汎用 ARN を `arn:${partition}:ce::${account-id}:anomalymonitor/*`、`arn:${partition}:ce::${account-id}:anomalysubscription/*`、または `*` の形式で使用することが必要になります。
> - `ce:CreateAnomalyMonitor` と `ce:CreateAnomalySubscription` の場合、このリソースのリソース ARN はありません。そのため、ポリシーは常に前の箇条書きで示した汎用 ARN を使用します。

- ce:GetAnomalies の場合、オプションの monitorArn パラメータを使用します。これをこのパラメータとともに使用するときは、渡された monitorArn にユーザーがアクセスできるかどうかを確認します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Action": [
                "ce:GetAnomalyMonitors",
                "ce:CreateAnomalyMonitor"
            ],
            "Effect": "Allow",
            "Resource": "arn:aws:ce::999999999999:anomalymonitor/*"
        },
        {
            "Action": [
                "ce:GetAnomalySubscriptions",
                "ce:CreateAnomalySubscription"
            ],
            "Effect": "Allow",
            "Resource": "arn:aws:ce::999999999999:anomalysubscription/*"
        }
    ]
}
```

IAM エンティティが異常モニターを更新または削除できるようにするには、このサンプルポリシーと同様のポリシーを使用します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
```

```
            "Action": [
                "ce:UpdateAnomalyMonitor",
                "ce:DeleteAnomalyMonitor"
                ],
            "Resource": [
              "arn:aws:ce::999999999999:anomalymonitor/f558fa8a-
bd3c-462b-974a-000abc12a000",
              "arn:aws:ce::999999999999:anomalymonitor/f111fa8a-
bd3c-462b-974a-000abc12a001"
  ]
        }
    ]
}
```

タグ (ABAC) を使用したアクセスの制御

タグ (ABAC) を使用して、タグ付けをサポートするコスト異常検出リソースへのアクセスを制御できます。タグを使用してアクセスを制御するには、ポリシーの Condition 要素でタグ情報を提供します。その後、リソースのタグに基づいて、そのリソースへのアクセスを許可または拒否する IAM ポリシーを作成できます。タグ条件キーを使用して、リソース、リクエスト、または認可プロセスの任意の部分へのアクセスを制御できます。タグを使用する IAM ロールの詳細については、IAM ユーザーガイドのタグを使用したユーザーおよびロールへのアクセスとそのユーザーおよびロールのアクセスの制御を参照してください。

異常モニターの更新を許可する ID ベースのポリシーを作成します。モニタータグ Owner にユーザー名の値がある場合、このポリシーの例と同様のポリシーを使用してください。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "ce:UpdateAnomalyMonitor"
            ],
            "Resource": "arn:aws:ce::*:anomalymonitor/*",
            "Condition": {
                "StringEquals": {
```

```
    "aws:ResourceTag/Owner": "${aws:username}"
      }
            }
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "ce:GetAnomalyMonitors",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS コスト異常検出の開始方法

の AWS コスト異常検出を使用すると AWS Billing and Cost Management、増大する AWS 環境に自動適応するようにコストモニターとアラートサブスクリプションを設定できます。

AWS コスト異常検出は、手動設定なしですべてのアカウント、チーム、またはビジネスユニットのコストを自動的に追跡する AWS マネージドモニターを提供します。組織の成長と変化に応じて、これらのモニターには新しいアカウント、タグ値、またはカテゴリが自動的に含まれ、追加のセットアップなしで包括的なカバレッジが維持されます。

トピック

- コストモニターとアラートサブスクリプションを作成する
- 検出された異常の概要
- 検出された異常と考えられる根本原因の表示
- モニタータイプ

コストモニターとアラートサブスクリプションを作成する

支出のモニタリングを開始するには、 AWS コスト異常検出で少なくとも 1 つのコストモニターを設定して、追跡する支出パターンを定義する必要があります。モニターを作成したら、アラートサブスクリプションをアタッチして、通知を受信するユーザーとチャネルを指定できます。 AWS ユーザー通知を使用して個別のアラートを作成し、アラートの配信方法をより詳細に制御することもできます。

> **Note**
>
> コストモニターとアラートサブスクリプションは、それらを作成したアカウントでのみアクセスできます。リンクされたアカウント、コスト配分タグ、コストカテゴリのコストモニターは、管理アカウントでのみ作成できます。

Cost monitors

コストモニターを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[コスト異常検出] を選択します。
3. [コストモニター] タブを選択します。
4. [モニターの作成] を選択します。
5. [ステップ 1] で、モニターの種類を選択し、モニターに名前を付けます。

   [モニター名] では、異常モニターの名前を入力します。簡単な説明的な名前にすることをお勧めします。モニターを [Cost monitors] (コストモニター) タブで表示したときにモニターが表すものがわかるようにすることをお勧めします。

   各モニターの種類とベストプラクティスの詳細については、「モニタータイプ」を参照してください。

   必要に応じてモニターメソッドを選択します。

   - AWS マネージドモニターの場合:
     1. Monitor メソッドで、Managed by AWS を選択します。
     2. モニタリングするディメンションを選択します。
        - AWS のサービス - すべての AWS のサービス を自動的に追跡します
        - リンクされたアカウント - すべてのメンバーアカウントを自動的に追跡します
        - コスト配分タグ - 指定されたタグキーのすべての値を追跡します
        - コストカテゴリ - 指定されたカテゴリ内のすべての値を追跡します
     3. コスト配分タグを選択した場合は、ドロップダウンからタグキー (「application-team」や「environment」など) を指定します。

4. Cost カテゴリを選択した場合は、ドロップダウンからカテゴリを指定します。

- カスタマーマネージドモニターの場合:

1. モニターのディメンションを選択します。
2. モニタリングメソッドで、カスタマーマネージドを選択します。
3. モニタリングする特定の値 (最大 10) を選択します。

6. (オプション) モニターにタグを追加します。タグの詳細については、AWS 全般のリファレンス ガイドのAWS リソースへのタグ付けを参照してください。

a. タグのキーバリューを入力します。

b. タグを追加するには、[新しいタグを追加] を選択します。追加できるタグの最大数は 50 です。

7. [次へ] を選択します。

8. [ステップ 2] で、アラートサブスクリプションを設定します。

[アラートサブスクリプション] では、既存のサブスクリプションがない場合は、[新しいサブスクリプションを作成する] を選択します。既存のサブスクリプションがある場合は、[既存のサブスクリプションを選択] を選択します。

> **Note**
>
> コストモニターが異常を検出すると、アラートサブスクリプションが通知されます。アラートの頻度に応じて、指定された個人に E メールまたは Amazon SNS で通知できます。
> Amazon SNS トピックの場合は、Amazon Q Developer in chat applications の設定を作成するように設定します。この設定では、Amazon SNS トピックを Slack チャネルまたは Amazon Chime チャットルームにマッピングします。例えば、組織で Finance チームのサブスクリプションを作成します。詳しくは、「チャットアプリケーションでの異常アラートの受信」を参照してください。

[サブスクリプション名] では、ユースケースを説明する名前を入力します。例えば、サブスクリプションがリーダーシップを表す場合、サブスクリプション名は「Leadership report」とすることができます。

[アラート頻度] で、使用する通知頻度を選択します。

- [個別のアラート] - 異常が検出された場合にすぐにアラートが表示されます。1 日を通して複数のアラートを受け取ることがあります。これらの通知には、Amazon SNS トピックが必要です。

  Amazon SNS トピックを設定して、Amazon SNS トピックを Slack チャネルまたは Amazon Chime チャットルームにマッピングするチャットアプリケーション設定で Amazon Q Developer を作成できます。詳細については、「チャットアプリケーションでの異常アラートの受信」を参照してください。
- [日次サマリー] - 前日のアラートのうち、コストへの影響が大きい上位 10 件をまとめたメール通知。このサマリーは毎日 00:00 UTC に生成されますが、実際の配信時間は異なる場合があります。例えば、1 月 14 日の 04:30 UTC に検出された異常は、1 月 15 日の 00:00 UTC に送信される日次サマリーに含まれます。少なくとも E メール受信者を 1 人指定する必要があります。即時アラートの場合は、個別のアラートオプションを使用することをお勧めします。
- 週次サマリー - アラートの週次サマリーを含む E メール通知。その週に発生した複数の異常に関する情報が記載された E メールが週に 1 つ送信されます。少なくとも E メール受信者を 1 人指定する必要があります。

[アラートの受信者] の下に、このサブスクリプションの E メールアドレスを入力します。

[Threshold] (しきい値) に、アラートを生成する異常値を設定する数値を入力します。

しきい値には、絶対とパーセンテージの 2 つのタイプがあります。絶対しきい値は、異常の合計コストインパクトが選択されたしきい値を超えるときにアラートをトリガーします。パーセンテージしきい値は、異常の合計インパクトパーセンテージが選択されたしきい値を超えるときにアラートをトリガーします。合計インパクトパーセンテージは、予想支出総額と実際の支出総額のパーセンテージ差です。

(オプション) [Add threshold] (しきい値を追加) を選択して、同じサブスクリプションに 2 つ目のしきい値を設定します。しきい値は、ドロップダウンリストから [AND] (および) または [OR] (または) を選択することで組み合わせることができます。

> **Note**
>
> AWS コスト異常検出は、異常がしきい値に達したとき、またはしきい値を超えたときに通知を送信します。異常が数日間にわたって継続する場合、しきい値に到達している間は、アラートの受信者も継続的に通知を受信します。

機械学習モデルは、異常値がアラートのしきい値を下回っていても、アカウントの支出の異常値を引き続き検出します。機械学習モデルによって検出されたすべての異常 (コストインパクトがしきい値よりも大きいか小さいか) は、[検出された異常] タブに表示されます。

9. (オプション) アラートサブスクリプションにタグを追加します。タグの詳細については、AWS 全般のリファレンス ガイドのAWS リソースへのタグ付けを参照してください。

   a. タグのキーバリューを入力します。

   b. タグを追加するには、[新しいタグを追加] を選択します。追加できるタグの最大数は 50 です。

10. (オプション) [アラートサブスクリプションを追加する] を選択して、別のアラートサブスクリプションを作成します。このオプションを用いると、同じモニターを使用して新しいサブスクリプションを作成できます。

11. [モニターの作成] を選択します。

AWS マネージドモニターに関する重要な考慮事項:

- AWS マネージドモニターにアタッチされたアラートサブスクリプションは、すべての追跡値で同じしきい値を使用します。
- 新しいメンバーアカウント、タグ、またはカテゴリが AWS 環境に追加されると、自動的に含まれます。
- 既存のカスタマーマネージドモニターを AWS マネージドモニターに変換することはできません
- 特定の値に基づいて詳細なアラートルーティングを行うには、JSON フィルタリングパターンを使用して AWS ユーザー通知を設定します。

> **Note**
>
> AWS マネージドモニターは、ディメンション内で最大 5,000 個の値を追跡できます。組織に 5,000 を超える値 (5,000 を超えるメンバーアカウントやタグ値など) がある場合、モニターは合計支出に基づいて上位 5,000 個の値を追跡します。

Alert subscriptions

アラートサブスクリプションを作成するには

モニターごとに少なくとも 1 つのアラートサブスクリプションを作成する必要があります。前述の「コストモニターステップの作成」には、すでにアラートサブスクリプション作成プロセスが含まれています。追加のサブスクリプションを作成する場合は、以下の手順を実施します。

1. [アラートサブスクリプション] タブを選択します。
2. [サブスクリプションの作成] を選択します。
3. [サブスクリプション名] では、ユースケースを説明する名前を入力します。例えば、サブスクリプションがリーダーシップを表す場合、サブスクリプション名は「Leadership report」とすることができます。
4. [アラート頻度] で、使用する通知頻度を選択します。

   - [個別のアラート] - 異常が検出された場合にすぐにアラートが表示されます。1 日を通して複数のアラートを受け取ることがあります。これらの通知には、Amazon SNS トピックが必要です。

     Amazon SNS トピックを設定して、Amazon SNS トピックを Slack チャネルまたは Amazon Chime チャットルームにマッピングするチャットアプリケーション設定で Amazon Q Developer を作成できます。詳細については、「チャットアプリケーションでの異常アラートの受信」を参照してください。
   - [日次サマリー] - 前日のアラートのうち、コストへの影響が大きい上位 10 件をまとめたメール通知。このサマリーは毎日 00:00 UTC に生成されますが、実際の配信時間は異なる場合があります。例えば、1 月 14 日の 04:30 UTC に検出された異常は、1 月 15 日の 00:00 UTC に送信される日次サマリーに含まれます。少なくとも E メール受信者を 1 人指定する必要があります。即時アラートの場合は、個別のアラートオプションを使用することをお勧めします。
   - 週次サマリー - アラートの週次サマリーを含む E メール通知。その週に発生した複数の異常に関する情報が記載された E メールが週に 1 つ送信されます。少なくとも E メール受信者を 1 人指定する必要があります。
5. [アラートの受信者] の下に、このサブスクリプションの E メールアドレスを入力します。
6. [Threshold] (しきい値) に、アラートを生成する異常値を設定する数値を入力します。

   しきい値には、絶対とパーセンテージの 2 つのタイプがあります。絶対しきい値は、異常の合計コストインパクトが選択されたしきい値を超えるときにアラートをトリガーします。

パーセンテージしきい値は、異常の合計インパクトパーセンテージが選択されたしきい値を超えるときにアラートをトリガーします。合計インパクトパーセンテージは、予想支出総額と実際の支出総額のパーセンテージ差です。

(オプション) [Add threshold] (しきい値を追加) を選択して、同じサブスクリプションに 2 つ目のしきい値を設定します。しきい値は、ドロップダウンリストから [AND] (および) または [OR] (または) を選択することで組み合わせることができます。

> **Note**
>
> AWS コスト異常検出は、異常がしきい値に達したとき、またはしきい値を超えたときに通知を送信します。異常が数日間にわたって継続する場合、しきい値に到達している間は、アラートの受信者も継続的に通知を受信します。
> 機械学習モデルは、異常値がアラートのしきい値を下回っていても、アカウントの支出の異常値を引き続き検出します。機械学習モデルによって検出されたすべての異常 (コストインパクトがしきい値よりも大きいか小さいか) は、[検出された異常] タブに表示されます。

7. [コストモニター] セクションで、アラートサブスクリプションに関連付けるモニターを選択します。
8. (オプション) アラートサブスクリプションにタグを追加します。タグの詳細については、AWS 全般のリファレンス ガイドのAWS リソースへのタグ付けを参照してください。
   a. タグのキーバリューを入力します。
   b. タグを追加するには、[新しいタグを追加] を選択します。追加できるタグの最大数は 50 です。
9. [Create subscription] を選択してください。

AWS User Notifications

個々のアラートを作成する方法については、「コスト異常検出での AWS ユーザー通知の使用」を参照してください。

検出された異常の概要

[検出された異常] タブで、選択した期間に検出された異常の一覧を表示できます。デフォルトでは、過去 90 日間に検出された異常を確認できます。異常は、[重要度]、[評価]、[サービス]、[使用タイ

プ]、[リージョン]、[モニタータイプ]、[アカウント]、または [異常 ID] で検索できます。[開始日]、[最後の検出]、[期間]、[コストへの影響]、[影響の %]、[モニター名]、および [上位の根本原因 (サービス)] でソートできます。

[検出された異常] タブには、次のデフォルト列が含まれています。

開始日

異常が発生した日。

最後の検出

最後に異常が検出された日。

期間

異常が続いた期間。異常が進行している可能性があります。

コストへの影響

予想支出額と比較することで検出された支出の増加。actual spend - expected spend として計算されます。例えば、サービスモニターでの合計コストインパクトが 20 USD である場合は、指定された日数の合計継続期間に特定のサービスで 20 USD の増加が検出されたことを意味します。

影響の %

実際の支出と予想支出のパーセンテージ差。(total cost impact / expected spend) * 100 を使って計算されます。例えば、合計コストインパクトが 20 USD で、予想支出が 60 UDS であった場合、インパクトパーセンテージは 33.33% になります。この値は、予想支出がゼロの場合は計算できないため、このような状況では「N/A」と表示されます。

モニター名

異常モニターの名前。

上位の根本原因 (サービス)

異常の上位の根本原因 (サービス)。上位の根本原因列でサービス名を選択すると、その異常の主要な根本原因に対して、他の 3 つの根本原因ディメンション (アカウント、リージョン、使用タイプ) が表示されます。

さらに表示

異常の根本原因分析やコストへの影響に関する情報を確認できる、[異常の詳細] ページへのリンク。このリンクには、その異常に対して検出された根本原因の数も表示されます。

[検出された異常] タブは、追加の情報列を表示するように設定することもできます。行った変更はアカウントレベルで保存され、[検出された異常] タブにアクセスした際にも引き続き適用されます。以下は、[検出された異常] タブで使用できる [オプション列] です。

アカウント

異常の原因となったアカウント ID とアカウント名。アカウントが空の場合、 AWS は異常を検出しましたが、根本原因は未確定です。

リージョン

異常の上位の根本原因として検出されたリージョン。

使用タイプ

異常の上位の根本原因として検出された使用タイプ。

予想支出

過去の支出パターンに基づいて、異常の継続期間中に支出されると機械学習モデルが予測した金額。

実際の支出

異常の継続期間中に実際に費やされた金額の合計。

評価

検出された異常ごとに、評価を送信して、異常検出システムの改善に役立てることができます。指定できる値は [送信されていません]、[問題ではありません]、または [正確な異常] です。

緊急度

過去の支出パターンを考慮して、特定の異常がどの程度異常であるかを表します。通常、重要度が低いと過去の支出と比較してスパイクが小さくなり、重要度が高いとスパイクが大きくなります。ただし、過去の一貫した支出における小さなスパイクは、重要度が高いものとして分類されます。また、同様に、不規則な過去の支出における大きなスパイクは、重要度が低いものに分類されます。

検出された異常と考えられる根本原因の表示

モニターを作成すると、 AWS Cost Anomaly Detection は将来の支出を評価します。定義したアラートサブスクリプションに基づいて、24 時間以内にアラートの受信を開始できます。

E メールアラートから異常値を表示するには

1. 提供された [異常検出で表示] リンクを選択します。
2. [異常の詳細] ページで、異常の根本原因分析とコストインパクトを確認できます。
3. (オプション) [View in Cost Explorer] (Cost Explorer で表示) を選択して、コストへの影響の時系列グラフを表示します。
4. (オプション) 対象の根本原因に関する [考えられる根本原因のトップランキング] の表で [根本原因を表示] を選択すると、根本原因でフィルタリングされた時系列グラフが表示されます。
5. (オプション) [Did you find this detected anomaly to be helpful?] (この検出された異常は役に立ちましたか?) の情報アラートで [Submit assessment] (評価を送信) を選択して、フィードバックを提供し、検出精度の向上に役立ててください。

AWS Billing and Cost Management コンソールから異常を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[コスト異常検出] を選択します。
3. (オプション) [検出された異常] タブで検索領域を使用して、特定のカテゴリで検出された異常のリストを絞り込みます。選択できるカテゴリは、[重要度]、[評価]、[サービス]、[アカウント]、[使用タイプ]、[リージョン]、および [モニタータイプ] です。
4. (オプション) [開始日]を選択して、特定の異常の詳細を表示します。
5. [異常の詳細] ページで、異常の根本原因分析とコストインパクトを確認できます。
6. (オプション) [View in Cost Explorer] (Cost Explorer で表示) を選択してコストインパクトの時系列グラフを表示し、必要に応じてデータの詳細を調べます。
7. (オプション) [考えられる根本原因のトップランキング] の表で [根本原因を表示] を選択すると、根本原因でフィルタリングされた時系列グラフが表示されます。
8. (オプション) [Did you find this detected anomaly to be helpful?] (この検出された異常は役に立ちましたか?) の情報アラートで [Submit assessment] (評価を送信) を選択して、フィードバックを提供し、検出精度の向上に役立ててください。

Amazon SNS トピックから異常を表示するには

1. 個々のアラートを用いてコストモニター用に作成した Amazon SNS トピックにエンドポイントをサブスクライブします。手順については、Amazon Simple Notification Service デベロッパーガイドの Amazon SNS トピックへのサブスクライブを参照してください。

2. エンドポイントが Amazon SNS トピックからメッセージを受信したら、メッセージを開いて [anomalyDetailsLink] URL を見つけます。次の例は、Amazon SNS を介した AWS コスト異常検出からのメッセージです。


```
{
    "accountId": "123456789012",
    "anomalyDetailsLink": "https://console.aws.amazon.com/cost-management/home#/
anomaly-detection/monitors/abcdef12-1234-4ea0-84cc-918a97d736ef/anomalies/12345678-
abcd-ef12-3456-987654321a12",
    "anomalyEndDate": "2021-05-25T00:00:00Z",
    "anomalyId": "12345678-abcd-ef12-3456-987654321a12",
    "anomalyScore": {
        "currentScore": 0.47,
        "maxScore": 0.47
    },
    "anomalyStartDate": "2021-05-25T00:00:00Z",
    "dimensionKey": {
        "type": "DIMENSION",
        "key": "SERVICE"
    },
    "dimensionalValue": "ServiceName",
    "impact": {
        "maxImpact": 151,
        "totalActualSpend": 1301,
        "totalExpectedSpend": 300,
        "totalImpact": 1001,
        "totalImpactPercentage": 333.67
    },
    "monitorArn": "arn:aws:ce::123456789012:anomalymonitor/
abcdef12-1234-4ea0-84cc-918a97d736ef",
    "rootCauses": [
        {
            "linkedAccount": "AnomalousLinkedAccount",
            "linkedAccountName": "AnomalousLinkedAccountName",
            "region": "AnomalousRegionName",
            "service": "AnomalousServiceName",
            "usageType": "AnomalousUsageType",
            "impact": {
                "contribution": 601,
            }
        }
    ],
    "subscriptionId": "874c100c-59a6-4abb-a10a-4682cc3f2d69",
```

```
    "subscriptionName": "alertSubscription"
}
```

3. ウェブブラウザで [anomalyDetailsLink] URL を開きます。URL は関連する [Anomaly details] (異常の詳細) ページに移動します。このページには、異常の根本原因分析とコストインパクトが表示されます。

モニタータイプ

アカウント構造に合ったモニタータイプを選択できます。 AWS Cost Anomaly Detection には、モニターを作成するための 2 つのアプローチがあります。ディメンション内で上位 5,000 個の値を自動的に追跡する AWS マネージドモニターと、集計してモニタリングされる特定の値を選択できるカスタマーマネージドモニターです。

ディメンションをモニタリングする	AWS マネージド	カスタマー管理
AWS のサービス	アカウントで AWS のサービス 使用されているすべての異常を自動的に評価します。新しい の使用を開始すると AWS のサービス、モニターは自動的に評価を開始します。管理アカウントとメンバーアカウントの両方で使用できます。	カスタマーマネージド AWS のサービス モニターはサポートされていません。
リンクされたアカウント	組織内のすべてのメンバーアカウントの支出パターンを自動的に追跡します。新しいアカウントが追加されると、それらは自動的にモニタリングカバレッジに含まれます。管理アカウントでのみ使用できます。	手動で選択した特定のメンバーアカウント (最大 10 個) を追跡します。支出は、選択したアカウント全体で集計されます。特定のプロジェクトアカウントまたは環境を一緒にモニタリングするのに役立ちます。
コスト配分タグ	指定されたタグキーのすべての一意の値を自動的にモニタリングします。たとえば、「application-team」を指定すると、すべてのチーム値 (team-a、team-b、team-c) が個別に	特定のタグキーに対して手動で選択した特定のタグ値 (最大 10 個) を追跡します。タグ値ごとに異なるしきい値が必要な場合や、優先度の高い

ディメンションをモニタリングする	AWS マネージド	カスタマー管理
	追跡されます。新しいタグ値は、作成時に自動的に含まれます。	チームのみをモニタリングする場合に便利です。
Cost Category	指定されたコストカテゴリ内のすべての値を自動的に追跡します。「小売」、「卸売」、「オペレーション」などの値を持つ「ビジネスユニット」カテゴリがある場合、モニターは各ユニットの支出パターンを個別に分析します。新しいコストカテゴリ値は、作成時に自動的に含まれます。	手動で選択した特定のコストカテゴリ値を追跡します。一意のしきい値要件を持つ特定のビジネスユニットまたはコストセンターのモニタリングに役立ちます。

カスタマーマネージドモニターごとに選択できるメンバーアカウントまたはタグ値の最大数は 10 です。

各モニタータイプを使用するタイミング

必要に応じてAWS マネージドモニターを使用します。

- ディメンション内のすべての値にわたる包括的なカバレッジ
- 組織の成長に伴う自動適応
- 最小限のメンテナンスオーバーヘッド
- すべてのチーム/アカウントで一貫したモニタリング

必要に応じてカスタマーマネージドモニターを使用します。

- グループごとに異なるアラートしきい値
- アカウントまたはチームの特定のサブセットをモニタリングするには
- 特定の値全体の支出を集計するには
- 優先度の高いワークロードまたは機密性の高いワークロードの特別なモニタリング

ベストプラクティス:

- AWS マネージドモニターを使用して、プライマリコスト組織のディメンションを包括的にカバーする
- AWS のサービス モニターを他の AWS マネージドモニターと一緒に維持して、サービスレベルの可視性を集約する
- カスタマーマネージドモニターを使用して、異なるしきい値やグループ化を必要とする特定のユースケースの AWS マネージドモニターを補完する
- 複数のディメンションにまたがるモニターを作成して、アラートが重複しないようにする

> **Note**
>
> カスタマーマネージドモニターは、以前はカスタムモニターと呼ばれていました。機能は変わりません。名前の変更は、 がユーザーに代わって AWS 管理するモニターとの区別を反映しています。

Amazon SNS トピックの作成の詳細については、異常通知用の Amazon SNS トピックの作成 を参照してください。

カスタマーモニターから AWS マネージドモニターへの移行

現在、複数のカスタマーマネージドモニターを使用して個々のアカウント、チーム、またはカテゴリを追跡している場合は、管理を簡素化し、自動カバレッジを実現するために AWS マネージドモニターに移行できます。

移行プロセス

1. 既存のカスタマー AWS マネージドモニターと一緒にマネージドモニターを作成する
   - プライマリコストの組織方法に一致するディメンションを選択する
   - AWS マネージドモニターはすべての値を自動的に追跡し始めます
2. 検出カバレッジを検証する
   - AWS マネージドモニターを少なくとも 24～48 時間実行できるようにする
   - 検出された異常を既存のカスタマーマネージドモニターと比較する
   - AWS マネージドモニターが想定どおりに異常を検出していることを確認します。
3. アラートサブスクリプションを設定する

- AWS マネージドモニターに適切なしきい値を設定する
- AWS マネージドモニターにアタッチされたアラートサブスクリプションは、すべての追跡値で同じしきい値を使用することに注意してください。
- 値固有のルーティングの場合は、JSON パターンで AWS ユーザー通知を設定します。

4. 冗長なカスタマーマネージドモニターを削除する
   - カバレッジ全体を確認したら、個々のカスタマーマネージドモニターを削除します。
   - 特定の目的 (関連アカウントのグループ化など) に対応するカスタマーマネージドモニターを保持する

移行シナリオの例: コスト配分タグを使用して個々のアプリケーションチームを追跡するカスタマーマネージドモニターが 50 人いる場合:

1. チームタグキーを使用して 1 つの AWS マネージドコスト配分タグモニターを作成する
2. すべてのチームで異常を検出したことを確認する
3. 適切なしきい値でアラートサブスクリプションを設定する
4. 50 個の個々のカスタマーマネージドモニターを削除する

重要な注意事項:

- カスタマーマネージドモニターから AWS マネージドモニターへの直接変換はサポートされていません
- AWS マネージドモニターは、包括的なカバレッジにより、最初はより多くの異常検出を生成する可能性があります。
- カスタマーマネージドモニターからの履歴異常データは、削除時に保持されます (API 経由でのみ利用可能、削除されたモニターとその異常はコンソールに表示されません)。
- 異なるしきい値を必要とする特定のユースケースでは、一部のカスタマーマネージドモニターを維持することを検討してください。

アラート設定を編集する

のコストモニターとアラートサブスクリプションは AWS Billing and Cost Management 、ニーズに合わせて調整できます。

ユーザー通知で AWS 通知設定を編集することもできます。

> **Note**
>
> AWS マネージドモニターを使用する場合は、1 つのしきい値がすべての追跡値に適用されることを考慮してください。チームまたはアカウントごとに異なるアラートしきい値が必要な場合は、次のことができます。
>
> - 特定のしきい値を持つ専用のアラートサブスクリプションを使用して、追加のカスタマーマネージドモニターを作成する
> - AWS ユーザー通知を使用して、異常属性に基づいてアラートをフィルタリングおよびルーティングする
> - アラートルーティングのカスタムロジックを使用して Amazon SNS トピックを設定する

Cost monitors

コストモニターを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[コスト異常検出] を選択します。
3. [コストモニター] タブを選択します。
4. 編集するモニターを選択します。
5. [編集] を選択します。
   - (別の方法) 個々のモニター名を選択します。
   - [モニターの編集] を選択します。
6. [モニターの編集] ページで、[モニター名] および [アタッチされたアラートサブスクリプション] の設定を変更します。
7. [Manage tags] (タグを管理) を選択して、モニターのタグを追加、編集、または削除します。
8. [保存] を選択します。

Alert subscriptions

アラートサブスクリプションを編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[コスト異常検出] を選択します。
3. [アラートサブスクリプション] タブを選択します。
4. 編集するサブスクリプションを選択します。
5. [編集] を選択します。
   - (別の方法) 個々のモニター名を選択します。
   - [編集] を選択します。
6. [アラートサブスクリプションを編集する] ページで、[サブスクリプション名]、[しきい値]、[頻度]、[受信者]、または [コストモニター] の設定を変更します。
7. [Manage tags] (タグを管理) を選択して、モニターのタグを追加、編集、または削除します。
8. [保存] を選択します。

AWS User Notifications

通知設定を編集する方法については、AWS 「 ユーザー通知ユーザーガイド」の「ユーザー通知で通知設定を編集するAWS 」を参照してください。

異常通知用の Amazon SNS トピックの作成

Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) トピックに通知を送信する異常検出モニターを作成するときは、既存の Amazon SNS トピックがあるか、新たにトピックを作成する必要があります。Amazon SNS トピックを使用して、E メールに加えて Amazon SNS 経由で通知を送信できます。 AWS コスト異常検出には、トピックに通知を送信するアクセス許可が必要です。

Amazon SNS 通知トピックを作成し、許可を付与するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/sns/v3/home で Amazon SNS コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[トピック] を選択してください。

3. [トピックの作成] を選択してください。
4. [名前] に通知トピックの名前を入力します。
5. (オプション) [表示名] に、通知を受け取るときに表示する名前を入力します。
6. [アクセスポリシー] で、[アドバンスト] を選択します。
7. ポリシーのテキストフィールドで、"Statement": [の後に以下のいずれかのテキストを追加します。

   AWS コスト異常検出サービスが Amazon SNS トピックに発行できるようにするには、次のステートメントを使用します。

```
{
  "Sid": "E.g., AWSAnomalyDetectionSNSPublishingPermissions",
  "Effect": "Allow",
  "Principal": {
    "Service": "costalerts.amazonaws.com"
  },
  "Action": "SNS:Publish",
  "Resource": "your topic ARN"
}
```

   AWS コスト異常検出サービスが特定のアカウントに代わってのみ Amazon SNS トピックに発行できるようにするには、次のステートメントを使用します。

```
{
  "Sid": "E.g., AWSAnomalyDetectionSNSPublishingPermissions",
  "Effect": "Allow",
  "Principal": {
    "Service": "costalerts.amazonaws.com"
  },
  "Action": "SNS:Publish",
  "Resource": "your topic ARN",
  "Condition": {
        "StringEquals": {
          "aws:SourceAccount": [
            "account-ID"
          ]
        }
  }
}
```

> **Note**
>
> このトピックポリシーでは、サブスクリプションのアカウント ID を `aws:SourceAccount` 条件の値として入力します。この条件は、サブスクリプションを所有するアカウントのオペレーションを実行する場合にのみ、Amazon SNS トピックと対話するよう AWS コスト異常検出を制限します。
> 特定のサブスクリプションに代わってオペレーションを実行する場合にのみ、 AWS コスト異常検出がトピックとやり取りするように制限できます。これを行うには、トピックポリシーで `aws:SourceArn` 条件を使用します。
> これらの条件の詳細については、IAM ユーザーガイドの `aws:SourceAccount` および `aws:SourceArn` を参照してください。

8. 選択したトピックポリシーステートメントで、次の値を置き換えます。

   - 例えば、*`AWSAnomalyDetectionSNSPublishingPermissions`* を文字列に置き換えます。`Sid` はポリシー内で一意であることが必要です。
   - *`your topic ARN`* の部分を Amazon SNS topic Amazon リソースネーム (ARN) で置き換えます。
   - ステートメントを `aws:SourceAccount` 条件とともに使用する場合、*`account-ID`* の部分をサブスクリプションを所有するアカウント ID で置き換えます。Amazon SNS トピックに異なるアカウントからの複数のサブスクリプションがある場合、複数のアカウント ID を`aws:SourceAccount` 条件に追加できます。

9. [トピックを作成] を選択します。

   トピックは [トピック] ページのトピックのリストに表示されます。

通知確認メールのメッセージの確認または再送信

通知を用いて異常検出モニターを作成すると、Amazon SNS 通知も作成されます。通知を送信するには、Amazon SNS 通知トピックへのサブスクリプションを承認する必要があります。

通知サブスクリプションが受け入れられていることを確認するか、サブスクリプション確認メールを再送信するには、Amazon SNS コンソールを使用します。

通知のステータスを確認するか、通知確認の E メールメッセージを再送信するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/sns/v3/home で Amazon SNS コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Subscriptions] を選択してください。
3. 通知のステータスを確認します。[Status] (ステータス) で、サブスクリプションが承認されず確認されていない場合は `PendingConfirmation` が表示されます。
4. (オプション) 確認リクエストを再送信するには、確認が保留中のサブスクリプションを選択し、[リクエストの確認] を選択します。Amazon SNS により、通知にサブスクライブしているエンドポイントに確認リクエストが送信されます。

   エンドポイントの各所有者が E メールを受信したら、[サブスクリプションを確認] リンクを選択して通知を有効化する必要があります。

SSE と を使用して Amazon SNS 異常検出アラートデータを保護する AWS KMS

サーバー側の暗号化 (SSE) を使用すると、暗号化されたトピックで機密データを転送できます。SSE では、 AWS Key Management Service (AWS KMS) で管理されているキーを使用して Amazon SNS メッセージが保護されます。

AWS マネジメントコンソール または AWS SDK を使用して SSE を管理するには、Amazon Simple Notification Service 入門ガイドのAmazon SNSトピックのサーバー側の暗号化 (SSE) を有効にする」を参照してください。

を使用して暗号化されたトピックを作成するには AWS CloudFormation、 AWS CloudFormation ユーザーガイドを参照してください。

Amazon SNS が受信したメッセージはすぐに、SSE によって暗号化されます。メッセージは暗号化されて保存され、送信時にのみ Amazon SNS を使用して復号化されます。

AWS KMS アクセス許可の設定

サーバー側の暗号化 (SSE) を使用する前に、 AWS KMS キーポリシーを設定する必要があります。この設定により、メッセージを暗号化および復号化できるだけでなく、トピックを暗号化できます。AWS KMS アクセス許可の詳細については、「 AWS Key Management Service デベロッパーガイドAWS KMS 」の「API アクセス許可: アクションとリソースのリファレンス」を参照してください。

IAM ポリシーを使用して、 AWS KMS キーのアクセス許可を管理することもできます。詳細については、AWS KMSでの IAM ポリシーの使用を参照してください。

> **Note**
>
> Amazon SNS からメッセージを送受信するグローバルアクセス許可を設定できます。ただし、 では、特定の の (KMS キー) の完全な Amazon リソースネーム AWS KMS keys (ARN) に名前を付ける AWS KMS 必要があります AWS リージョン。これは、IAM ポリシーの [リソース] セクションにあります。
> KMS キーのキーポリシーで必要な許可を付与していることを確認します。そのためには、Amazon SNS で暗号化されたメッセージを作成するプリンシパルと消費するプリンシパルをユーザーとして KMS キーポリシーで指定します。

AWS コスト異常検出と暗号化された Amazon SNS トピック間の互換性を有効にするには

1. KMS キーを作成します。
2. KMS キーポリシーとして、以下のいずれかのポリシーを追加します。

   AWS コスト異常検出サービスに KMS キーへのアクセスを許可するには、次のステートメントを使用します。

   JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
                "Service": "costalerts.amazonaws.com"
            },
            "Action": [
                "kms:GenerateDataKey*",
                "kms:Decrypt"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
```

```
}
```

特定のアカウントに代わってオペレーションを実行する場合にのみ、 AWS コスト異常検出サービスに KMS キーへのアクセスを許可するには、次のステートメントを使用します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
                "Service": "costalerts.amazonaws.com"
            },
            "Action": [
                "kms:GenerateDataKey*",
                "kms:Decrypt"
            ],
            "Resource": "*",
            "Condition": {
                "StringEquals": {
                    "aws:SourceAccount": [
                        "account-ID"
                    ]
                }
            }
        }
    ]
}
```

> **Note**
>
> この KMS キーポリシーでは、サブスクリプションのアカウント ID を `aws:SourceAccount` 条件の値として入力します。この条件では、サブスクリプションを所有するアカウントのオペレーションを実行する場合にのみ、 AWS コスト異常検出が KMS キーとやり取りします。

特定のサブスクリプションに代わってオペレーションを実行する場合にのみ、 AWS コスト異常検出が KMS キーとやり取りされるようにするには、KMS キーポリシーで aws:SourceArn条件を使用します。
これらの条件の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「aws:SourceAccount」および「aws:SourceArn」を参照してください。

3. KMS キーポリシーを aws:SourceAccount 条件とともに使用する場合、*account-ID* の部分をサブスクリプションを所有するアカウント ID で置き換えます。Amazon SNS トピックに異なるアカウントからの複数のサブスクリプションがある場合、複数のアカウント ID を aws:SourceAccount 条件に追加できます。
4. Amazon SNS トピックの SSE を有効にします。

> **Note**
>
> 暗号化された Amazon SNS トピックに公開するための許可を AWS コスト異常検出に付与するものと同じ KMS キーを使用していることを確認します。

5. [変更を保存] を選択します。

チャットアプリケーションでの異常アラートの受信

Amazon Q Developer を使用して、Amazon Chime と Slack で AWS コスト異常検出アラートを受信できます。

Amazon Chime

Amazon Chime で AWS コスト異常検出アラートの受信を開始するには

1. AWS コスト異常検出の開始方法 に従ってモニターを作成します。
2. Individual alerts タイプを使用してアラートサブスクリプションを作成します。Amazon SNS トピックを設定できるのは individual alerts のみです。
3. Amazon SNS トピックをアラートの受信者として、特定のアラートに追加します。コスト異常検出が Amazon SNS トピックに発行するための許可を持っていることを確実するには、異常通知用の Amazon SNS トピックの作成 を参照してください。
4. Amazon Chime のアラートを受信したいモニターに、アラートサブスクリプションをアタッチします。
5. Amazon Chime を開きます。

6. [Amazon Chime] で、Amazon Q Developer を介して通知を受信するようにセットアップするチャットルームを選択します。
7. 右上のルーム設定アイコンを選択し、[ウェブフックとボットを管理] を選択します。

   Amazon Chime は、チャットルームに関連付けられたウェブフックを表示します。
8. ウェブフックで、[URL をコピー] を選択し、[完了] を選択します。

   チャットルームに新しいウェブフックを作成する必要がある場合は、[ウェブフックを追加] を選択し、[名前] フィールドにウェブフックの名前を入力し、[作成] を選択します。
9. Amazon Q Developer in chat applications コンソールを開きます。
10. [新しいクライアントを設定] を選択します。
11. [Amazon Chime]、[設定] の順に選択します。
12. [設定の詳細] で、設定の名前を入力します。名前はアカウント全体で一意である必要があり、後で編集することはできません。
13. Amazon Chime ウェブフックを設定するには、次の手順を実行します。

    1. [ウェブフック URL] には、Amazon Chime からコピーしたウェブフックの URL を貼り付けます。
    2. [ウェブフックの説明] では、次の命名規則 (Chat_room_name/Webhook_name) を使用して Webhook の目的を記述します。これにより、Amazon Chime ウェブフックを Amazon Q Developer 設定に関連付けることができます。
14. この設定のログ記録を有効にする場合は、[Amazon CloudWatch Logs にログを発行する] を選択します。詳細については、Amazon CloudWatch Logs for Amazon Q Developer を参照してください。

    > **Note**
    >
    > Amazon CloudWatch Logs の使用には追加料金がかかります。
15. [アクセス許可] は、次のように IAM アクセス許可を設定します。

    1. [IAM ロール] には、[テンプレートを使用して IAM ロールを作成する] を選択します。代わりに既存のロールを使用する場合は、[IAM ロール] リストから選択します。既存の IAM ロールを使用するには、Amazon Q Developer で使用するように変更する必要があります。詳細については、Configuring an IAM Role for Amazon Q Developer を参照してください。

2. [Role name] (ロール名) に名前を入力します。有効な文字: a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9
3. [ポリシー] テンプレートで、[通知の許可] を選択します。これは、Amazon Q Developer が提供する IAM ポリシーです。CloudWatch アラーム、イベント、ログ、および Amazon SNS トピックに必要な読み取りおよび一覧表示のアクセス許可を提供します。

16. Amazon Chime ウェブフックに通知を送信する Amazon SNS トピックを設定します。

    1. Amazon SNS リージョンでは AWS 、この Amazon Q Developer サブスクリプションの Amazon SNS トピックをホストするリージョンを選択します。
    2. Amazon SNS トピックでは、クライアントサブスクリプションの Amazon SNS トピックを選択します。このトピックでは、Amazon Chime ウェブフックに送信されるコンテンツを決定します。リージョンに追加の Amazon SNS トピックがある場合は、同じドロップダウンリストからトピックを選択できます。
    3. 別のリージョンから通知サブスクリプションに Amazon SNS トピックを追加する場合は、別のリージョンを追加するを選択します。

17. [設定] を選択します。

その他の詳細については、Amazon Q Developer in chat applications 管理者ガイドのチュートリアル: Amazon Chime の使用を開始するを参照してください。

Slack

Slack で AWS コスト異常検出アラートの受信を開始するには

1. AWS コスト異常検出の開始方法 に従ってモニターを作成します。
2. `Individual alerts` タイプを使用してアラートサブスクリプションを作成します。Amazon SNS トピックを設定できるのは `individual alerts` のみです。
3. Amazon SNS トピックをアラートの受信者として、特定のアラートに追加します。コスト異常検出が Amazon SNS トピックに発行するための許可を持っていることを確実するには、異常通知用の Amazon SNS トピックの作成 を参照してください。
4. Slack のアラートを受信したいモニターに、アラートサブスクリプションをアタッチします。
5. Amazon Q Developer を Slack ワークスペースに追加します。
6. Amazon Q Developer in chat applications コンソールを開きます。
7. [新しいクライアントを設定] を選択します。
8. [Slack]、[設定] の順に選択します。

9. 右上のドロップダウンリストから、Amazon Q Developer で使用する Slack ワークスペースを選択します。
10. [許可] を選択します。

その他の詳細については、Amazon Q Developer in chat applications 管理者ガイドのチュートリアル: Slack の使用を開始するを参照してください。

コスト異常検出で EventBridge を使用する

AWS コスト異常検出は EventBridge と統合されています。EventBridge は、アプリケーションをさまざまなソースのデータに接続するために使用できるイベントバスサービスです。詳細については、Amazon EventBridge ユーザーガイドを参照してください。

EventBridge を使用して、コスト異常検出イベントを検出し、それらに対応することができます。そうすると、作成されたルールに基づいて、イベントがルールで指定されている値に一致するときに、EventBridge が 1 つ、または複数のターゲットアクションを呼び出します。イベントのタイプに応じて、イベント情報の取得、追加イベントの開始、通知の送信、是正措置の実施、またはその他のアクションを実行することができます。コスト異常検出イベントの EventBridge ルールを設定するには、Amazon EventBridge ユーザーガイドの Create a rule in Amazon EventBridge を参照してください。

例: コスト異常検出の EventBridge イベント

即時アラートが検出されると、サブスクライバーは `Anomaly Detected` という詳細タイプのイベントを受け取ります。次の例は、詳細タイプのイベント本文を示したものです。

```
{
    "version": "0",
    "id": "<id>", // alphanumeric string
    "source": "aws.ce",
    "detail-type": "Anomaly Detected",
    "account": "<account ID>", // 12 digit account id.
    "region": "<region>", // Cost Anomaly Detection home region.
    "time": "<date>", // Format: yyyy-MM-dd'T'hh:mm:ssZ
    "resources": [
         "arn:aws:ce::123456789012:anomalymonitor/abcdef12-1234-4ea0-84cc-918a97d736ef"
    ],
    "detail": {
```

```
         "accountName": "<account name>",
         "anomalyEndDate": "2021-05-25T00:00:00Z",
         "anomalyId": "12345678-abcd-ef12-3456-987654321a12",
         "anomalyScore": {
            "currentScore": 0.47,
            "maxScore": 0.47
         },
         "anomalyStartDate": "2021-05-25T00:00:00Z",
         "dimensionValue": "<dimension value>", // service name for AWS Service Monitor
         "feedback": "string",
         "impact": {
            "maxImpact": 151,
            "totalActualSpend": 1301,
            "totalExpectedSpend": 300,
            "totalImpact": 1001,
            "totalImpactPercentage": 333.67
         },
         "rootCauses": [
            {
                "linkedAccount": "<linked account ID>", // 12 digit account id.
                "linkedAccountName": "<linked account name>",
                "region": "<region>",
                "service": "<service name>", // AWS service name
                "usageType": "<usage type>", // AWS service usage type
                "impact": {
                    "contribution": 601,
                }
            }
        ],
        "accountId": "<account ID>", // 12 digit account id.
        "monitorArn": "arn:aws:ce::123456789012:anomalymonitor/
abcdef12-1234-4ea0-84cc-918a97d736ef",
        "monitorName": "<your monitor name>",
        "anomalyDetailsLink": "https://console.aws.amazon.com/cost-management/home#/
anomaly-detection/monitors/abcdef12-1234-4ea0-84cc-918a97d736ef/anomalies/12345678-
abcd-ef12-3456-987654321a12"
    }
}
```

コスト異常検出での AWS ユーザー通知の使用

AWS User Notifications を使用して、コスト異常検出イベントについて通知する配信チャネルを設定できます。指定したルールにイベントが一致すると、通知を受け取ります。イベントの通知は、E

メール、Amazon Chime、Microsoft Teams、Slack などのチャットアプリケーション内の Amazon Q Developer、または AWS Console Mobile Application のプッシュ通知など、複数のチャネルで受け取ることができます。 AWS ユーザー通知コンソールのコンソール通知センターを使用して通知を表示することもできます。

AWS ユーザー通知は集約もサポートしているため、特定のイベント中に受け取る通知の数を減らすことができます。詳細については、AWS User Notifications ユーザーガイドを参照してください。

AWS ユーザー通知を使用するには、適切な AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可が必要です。IAM アクセス許可の設定について詳しくは、AWS User Notifications ユーザーガイド の Creating a notification configuration を参照してください。

例: **Anomaly Detected** の EventBridge イベント

以下は、Anomaly Detected の一般化されたサンプルイベントです。 AWS ユーザー通知を使用して EventBridge イベント (このイベントなど) をサブスクライブできます。

```
{
    "version": "0",
    "id": "<id>", // alphanumeric string
    "source": "aws.ce",
    "detail-type": "Anomaly Detected",
    "account": "<account ID>", // 12 digit account id.
    "region": "<region>", // Cost Anomaly Detection home region.
    "time": "<date>", // Format: yyyy-MM-dd'T'hh:mm:ssZ
    "resources": [
         "arn:aws:ce::123456789012:anomalymonitor/abcdef12-1234-4ea0-84cc-918a97d736ef"
    ],
    "detail": {
         "accountName": "<account name>",
         "anomalyEndDate": "2021-05-25T00:00:00Z",
         "anomalyId": "12345678-abcd-ef12-3456-987654321a12",
         "anomalyScore": {
            "currentScore": 0.47,
            "maxScore": 0.47
         },
         "anomalyStartDate": "2021-05-25T00:00:00Z",
         "dimensionValue": "<dimension value>", // service name for AWS Service Monitor
         "feedback": "string",
         "impact": {
            "maxImpact": 151,
            "totalActualSpend": 1301,
```

```
            "totalExpectedSpend": 300,
            "totalImpact": 1001,
            "totalImpactPercentage": 333.67
         },
         "rootCauses": [
            {
                "linkedAccount": "<linked account ID>", // 12 digit account id.
                "linkedAccountName": "<linked account name>",
                "region": "<region>",
                "service": "<service name>", // AWS service name
                "usageType": "<usage type>", // AWS service usage type
                "impact": {
                    "contribution": 601,
                }
            }
        ],
        "accountId": "<account ID>", // 12 digit account id.
        "monitorArn": "arn:aws:ce::123456789012:anomalymonitor/
abcdef12-1234-4ea0-84cc-918a97d736ef",
        "monitorName": "<your monitor name>",
        "anomalyDetailsLink": "https://console.aws.amazon.com/cost-management/home#/
anomaly-detection/monitors/abcdef12-1234-4ea0-84cc-918a97d736ef/anomalies/12345678-
abcd-ef12-3456-987654321a12"
    }
}
```

イベントのフィルタリング

AWS ユーザー通知コンソールで使用できるフィルターを使用するか、JSON コードから独自の EventBridge フィルターを作成する場合は特定のプロパティを使用して、サービスと名前でイベントをフィルタリングできます。

トピック

- 例: インパクトでフィルタリングする
- 例: サービスディメンションでフィルタリングする
- 例: コスト配分タグでフィルタリングする
- 例: リージョンの根本原因でフィルタリングする
- 例: 複数の基準でフィルタリングする

例: インパクトでフィルタリングする

次のフィルターを使用すると、合計インパクトが 100 USD を超え、インパクト率が 10% を超える異常が取得されます。

```
{
    "detail": {
        "impact": {
            "totalImpact": [{
                "numeric": [">", 100]
            }],
            "totalImpactPercentage": [{
                "numeric": [">", 10]
            }]
        }
    }
}
```

例: サービスディメンションでフィルタリングする

次のフィルターは、 AWS サービスモニターによって検出された EC2 サービス固有の異常をキャプチャします。

```
{
    "detail": {
        "dimensionValue": ["Amazon Elastic Compute Cloud - Compute"],
        "monitorName": ["aws-services-monitor"]
    }
}
```

例: コスト配分タグでフィルタリングする

次のフィルターを使用すると、ディメンションコスト配分タグモニターによって検出されたフロントエンドアプリケーションチームの異常が取得されます。

```
{
  "detail": {
    "dimensionValue": ["ApplicationTeam:Frontend"],
    "monitorName": ["dimensional-CAT-monitor"]
  }
}
```

例: リージョンの根本原因でフィルタリングする

次のフィルターを使用すると、米国東部 (バージニア北部) リージョンで根本原因がある異常が取得されます。

```
{
  "detail": {
    "rootCauses": {
      "region": ["us-east-1"]
    }
  }
}
```

例: 複数の基準でフィルタリングする

次の複合フィルターを使用すると、米国東部 (バージニア北部) リージョンで、合計 100 USD を超えるインパクト、10% を超えるインパクト、根本原因を持つフロントエンドアプリケーションチームの異常が取得されます。

```
{
  "detail": {
    "dimensionValue": ["ApplicationTeam:Frontend"],
    "monitorName": ["dimensional-CAT-monitor"],
    "impact": {
        "totalImpact": [{ "numeric": [">", 100] }],
        "totalImpactPercentage": [{ "numeric": [">", 10] }]
    },
    "rootCauses": {
        "region": ["us-east-1"]
    }
  }
}
```

コスト異常検出のオプトアウト

コスト異常検出はいつでもオプトアウトできます。オプトアウトするには、アカウント内で、すべてのコストモニタリングとアラートサブスクリプションを削除する必要があります。オプトアウト後、コスト異常検出は、支出パターンの異常をモニタリングしなくなます。また、通知が送信されることもなくなります。

コスト異常検出のオプトアウト方法

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[コスト異常検出] を選択します。
3. 既存のコストモニターを削除するには、以下の手順に従います。
   a. [コストモニター] タブを選択します。
   b. 削除するコストモニターを選択します。
   c. [削除] を選択します。
   d. [コストモニターの削除] ダイアログボックスで、[削除] を選択します。
   e. その他のコストモニターについても、同じ手順を繰り返します。
4. 既存のアラートサブスクリプションを削除するには、以下の手順に従います。
   a. [アラートサブスクリプション] タブを選択します。
   b. 削除するアラートサブスクリプションを選択します。
   c. [削除] を選択します。
   d. [アラートサブスクリプションの削除] ダイアログボックスで、[削除] を選択します。
   e. その他のアラートサブスクリプションについても、同じ手順を繰り返します。

> **Note**
>
> また、Cost Explorer API を介してコストモニタリングとアラートサブスクリプションを削除することで、コスト異常検出をオプトアウトすることもできます。これを行うには、「DeleteAnomalyMonitor」と「DeleteAnomalySubscription」を使用します。

Cost Optimization Hub による機会の特定

Cost Optimization Hub は、 AWS アカウントと AWS リージョン全体でコスト最適化のレコメンデーションを統合して優先順位を付けるのに役立つ AWS 請求およびコスト管理機能です。これにより、AWS 支出を最大限に活用できます。

Cost Optimization Hub を使用して、 AWS アカウントと AWS リージョン全体の AWS コスト最適化レコメンデーションを特定、フィルタリング、集計できます。リソースの適切なサイジング、アイドル状態のリソースの削除、Savings Plans、リザーブドインスタンスに関する推奨事項を作成します。単一のダッシュボードを使用すると、コスト最適化の機会を特定するために複数の AWS 製品にアクセスする必要がなくなります。

Cost Optimization Hub は、コスト最適化の推奨事項を実装する際に、推定削減額を定量化して集計するのに役立ちます。Cost Optimization Hub は AWS、リザーブドインスタンスや Savings Plans などの特定の商用条件を考慮するため、レコメンデーションを簡単に比較して優先順位を付けることができます。これにより、コスト効率を測定して、一貫したコスト削減ベンチマークを確立し、パフォーマンス目標を設定し、進捗状況を追跡してクラウド投資に対するリターンを最大化できます。

Cost Optimization Hub を有効にすると、Cost Optimization Hub の節約額の見積もりと一致する、AWS Compute Optimizer の月間削減額の見積もりを確認できます。

Cost Optimization Hub には、次の主な利点があります。

- AWS コスト最適化の機会を自動的に特定して統合します。
- AWS 料金と割引を組み込んだ推定削減額を定量化します。
- 関連するコスト最適化の機会全体でコスト削減額を集計し、重複を排除します。
- フィルタリング、ソート、グループ化により、コスト最適化の推奨事項を優先します。
- 一貫したコスト削減ベンチマークを確立し、パフォーマンス目標を設定し、進捗状況を追跡して、クラウド投資に対するリターンを最大化します。

Cost Optimization Hub は、コンソールエクスペリエンスと一連の API オペレーションを提供します。これを使用して、コスト効率を測定および追跡し、複数の AWS リージョンにわたるリソースの分析結果と推奨事項を表示できます。組織の管理アカウントをオプトインすると、組織内における複数のアカウントの結果と推奨事項を表示することもできます。この機能による検出結果は、Amazon EC2 コンソールなど、サポートされているサービスのコンソールにもレポートされます。

トピック

- Cost Optimization Hub の開始方法
- Cost Optimization Hub の設定をカスタマイズする
- コスト最適化の機会を表示する
- コスト効率メトリクスを理解する
- コスト最適化の機会の優先順位付け
- コスト最適化戦略を理解する
- 削減の機会の表示
- 月間節約額の見積り
- サポートされているリソース

Cost Optimization Hub の開始方法

このセクションの概要では、 AWS 請求情報とコスト管理で Cost Optimization Hub の使用を開始する方法について説明します。

Cost Optimization Hub への初回アクセスの際、サインインに使用したアカウントでオプトインするように求められます。この機能を使用する前に、オプトインする必要があります。さらに、Cost Optimization Hub API、 AWS コマンドラインインターフェイス (AWS CLI)、または SDKs を使用してオプトインすることもできます。

オプトインすることで、Cost Optimization Hub がアカウントおよび組織内のすべてのメンバーアカウント内の複数の AWS サービスによって生成されたコスト最適化レコメンデーションをインポートすることを許可します。これには、 AWS Compute Optimizer からの適切なサイズ設定に関する推奨事項と、 AWS 請求情報とコスト管理からの Savings Plans に関する推奨事項が含まれます。これらの推奨事項は、米国東部 (バージニア北部) リージョンに保存されます。

将来的には、Cost Optimization Hub がインポートするコスト最適化レコメンデーションのタイプを拡張 AWS できます。また、Cost Optimization Hub から他の統合 AWS サービスにレコメンデーションをエクスポート AWS することもできます。

Cost Optimization Hub でサポートされているアカウント

次の AWS アカウントタイプは Cost Optimization Hub にオプトインできます。

- スタンドアロン AWS アカウント

AWS Organizations が有効になっていないスタンドアロン AWS アカウント。例えば、スタンドアロンアカウントにサインインしながら Cost Optimization Hub にオプトインすると、Cost Optimization Hub はコスト最適化の機会を特定し、推奨事項を統合します。

- 組織のメンバーアカウント

  組織のメンバーである AWS アカウント。組織のメンバーアカウントにサインインしているときに Cost Optimization Hub にオプトインすると、Cost Optimization Hub によりコスト最適化の機会が特定され、推奨事項が統合されます。

- 組織の管理アカウント

  組織を管理する AWS アカウント。組織の管理アカウントにサインインした状態で Cost Optimization Hub にオプトインすると、管理アカウントのみをオプトインするか、または管理アカウントを含む組織内のすべてのアカウントをオプトインするかのいずれかを選択できます。

  管理アカウントは、メンバーアカウントを Cost Optimization Hub の委任管理者として登録できます。これにより、委任された管理者は、管理アカウントに代わってすべての推奨事項を閲覧できます。組織では、委任された管理者を 1 名だけ持つことができます。詳細については、「管理者アカウントの委任」を参照してください。

> **Important**
>
> 組織のすべてのメンバー アカウントをオプトインするには、組織ですべての機能が有効になっていることを確認してください。詳細については、「AWS Organizations User Guide」の「Enabling All Features in Your Organization」を参照してください。
> 組織の管理アカウントを使用して、オプトインし、組織内のすべてのメンバーアカウントを含めると、組織アカウントで Cost Optimization Hub の信頼されたアクセスが有効になります。詳細については、「Cost Optimization Hub」と AWS 「Organizations の信頼されたアクセス」を参照してください。

Cost Optimization Hub にオプトインするためのポリシー

Cost Optimization Hub にオプトインするには、特定のアクセス許可が必要です。必要なアクセス許可は、単一アカウントに対して有効化する場合と、組織内のすべてのアカウントに対して有効化する場合とで異なります。

どちらのポリシーも、必要なサービスリンクロールを作成し、Cost Optimization Hub の登録ステータスを更新するためのアクセス許可を付与します。サービスにリンクしたロールの詳細については、「Cost Optimization Hub のサービスにリンクされたロール」を参照してください。

すべてのアカウントで Cost Optimization Hub を有効にする場合、管理アカウントも AWS Organizations の信頼されたアクセスを設定する必要があります。詳細については、「Cost Optimization Hub」と AWS 「Organizations の信頼されたアクセス」を参照してください。

以下に 2 つのポリシーステートメントを示します。ニーズに応じて適切なものを選択してください。

Policy for opting in all accounts in your organization

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "iam:CreateServiceLinkedRole",
            "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/cost-
optimization-hub.bcm.amazonaws.com/AWSServiceRoleForCostOptimizationHub",
            "Condition": {"StringLike": {"iam:AWSServiceName": "cost-
optimization-hub.bcm.amazonaws.com"}}
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "iam:PutRolePolicy",
            "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/cost-
optimization-hub.bcm.amazonaws.com/AWSServiceRoleForCostOptimizationHub"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "organizations:EnableAWSServiceAccess"
            ],
            "Resource": "*",
            "Condition": {
                "StringLike": {
                    "organizations:ServicePrincipal": [
                        "cost-optimization-hub.bcm.amazonaws.com"
```

```
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "cost-optimization-hub:UpdateEnrollmentStatus",
            "Resource": "*"
       }
    ]
}
```

Policy for opting in a single account

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "iam:CreateServiceLinkedRole",
            "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/cost-optimization-
hub.bcm.amazonaws.com/AWSServiceRoleForCostOptimizationHub",
            "Condition": {"StringLike": {"iam:AWSServiceName": "cost-
optimization-hub.bcm.amazonaws.com"}}
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "iam:PutRolePolicy",
            "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/cost-optimization-
hub.bcm.amazonaws.com/AWSServiceRoleForCostOptimizationHub"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "cost-optimization-hub:UpdateEnrollmentStatus",
            "Resource": "*"
       }
    ]
}
```

Cost Optimization Hub アクションの開始に役立つ 2 つの AWS 管理ポリシーがあります。一方のポリシーは Cost Optimization Hub への読み取り専用アクセスを提供し、もう一方のポリシーは管理者アクセスを提供します。詳細については、マネージドポリシー を参照してください。

Cost Optimization Hub の有効化

Cost Optimization Hub にアクセスするには、まずこの機能を有効にする必要があります。

Cost Optimization Hub を有効にするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Cost Optimization Hub] を選択します。
3. [Cost Optimization Hub] ページで、関連する組織とメンバーアカウントの設定を選択します。
   - [Enable Cost Optimization Hub for this account and all member accounts]: このアカウントとすべてのメンバーアカウントの推奨事項が Cost Optimization Hub にインポートされます。
   - [Enable Cost Optimization Hub for this account only]: このアカウントの推奨事項のみが Cost Optimization Hub にインポートされます。
4. [有効化] を選択します。

コンソールのコスト管理設定を使用して Cost Optimization Hub を有効にすることも、CLI または AWS SDK AWS を使用することもできます。

Cost Optimization Hub を有効にすると、 は Compute AWS Optimizer などのさまざまな AWS 製品からコスト最適化レコメンデーションのインポート AWS を開始します。Cost Optimization Hub がサポートされているすべての AWS リソースのレコメンデーションをインポートするまでに最大 24 時間かかる場合があります。

Compute Optimizer へのオプトイン

Cost Optimization Hub が AWS Compute Optimizer からレコメンデーションをインポートするには、Compute Optimizer にオプトインする必要があります。Compute Optimizer は、スタンドアロン AWS アカウント、組織のメンバーアカウント、および組織の管理アカウントをサポートしています。詳細については、AWS 「Compute Optimizer の開始方法」を参照してください。

コンソールにアクセスする

セットアップが完了したら、Cost Optimization Hub にアクセスします。

Cost Optimization Hub にアクセスするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Cost Optimization Hub] を選択します。

Cost Optimization Hub のオプトアウト

Cost Optimization Hub はいつでもオプトアウトできます。ただし、組織アカウントではすべてのメンバーアカウントをオプトアウトすることはできません。各メンバーはアカウントレベルでオプトアウトする必要があります。

Cost Optimization Hub をオプトアウトするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [詳細設定] で、[Cost Optimization Hub] を選択します。
4. [Cost Optimization Hub] タブで、[コスト最適化ハブを有効にする] をクリアします。
5. [設定を保存] を選択します。

トピック

- Cost Optimization Hub と AWS Organizations の信頼されたアクセス
- 管理者アカウントを委任する

Cost Optimization Hub と AWS Organizations の信頼されたアクセス

組織の管理アカウントを使用してオプトインし、組織内のすべてのメンバーアカウントを含めると、Cost Optimization Hub の信頼されたアクセスが組織アカウントで自動的に有効になります。メンバーアカウントの推奨事項にアクセスするたびに、Cost Optimization Hub は信頼されたアクセスが組織アカウントで有効であることを確認します。オプトインした後に Cost Optimization Hub の信頼されたアクセスを無効にすると、Cost Optimization Hub は組織のメンバーアカウントの推奨事項へのアクセスを拒否します。さらに、組織内のメンバーアカウントは Cost Optimization Hub にオプトインされていません。信頼されたアクセスを再度有効にするには、組織の管理アカウントを使用して Cost Optimization Hub に再度オプトインし、組織のすべてのメンバーアカウントを含めてくださ

い。詳細については、「Opting in your account」を参照してください。Organizations の信頼されたアクセスの詳細については AWS 、AWS 「 Organizations ユーザーガイド」の「他の AWS のサービスでの Organizations の使用」を参照してください。 AWS

管理アカウントポリシー

このポリシーは、管理アカウントが Cost Optimization Hub にオプトインし、サービスにフルアクセスするために必要なすべてのアクセス許可を規定しています。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "CostOptimizationHubAdminAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "cost-optimization-hub:ListEnrollmentStatuses",
                "cost-optimization-hub:UpdateEnrollmentStatus",
                "cost-optimization-hub:GetPreferences",
                "cost-optimization-hub:UpdatePreferences",
                "cost-optimization-hub:GetRecommendation",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendations",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendationSummaries",
                "organizations:EnableAWSServiceAccess"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "AllowCreationOfServiceLinkedRoleForCostOptimizationHub",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:CreateServiceLinkedRole"
            ],
            "Resource": [
                "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/cost-optimization-
hub.bcm.amazonaws.com/AWSServiceRoleForCostOptimizationHub"
            ],
            "Condition": {
                "StringLike": {
```

```
                    "iam:AWSServiceName": "cost-optimization-
hub.bcm.amazonaws.com"
                }
            }
        },
        {
            "Sid": "AllowAWSServiceAccessForCostOptimizationHub",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "organizations:EnableAWSServiceAccess"
            ],
            "Resource": "*",
            "Condition": {
                "StringLike": {
                    "organizations:ServicePrincipal": [
                        "cost-optimization-hub.bcm.amazonaws.com"
                    ]
                }
            }
        }
    ]
}
```

メンバーアカウントポリシー

このポリシーは、メンバーアカウントが Cost Optimization Hub にフルアクセスするために必要なアクセス許可を規定しています。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "CostOptimizationHubAdminAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "cost-optimization-hub:ListEnrollmentStatuses",
                "cost-optimization-hub:UpdateEnrollmentStatus",
                "cost-optimization-hub:GetPreferences",
                "cost-optimization-hub:UpdatePreferences",
```

```
                "cost-optimization-hub:GetRecommendation",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendations",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendationSummaries"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

管理者アカウントを委任する

組織内のメンバーアカウントを Cost Optimization Hub の管理者として委任できます。管理者を委任すると、管理アカウントを使用して組織に代わって Cost Optimization Hub にアクセスして管理する必要がなくなります。これにより、 AWS セキュリティのベストプラクティスを採用することもできます。このベストプラクティスでは、可能な限り管理アカウント外に責任を委任することをお勧めします。

委任された管理者は、管理アカウントにアクセスすることなく、推奨事項の取得、設定など、ほとんどの Cost Optimization Hub アクションを実行できます。ただし、委任された管理者は、管理アカウントのオプトインステータスを変更することはできません。

管理アカウントは、組織の委任された管理者オプションを制御します。1 つの組織につき、一度に設定できる Cost Optimization Hub の委任管理者は 1 人だけです。

アカウントを委任管理者として登録または更新するには:

Console

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [詳細設定] ページで、[Cost Optimization Hub] タブを選択します。
4. [組織とメンバーアカウントの設定] で、[委任管理者] を選択します。
5. 委任管理者として追加するアカウント ID を選択します。
6. [設定を保存] を選択します。

CLI

1. 組織の管理アカウントとしてログインします。
2. ターミナルまたはコマンドプロントウィンドウを開きます。
3. 次の API オペレーションを呼び出します。123456789012 をアカウント ID に置き換えます。

```
aws organizations register-delegated-administrator \
                  --account-id 123456789012 \
                  --service-principal cost-optimization-hub.bcm.amazonaws.com
```

メンバーアカウントを委任管理者として削除するには

Console

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [詳細設定] ページで、[Cost Optimization Hub] タブを選択します。
4. [組織とメンバーアカウントの設定] で、[委任管理者] をクリアします。
5. [設定を保存] を選択します。

CLI

1. 組織の管理アカウントとしてログインします。
2. ターミナルまたはコマンドプロントウィンドウを開きます。
3. 次の API オペレーションを呼び出します。123456789012 をアカウント ID に置き換えます。

```
aws organizations deregister-delegated-administrator \
                  --account-id 123456789012 \
                  --service-principal cost-optimization-hub.bcm.amazonaws.com
```

Cost Optimization Hub の設定をカスタマイズする

[コスト管理の設定] では、推定される節約額の算出方法やコミットメントの優先設定など、Cost Optimization Hub のさまざまな設定をカスタマイズできます。

節約額の推定モードの設定

1 か月あたりの推定削減額の計算方法をカスタマイズできます。削減額推定モードは、次の 2 つのオプションをサポートします。

- 割引後: Cost Optimization Hub は、リザーブドインスタンスや Savings Plans など AWS、 によるすべての割引を組み込んだ削減額を見積もります。 Savings Plans
- 割引前: Cost Optimization Hub は、割引を組み込まずに、 AWS パブリック (オンデマンド) 料金を使用して削減額を見積もります。

> **Important**
>
> 請求転送を請求ソースアカウントとして使用すると、`after discounts`この機能は無効になり、有効にすることはできません。請求元アカウントは、最適化を決定する前に、リザーブドインスタンスと Savings Plans インベントリに対して適切なサイズ設定の推奨事項を検証して、未使用のコミットメントを考慮する必要があります。

1 か月あたりの推定削減額の計算方法をカスタマイズするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [詳細設定] ページで、[Cost Optimization Hub] タブを選択します。
4. [削減額推定モード] で、[割引後] または [割引前] を選択します。
5. [設定を保存] を選択します。

コミットメントの設定

予約および Savings Plans の希望する期間と支払いオプションをカスタマイズでき、これらの設定は Cost Optimization Hub ダッシュボード内の推定節約額に反映されます。例えば、1 年間の前払いなしのコミットメントを希望する場合は、この設定を行うことで、Cost Optimization Hub が 24 時間以内にダッシュボードへ反映します。算出される推定月間節約額は、設定したコミットメント期間と支払いオプションで達成可能な節約額を反映しています。

希望する期間と支払いオプションをカスタマイズするには:

Console

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。
3. [詳細設定] ページで、[Cost Optimization Hub] タブを選択します。
4. [期間] では、[最も大きい全体的なコスト削減]、[1 年間]、または [3 年間] から選択します。
5. [支払いオプション] では、[最も大きい全体的なコスト削減]、[前払いなし]、[一部前払い]、または [全額前払い] のいずれかを選択します。
6. [設定を保存] を選択します。

> **Note**
>
> 希望するコミットメントタイプが、特定のリージョンやインスタンスタイプなどで利用できない場合、Cost Optimization Hub は自動的に、全体的な節約額が最も大きい Savings Plans または予約をお勧めします。

CLI

1. アカウントにログインします。
2. ターミナルまたはコマンドプロントウィンドウを開きます。
3. `UpdatePreferences` API オペレーションを使用して、期間と支払いオプションを更新します。

```
aws cost-optimization-hub update-preferences
                  --preferred-commitment '{"term":"OneYear", "paymentOption":
 "NoUpfront"}'
```

期間または支払いオプションを変更できますが、両方のフィールドをリクエストに含める必要があります。例えば、現在の支払いオプションを維持しながら用語のみを `ThreeYear` に変更するには、次のようにします。

```
aws cost-optimization-hub update-preferences
                  --preferred-commitment '{"term":"ThreeYear", "paymentOption":
 "NoUpfront"}'
```

デフォルトの 3 年間 (最大削減額) を使用するには、期間フィールドを省略するか、null に設定します。

```
aws cost-optimization-hub update-preferences
                  --preferred-commitment '{"paymentOption": "NoUpfront"}'
```

両方のフィールドにデフォルト (最大削減額) を使用するには 、空のオブジェクトを使用します。

```
aws cost-optimization-hub update-preferences
                  --preferred-commitment '{}'
```

コスト最適化の機会を表示する

リソースの最適化の結果が Cost Optimization Hub ダッシュボードに表示されます。このダッシュボードを使用して、コスト最適化の機会をフィルタリングし、推定削減額を集計することができます。全体的なコスト削減の機会と前月の AWS での支出を比較できます。これらの推定節約額は、予約および Savings Plans の優先するコミットメント設定を反映しています。これらの設定をカスタマイズするには、Customizing your Cost Optimization Hub preferences を参照してください。

ダッシュボードを使用して、AWS アカウント、リージョン、リソースタイプ、タグ別にコスト削減の機会をグループ化します。節約機会の分布を表示し、推奨アクションを確認して、最も節約効果が見込める領域を特定します。ダッシュボードは毎日更新され、前日までの使用状況が反映されます。例えば、今日の日付が 12 月 2 日だとすると、データには 12 月 1 日までの使用状況が反映されます。

概要グラフを使用して推奨事項をフィルタリングできます。

コスト最適化のために、カテゴリと推奨されるアクションを詳しく調べて絞り込みます。リソースごとにリソースとアクションを特定するには、[機会を見る] を選択して、最適化に使用できるリソースのリストを表示します。AWS Billing and Cost Management コンソールと AWS Compute Optimizer で、特定の推奨事項の選択、詳細の表示、関連ページへのディープリンクを行うことができます。推奨事項をさらに詳しく分析するには、その推奨事項を選択し、[Amazon Q を利用して分析] を選択します。

ダッシュボードの下部には、前月の償却純コストに対する総推定削減額の割合が表示されます。これにより、コスト効率をベンチマークできます。

トピック

- ダッシュボードの表示

ダッシュボードの表示

ダッシュボードとコスト最適化の機会を表示するには、次の手順に従います。

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Cost Optimization Hub] を選択します。

   デフォルトでは、ダッシュボードには、現在サインインしているアカウントのすべての AWS リージョンにわたる AWS リソースのコスト最適化の機会についての概要が表示されます。
3. ダッシュボードでは、次のアクションを実行できます。

   - アカウント内の特定の AWS リージョンにおけるコスト最適化の結果を表示するには、グラフでそのリージョンを選択します。
   - 特定のアカウントにおけるリソースのコスト最適化の結果を表示するには、[推定削減額を次の条件で集計:] で [AWS アカウント] を選択し、グラフでアカウント ID を選択します。

     > **Note**
     >
     > 他のアカウントにおけるリソースのコスト最適化の機会を表示する機能は、組織の管理アカウントにサインインしている状態で、組織のすべてのメンバーアカウントをオプトインしている場合にのみ使用できます。

   - リソースタイプ別にコスト最適化の結果を表示するには、[推定削減額を次の条件で集計:] で、[リソースタイプ] を選択します。
   - 推奨されるアクションを表示するには、[推定削減額を次の条件で集計:] で、[推奨アクション] を選択します。
   - ダッシュボードで結果をフィルタリングするには、[フィルター] でフィルターオプションを選択します。
   - 最適化に使用できるリソースのリストに移動するには、[機会を見る] を選択します。

ダッシュボードビューの切り替え

Cost Optimization Hub ダッシュボードには、コスト最適化の機会を表示するための 2 つのスタイルが用意されています。

- グラフビュー
- テーブルビュー

スタイルを設定するには、グラフまたはテーブルの右上にあるいずれかのビューを選択します。

コスト効率メトリクスを理解する

コスト効率は、 AWS クラウドリソースをどの程度効果的に最適化しているかを測定するメトリクスです。リソースの最適化、リソース使用率、コミットメントの削減を考慮して毎日自動的に生成され、個々のリージョンから組織全体まで、複数のスコープに適用されます。

次の式を使用して、クラウド支出効率をシンプルかつ包括的に測定できます。

コスト効率 = 1 - (コスト削減の可能性/最適化可能な総支出) × 100%

例えば、最適化できる月 AWS 額支出の合計が 100,000 USD で、Cost Optimization Hub が 10,000 USD のコスト削減の可能性を特定した場合、コスト効率は 90% になります。

組織全体のコスト効率を経時的に追跡し、コスト効率を把握してベンチマークできます。日次更新では、メトリクスは最適化の進行状況に関するインサイトを提供し、コスト削減レコメンデーションを実装するとスコアが向上し、非効率的なリソースがプロビジョニングされるとスコアが低下します。

コスト効率メトリクスは、30 日間のローリング支出と今日の節約機会に基づいています。たとえば、11 月 30 日の メトリクスは、10 月 31 日から 11 月 29 日までの最適化可能な支出と、11 月 30 日の潜在的な削減額を使用します。

削減見込み額

コスト削減の可能性は、 AWS 環境全体に推奨アクションを実装することで達成できる重複排除された推定総コスト削減を表します。これらのアクションには、リソースの適正化、最適なインスタンスタイプの選択、アイドル状態のリソースの削除、リザーブドインスタンスや Savings Plans などのコミットメントベースの料金モデルの使用などが含まれます。

Cost Optimization Hub は、重複する削減額をフィルタリングしてランク付けすることで、重複する削減額の計算を防止し、削減額の可能性が最も高い削減額を強調します。たとえば、アイドル状態の

EC2 インスタンスを停止すると、Savings Plans を購入することで節約できる量が減ります。Cost Optimization Hub は、停止できるアイドル状態の EC2 インスタンスのコストに基づいて、Savings Plans レコメンデーションの推定削減額を比例的に削減します。

最適化可能な総支出

総最適化支出は、Cost Optimization Hub が Amazon EC2 インスタンス、Amazon RDS データベース、Amazon OpenSearch などのレコメンデーションを提供するサービスに対する AWS 支出を表します。クレジットと返金を削除した後、正味償却コストを使用します。詳細については、「純償却コスト」を参照してください。

> **Note**
>
> サポートされているサービスの場合、サービス支出全体が最適化可能な総支出に含まれます。

サポートされるサービス

コスト効率メトリクスの最適化可能な支出はすべて、これらの含まれるサービスでの支出です。

- Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) インスタンス
- Amazon Elastic Container Service (ECS)
- Amazon Elastic Kubernetes Service (EKS)
- Amazon Elastic Block Store (EBS) ボリューム
- Amazon RDS データベース
- Amazon SageMaker
- Amazon Redshift
- AWS Lambda 関数
- OpenSearch
- MemoryDB
- DynamoDB
- ElastiCache

これらのサービスでサポートされているリソースのリストについては、「サポートされているリソース」を参照してください。

コスト効率の表示

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Cost Optimization Hub] を選択します。
3. 現在のコスト効率がページの上部に表示されます。
4. デフォルトでは、アカウントの全体的なスコアが右側にコスト効率カードに表示されます。このカードでは、次のアクションを実行できます。
   - 最も効率的な 5 つのアカウントを表示するには、「効率を表示」で、最も効率的なアカウントを選択します。
   - 最も効率の低いアカウントを 5 つ表示するには、「効率を表示する」で、最も効率の低いアカウントを選択します。
   - 「効率を表示」で 5 つの最も効率的なリージョンを表示するには、「最も効率的なリージョン」を選択します。

すべてのアカウントとリージョンのコスト効率を表示するには、最適化の詳細 のテーブルビューを使用します。列ヘッダーをクリックすると、特定のアカウントまたはリージョンを検索し、コスト効率でソートできます。

よくある質問

1. コスト効率を表示できないのはなぜですか?

   Compute Optimizer に登録していることを確認してください。詳細については、AWS 「Compute Optimizer の開始方法」を参照してください。Compute Optimizer に登録されているが、効率メトリクスが表示されない場合は、 AWS 使用量の変動が大きい可能性があります。使用状況が安定すると、メトリクスが自動的に生成されます。

2. コスト効率の履歴が表示されないのはなぜですか?

   Cost Optimization Hub と Compute Optimizer を初めて使用する場合、履歴は表示されません。既存の顧客であっても履歴が表示されない場合は、履歴データがないことが原因である可能性があります。継続的な使用で履歴の表示を開始する必要があります。

コスト最適化の機会の優先順位付け

Cost Optimization Hub では、カスタムフィルター、ソート、グループ化を使用して、投資収益率によってコスト最適化の取り組みに優先順位を付けることができます。

グラフビューまたはテーブルビューの追加のフィルターを使用して、コスト最適化の推奨事項の改良を続行できます。アカウント、リージョン、インスタンスタイプ、購入オプション、適切なサイズオプション、タグを含めることも除外することもできます。

たとえば、EC2 インスタンスの節約機会が最も多い AWS アカウントを把握したい場合は、すべてのアカウントを選択し、リソースタイプフィルターを EC2 インスタンスに設定できます。

概要ビューのスライスを選択して、推奨事項をフィルタリングします。Billing and Cost Management コンソールと AWS Compute Optimizer で、特定のレコメンデーションの選択、詳細の表示、関連ページへのディープリンクを行うこともできます。

概要グラフの中央には、すべてのセクションで集約された削減額が表示されます。

テーブルビューに変更して、アカウントレベルの月間推定コスト削減のテーブルを、削減別の降順に並べて表示することができます。

コスト最適化戦略を理解する

Cost Optimization Hub では、推奨事項が次のコスト最適化戦略にグループ化されます。

Savings Plans を購入

Compute、EC2 インスタンス、SageMaker Savings Plans を購入します。

予約の購入

EC2、Amazon RDS、OpenSearch、Amazon Redshift、ElastiCache、MemoryDB、および DynamoDB の予約を購入します。

停止

アイドル状態または未使用のリソースを停止して、リソースコストを最大 100% 削減します。

を削除します。

アイドル状態または未使用のリソースを削除して、リソースコストを最大 100% 削減します。

スケールイン

アイドル状態または未使用のリソースをスケールインして、リソースコストを削減します。

適切なサイズ

同じ CPU アーキテクチャのより小さな EC2 インスタンスタイプに移行します。

アップグレード

Amazon EBS io1 ボリュームタイプから io2 に移行するなど、後世代の製品に移行します。

Graviton への移行

x86 から Graviton に移行してコストを削減します。

次の表は、推奨されるアクションとリソースタイプの完全なマッピングを示しています。

アクション	リソースタイプ	条件	実装作業の負荷	リソースの再起動が必要	ロールバック可能
Savings Plans を購入	Compute Savings Plans	すべて	非常に小さい	いいえ	いいえ
	EC2 Instance Savings Plans	すべて	非常に小さい	いいえ	いいえ
	SageMaker Savings Plans	すべて	非常に小さい	いいえ	いいえ
予約の購入	EC2 リザーブドインスタンス	すべて	非常に小さい	いいえ	はい
	Amazon RDS リザーブドインスタンス	すべて	非常に小さい	いいえ	いいえ

アクション	リソースタイプ	条件	実装作業の負荷	リソースの再起動が必要	ロールバック可能
	Amazon Redshift リザーブドノード	すべて	非常に小さい	いいえ	いいえ
	OpenSearch リザーブドインスタンス	すべて	非常に小さい	いいえ	いいえ
	ElastiCache のリザーブドノード	すべて	非常に小さい	いいえ	いいえ
	MemoryDB リザーブドインスタンス	すべて	非常に小さい	いいえ	いいえ
	DynamoDB リザーブドキャパシティ	すべて	非常に小さい	いいえ	いいえ
停止	EC2 インスタンス	すべて	低	いいえ	はい
	RDS DB インスタンス	RDS MySQL および RDS PostgreSQL エンジンのみ	低	はい	はい
削除	EBS ボリューム	すべて	低	いいえ	いいえ
	Amazon ECS サービス	すべて	低	いいえ	いいえ

アクション	リソースタイプ	条件	実装作業の負荷	リソースの再起動が必要	ロールバック可能
	RDS DB インスタンス	Aurora MySQL および Aurora PostgreSQL エンジンのみ	低	いいえ	はい
スケールイン	EC2 Auto Scaling グループ	すべて	低	いいえ	いいえ
適切なサイズ	EC2 インスタンス (スタンドアロン)	ハイパーバイザーの変更なし	中	はい	はい
	EC2 インスタンス (スタンドアロン)	ハイパーバイザーの変更あり	大	はい	はい
	EC2 Auto Scaling グループ	すべて	中	はい	はい
	EBS ボリューム	すべて	低	いいえ	はい
	Lambda 関数	すべて	低	いいえ	はい
	Amazon ECS サービス	すべて	低	はい	はい
	RDS DB インスタンス	すべて	中	はい	はい
	RDS DB インスタンスストレージ	すべて	低	いいえ	はい

アクション	リソースタイプ	条件	実装作業の負荷	リソースの再起動が必要	ロールバック可能
	Aurora DB クラスターストレージ	すべて	低	いいえ	はい
アップグレード	EC2 インスタンス (スタンドアロン)	ハイパーバイザーの変更なし	中	はい	はい
	EC2 インスタンス (スタンドアロン)	ハイパーバイザーの変更あり	大	はい	はい
	EC2 Auto Scaling グループ	すべて	中	はい	はい
	EBS ボリューム	すべて	低	いいえ	はい
	RDS DB インスタンス	すべて	中	はい	はい
	RDS DB インスタンスストレージ	すべて	低	いいえ	はい
Graviton への移行	EC2 インスタンス (スタンドアロン)	Graviton 互換の推定ワークロードタイプあり	大	はい	はい
	EC2 インスタンス (スタンドアロン)	Graviton 互換の推定ワークロードタイプなし	非常に高い	はい	はい

アクション	リソースタイプ	条件	実装作業の負荷	リソースの再起動が必要	ロールバック可能
	EC2 Auto Scaling グループ	Graviton 互換の推定ワークロードタイプあり	大	はい	はい
	EC2 Auto Scaling グループ	Graviton 互換の推定ワークロードタイプなし	非常に高い	はい	はい
	RDS DB インスタンス	すべて	中	はい	はい

削減の機会の表示

[削減額機会] ページで、推奨されるアクションの詳細を表示できます。フィルターを使用してコスト削減の機会のリストを絞り込み、分割ビューパネルを使用して各推奨事項の詳細を確認します。推奨事項をさらに詳しく分析するには、その推奨事項を選択し、[Amazon Q を利用して分析] を選択します。

関連する推奨事項をグループ化することもできます。Cost Optimization Hub では、相互にやり取りする推奨アクションを識別し、重複の程度に基づいて推定総削減額を削減します。

Cost Optimization Hub では、リソース最適化戦略間での重複をなくし、最大限コストを削減して推奨事項を提案します。また、推奨事項を実装することによる使用量の削減も考慮します。

例えば、EC2 インスタンスは削除または適切なサイジングができますが、両方はできません。Cost Optimization Hub は、インスタンスの削減額の集計を見積もると、最も削減率の高いアクション (この場合は削除) を選択し、適切なサイジングによる削減を無視します。

Cost Optimization Hub は、Savings Plans とリザーブドインスタンスの推奨事項間での重複も排除します。デフォルトでは、最も大きい全体的なコスト削減を提供するコミットメントオプションが選択され、柔軟性と広範なリソースカバレッジを備えた Compute Savings Plans が優先されます。これらの推奨事項は、通常、3 年間の全額前払いオプションを推奨します。これらの設定は、Cost

Optimization Hub の設定でカスタマイズできます。詳細については、コミットメントの設定を参照してください。

> **Note**
>
> 請求転送を請求ソースアカウントとして使用すると、Cost Optimization Hub の推定削減額が AWS Cost and Usage Report、、Cost Explorer、および請求書ページの有効な削減額データと一致しない場合があります。これは、Cost Optimization Hub が Billing Conductor によって生成されたカスタムデータを使用しないためです。

トピック

- 推奨アクションと推定削減額の表示
- 関連する推奨事項のグループ化

推奨アクションと推定削減額の表示

特定のリソース ID の推奨アクションと推定削減額を表示するには、次の手順に従います。

1. [削減額機会] ページの [推定削減額があるリソース] で、テーブル内の行を選択します。

   これにより、分割ビューパネルが開かれ、選択したリソースに対する推奨アクションと推定削減額が表示されます。

   推奨アクションには、以下の情報が含まれます。

   - [使用量]: 14 日間のルックバック期間に基づく使用状況です。
   - 推定コスト (割引前): 割引を組み込まない AWS パブリック (オンデマンド) 料金を使用した削減額の見積もり。
   - [その他の推定割引]: その他の推定割引には、項目別に記載されていないすべての割引が含まれ、無料利用枠も含まれます。項目別割引には、Savings Plans とリザーブドインスタンスが含まれます。
   - 推定コスト (割引後): リザーブドインスタンスや Savings Plans など AWS、すべての割引をに組み込んだ削減額の見積もり。 Savings Plans
   - [未使用の推定純償却コミットメント]: 現在のインスタンスのコストに含まれる純償却の Savings Plans とリザーブドインスタンスのコストです。ただし、推奨インスタンスには使用できません。

- [毎月の推定削減額]: 推奨事項のための月間推定削減額です。
- [推定削減率]: 総コストに対する推定削減率です。

2. 推奨されるアクションに基づいて、 AWS 請求情報とコスト管理コンソールでレコメンデーションを表示するか、 AWS Compute Optimizer または関連するコンソールで開くかを選択できます。

関連する推奨事項のグループ化

以下の手順を使用して、関連する推奨事項とその推定削減額を表示します。

1. [削減額機会] ページで、[グループ関連の推奨事項] を選択します。
2. テーブル内の行を選択します。

   これによって開かれる分割ビューパネルで、選択したリソースタイプに対して推奨アクションを選択できます。
3. [推奨されるアクション] で、推奨されるアクションのいずれかを選択します。

   これにより、左側の推奨アクションの詳細と右側の推定削減額が更新されます。
4. 推奨されるアクションに基づいて、 AWS 請求情報とコスト管理コンソールでレコメンデーションを表示するか、 AWS Compute Optimizer または関連するコンソールで開くかを選択できます。

月間節約額の見積り

Cost Optimization Hub では、特定の料金割引を分析して、コスト効率を測定します。その計算は、コスト最適化機会の 1 か月あたりの推定削減額の合計を、クレジットと返金を除く償却月額 AWS コストで割ることで行われます。

リソースに関連する推奨事項の場合、1 か月あたりの推定コストインパクトは、730 時間 (365 * 24/12) にわたって AWS 請求がどの程度変化するかの見積りです。この見積りでは、リソースが実行されていなかった期間と、730 時間前に推奨アクションを実装していた期間を除外します。推奨事項のルックバック期間が異なる場合、コストインパクトは 730 時間の期間に正規化されます。これは 1 か月あたりの平均時間です。

1 か月あたりの推定削減額は、将来の削減額の近似値であることに注意してください。実際の削減額は、将来の AWS の使用状況パターンによって異なります。

推定削減額の集計

Cost Optimization Hub では、AWS アカウントと AWS リージョン全体で AWS コスト最適化の推奨事項を集計します。例えば、リソースの適切なサイジング、アイドル状態のリソースの削除、Savings Plans、リザーブドインスタンスに関する推奨事項を作成します。

推定削減額は、次のカテゴリ別に集計できます。

- AWS アカウント
- AWS リージョン
- リソースタイプ
- 推奨されるアクション
- 実装作業の負荷
- リソースの再起動は必要か
- ロールバックは可能か
- タグキー

コスト最適化の推奨事項を集計するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで、[Cost Optimization Hub] を選択します。
3. コスト削減の機会は、グラフビューまたはテーブルビューで表示します。
4. [推定削減額を次の条件で集計:] を選択し、カテゴリを選択します。

サポートされているリソース

Cost Optimization Hub は、次のリソースに関する推奨事項を生成します。

- Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンス
- Amazon EC2 Auto Scaling グループ
- Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) ボリューム
- AWS Lambda 関数
- AWS Fargate での Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) タスク

- Compute Savings Plans
- EC2 Instance Savings Plans
- SageMaker Savings Plans
- EC2 リザーブドインスタンス
- Amazon RDS リザーブドインスタンス
- OpenSearch リザーブドインスタンス
- Amazon Redshift リザーブドノード
- ElastiCache のリザーブドノード
- Amazon RDS DB インスタンス
- Amazon RDS DB インスタンスストレージ
- MemoryDB リザーブドインスタンス
- DynamoDB リザーブドキャパシティ
- Amazon Aurora DB クラスターストレージ
- NAT Gateway

リソースの適正化とアイドル状態のリソースのレコメンデーションは、 AWS Compute Optimizer によって提供されます。各リソースでサポートされているレコメンデーションのタイプを確認するには、AWS 「Compute Optimizer でサポートされているリソース」を参照してください。

適切なサイズ設定に関する推奨事項によるコストの最適化

Cost Explorer の適切なサイズ設定に関する推奨事項の機能を使用するとAmazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) でインスタンスを縮小または終了してコストを削減する機会を特定できます。適切なサイズ設定に関する推奨事項では、Amazon EC2 のリソースと使用状況を分析し、支出を削減する方法を示します。リンクされたアカウント全体で十分に活用されていない Amazon EC2 インスタンスが単一のビューに表示されるため、削減できる量をすぐに確認できます。推奨事項をよく理解したら、Amazon EC2 コンソールでアクションを実行できます。

> **Note**
>
> Cost Optimization Hub を使用してコスト最適化の機会を特定することをお勧めします。詳細については、「Identifying opportunities with Cost Optimization Hub」を参照してください。適切なサイズ設定の推奨事項は、請求の移管をサポートしていません。

トピック

- 適切なサイズ設定に関する推奨事項の開始方法
- 適切なサイズ設定に関する推奨事項の使用
- 適切なサイズ設定に関する推奨事項の共有
- 適切なサイズ設定に関する推奨事項の計算の理解
- Cost Explorer の予約について
- 予約の推奨事項にアクセスする

適切なサイズ設定に関する推奨事項の開始方法

予約の推奨事項とリソースベースの推奨事項には、Billing and Cost Management コンソールからアクセスできます。この機能を有効にしてから推奨事項が生成されるまでに最大 24 時間かかります。

適切なサイズ設定に関する推奨事項を有効にしてアクセスするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインで [コスト管理の設定] を選択します。

3. [設定] ページの [一般] タブにある [規模の適正化 - 従来] で、[規模の適正化に関する推奨事項を有効化] を選択します。
4. [設定を保存] を選択します。

> **Note**
>
> 適切なサイズ設定に関する推奨事項を有効にできるのは、通常のアカウントまたは管理アカウントのみです。この機能を有効にすると、メンバーと管理アカウントのどちらからも適切なサイズ設定に関する推奨事項にアクセスできます。ただし、[設定] ページで、メンバーアカウントへのアクセスを管理アカウントが明確に禁止している場合は除きます。
>
> レコメンデーションの品質を向上させるために、ディスクやメモリの使用率などの公開された使用率メトリクスを使用して、レコメンデーションモデルとアルゴリズムを向上させる AWS ことができます。すべてのメトリクスは、 AWS がモデルトレーニングに使用する前に匿名化および集計されます。このエクスペリエンスをオプトアウトし、メトリクスを保存してモデルの改良に使用しないようリクエストする場合は、 AWS サポートまでお問い合わせください。詳細については、「AWS サービス条件」を参照してください。

5. 適切なサイズ設定に関する推奨事項にアクセスするには、ナビゲーションペインの [レガシーページ] で、[規模の適正化] を選択します。

適切なサイズ設定に関する推奨事項の使用

次のトップレベルの主要業務指標 (KPI) は、適切なサイズ設定に関する推奨事項で確認できます。

- [最適化の機会] – リソースと使用状況に基づいて利用可能な推奨事項の数
- [推定月間削減額] – 提供された各推奨事項に関連する推定月間削減額の合計
- [推定削減額 (%)] – 推奨事項リスト内のインスタンスに関連付けられた直接インスタンスコスト (オンデマンド) に対して可能な削減額

適切なサイズ設定に関する推奨事項をフィルタリングするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインの [レガシーページ] で、[規模の適正化] を選択します。

3. [サイズの適正化に関する推奨事項] ページの [推奨事項パラメータ] で、次のチェックボックスのいずれかまたはすべてを選択して、推奨事項をフィルタリングします。

   - アイドル状態のインスタンス
   - 使用率の低いインスタンス
   - Savings Plans およびリザーブドインスタンスを含める

4. [結果] テーブルで、検索バーを使用して、次のパラメータでフィルタリングします。

   - アカウント ID (管理アカウントから利用可能なオプション)
   - リージョン
   - コスト配分タグ

適切なサイズ設定に関する推奨事項の詳細を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインの [レガシーページ] で、[規模の適正化] を選択します。
3. [サイズの適正化に関する推奨事項] の [結果] で、推奨事項を選択して詳細を表示します。

CloudWatch メトリクスを使用した推奨事項の強化

Amazon CloudWatch エージェントを有効にすると、私たちがお客様のメモリ使用率を調査できます。

メモリ使用率を有効にする方法については、「CloudWatch エージェントのインストール」を参照してください。

> **Important**
>
> CloudWatch 設定ファイルを作成する場合は、収集したメトリクスのデフォルトの名前空間とデフォルトの名前を使用します。
> [InstanceID] で、`append_Dimension` を選択します。個別のメモリまたはディスクメトリクスにディメンションを追加しないでください。現在、ディスク利用率は調べられません。
> Linux インスタンスの場合は、CloudWatch エージェントが収集するメトリクスとして、`mem_used_percent` を選択します。Windows インスタンスの場合は、`"% Committed Bytes In Use"` を選択します。

CloudWatch エージェントの詳細については、「Amazon CloudWatch ユーザーガイド」の「Collecting Metrics and Logs from Amazon EC2 Instances and On-Premises Servers with the CloudWatch Agent」を参照してください。

適切なサイズ設定に関する推奨事項の共有

適切なサイズ設定に関する推奨事項レポートは CSV 形式でダウンロードできます。

推奨事項をダウンロードするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインの [レガシーページ] で、[規模の適正化] を選択します。
3. [結果] で、[CSV のダウンロード] を選択します。

[サイズの適正化に関する推奨事項] ページからダウンロード可能な CSV ファイルのフィールドのリストを以下に示します。適切なサイズ設定に関する推奨事項が複数ある場合、フィールドは繰り返されます。ファイルには、関連するコスト配分タグもすべて含まれています。

- アカウント ID – レコメンデーションのベースとなるインスタンスを所有する AWS アカウント ID。
- [アカウント名] – 推奨事項に基づき、インスタンスを所有するアカウントの名前。
- [インスタンス ID] – 一意のインスタンス識別子。
- [インスタンス名] – インスタンスに付けた名前。
- [インスタンスタイプ] – インスタンスファミリーと元のインスタンスのサイズ。
- [インスタンス名] – インスタンスに付けた名前。インスタンスに名前を付けていない場合、このフィールドは空白として表示されます。
- [OS] – 現在のインスタンスのオペレーティングシステムまたはプラットフォーム。
- リージョン – インスタンスが実行されている AWS リージョン。
- [Running Hours (実行時間)] – 過去 14 日間のインスタンスの実行時間の合計数。
- RI 時間 – ルックバック期間中に AWS 予約の対象となる合計実行時間のサブセット。
- [OD 時間数] – 振り返り期間にわたってオンデマンドである合計実行時間のサブセット。
- [SP 時間数] – 振り返り期間にわたって Savings Plans でカバーされる合計実行時間のサブセット。

- [CPU 使用率] – 振り返り期間におけるインスタンスの最大CPU使用率。
- [メモリ使用率] – 振り返り期間におけるインスタンスの最大メモリ使用率 (Amazon CloudWatch エージェントから使用可能な場合)。
- [ディスク使用率] – 振り返り期間におけるインスタンスの最大ディスク使用率 (CloudWatch エージェントから使用可能な場合。現在サポートされていません)。
- [ネットワークキャパシティ] – 現在のインスタンスの 1 秒あたりの最大ネットワーク入力/出力オペレーション。これは、実際のインスタンスの使用またはパフォーマンスの測定値ではなく、キャパシティーのみを表します。推奨事項では考慮されていません。
- [EBS 読み取りスループット] — 読み取りオペレーションの 1 秒あたりの最大数。
- [EBS 書き込みスループット] — 書き込みオペレーションの 1 秒あたりの最大数。
- [EBS 読み取り帯域幅] — 1 秒あたりの読み取り KiB の最大ボリューム。
- [EBS 書き込み帯域幅] — 1 秒あたりの書き込み KiB の最大ボリューム。
- [推奨アクション] – 推奨されるアクション (インスタンスの変更または終了)。
- [推奨されるインスタンスタイプ 1] – 推奨されるインスタンスタイプのインスタンスファミリーとサイズ。終了の推奨事項については、このフィールドは空です。
- [推奨されるインスタンスタイプ 1 の推定削減額] – 推奨されるアクション、インスタンスタイプ、関連レート、および現在のリザーブドインスタンス (RI) ポートフォリオに基づく予測削減額です。
- [推奨されるインスタンスタイプ 1 の予測 CPU] – 現在のインスタンスディスクの使用率と推奨インスタンス仕様に基づいた CPU 使用率の予測値。
- [推奨されるインスタンスタイプ 1 の推定メモリ] – 現在のインスタンスメモリの使用率と推奨インスタンスの仕様に基づくメモリ使用率の予測値です。
- [推奨されるインスタンスタイプ 1 の予測ディスク] – 現在のインスタンスディスクの使用率と推奨インスタンスの仕様に基づくディスク使用率の予測値。
- [推奨インスタンスタイプ 1 のネットワークキャパシティー] – 推奨インスタンスの 1 秒あたりの最大ネットワーク入力/出力オペレーション。これは、実際のインスタンスの使用またはパフォーマンスの測定値ではなく、キャパシティーのみを表します。推奨事項では考慮されていません。

適切なサイズ設定に関する推奨事項の計算の理解

このセクションでは、適切なサイズ設定に関する推奨事項アルゴリズムで使用する削減額計算の概要を示します。

一括請求 (コンソリデーティッドビリング) ファミリー

一括請求ファミリーのすべてのアカウントのすべてのインスタンスを識別するために、適切なサイズ設定に関する推奨事項では、各アカウントの過去 14 日間の使用状況を調べます。インスタンスが停止または終了している場合、私たちがそのインスタンスを考慮対象から除外します。残りのすべてのインスタンスについて、CloudWatch を呼び出して、過去 14 日間の最大 CPU 使用率データ、メモリ使用率 (有効な場合)、ネットワーク入出力、ローカルディスクの入出力 (I/O)、およびアタッチされた EBS ボリュームのパフォーマンスを取得します。これは保守的な推奨事項を作成するためのものであり、アプリケーションのパフォーマンスに悪影響を及ぼしたり、パフォーマンスに予期しない影響を及ぼしたりする可能性があるインスタンスの変更を推奨するためのものではありません。

インスタンスがアイドルであるか、使用率が過小であるか、どちらでもないかを判断する

過去 14 日間のインスタンスの最大 CPU 使用率を調べて、次のいずれかの評価を行います。

- [アイドル] – 最大 CPU 使用率が 1% 以下の場合。終了の推奨事項が生成され、削減額が算出されます。詳細については、「削減額の計算」を参照してください。
- [使用率が過小] – CPU の最大使用率が 1% を超え、インスタンスタイプの変更でコスト削減が可能な場合は、変更の推奨事項が生成されます。

インスタンスがアイドルでもなく、使用率が過小でもない場合、推奨事項は生成されません。

変更の推奨事項の生成

推奨事項では、機械学習エンジンを使用して、特定のワークロードに最適な Amazon EC2 インスタンスタイプを特定します。インスタンスタイプには、 AWS Auto Scaling グループの一部であるインスタンスタイプが含まれます。

推奨事項エンジンは、ワークロードの設定とリソースの使用状況を分析して、多数の定義特性を特定します。たとえば、ワークロードが CPU を大量に消費しているかどうか、日常的なパターンを示しているかどうかを判断できます。推奨事項エンジンは、これらの特性を分析し、ワークロードに必要なハードウェアリソースを特定します。

最後に、ワークロードがさまざまな Amazon EC2 インスタンスでどのように動作し、特定のワークロードに最適な AWS コンピューティングリソースのレコメンデーションを行うかについて説明します。

削減額の計算

最初にインスタンスの過去 14 日間の実行を調べ、それが RI や Savings Plans によって部分的または完全にカバーされているか、オンデマンドで実行されているかを確認します。もう 1 つの要因は、RI のサイズが柔軟かどうかです。インスタンスを実行するコストは、オンデマンド時間とインスタンスタイプのレートに基づいて計算されます。

レコメンデーションごとに、新しいインスタンスを操作するためのコストを計算します。新しいインスタンスが前のインスタンスと同じインスタンスファミリー内にある場合、サイズ変更可能な RI は新しいインスタンスを前のインスタンスと同じ方法でカバーすると見なされます。推定削減額は、オンデマンドの実行時間数と、オンデマンドレートの差に基づいて計算されます。RI がサイズ柔軟でない場合や新しいインスタンスが別のインスタンスファミリー内にある場合、推定削減額は、新しいインスタンスが過去 14 日間にオンデマンドとして実行されていたかどうかに基づいて計算されます。

Cost Explorer は、推定削減額が 0 USD 以上である場合にのみ、推奨事項を提供します。これらの推奨事項は、Compute Optimizer 結果のサブセットです。コストの増加につながる可能性のあるパフォーマンスベースの推奨事項については、「Compute Optimizer」を参照してください。

削減額を表示する場合に、RI または Savings Plans の割引を反映するかどうかを選択できます。推奨事項は、デフォルトで両方の割引を反映します。RI または Savings Plans の割引を反映すると、一部の推奨事項では削減額が 0 USD として表示される場合があります。このオプションを変更するには、「適切なサイズ設定に関する推奨事項の使用」を参照してください。

> **Note**
>
> 適切なサイズ設定に関する推奨事項では、結果として生じる RI 時間の可用性や他のインスタンスへの適用方法など、適切なサイズ設定の二次効果はキャプチャされません。RI 時間の再割り当てに基づく潜在的な削減額は計算に含まれません。

Cost Explorer の予約について

予約の使用状況とオンデマンドインスタンスまたはプロビジョンドキャパシティの使用状況をバランスよく使用することで、より優れた効率性を達成できます。これを実現するため、Cost Explorer は、予約コストが最も高額になっている箇所と、可能な場合にコストを削減する方法を把握するために役立つツールを提供しています。Cost Explorer は、現在の予約の概要を提供し、使用率とカバレッジを表示して、購入することでコストを削減できる可能性がある予約の推奨事項を計算します。

予約レポートの使用

Billing and Cost Management コンソールの [予約の概要] ページを使用して、予約の数、同様のオンデマンドインスタンスの使用と比較した予約の削減額、今月の有効期限が切れる予約の数を確認できます。

Cost Explorer は、予約と削減額をサービスごとに分類し、可能な削減額つまり、予約での使用状況により発生する可能性があるコストと比較したオンデマンドのコストをリストします。

実現可能な節約額を利用するには、「予約の推奨事項にアクセスする」を参照してください。

予約の失効アラートの管理

Cost Explorer では、予約とその有効期限を追跡することができます。予約の有効期限切れアラートでは、予約の有効期限が切れる 7 日、30 日、または 60 日前に E メールアラートを受け取れます。これらのアラートは、最大 10 人の E メール受信者に送信できます。予約の有効期限が切れる日に通知を受け取ることも選択できます。予約の有効期限切れアラートは、Amazon EC2、Amazon RDS、Amazon Redshift、Amazon ElastiCache、および Amazon OpenSearch Service の予約でサポートされます。

予約の失効アラートを有効にするには

1. で Billing and Cost Management コンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/costmanagement/
2. [予約] セクションの [概要] ページに移動します。
3. 右上隅にある [Manage alert subscriptions] (アラートサブスクリプションを管理) を選択します。
4. アラートをいつ受信するかについて、チェックボックスをオンにします。
5. 通知するユーザーの E メールアドレスを入力します。最大 10 人の E メール受信者を指定できます。
6. [保存] を選択します。

AWS が予約ポートフォリオの監視を開始し、指定された設定に基づいてアラートを送信します。

予約の推奨事項にアクセスする

Cost Explorer を有効にすると、Amazon EC2、Amazon RDS、ElastiCache、OpenSearch Service、Amazon Redshift、Amazon MemoryDB、および Amazon DynamoDB の購入の推奨事項が自動的に取得されます。これは、コスト削減に役立ちます。予約は、オンデマンドまたはプロビジョ

ンドキャパシティ料金と比較した時間単位の割引率 (最大 75%) を提供しています。Cost Explorer では、次のプロセスによって、予約の推奨事項が生成されます。

- 特定期間中におけるサービスでのオンデマンドインスタンスまたはプロビジョンドキャパシティの使用状況を特定する
- 使用状況を予約の対象であるカテゴリに収集する
- 各カテゴリにおける使用状況の予約の組み合わせをすべてシミュレートする
- 削減見込み額が最大になるように、購入する予約の各タイプの最適な数を特定する

たとえば、Cost Explorer は、米国西部 (オレゴン) リージョンにおける Amazon EC2 Linux、共有テナンシー、および c4 ファミリーの使用状況を自動的に集計し、サイズ柔軟なリージョン RI を購入して c4 ファミリーの使用に適用することを推奨します。Cost Explorer はインスタンスファミリーで最小サイズのインスタンスを推奨します。これは、サイズ柔軟な RI の購入を容易にします。Cost Explorer では、同じ数の正規化された単位も表示されるため、任意のインスタンスサイズを購入することができます。この例では、c4 インスタンスファミリーの最小サイズインスタンスが `c4.large` のため、これが RI 推奨事項になります。

Cost Explorer の推奨事項は、1 つのアカウントまたは組織の過去 7 日、30 日、または 60 日の使用量に基づきます。Cost Explorer は、選択したルックバック期間中にオンデマンドインスタンスの使用量を使用して、推奨事項を生成します。RI、SPOT、Savings Plans などの機能の対象となるルックバック期間のその他の使用はすべて含まれません。Amazon EC2、ElastiCache、OpenSearch Service、Amazon Redshift、Amazon MemoryDB、および Amazon DynamoDB 推奨事項は、アベイラビリティーゾーンではなくリージョンに限定された予約の推奨事項であり、削減見込み額はお客様の使用に対する予約の適用を反映しています。Amazon RDS 推奨事項は、シングル AZ またはマルチ AZ の RI に限定されています。Cost Explorer は、24 時間ごとに少なくとも一度、推奨事項を更新します。

> **Note**
>
> Cost Explorer はお客様の使用状況を予測しません。また、予約を推奨する際に予測を考慮しません。代わりに、Cost Explorer は、どの予約を推奨するかを判断する際に、過去の使用状況が将来の使用状況を反映していることを前提としています。

連結アカウントは、許可が関連付けられている場合にのみ、推奨事項を表示できます。連結アカウントには、Cost Explorer を表示するためのアクセス許可と、推奨事項を表示するためのアクセス許可が必要です。詳細については、「予約の推奨事項を表示する」を参照してください。

トピック

- サイズ柔軟な RI の RI 推奨事項
- 予約の推奨事項を表示する
- 予約の推奨事項を理解する
- 予約の推奨事項を変更する
- 予約の推奨事項を保存する
- 予約の推奨事項を使用する

サイズ柔軟な RI の RI 推奨事項

Cost Explorer では、RI 購入推奨事項を作成する際に、サイズ柔軟なリージョン RI のメリットも考慮します。サイズ柔軟なリージョン RIs は、レコメンデーションの対象となるインスタンスファミリー全体で推定削減額を最大化するのに役立ちます。 は、正規化された単位の概念 AWS を使用して、インスタンスファミリー内のさまざまなサイズを比較します。Cost Explorer は、最小の正規化係数を使用して、推奨するインスタンスタイプを表します。詳細については、「Amazon Elastic Compute Cloud ユーザーガイド」の「インスタンスサイズの柔軟性」を参照してください。

たとえば、`c4.8xlarge` の EC2 RI を所有しているとします。この RI は、RI と同じリージョンの共有テナンシーの `Linux/Unix c4` インスタンスの使用に適用されます。たとえば、次のようなインスタンスです。

- 1 個の `c4.8xlarge` インスタンス
- 2 個の `c4.4xlarge` インスタンス
- 4 個の `c4.2xlarge` インスタンス
- 16 個の `c4.large` インスタンス

また、1 個の `c4.4xlarge` インスタンスと 8 個の `c4.large` インスタンスなど、EC2 の使用量の組み合わせも含みます。

所有している RI より大きいインスタンスを実行すると、超えた分に対して案分計算されたオンデマンド料金が請求されます。たとえば、`c4.4xlarge` の RI を購入し、通常は `c4.4xlarge` インスタンスを使用していても、`c4.8xlarge` インスタンスにスケールアップする場合があります。この場合、`c4.8xlarge` 使用量の一部は購入した RI の対象になりますが、残りはオンデマンド料金で課金されます。詳細については、「Amazon Elastic Compute Cloud ユーザーガイド」の「How Reserved Instance discounts are applied」を参照してください。

予約の推奨事項を表示する

連結アカウントには、推奨事項を表示するために以下の許可が必要です。

- `ViewBilling`
- `ViewAccount`

詳細については、「AWS コスト管理にアイデンティティベースのポリシー (IAM ポリシー) を使用する」を参照してください。

予約の推奨事項を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインの [予約] の下で、[推奨事項] を選択します。
3. [レコメンデーション] ページの [推奨事項パラメータ] で、推奨事項の対象となる [サービス] を選択します。

予約の推奨事項を理解する

[予約のレコメンデーション] ページでは、可能性がある削減の見積り額、予約の購入の推奨事項、個別の推奨事項を作成するために Cost Explorer で使用されるパラメータが表示されます。個別のユースケースにより正確に適合するような推奨事項を取得できるように、パラメータを変更できます。

[レコメンデーション] ページには次の 3 つの数字が表示されます。

- [購入推奨事項の総数] – Cost Explorer が検出した予約購入オプションの数です。
- [推定月別削減額] – Cost Explorer で算出された、推奨の予約を購入することで削減できる金額です。
- [オンデマンド料金に対する推定削減額] - 現在のコストに対するパーセンテージとして表した推定削減額です。

これらの数値により、さらに予約を購入したときに、削減できる可能性がある額の見積りを確認できます。次の [推奨事項パラメータ] を使用して、別のユースケースにおけるこれらの数値を再計算できます。

- [期間] – 推奨事項の対象となる期間です。

- [オファリングクラス] – 標準の予約か、コンバーティブル予約に対する推奨事項を示します。
- [支払いオプション] – 推奨される前払いで支払うかどうかを指定します。
- [基準とする直近の期間] – 推奨事項で考慮する以前の使用状況の日数です。

ページの下部には削減見込み額のいくつかが記載されたタブがあります。[All accounts (すべてのアカウント)] タブでは、組織全体で統合した使用状況に基づいた推奨事項を確認でき、[Individual accounts (個別のアカウント)] タブでは、連結アカウントベースで Cost Explorer が生成した推奨事項を確認することができます。それぞれのタブのこのテーブルには、購入に関するさまざまな推奨事項と、推奨事項の詳細が示されています。Cost Explorer が推奨事項の作成に使用した使用状況を確認するには、推奨事項詳細の [View associated usage (関連する使用状況の表示)] リンクを選択します。これにより、Cost Explorer が推薦を生成するために使用した正確なパラメータを示すレポートが表示されます。このレポートには、[Purchase Option (購入オプション)] でグループ分けされたコストと関連する使用量も表示されるため、推奨事項の元になっているオンデマンドインスタンスの使用状況を表示できます。

> **Note**
>
> 個々の連結アカウントに基づいた Cost Explorer による推奨事項では、連結アカウント (対象連結アカウントで使用される RI を含む) によるすべての使用状況が考慮されます。これには、別の連結アカウントによって共有される RI が含まれます。推奨事項では、連結アカウントで今後 RI が共有されることを前提としていません。
> 請求転送を請求ソースアカウントとして使用すると、予約レコメンデーションの推定削減額が AWS Cost and Usage Report、、Cost Explorer、および請求書ページの有効な削減額データと一致しない可能性があります。これは、予約レコメンデーションが Billing Conductor によって生成されたカスタムデータを使用しないためです。

推奨事項は、[Monthly Estimated Savings]、[Upfront RI Cost]、[Purchase recommendation] または [Instance Type] で並べ替えることができます。

予約の推奨事項を変更する

Cost Explorer が推奨事項を作成するときに使用する情報を変更したり、必要な推奨事項のタイプを変更することもできます。これにより、過去 30 日間の使用状況に基づき 1 年契約で全前払いの予約など、お客様にとって最適な予約の推奨事項を確認できます。

> **Note**
>
> Cost Explorer は、将来の使用状況を予測する代わりに、将来の使用状況が過去の使用状況と同じであることを前提としています。また、Cost Explorer は、期限切れの予約が更新されることを前提としています。

予約の推奨事項を変更するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます
2. ナビゲーションペインの [予約] の下で、[推奨事項] を選択します。
3. [レコメンデーション] ページの [推奨事項パラメータ] で、推奨事項の対象となる [サービス] を選択します。
4. 関連する [期間] を選択します。
5. 関連する [オファリングクラス] を選択します。
6. 関連する [支払いオプション] を選択します。
7. [基準とする直近の期間] では、予約の推奨事項を作成するのに使用する使用日数を選択します。
8. [All accounts (すべてのアカウント)] または [Individual accounts (個別アカウント)] を選択して、組織全体の使用状況に基づいた推奨事項か個別のアカウントの使用状況に基づいたすべての連結アカウントに対する推奨事項を確認します。

予約の推奨事項を保存する

予約の推奨事項を CSV ファイルとして保存することができます。

予約の推奨事項を保存するには

1. [予約のレコメンデーション] ページの [推奨事項パラメータ] で、推奨事項の対象となる [サービス] を選択し、変更するパラメータを更新します。
2. [推奨されるアクション] で、[CSV のダウンロード] を選択します。

CSV ファイルには、次の列が含まれます。

予約の推奨事項の CSV 列

[列名]	サービス	列の説明
アカウント ID	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	推奨事項に関連付けられたアカウント。
アベイラビリティーゾーン	Amazon RDS	推奨事項の生成に使用されるインスタンスのアベイラビリティーゾーンです。
履歴期間内における 1 時間あたりの正規化された平均ユニット使用量	Amazon EC2、RDS、MemoryDB	推奨事項の生成用に選択されている期間において、1 時間あたりに使用する正規化されたユニットの平均数。
履歴期間内の 1 時間あたりの平均使用量	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB	推奨事項の生成用に選択されている期間において、1 時間あたりに使用するインスタンスの平均時間数。
選択した履歴期間で 1 時間あたりに使用されるキャパシティユニットの平均数	Amazon DynamoDB	推奨事項の生成用に選択されている期間において、1 時間あたりに使用するプロビジョンドキャパシティユニットの平均数です。
均衡した月	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache	この推奨された予約セットの前払い料金を差し引く前の予想時間。

[列名]	サービス	列の説明
	e、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	
キャッシュエンジン	Amazon ElastiCache	推奨される ElastiCache リザーブドノードで実行されるエンジンの種類 (例: Redis、Memcheched)。
キャパシティユニットタイプ	Amazon DynamoDB	推奨事項のキャパシティユニットのタイプです。読み取りキャパシティユニットは、テーブルからデータを取得するオペレーションに使用されます。書き込みキャパシティユニットは、テーブル内のデータの挿入、更新、または削除を行うオペレーションに使用されます。
データベースの編集	Amazon RDS	推奨される RDS リザーブドインスタンスで実行されるデータベースエンジンのエディション。
データベースエンジン	Amazon RDS	推奨される RDS リザーブドインスタンスで実行されるエンジンの種類 (例: Aurora MySQL、MariaDB)。
デプロイモデル	Amazon RDS	推奨されるリザーブドインスタンスが RDS Custom 用かどうか。値が「Custom」の場合は、RDS Custom に推奨されるリザーブドインスタンスを購入して、削減額を確認する必要があります。

[列名]	サービス	列の説明
デプロイオプション	Amazon RDS	リザーブドインスタンスの対象が、シングルアベイラビリティーゾーンの RDS インスタンス、または別のアベイラビリティーゾーンのバックアップを持つ RDS インスタンスかを示します。
推定削減額	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	推奨される予約の推定削減額です。
予想される使用状況	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	推奨される予約の使用量についての Cost Explorer での推定です。
インスタンスタイプ	Amazon EC2、RDS、OpenSearch Service	推奨事項が生成されるインスタンスのタイプ (例: `m4.large` または `t2.nano`)。サイズ柔軟な推奨事項の場合、Cost Explorer では組織のすべての使用状況 (例: m4 ファミリー) が集計され、購入可能な最小リザーブドインスタンスタイプの推奨事項 (例: `m4.large`) が提示されます。

[列名]	サービス	列の説明
履歴期間内における 1 時間あたりの正規化された最大ユニット使用量	Amazon EC2、RDS、MemoryDB	推奨事項の生成用に選択されている期間において、1 時間に使用する正規化された最大ユニット数。
履歴期間内の 1 時間あたりの最大使用量	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB	推奨事項の生成用に選択されている期間において、1 時間に使用するインスタンスの最大時間数。
選択した履歴期間で 1 時間あたりに使用されるキャパシティユニットの最大数	Amazon DynamoDB	推奨事項の生成用に選択されている期間において、1 時間あたりに使用するプロビジョンドキャパシティユニットの最大数です。
履歴期間内における 1 時間あたりの正規化された最小ユニット使用量	Amazon EC2、RDS、MemoryDB	推奨事項の生成用に選択されている期間において、1 時間に使用する正規化された最小ユニット数。
履歴期間内の 1 時間あたりの最小使用量	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB	推奨事項の生成用に選択されている期間において、1 時間に使用するインスタンスの最小時間数。
選択した履歴期間で 1 時間あたりに使用されるキャパシティユニットの最小数	Amazon DynamoDB	推奨事項の生成用に選択されている期間において、1 時間あたりに使用するプロビジョンドキャパシティユニットの最小数です。

[列名]	サービス	列の説明
ノードタイプ	Amazon ElastiCache、Redshift、MemoryDB	推奨事項が生成されるノードのタイプ (例: `ds2.xlarge`)。
購入までの正規化された時間	Amazon EC2、RDS、MemoryDB	Cost Explorer で推奨されている正規化された単位の購入数。
購入するインスタンスの数	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB	Cost Explorer で推奨されている予約の購入数。
提供クラス	Amazon EC2	推奨事項に関連付けられた提供クラスです。
お支払い方法	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	推奨事項で推奨される支払い方法。
プラットフォーム	Amazon EC2	推奨されるリザーブドインスタンスタイプのオペレーティングシステムおよびライセンスモデルです。
購入する推奨キャパシティユニット数	Amazon DynamoDB	Cost Explorer で推奨されているリザーブドキャパシティユニットの購入数です。

[列名]	サービス	列の説明
推奨日	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	Cost Explorer で推奨事項を生成した日付。
1 か月あたりの定期的なコスト	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	推奨された予約の定期的な月額コスト。
リージョン	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	推奨事項を生成するために使用されるリージョンです。削減可能額を表示するには、推奨されるリージョンで推奨される予約を購入する必要があります。
サイズ柔軟	Amazon EC2、RDS、MemoryDB	推奨される予約がサイズ柔軟かどうかを示します。
テナンシー	Amazon EC2	推奨事項のテナンシーです。有効な値は、[共有] または [専用] です。

[列名]	サービス	列の説明
言葉	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	推奨事項で推奨される期間の長さ。
前払い料金	Amazon EC2、RDS、Redshift、ElastiCache、OpenSearch Service、MemoryDB、DynamoDB	推奨事項に関連する前払いコストです。

予約の推奨事項を使用する

推奨された予約を購入するには、サービスコンソールの購入ページに移動します。推奨事項の CSV ファイルを保存して、後日予約を購入することもできます。

Amazon Elastic Compute Cloud 推奨事項を使用するには

1. [リザーブドインスタンスの推奨事項] ページで、[Amazon EC2 RI 購入コンソール] を選択します。
2. 「Amazon Elastic Compute Cloud ユーザーガイド」の「Amazon EC2 のリザーブドインスタンスを購入する」の手順に沿って RI を購入します。

Amazon Relational Database Service 推奨事項を使用するには

1. Amazon RDS コンソールの [リザーブドインスタンス] ページで、[リザーブド DB インスタンスを購入] を選択します。

2. 「Amazon RDS ユーザーガイド」の「Amazon RDS のリザーブド DB インスタンスの購入」の手順に沿って、予約を購入します。

Amazon Redshift の推奨事項を使用するには

1. Amazon Redshift コンソールの [リザーブドノード] ページで、[リザーブドノードを購入] を選択します。
2. 「Amazon Redshift 管理ガイド」の「リザーブドノードの購入」の手順に沿って予約を購入します。

Amazon OpenSearch Service の推奨事項を使用するには

1. OpenSearch Service コンソールの [リザーブドインスタンスのリース] ページで、[リザーブドインスタンスの注文] を選択します。
2. 「Amazon OpenSearch Service デベロッパーガイド」の「Reserved Instances in Amazon OpenSearch Service」の手順に沿って予約を購入します。

Amazon ElastiCache の推奨事項を使用するには

1. ElastiCache コンソールの [リザーブドノード] ページで、[リザーブドノードを購入] を選択します。
2. 「Amazon ElastiCache User Guide」の「Purchasing a reserved node」の手順に沿って予約を購入します。

Amazon MemoryDB 推奨事項を使用するには

1. MemoryDB コンソールの [リザーブドノード] ページで、[リザーブドノードを購入] を選択します。
2. 「Amazon MemoryDB Developer Guide」の「Working with reserved nodes」の手順に沿って、予約を購入します。

Amazon DynamoDB の推奨事項を使用するには

1. DynamoDB コンソールの [リザーブドキャパシティー] ページで、[リザーブドキャパシティーの購入] を選択します。

2. 「Amazon DynamoDB デベロッパーガイド」の「DynamoDB リザーブドキャパシティ」の手順に沿って予約を購入します。

料金見積りツールを使用して見積りを生成する

コンソール内 AWS 料金見積りツール は、割引と購入コミットメントを使用して、計画されたクラウドコストを見積もることができる AWS Billing and Cost Management 機能です。料金見積りツールを使用して、ワークロードの移行、新規ワークロードの作成または既存のワークロードの増加の計画、コミットメント購入の計画に関するコストへの影響を評価し、投資収益率を把握できます。

コンソール内 AWS 料金見積りツール とパブリック料金計算ツール

AWS には、コンソール内 AWS 料金見積りツール とパブリック料金計算ツールウェブサイトの 2 つの異なる料金計算ツールエクスペリエンスが用意されています。コンソール版と一般公開版の主な違いの 1 つは、一般公開版では AWS アカウントを作成する必要がないことです。コンソール内料金計算ツールは、 AWS コンソールの AWS Billing and Cost Management サービスの機能であり、独自の APIs セットがあるため、 を作成する必要があります AWS アカウント。の作成方法の詳細については AWS アカウント、AWS 「コスト管理の開始方法」を参照してください。

どちらの料金見積りツールでも、お客様固有のワークロードやアプリケーションの見積りを生成できます。ただし、コンソール AWS 料金見積りツール には、以下を可能にするより高度な機能があります。

- 既存の使用量をインポートすることで、将来的な使用量の変更をモデル化できます。これにより、過去の使用量データを手動で入力する必要がなくなります。
- Savings Plans やリザーブドインスタンスなど、購入コミットメントの変更をモデル化できます。既存のコミットメントの変更や新しいコミットメントの追加がコストに与える影響を分析できます。
- 一般公開されているオンデマンド料金と割引後の料金の両方を使用できます。これにより、既存の使用量階層に基づく現実的な見積りが得られます。
- モデル化した特定のアプリケーションまたはワークロードのコスト見積りを生成できます。または、モデル化された使用量とコミットメントを考慮した一括請求ファミリーのコスト見積りを生成することもできます。これにより、既存の使用量とアクティブなコミットメントが自動的に階層化されます。

パブリック料金計算ツールの詳細については、「 とは」を参照してください AWS 料金見積りツール。

コンソールの機能 AWS 料金見積りツール

コンソール内の料金見積りツールは、主に 2 つの見積りタイプで構成されます。

ワークロード見積り

- 特定のワークロード、アプリケーション、リソース、アーキテクチャの変更にかかるコストを見積もることができます。
- このタイプの見積りは、すべてのアカウントタイプ (スタンドアロンアカウント、管理アカウント、メンバーアカウント) で利用できます。
- 管理アカウントは、メンバーアカウントで使用できる有効な料金タイプを設定できます。利用可能な料金タイプは、割引前、割引後、割引後と購入コミットメントです。
- ワークロード見積りは、見積りの実行直後に利用できます。

詳細については、ワークロード見積りを参照してください。

請求見積り

- AWS 組織全体の一括請求にモデル化された使用量とコミットメントの変更を適用するコストを見積もることができます。
- このタイプの見積りは、管理アカウントまたはスタンドアロンアカウントのユーザーのみ利用できます。
- 請求見積りには、前月の一括請求の使用量が自動的に含まれます。また、既存の Savings Plans やリザーブドインスタンスといったコミットメントも含まれます。
- 新しい使用量の変更や、既存のコミットメントの修正を、現在のコミットメントに影響を与えることなくモデル化できます 例えば、新しい使用量を追加したり、既存の使用量を変更したり、既存のコミットメントを削除したりして、これらの設定がコストにどのように影響するかを、実際の請求に影響を与えずに確認できます。

詳細については、請求見積りを参照してください。

の料金 AWS 料金見積りツール

AWS 料金計算ツールはすべての AWS お客様が利用できます。ワークロード見積りは無料で提供されます。請求見積りについては、1 か月あたり 5 件の無料見積りが可能です。1 か月の間に 5 回目の見積りを行った後は、見積り 1 回につき 2 USD のコストが発生します。

AWS 料金見積りツール は AWS 料金の見積もりのみを提供し、適用される可能性のある税金は含まれません。実際の料金は、 AWS サービスの実際の使用状況など、さまざまな要因によって異なります。

> **Note**
>
> 見積りの生成に失敗した場合、その見積りは 1 か月あたりの 5 回の無料見積りにはカウントされません。また、失敗した見積りに対しても課金されません。

の開始方法 AWS 料金見積りツール

を使用する前に AWS 料金見積りツール、 AWS アカウント および ユーザーのアクセス許可が適切に設定されていることを確認する必要があります。 AWS アカウント および アクセス許可を設定する方法については、AWS 「コスト管理の開始方法」を参照してください。

でサポートされているアカウント AWS 料金見積りツール

料金計算ツールでは、次の AWS アカウント タイプがサポートされています。

- スタンドアロン AWS アカウント — AWS Organizations が有効になってい AWS アカウント ないスタンドアロン。
- 組織のメンバーアカウント — AWS 組織のメンバー AWS アカウント である 。
- 組織の管理アカウント — AWS 組織 AWS アカウント を管理する 。

AWS Organizations の詳細については、AWS 「Organizations とは」を参照してください。

> **Note**
>
> 請求元アカウントとして請求転送を使用する場合、 は、請求転送アカウントによって設定されたレートではなく、パブリック料金データに基づいて料金見積もり AWS 料金見積りツール を提供します。

料金見積りツールへのアクセス

料金計算ツールには、 AWS 請求情報とコスト管理コンソール内および一連の APIs を通じてアクセスできます。 AWS SDK と CLI を使用して計算ツールにアクセスすることもできます。

AWS 料金見積りツール では、IAM アクセス許可ポリシーで使用できるように、サービス固有のリソースやアクション、条件コンテキストキーが用意されています。詳細については、AWS 料金見積りツールのアクション、リソース、および条件キーを参照してください。

メンバーアカウントが割引料金を使用して見積りを作成するには、組織の管理アカウントで料金見積りコンソールの設定から割引の使用を有効にする必要があります。管理アカウントがこのアクセスを有効にしていない場合、見積りはデフォルトで一般公開されている料金になります。

> **Important**
>
> - Cost Explorer を有効にして、料金計算ツールが AWS ワークロードの過去の使用状況をインポートできるようにする必要があります。ワークロードの過去の使用状況をインポートする方法については、ワークロード見積りに過去の使用量を追加する を参照してください。
> - 料金見積りツールは、リンク済みアカウントの割引など、お客様が設定したコスト管理設定を上書きします。つまり、`After_discount` が選択されている場合、リンク済みアカウントの割引設定に関係なく、`netUnblendedRate` に基づくコストを確認できます。
> - 料金見積りコンソールにアクセスするには、`aws-portal` の下のポリシーを、きめ細かなアクセスコントロールへ移行する必要があります。これを行う方法については、AWS「請求のアクセスコントロールの移行」を参照してください。
> - Amazon Billing Conductor (ABC) の見積りデータビューは、料金見積りツールでは使用できません。メンバーアカウントが料金見積りツールにアクセスできる場合、そのアカウントでは、料金見積りツールの料金タイプの設定に応じて、課金対象のコストと使用状況を表示できます。

AWS 料金見積りツール 概念を理解する

開始しやすいように、このページでは、コンソール内の の主要な概念 AWS 料金見積りツール と、それらの操作方法について説明します。

主要なコンセプト

コンソール AWS 料金見積りツール では、割引率と購入コミットメントを使用して、計画されたクラウドコストを見積もることができます。以下は、料金見積りツールを使用する際に扱う主要なコンセプトです。

割引前の料金

割引前料金は、割引やコミットメントを適用せずに、 AWS サービスのパブリックオンデマンド料金を指します。これらは、すべての AWS お客様が利用できる標準料金です。詳細については、「割引前の料金」を参照してください。

割引後の料金

割引後の料金とは、 AWS のサービスに対して支払う料金を指します AWS。詳細については、「割引後の料金」を参照してください。

ワークロード見積り

ワークロードの見積もりは、モデル化する増分 AWS 使用量を表します。ワークロード見積りで使用量の詳細を追加および変更できます。ただし、ワークロードの見積もりでは、 AWS コミットメントの変更をモデル化することはできません。Amazon リソースネーム (ARN) を使用してワークロード見積りリソースを参照できます。ワークロード見積りの詳細については、ワークロード見積り を参照してください。

使用量

これは、すべての サービスでの一般的な AWS 使用状況を表し、各製品の使用量を示します。

コミットメント

これは、Savings Plans やリザーブドインスタンスなどの AWS コミットメントを表し、期間ベースのコミットメントと引き換えに割引料金を提供します。詳細については、Compute and EC2 Instance Savings Plans と Amazon EC2 リザーブドインスタンスを参照してください。

> **Note**
>
> ワークロード見積りを使用してコミットメントをモデル化することはできません。

請求シナリオ

請求シナリオは、将来のニーズに備えて想定される使用量やコミットメントをモデル化するためのコンテナとして機能します。請求シナリオのリソースは、ARN を使用して参照できます。詳細については、「請求見積り」を参照してください。

請求見積り

請求見積りは、請求シナリオのすべての入力内容に加えて、直近の年次請求における使用量およびコミットメントを組み合わせ、見積りコストを算出します。一括請求ファミリー全体の課税前コストが表示されます。請求見積りのリソースは、ARN を使用して参照できます。詳細については、「請求見積り」を参照してください。

> **Note**
>
> 請求見積りは、管理アカウントおよびスタンドアロンアカウントでのみ利用できます。

グループ

見積りは、グループを定義することで整理できます。グループは、会社の組織構造を反映させることができます。製品スタックや製品アーキテクチャなど、別の分類方法を反映させることもできます。例えば、 AWS セットアップをさまざまな方法で構築する場合、セットアップのバリエーションごとに異なるグループを使用して見積りを比較できます。

年次請求書

これは、その月に使用したサービスの明細項目です。請求用語の定義について詳しくは、AWS Data Exports ユーザーガイドの請求の詳細を参照してください。

料金、割引、購入コミットメントについて

このセクションでは、 料金計算ツールでサポートされている AWS 料金、割引、コミットメントと、ワークロードと請求の両方の見積りタイプにどのように適用されるかについて説明します。割引前の料金および割引後の料金は、ワークロード見積りにのみ適用されます。請求見積りでは、お客様の既存の使用量とコミットメント、その他の割引、クレジットに基づくお客様独自の料金が考慮されます。選択した料金タイプは、請求見積りの計算に影響しません。

トピック

- 割引前の料金
- 割引後の料金
- 購入コミットメント
- メンバーアカウントの料金の設定

割引前の料金

割引前料金は、割引やコミットメントを適用せずに、 AWS サービスのパブリックオンデマンド料金を指します。これらは、すべての AWS お客様が利用できる標準料金です。

割引前の料金は、以下のユースケースで役立ちます。

- 割引やコミットメントのない新規 AWS のお客様の場合、割引前料金はオンデマンド使用量に対して支払う料金を正確に表しています。
- 現在割引が適用されていない新しい AWS サービスまたは機能の使用コストを見積もる場合、割引前レートはベースラインコスト比較を提供します。

> **Note**
>
> - 割引率の前には、既存の AWS 顧客として対象となる可能性のある割引やコミットメントは考慮されません。
> - 割引前の料金を使用している場合、階層化料金は、モデル化した使用量が使用量の階層を超えたときにのみ考慮されます。例えば、S3 標準ストレージを 100 TB/月使用するモデルを作成したい場合、料金見積りツールは、最初の 50 TB/月には S3 標準の最初の階層の料金を、その残りの 50 TB/月には次の階層の料金を使用します。

割引後の料金

AWS 料金見積りツール には、組織の割引を考慮したコストを見積もる 2 つの方法があります。

- 割引後
- 割引後と購入コミットメント

これらのオプションは、使用量ベースの割引のみの場合でも、コミットメントベースの節約と組み合わせた場合でも、さまざまな種類の割引が見積りコストにどのように影響するかを理解するのに役立ちます。

割引後

割引後の料金とは、 AWS のサービスに対して支払う金額を指します。使用量ベースの割引を適用した後です AWS。これらのレートは、以下を考慮して実際の AWS コストを見積もるのに役立ちます。

- お客様の組織のボリューム割引または料金割引。
- 使用量に基づく階層化料金。階層化料金は、モデル化した使用量が使用量の階層を超えたときにのみ考慮されます。例えば、S3 標準ストレージを 100 TB/月使用するモデルを作成したい場合、料金見積りツールは、最初の 50 TB/月には S3 標準の最初の階層の料金を、その残りの 50 TB/月には次の階層の料金を使用します。

> **Note**
>
> 割引後の料金を使用している場合、その製品 SKU について、直近の年次請求が完了した時点で適用されている最も高い使用量階層に基づいて、単一の料金が使用されます。

割引後の料金は、一括請求ファミリーのレベルで適用されるすべての使用量ベースの割引を考慮したうえで、ある SKU を 1 単位追加で使用した場合のコスト増加分を指します。先月使用した SKU については、コストと使用状況レポートにおける SKU の純非ブレンド料金が有効料金となります。まだ使用したことのない SKU については、前月の使用量に対して各 SKU の使用量を 1 単位追加した模擬ワークロードを構築し、その結果として得られる年次請求の出力から純非ブレンド料金を取得します。

Savings Plans または予約などの購入コミットメントがある場合でも、算出される割引後の料金はコミットメントによる割引の影響を受けません。これは、当社が使用する割引後の料金が、オンデマンド料金と、階層化割引やボリューム割引など適用可能な割引に基づいた実際の使用量のみによって決まり、コミットメント割引は考慮されないことを意味します。

> **Note**
>
> AWS 料金見積りツール は、割引料金後の計算時に AWS 無料利用枠を考慮しません。料金見積りツールは、無料利用枠レベルを除外するために最低使用量のしきい値を設定します。例えば、無料利用枠が最大 100 ユニットをカバーする場合、料金見積りツールは料金を計算するときに使用量を 101 ユニットに設定します。つまり、入力した使用量が本来無料利用枠の範囲に収まる場合でも、料金見積りツールは標準料金を適用してコスト見積りを提供します。

After 割引料金を使用してコスト見積りを生成する場合、見積りは特定の AWS 使用量ベースの料金条件に合わせて調整されます。これにより、使用量の変更が実際の AWS 支出にどのように影響するかについて、情報に基づいた意思決定を行うことができます。

> **Note**
>
> - 割引後の料金には、Savings Plans やリザーブドインスタンスなどのアクティブなコミットメントの影響は含まれません。料金見積りツールは、見積りに適用できる未使用のコミットメントが存在しないことを前提としています。使用量に適用できる未使用のコミットメントがある場合、見積りコストは実際の支出よりも多くなる可能性があります。
> - Cost Explorer にオプトインしているアカウントの場合、Cost Explorer を有効にしてから 72～90 時間以内に割引後の料金を使用できるようになります。
> - 最新の割引後の料金は、直近の年次請求月に基づいて算出され、当月の 15 日までに利用可能になります。
> - 当月の 15 日以降にリリースされた製品については、割引後の料金は利用できません。この場合、割引後の料金は翌月 15 日に利用可能になります。

割引後と購入コミットメント

割引後と購入コミットメントの料金は、お客様の使用パターンに基づいて実効的な料金を算出します。特定の AWS リソース (SKU) の場合、合計コストは、1 年および 3 年のCompute Savings Plans、インスタンス Savings Plans、コンバーティブル RIs、前払いオプションのない標準 RIs など、さまざまな料金モデルとコミットメント条件を組み合わせます。各コミットメントタイプについて、計算ではそのコミットメントのカバレッジ割合を、その SKU に対する対応するコミットメント料金に乗じます。残りのオンデマンド使用量については、オンデマンドのカバレッジ割合に SKU の割引後の料金を乗じて算出します。購入コミットメントが使用量にどのように適用されるかの例については、Understanding how Savings Plans apply to your usage を参照してください。

EC2 インスタンスの場合、計算は前月の使用パターンを考慮し、インスタンスファミリーが同じリージョンで使用されたか AWS リージョン、異なるリージョンで使用されたか、まったく使用されなかったかに基づいてカバレッジの割合を決定します。例えば、前月に特定のリージョンで m5.2xlarge インスタンスを使用していた場合、計算式はそのリージョンにおける特定の使用パターンに基づいてカバレッジを算出します。特定のインスタンスファミリーに使用がまったくなかった場合、計算式は、すべてのリージョンにおける EC2 全体の使用パターンを使用してカバレッジ割合を決定します。これらのカバレッジ割合 (オンデマンド使用量を含む) はすべて合計で 100% となる必要があります。

同様のアプローチは、Lambda、Fargate、SageMaker、Amazon RDS など、コミットメント適用対象の他のサービスにも当てはまり、これらのサービスでは、お客様の使用パターンに基づいてサービス固有のカバレッジ割合を算出します。

> **Note**
>
> - Cost Explorer にオプトインしているアカウントの場合、Cost Explorer を有効にしてから 72～90 時間以内に、割引後および購入コミットメントの料金を使用できるようになります。
> - 最新の割引後および購入コミットメントの料金は、直近の年次請求月に基づいて算出され、当月の 15 日までに利用可能になります。
> - 当月の 15 日以降にリリースされた製品については、割引後および購入コミットメントの料金は利用できません。この場合、料金は翌月 15 日に利用可能になります。

購入コミットメント

AWS 料金見積りツール でサポートされている購入コミットメントは、Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI)、Compute Savings Plans、EC2 Instance Savings Plans です。詳細については、Compute and EC2 Instance Savings Plans と Amazon EC2 リザーブドインスタンスを参照してください。

料金見積りツールを使用すると、請求シナリオの一環として、新しい Savings Plans やリザーブドインスタンスを追加した場合、または既存のコミットメントを削除した場合の影響をモデル化できます。これにより、これらのコミットメントが全体的な推定 AWS コストにどのように影響するかを確認できます。

> **Note**
>
> 一般公開されている料金見積りツールの見積りでモデル化した Savings Plans またはリザーブドインスタンスは、一般公開されている料金見積りツールからワークロード見積りまたは請求シナリオにこれらの見積りを追加する際には含まれません。

メンバーアカウントの料金の設定

このセクションでは、メンバーアカウントの見積り料金を設定する方法について説明します。

手順

メンバーアカウントの見積り料金を設定するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [保存済みの見積り] ページで、設定アイコンを選択します。
4. 表示されるプロンプトで、メンバーアカウントに適用する割引料金を選択します。
5. [確認] を選択してください。

ワークロード見積り

ワークロード見積りを使用すると、特定のワークロード、アプリケーション、リソース、アーキテクチャの変更にかかるコストを見積もることができます。このタイプの見積りは、スタンドアロン、管理アカウント、メンバーアカウントなど AWS アカウント、すべてのアカウントタイプで使用できます。管理アカウントは、組織内のメンバーアカウントで使用する有効な料金タイプを設定できます。料金タイプは、割引前、割引後、割引後と購入コミットメントです。料金をワークロード見積りに適用する方法の詳細については、割引後の料金 を参照してください。

指定した使用量のコスト見積りのみが表示されます。新しい使用量を追加したり、既存のコストと使用状況データから使用量をインポートしたり、共有 URL を使用して一般公開されている料金見積りツールの使用量をインポートしたりできます。ワークロード見積りは、見積りで指定されていない使用量を考慮しません。一般公開されている料金見積りツールの見積りの URL を作成する方法については、一般公開されている料金見積りツールのユーザーガイドの見積りの共有を参照してください。

トピック

- ワークロード見積りの作成
- ワークロード見積りに新しいサービスを追加する
- ワークロード見積りで新しいサービスを設定する
- ワークロード見積りに過去の使用量を追加する
- 以前に保存した見積りをワークロード見積りに追加する

ワークロード見積りの作成

このセクションでは、ワークロード見積りを生成する方法について説明します。

前提条件

次の手順では、メンバーアカウントの料金の設定 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

ワークロード見積りを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [ワークロード見積り] タブで、[ワークロード見積りを作成] を選択します。
4. [ワークロード見積りの作成] のプロンプトでは、以下を実行できます。
   - 見積りにタイトルを付けます。
   - 見積りにキータグと値タグを追加します。
   - 見積りの料金タイプを選択します。

   > **Note**
   > 料金タイプの見積りを作成すると、後で料金タイプの選択を変更できなくなります。

5. [送信] を選択します。

ワークロード見積りに新しいサービスを追加する

このセクションでは、ワークロード見積りに新しいサービスを追加する方法について説明します。

前提条件

次の手順では、ワークロード見積りの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

ワークロード見積りに新しいサービスを追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。

3. 新しいサービスを追加するワークロード見積りに移動します。
4. [追加] ドロップダウンから、[新しいサービス] を選択します。
5. [新しいサービスを追加] ページでは、以下の操作を実行できます。
   - アカウントを選択します。
   - ロケーションタイプを選択します。
   - 場所を選択します。
   - サービスを選択します。
6. 使用量は、既存のグループに追加することも、新しく作成したグループに追加することもできます。
7. 新しいサービスをワークロード見積りに追加するには、[次へ] を選択します。

次の手順

ワークロード見積りに追加した新しいサービスを設定する方法については、ワークロード見積りで新しいサービスを設定する を参照してください。

ワークロード見積りで新しいサービスを設定する

このセクションでは、ワークロード見積りで新しいサービスを設定する方法について説明します。

前提条件

次の手順では、ワークロード見積りに新しいサービスを追加する の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

ワークロード見積りで新しいサービスを設定するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. 新しいサービスを追加したワークロード見積りに移動します。
4. 追加した新しいサービスの名前の横にあるドロップダウン矢印を選択します。
5. [設定] を選択します。
6. [サービスを設定] ページで、[ガイド付き設定] または [縮約設定] を選択できます。

- [ガイド付き設定] では、その特定のサービスのテンプレートを選択できます。詳細については、「ガイド付き設定」を参照してください。
- [縮約設定] では、その特定のサービスの使用タイプとオペレーションを選択できます。詳細については、「縮約設定」を参照してください。

7. 新しいサービスの設定プロセスを完了するには、[変更を保存] を選択します。

ガイド付き設定

ロケーションタイプ、ロケーション、アカウントを選択した後、テンプレートを選択する必要があります。テンプレートには、現実的な見積りを作成できるように、一般的に一緒に使用される製品を提供します。例えば、Amazon EC2 テンプレートを選択した場合、EC2 インスタンス、EBS ストレージ、EBS スナップショット、CloudWatch モニタリング、複数のデータ転送オプションが提供されます。見積りに特定の製品を追加しない場合は、その製品のコンテナのチェックボックスをオフにして、その製品を削除できます。すべての製品はデフォルトで選択されています。

> **Note**
>
> 使用量以外のフィールドの値は保存されず、保存した使用量行を再度開いた場合、それらのフィールドを表示することはできません。

縮約設定

モデル化する製品の使用タイプとオペレーションに精通している場合は、縮約設定設定を使用できます。使用タイプは、各サービスが特定タイプのリソースの使用量を測定するために使用する単位です。例えば、BoxUsage:t2.micro(Hrs) 使用タイプは Amazon EC2 t2.micro インスタンスの実行時間に基づいてフィルタリングします。オペレーションとは、Amazon S3 への書き込みリクエストや取得リクエストなど、サービスに対して行われるリクエストや、サービスによって実行されるタスクのことを指します。

使用タイプとオペレーションは、Price List API `GetProducts` を通じて利用できます。料金見積りコンソールの縮約設定では、Price List API をクエリすることなく、それぞれのドロップダウンで使用タイプとオペレーションを見つけることができます。

ワークロード見積りに過去の使用量を追加する

このセクションでは、ワークロード見積りに過去の使用量を追加する方法について説明します。

前提条件

次の手順では、ワークロード見積りの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

ワークロード見積りに過去の使用量を追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. 過去の使用量を追加するワークロード見積りに移動します。
4. [追加] ドロップダウンから、[マイアカウントからの過去のワークロード] を選択します。
5. インポートする過去の使用状況の時間範囲を選択します。

> **Note**
>
> 1 件のワークロード見積りで追加できる使用量行の最大数は 2,000 です。

6. (オプション) 最大 5 つのフィルターを追加します。フィルターを使用すると、追加する使用量の行を指定できます。フィルターの例には、コストカテゴリとサービスが含まれます。

> **Note**
>
> フィルターごとに、値は前のステップで選択した期間に基づきます。

7. 使用量は、既存のグループに追加することも、新しく作成したグループに追加することもできます。
8. [プレビュー] を選択します。
9. プレビューに、ワークロード見積りに取り込みたい使用量が表示されていることを確認します。

> **Note**
>
> 使用量は、アカウント、リージョン、サービスコード、使用タイプ、オペレーションに基づいて集計されます。つまり、期間が複数の月にまたがり、同じアカウント、リージョン、サービスコード、使用タイプ、オペレーションに該当する使用量が複数の月に存在する場合、それらの使用量およびコストはすべて 1 行にまとめて加算されます。

10. 使用量の履歴をワークロード見積りに追加するには、[インポート] を選択します。

> **Note**
>
> 過去の使用量を見積りにインポートすると、インポートされたすべての行について推定コストが計算されます。これらの行はインポート時に明示的に追加されているため、インポートされた使用量は見積りの一部と見なされます。ワークロード見積りでは、これは増分使用量と見なされます。

以前に保存した見積りをワークロード見積りに追加する

このセクションでは、一般公開されている料金見積りツールで保存済みの見積りをワークロード見積りに追加する方法について説明します。一般公開されている料金見積りツールの URL を生成する方法については、一般公開されている料金見積りツールのユーザーガイドの Sharing an estimate link を参照してください。

> **Note**
>
> 一般公開されている料金見積りツールの見積りでモデル化した Savings Plans またはリザーブドインスタンスは、一般公開されている料金見積りツールからワークロード見積りまたは請求シナリオにこれらの見積りを追加する際には含まれません。

前提条件

次の手順では、ワークロード見積りの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

以前に保存した見積りをワークロード見積りに追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. 以前に保存した見積り (URL) を追加するワークロード見積りに移動します。
4. [追加] ドロップダウンから、[以前に保存済みの見積り] を選択します。
5. [共有した見積り URL] セクションで、以前に保存した見積りの URL を貼り付けます。一般公開されている料金見積りツールの URL を生成する方法については、一般公開されている料金見積りツールユーザーガイドの Sharing an estimate link を参照してください。
6. アカウントを選択します。

7. 使用量は、既存のグループに追加することも、新しく作成したグループに追加することもできます。
8. [インポート] を選択します。

請求見積り

請求見積りを使用すると、一括請求ファミリー全体にわたる使用量およびコミットメントの課税前コストを見積もることができます。請求見積りには、前月の統合使用量が自動的に含まれます。例えば、特定の EC2 インスタンスタイプに 100 インスタンス時間を追加すると AWS リージョン、それらの時間は、そのリージョンのそのインスタンスタイプの既存の使用量に加えて追加され、追加の入力は必要ありません。また、既存の Savings Plans やリザーブドインスタンスといったコミットメントも含まれます。特典共有の設定が適用され、該当する割引、クレジット、または返金は、最新の年次請求書と同様に含まれます。新しい使用量の変更をモデル化したり、新しいコミットメントを追加したり、既存のコミットメントを変更したり、リザーブドインスタンスと Savings Plans の利点を共有する方法を追加したりできます。

請求見積りを生成するには、請求シナリオを作成する必要があります。請求シナリオを使用すると、使用量に加えてコミットメントもモデル化できます。シナリオ内で使用量とコミットメントのモデル化を完了した後、請求見積りを実行できます。

> **Note**
>
> - ワークロードの規模によっては、請求見積りの生成に 20 分から最大 12 時間かかる場合があります。
> - 請求見積りは、管理アカウントおよびスタンドアロンの AWS アカウントでのみ利用できます。
> - 請求元アカウントとして請求転送を使用する場合、 は、請求転送アカウントによって設定されたレートではなく、パブリック料金データに基づいて料金見積もり AWS 料金見積りツール を提供します。

トピック

- 請求見積りで使用されるデータエンティティについて
- 請求シナリオの作成
- 請求シナリオへの使用履歴の追加

- 請求書シナリオに新しいサービスを追加する
- 以前に保存した見積りを請求シナリオに追加する
- 請求書シナリオにメリット共有設定を追加する
- Savings Plans を請求シナリオに追加する
- リザーブドインスタンスを請求シナリオに追加する
- 古い請求シナリオと期限切れの請求シナリオ
- 請求見積りの作成
- 請求見積りの表示

請求見積りで使用されるデータエンティティについて

請求書は、 の生成エンジンを見積もり、指定された期間に次のデータエンティティ AWS 料金見積りツール を使用します。

データエンティティ	説明
メンバーアカウント	選択されたメンバーアカウントを使用して、前回の年次請求月に各メンバーアカウントでどのように使用量が発生したかを特定します。モデル化した使用量は、この既存の使用量に重ねて適用されます。
製品属性と料金属性	製品属性および料金属性によって料金が決まります。例えば、その月に t4g.large EC2 共有テナンシーインスタンスが us-east-1 で Linux を 500 時間実行しているとします。t4.large EC2 インスタンスには 2 つの vCPU と 8 GiB のメモリがあります。共有テナンシー、vCPU 数、割り当てられたメモリなどの製品属性が、この EC2 インスタンスの使用量 1 単位あたりの料金を決定します。これらの属性と料金は、前回の年次請求月時点のものを使用します。
既存の使用状況	既存の使用量は、前回の年次請求月から変更されていない使用量を示しており、請求シナリオでモデル化した使用量はこの既存の使用量に重ねて適用されます。
Savings Plans インベントリ	このインベントリは、前回の年次請求月現在でアクティブな Savings Plans を示します。このインベントリは請求見積りに自

データエンティティ	説明
	動的に含まれ、モデル化した新しい Savings Plans は、対象となる使用量に対してこのインベントリに重ねて適用されます。
リザーブドインスタンスのインベントリ	このインベントリは、前回の年次請求月時点でアクティブなリザーブドインスタンスを示します。このインベントリは請求見積りに自動的に含まれ、モデル化した新しいリザーブドインスタンスは、対象となる使用量に対してこのインベントリに重ねて適用されます。
メリット共有の設定	リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有設定の請求設定に基づくアカウントには、リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引特典が自動的に適用されます。前回の年次請求書の時点で、この特典アプリケーション設定は、請求書を見積もる際に自動特典共有を適用し、割引共有設定の変更をレイヤー化することを可能にします。

請求シナリオの作成

このセクションでは、請求シナリオを生成する方法について説明します。

手順

請求シナリオを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [請求見積り] タブの [請求シナリオ] で、[請求シナリオを作成] を選択します。
4. [請求シナリオを作成] プロンプトでは、以下を実行できます。
   - 請求書シナリオに名前を付けます。
   - シナリオにキータグと値のタグを追加します。
5. [Submit] を選択してください。

請求シナリオへの使用履歴の追加

このセクションでは、請求シナリオに使用履歴を追加する方法について説明します。

前提条件

次の手順では、請求シナリオの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

請求シナリオに使用履歴を追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [請求見積り] タブの [請求シナリオ] で、使用量を追加するシナリオを選択します。
4. [使用量] セクションの [追加] ドロップダウンから、[マイアカウントからの過去のワークロード] を選択します。
5. インポートする過去の使用状況の時間範囲を選択します。

> **Note**
>
> 1 件の請求シナリオで追加できる使用量行の最大数は 2,000 です。

6. (オプション) 最大 5 つのフィルターを追加します。フィルターを使用すると、追加する使用量の行を指定できます。フィルターの例には、コストカテゴリとサービスが含まれます。

> **Note**
>
> フィルターごとに、値は前のステップで選択した期間に基づきます。

7. 使用量は、既存のグループに追加することも、新しく作成したグループに追加することもできます。
8. [プレビュー] を選択します。
9. プレビューに、ワークロード見積りに取り込みたい使用量が表示されていることを確認します。

> **Note**
>
> 使用量は、アカウント、リージョン、サービスコード、使用タイプ、オペレーションに基づいて集計されます。つまり、期間が複数の月にまたがり、同じアカウント、リージョン、サービスコード、使用タイプ、オペレーションに該当する使用量が複数の月に存在する場合、それらの使用量およびコストはすべて 1 行にまとめて加算されます。

10. 使用量の履歴をワークロード見積りに追加するには、[インポート] を選択します。

請求書シナリオに新しいサービスを追加する

このセクションでは、請求シナリオに新しいサービスを追加する方法について説明します。

前提条件

次の手順では、請求シナリオの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

請求書シナリオに新しいサービスを追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [請求見積り] タブの [請求シナリオ] で、使用量を追加するシナリオを選択します。
4. [使用量] セクションの [追加] ドロップダウンから、[新しいサービス] を選択します。
5. [新しいサービスを追加] ページでは、以下の操作を実行できます。
   - アカウントを選択します。
   - ロケーションタイプを選択します。
   - 場所を選択します。
   - サービスを選択します。
6. 使用量は、既存のグループに追加することも、新しく作成したグループに追加することもできます。
7. 新しいサービスをワークロード見積りに追加するには、[設定] を選択します。
8. [サービスを設定] ページで、[ガイド付き設定] または [縮約設定] を選択できます。

- [ガイド付き設定] では、その特定のサービスのテンプレートを選択できます。詳細については、「ガイド付き設定」を参照してください。
- [縮約設定] では、その特定のサービスの使用タイプとオペレーションを選択できます。詳細については、「縮約設定」を参照してください。

9. 新しいサービスの設定プロセスを完了するには、[変更を保存] を選択します。

以前に保存した見積りを請求シナリオに追加する

このセクションでは、一般公開されている料金見積りツールで保存済みの見積りを請求シナリオに追加する方法について説明します。一般公開されている料金見積りツールの URL を生成する方法については、一般公開されている料金見積りツールのユーザーガイドの Sharing an estimate link を参照してください。

> **Note**
>
> 一般公開されている料金見積りツールの見積りでモデル化した Savings Plans またはリザーブドインスタンスは、一般公開されている料金見積りツールからワークロード見積りまたは請求シナリオにこれらの見積りを追加する際には含まれません。

前提条件

次の手順では、請求シナリオの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

以前に保存した見積りを請求シナリオに追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [請求見積り] タブの [請求シナリオ] で、使用量を追加するシナリオを選択します。
4. [使用量] セクションの [追加] ドロップダウンから、[以前に保存済みの見積り] を選択します。
5. [共有した見積り URL] セクションで、以前に保存した見積りの URL を貼り付けます。一般公開されている料金見積りツールの URL を生成する方法については、一般公開されている料金見積りツールユーザーガイドの Sharing an estimate link を参照してください。

6. アカウントを選択します。
7. 使用量は、既存のグループに追加することも、新しく作成したグループに追加することもできます。
8. [インポート] を選択します。

請求書シナリオにメリット共有設定を追加する

このセクションでは、リザーブドインスタンスと Savings Plans 共有グループ設定を請求シナリオに追加する方法について説明します。これにより、メリット共有設定をモデル化して、請求への影響を評価できます。

共有設定の詳細については、「リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有設定」を参照してください。

前提条件

次の手順では、請求シナリオの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

リザーブドインスタンスと Savings Plans 共有グループの設定を請求シナリオに追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. 請求見積りタブの請求シナリオで、グループ共有設定を追加するシナリオを選択します。
4. リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有グループ設定セクションで、編集を選択します。
5. 目的のグループ設定を選択し、変更の保存を選択します。
   - 優先共有グループまたは制限付き共有グループを選択した場合は、ドロップダウンからコストカテゴリを選択します。オープン共有の場合、コストカテゴリを選択する必要はありません。
6. [設定] を選択します。

Savings Plans を請求シナリオに追加する

このセクションでは、請求シナリオに Savings Plans を追加する方法について説明します。

前提条件

次の手順では、請求シナリオの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

Savings Plans を請求シナリオに追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [請求見積り] タブの [請求シナリオ] で、Savings Plans を追加するシナリオを選択します。
4. [Savings Plans] セクションで、[Savings Plans の追加] を選択します。
5. 必要な Savings Plans のタイプを選択し、[追加] を選択します。
6. 追加した Savings Plans を設定する必要があるかどうかを確認します。
7. Savings Plans を設定する必要がある場合は、設定する必要がある Savings Plans のチェックボックスをオンにします。
8. [編集] を選択します。
9. [新しいサービスを追加] ページで、以下を実行します。
   - 期間を選択します。
   - リージョンを選択します。
   - インスタンスファミリーを選択します。
   - 支払いオプションを選択します。
   - 時間単位のコミットメントを指定します。
10. [設定] を選択します。

リザーブドインスタンスを請求シナリオに追加する

このセクションでは、請求シナリオにリザーブドインスタンスを追加する方法について説明します。

前提条件

次の手順では、請求シナリオの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

リザーブドインスタンスを請求シナリオに追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [請求見積り] タブの [請求シナリオ] で、リザーブドインスタンスを追加するシナリオを選択します。
4. [リザーブドインスタンス] セクションで、[リザーブドインスタンスを追加] を選択します。
5. 必要なリザーブドインスタンスのタイプを選択し、[追加] を選択します。
6. 追加したリザーブドインスタンスを設定する必要があるかどうかを確認します。
7. リザーブドインスタンスを設定する必要がある場合は、設定する必要があるリザーブドインスタンスのチェックボックスをオンにします。
8. [編集] を選択します。
9. [新しいサービスを追加] ページで、以下を実行します。
   - リージョンを選択します。
   - インスタンスタイプを選択します。
   - プラットフォームを選択します。
   - テナンシーを指定します。
   - 提供クラスを選択します。
   - 支払いオプションを選択します。
   - 期間を選択します。
   - 数量を指定します。
10. [設定] を選択します。

古い請求シナリオと期限切れの請求シナリオ

このセクションでは、請求シナリオの古いステータスと期限切れステータスについて説明します。

請求シナリオが [古い] ステータスを表示すると、それを使用して請求見積りを作成できなくなります。請求シナリオは、作成された月の最終日を過ぎると古いステータスになります。例えば、2 月 15 日に請求シナリオを作成した場合、そのシナリオは 3 月 1 日に古いステータスになります。古いシナリオは 13 か月間表示されます。13 か月後、そのシナリオは期限切れになり、自動的に削除さ

れます。例えば、2025 年 2 月に作成された請求シナリオは、2026 年 3 月 31 日に有効期限が切れ、自動的に削除されます。

請求見積りの作成

このセクションでは、請求見積りを生成する方法について説明します。

前提条件

次の手順では、請求シナリオの作成 の手順を既に完了していることを前提としています。

手順

請求見積りを作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [請求見積り] タブの [請求シナリオ] セクションで、請求見積りを生成するシナリオを選択します。
4. [作成] を選択します。
5. [請求見積りを作成] プロンプトでは、以下を実行できます。
   - 請求見積りに名前を付けます。
   - 見積りにキータグと値タグを追加します。
6. [保存] を選択します。

請求見積りの作成中、ステータスは [進行中] と表示されます。請求見積りの準備ができると、ステータスは [保存済み] と表示されます。請求見積りの準備が整うと、E メール通知も届きます。

> **Note**
>
> ワークロードの規模によっては、請求見積りの生成に 20 分から最大 12 時間かかる場合があります。

請求見積りの表示

このページでは、請求見積りの主要なセクションに表示される情報について説明します。Organization のメンバーである場合 AWS 、このページには、一括請求ファミリーの税引き前のコストと使用状況が表示されます。スタンドアロンアカウントの場合、このページにはアカウントの課税前のコストと使用状況が表示されます。請求見積りを生成する方法については、請求見積りの作成 を参照してください。

> **Note**
>
> リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有グループ設定を指定して請求見積りを実行すると、請求見積りページの上部に、使用したメリット共有設定とコストカテゴリを示すセクションが表示されます。これにより、請求設定ページに移動して、これらの変更を直接行うことができます。

見積りセクション	説明
見積りの詳細	見積りが作成された日時、有効期限、見積り AWS アカウントを作成した が表示されます。
請求の影響	見積りコストの概要を表示します。 • 過去の請求合計 AWS 組織に属している場合、これは一括請求ファミリーの年間請求料金からの税引き前のコストです。スタンドアロンアカウントの場合、これはアカウントの年間請求料金の課税前コストです。 • 請求見積りの合計 AWS 組織に属している場合、これは使用量とコミットメントモデルを含む一括請求ファミリーの推定コストです。スタンドアロンアカウントの場合、これはアカウントの使用量とコミットメントモデルを含む推定コストです。このコストは、適用可能なすべての割引を差し引いた後の総額です。このコストには、すべての使用明細項目とコミットメントによる料金が含まれます。

見積りセクション	説明
影響の大きいサービスの純増減	このグラフには、記念日請求書の料金と AWS サービスの推定コストの正味コスト比較が表示されます。見積りに複数のサービスがある場合は、グラフに上位 7 つのサービスが表示されます。

見積りセクション	説明
サービスごとの変更された使用行	影響を受けるサービスごとにコストと使用量がどのように変化したかを表示します。これには、請求シナリオで直接または間接的にモデル化されたサービス使用量行が含まれます。間接的なモデル化とは、コミットメントによるカバー範囲の増減の影響を受けた使用量です。これらの変化は、元の年次請求書と新しい請求見積りのサービスの詳細を比較することで特定されます。次のリストは、このセクションの各列の概要を示しています。 • [サービス > 使用法行] — サービスコード、使用タイプ、オペレーションを表示します。 • リージョン — 使用明細項目が発生する AWS リージョン、Wavelength ゾーン、または Local ゾーン。 • アカウント — この使用量とコストが発生した一括請求ファミリー AWS アカウント の 。 • [過去のコスト] — 年次請求書のこの行のコスト。過去のコストが空の場合、使用量行が年次請求書に存在しなかったことを意味します。これは、以前に使用したことのない製品 (SKU) の使用をモデル化した場合に発生する可能性があります。 • [修正] — この使用行を直接モデル化した結果としてのコスト。場合によってはコミットメントカバー率の変化が反映されることがあります。 • [コミットメント] — 使用行のすべてのコミットメントカバレッジが表示されます。例えば、使用行が Savings Plans でカバーされている場合、この行をカバーするすべての Savings Plans 割引の合計が表示されます。 • [割引] — 使用行をカバーしたその他の割引の合計。 • [推定コスト] — すべてのコミットメントと割引を差し引いた使用行の最終課税前推定コスト。

見積りセクション	説明
積立プラン	アカウントのすべてのアクティブおよびモデル化された Savings Plans が表示されます。[状態] 列には、[新規]、[既存]、[修正済み]、または [設定] のステータスのみが表示されます。 • [新規] — 見積りの作成元の請求シナリオでモデル化した Savings Plans。 • [既存] — アカウント内の有効および有効期限が切れていない Savings Plans。 • [含まれないもの] — 見積りから除外することを選択した Savings Plans。 • [設定] — これには、Savings Plans に必要なパラメータを設定する必要があります。
リザーブドインスタンス	アカウントのすべてのアクティブおよびモデル化されたリザーブドインスタンスが表示されます。[状態] 列には、[新規]、[既存]、[修正済み]、または [設定] のステータスのみが表示されます。 • [新規] — 見積りの作成元の請求シナリオでモデル化したリザーブドインスタンス。 • [既存] — アカウント内の有効および有効期限が切れていないリザーブドインスタンス。 • [含まれないもの] — 見積りから除外することを選択したリザーブドインスタンス。 • [設定] — これには、リザーブドインスタンスに必要なパラメータを設定する必要があります。

見積りのエクスポート

AWS 料金見積りツール のワークロード見積りを JSON ファイルまたは CSV ファイルとしてエクスポートできます。ワークロード見積りは、AWS Cost Management コンソールからのみエクスポートできます。

手順

ワークロード見積りをエクスポートするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で料金見積りコンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [料金見積りツール] を選択します。
3. [保存済みの見積り] ページで、エクスポートするワークロード見積りを選択します。
4. ワークロード見積りで、[エクスポート] を選択します。
5. ドロップダウンから、[CSV] または [JSON] を選択します。これにより、ワークロード見積りがローカルドライブにダウンロードされます。

での EventBridge の使用 AWS 料金見積りツール

コンソール内は AWS 料金見積りツール 、請求書の見積りで特定のイベントが発生するたびに Amazon EventBridge にイベントを送信できます。他の宛先とは異なり、配信するイベントタイプを選択する必要はありません。EventBridge を設定したら、料金見積りツールのイベントを EventBridge に送信できます。EventBridge ルールを使用すると、イベントを追加のターゲットにルートできます。EventBridge の設定方法の詳細については、Amazon EventBridge API リファレンスの Amazon EventBridge の設定と前提条件を参照してください。

以下は、EventBridge AWS 料金見積りツール に送信するイベントの一覧です。

イベントタイプ	説明
BillEstimate Created	請求見積りが作成されました。 イベントが EventBridge に送信される対象となる請求見積りの ARN、見積り名、見積り ID がイベント内で出力されます。
BillEstimate Succeeded	請求見積りが完了しました。これは、請求見積りの結果を閲覧できるようになったことを意味します。 イベントが EventBridge に送信される対象となる請求見積りの ARN、見積り名、見積り ID がイベント内で出力されます。
BillEstimate Failed	請求見積りの生成に失敗しました。

イベントタイプ	説明
	イベントが EventBridge に送信される対象となる請求見積りの ARN、見積り名、見積り ID がイベント内で出力されます。

AWS 料金見積りツール を使用して EventBridge でイベント通知を送信し、見積りに関連するイベントが発生したときにアクションを実行するルールを記述することもできます。例えば、通知を送信するように設定できます。Amazon EventBridge のルールの詳細については、Amazon EventBridge ユーザーガイドの Amazon EventBridge でルールの作成を参照してください。

EventBridge API を使用して利用できるアクションとデータ型の詳細については、Amazon EventBridge API リファレンスの Amazon EventBridge API Reference を参照してください。

Amazon EventBridge アクセス許可

AWS 料金見積りツール では、Amazon EventBridge にイベントを配信するための追加のアクセス許可は必要ありません。

イベントメッセージの構造の例

BillEstimate Created

```
{
    "version": "0",
    "id": "00000000-0000-0000-0000-000000000001",
    "detail-type": "BillEstimate Created",
    "source": "aws.bcm-pricing-calculator",
    "account": "111122223333",
    "time": "2024-09-12T13:47:34Z",
    "region": "us-east-1",
    "resources": ["arn:aws:bcm-pricing-calculator::111122223333:bill-
estimate/00000000-0000-0000-0000-000000000000"],
    "detail": {
        "id": "00000000-0000-0000-0000-000000000001",
        "name": "amzn-example-name"
     }
}
```

BillEstimate Succeeded

```
{
    "version": "0",
    "id": "00000000-0000-0000-0000-000000000002",
    "detail-type": "BillEstimate Succeeded",
    "source": "aws.bcm-pricing-calculator",
    "account": "111122223333",
    "time": "2024-09-12T13:47:34Z",
    "region": "us-east-1",
    "resources": ["arn:aws:bcm-pricing-calculator::111122223333:bill-
estimate/00000000-0000-0000-0000-000000000002"],
    "detail": {
        "id": "00000000-0000-0000-0000-000000000002",
        "name": "amzn-example-name"
     }
}
```

BillEstimate Failed

```
{
    "version": "0",
    "id": "00000000-0000-0000-0000-000000000003",
    "detail-type": "BillEstimate Failed",
    "source": "aws.bcm-pricing-calculator",
    "account": "111122223333",
    "time": "2024-09-12T13:47:34Z",
    "region": "us-east-1",
    "resources": ["arn:aws:bcm-pricing-calculator::111122223333:bill-
estimate/00000000-0000-0000-0000-000000000003"],
    "detail": {
        "id": "00000000-0000-0000-0000-000000000003",
        "name": "amzn-example-name",
        "failureReason": "We can't process this request right now because of an
 internal error. Try again later."
     }
}
```

Amazon Q Developer で生成 AI を使用してコストを管理する

Amazon Q Developer は、生成人工知能 (AI) を活用した会話アシスタントであり、 AWS アプリケーションの理解、構築、拡張、運用に役立ちます。Amazon Q Developer は、自然な会話を通じて AWS コストを管理するのに役立つ強力な機能を提供します。Cost Explorer から履歴コストと予測コストを分析し、Cost Optimization Hub からコスト削減のレコメンデーションを見つけ AWS Compute Optimizer、Savings Plans と予約の機会を理解し、 AWS 製品属性やサービスの料金についてすぐに回答を得ることができます。Amazon Q Developer は、特定の質問 (「先月の EC2 インスタンスの純非ブレンドコストは何だったか」など) に回答することも、複雑な分析やオープンエンド分析 (先週のコスト削減の最大の要因は何だったか」など) を実行することもできます。Amazon Q Developer を使用して、「過去 6 か月間のサービスのコストの面グラフを表示する」や「先週の日別支出の棒グラフを表示する」などのプロンプトで、コストデータをグラフやグラフで視覚化することもできます。Amazon Q Developer は、クエリ構文を学習したり、複数のコンソールページをナビゲートしたりするのではなく、独自の単語で質問をしたり、 AWS アカウントからの実際のデータに裏付けられた正確な回答を提供したり、呼び出された APIs を正確に表示したり、コンソールで情報を見つける場所を表示したりすることで、 AWS コストデータの操作を簡素化します。

Amazon Q Developer の詳細については、Amazon Q Developer User Guide の What is Amazon Q Developer を参照してください。

トピック

- Amazon Q Developer のコスト管理機能の概要
- Amazon Q Developer のコスト管理機能の仕組み
- Amazon Q Developer のコスト管理機能のセキュリティ

Amazon Q Developer のコスト管理機能の概要

Amazon Q Developer は、 AWS コストの理解、分析、最適化に役立つ生成人工知能 (AI) を活用した会話アシスタントです。Amazon Q Developer を使用すると、コストに関する複雑な自由回答形式の質問をし、Q にユーザーに代わって分析を実行させることができます。Q は、自然言語の会話を通じて、コストデータの探索、仮説の形成とテスト、複数のソースからの情報の収集、計算の実行、カスタムビジュアライゼーションと実用的なインサイトの提供を行います。

Amazon Q Developer を使用すると、時間と専門知識を少なくして、より深いコストインサイトを得ることができます。複数のツール間でデータを手動で探索し、フィルターを調整し、オフライン計算を実行する代わりに、分析作業を Q に委任できます。これは、専用の FinOps の専門知識を持たないチームにとって特に重要です。Q は、使用するツール、呼び出す APIs、クエリの構造化方法を把握する複雑さを処理することで、学習曲線を短縮するためです。

Amazon Q Developer の詳細については、Amazon Q Developer User Guide の What is Amazon Q Developer を参照してください。

できること

Amazon Q Developer は、さまざまなコスト管理のユースケースで強力な機能を提供します。

コストを理解する

過去の支出パターンを分析し、サービスまたはアカウント別のコスト内訳を表示し、経時的な傾向を追跡します。たとえば、「先月のサービス別のコストはいくらだったか」と尋ねることができます。または「過去 6 か月間の EC2 支出の傾向を表示する」。

コストの変化を調査する

根本原因分析を実行して、コストが変更された理由を理解します。Q はデータを探索し、コストの増減要因を特定し、period-over-periodの変化を理解するのに役立ちます。たとえば、「先週コストが増加したのはなぜですか？」と尋ねることができます。と Q は根本的な原因を調査します。

コスト削減の機会を見つける

Cost Optimization Hub からのコスト最適化の推奨事項 AWS Compute Optimizer、および Savings Plans と予約の推奨事項を特定します。Q は、アイドル状態のリソース、ライツサイジングの機会、コミットメントベースの割引の機会を見つけるのに役立ちます。たとえば、「最高のコスト最適化の機会は何ですか？」と尋ねることができます。または「どの EC2 インスタンスがオーバープロビジョニングされていますか？」。また、「2 番目の推奨事項の詳細を教えてください」や「EBS ボリュームがアイドルと分類されたのはなぜですか？」など、詳細なフォローアップの質問をすることもできます。

コストの正常性をモニタリングする

予算のステータスを確認し、コストの異常を特定し、無料利用枠の使用状況を監視します。Q は、異常な支出パターンを警告し、予算目標内に留まるのに役立ちます。たとえば、「いずれかのチームが予算を超えましたか？」と尋ねることができます。または「コストの異常はありますか？」

将来のコストを見積もる

AWS サービスの料金を理解し、構築する予定の新しいワークロードのコストを見積もります。Q は、リージョン間の料金の比較、特定の設定のコストの計算、将来の支出の予測に役立ちます。たとえば、「ダブリンの S3 に 1 PB を格納するにはどのくらいのコストがかかりますか？」と質問できます。または「今月のコスト予測は何ですか？」

コミットメントのパフォーマンスを分析する

Savings Plans とリザーブドインスタンスのカバレッジと使用率を確認して、コミットメントベースの割引をどの程度効果的に使用しているかを理解します。Q は、使用率の低いコミットメントと、割引カバレッジを改善する機会を特定できます。たとえば、「過去 1 か月間の Savings Plans のパフォーマンスを分析する」と尋ねることができます。

支払いステータスを確認する

以前に発行された請求書を一覧表示し、未払いの支払い残高があるかどうかを確認し、設定した支払い方法を確認します。

使用方法

Amazon Q Developer は、質問のフレーズ方法に適応します。目的が正確にわかっている場合は、特定の制限付き質問をしたり、自由回答形式の探索的な質問をしたりして、Q に調査を依頼したりできます。

質問例

特定の質問

必要なデータがわかったら、的を絞った質問をすることができます。

- 「先月の純償却 S3 コストはいくらですか？」
- EC2 の適切なサイズ設定に関する推奨事項を表示する」
- 「us-east-1 での c8g.2xlarge インスタンスのコストはいくらですか？」

自由回答形式の質問

Q にコストを調査および分析させたい場合は、より広範な質問をすることができます。

- 「先週コストが増加したのはなぜですか？」
- 「コストデータを分析してインサイトを得る」
- 「コストを削減する簡単な方法は何ですか？」

複数ステップの分析に関する質問

Q は、複数のソースからデータを収集し、計算を実行する必要がある複雑な質問を処理できます。

- Savings Plans 割引後の EC2 インスタンス時間あたりの実効コストはいくらですか？」
- 「どのアカウントが最大のコスト増加をもたらしたか」
- Savings Plans」

推定に関する質問

Q は、新しいワークロードのコストを見積もり、リージョン間で料金を比較するのに役立ちます。

- 「ダブリンの S3 に 1 PB を格納するにはいくらかかりますか？」
- 「マルチ AZ および 300 GB gp2 ストレージを搭載した t4g.xlarge RDS インスタンスの月額コストはいくらですか？」
- 「小規模な EC2 インスタンス、API ゲートウェイ、最大 5 GB の SQL データベース、CloudFront でホストされている基本的な JS フロントエンドを備えた基本的な 3 層ウェブアプリを構築する料金はいくらですか？」

視覚化

グラフとグラフを作成して、コストデータを視覚化できます。

- 「先週のストレージ階層別の S3 コストをグラフ化」
- 「過去 30 日間の DynamoDB のコストをリージョンごとに日単位でグラフ化」
- 「過去 6 か月間の RDS コストをインスタンスタイプ別にグラフ化」
- 「過去 12 か月間の EC2-Otherコストの面グラフを表示する」

最大限の価値を得るためのヒント

フォローアップの質問を使用して分析を誘導する

Amazon Q Developer は会話内のコンテキストを保持するため、フォローアップの質問をしてより深く掘り下げたり、分析を特定の方向に導いたりできます。

- 最初の質問：「先月コストが増加したのはなぜですか？」
- フォローアップ：「次に、Savings Plans の有効期限が切れているかどうかを確認します。」

- フォローアップ:EC2 にフォーカスする」

必要なものがわかっている場合は具体的にする

Q は自由回答形式の質問を処理できますが、より具体的であることは、探しているものが正確にわかっている場合に回答をより迅速に得るのに役立ちます。

- 代わりに：「コストについて教えてください」
- 試してください：「先月 us-east-1 で償却された EC2 インスタンスの純コストはいくらですか？」

タグとコストカテゴリにキーと値のペアを使用する

コスト配分タグまたはコストカテゴリでフィルタリングする場合、使用する特定のキーと値がわかっている場合は、それらを指定できます。

- 代わりに、「先月 prod でいくら支出しましたか？」
- 試す：「タグキー='Environment'、値='Production' の先月の支出はいくらですか？」

ユーザーエクスペリエンス

透明性

各レスポンスで、Amazon Q Developer は回答にどのように到達したかについて透明性を提供します。

- 表示される API コール: Q は、使用する正確なパラメータなど、API コールの詳細を表示します。これにより、Q が取得したデータを正確に把握できます。
- コンソールのディープリンク: 利用可能な場合、Q は AWS マネジメントコンソールで一致するビューへのリンクを提供するため、データを検証したり、さらに詳しく調べたりできます。

この透明性は、Q の応答に対する信頼を構築し、フォローアップの質問でより具体的な指示を提供するために必要な情報を提供します。

対話型および反復型

Amazon Q Developer は会話全体でコンテキストを維持し、自然で反復的な対話を可能にします。

- フォローアップの質問をする: フォローアップの質問をして、分析の特定の側面をより深く掘り下げることができます。例えば、Q が EC2 コストの増加を特定した後、EC2 コストの増加が最も高いアカウントはどれですか？」と尋ねることができます。また、「水曜日に増加した要因は何ですか？」など、生成されたビジュアライゼーションについて質問することもできます。
- 分析を進める: 特定の指示を提供することで、Q の調査をガイドできます。例えば、「次に、Savings Plans の有効期限が切れているかどうかを確認します」または「本番環境のフォーカス」などです。視覚化では、「棒グラフから折れ線グラフに切り替えましょう」などのフォローアッププロンプトで変更をリクエストできます。
- 質問の絞り込み: 回答がまったく必要でない場合は、言い換えたり詳細を追加したりして、より的を絞った回答を得ることができます。

実用的なインサイト

Amazon Q Developer は、単純なデータ取得にとどまらず、有意義なインサイトを提供します。

- 検出結果を解釈する: Q は事実とデータを提供するだけでなく、パターンを識別し、異常を強調し、データの意味を説明します。
- 機会を特定する: Q はコスト最適化の機会と支出の潜在的な問題を事前に提示します。
- ガイダンスを提供します。最適化の推奨事項について、Q は変更を実装するために必要なステップを説明できます。

マルチアカウントコスト管理

AWS 組織の管理アカウントにログインしているお客様の場合、Amazon Q Developer は組織内のすべてのメンバーアカウントからコストデータを自動的に集計します。Cost Explorer と同様に、メンバーアカウントごとにコストをフィルタリングまたはグループ化できます。

カスタム請求ビューを作成して、カスタムマルチアカウント集計を定義することもできます。カスタム請求ビューを使用すると、複数のメンバーアカウントまたは複数の組織からのデータを集約できます。カスタム請求ビューを作成すると、Cost Explorer と Amazon Q Developer の両方で集計を使用できます。詳細については、「カスタム請求ビューの開始方法」を参照してください。Amazon Q Developer でカスタム請求ビューを使用するには、会話に使用する請求ビューの名前を「この会話の残りの部分で cross-org-rollup 請求ビューを使用したい」などのプロンプトで指定します。カスタム請求ビューは、コストデータと予算の履歴データと予測データでサポートされています。

開始方法

前提条件

Amazon Q Developer でコスト管理機能を使用するには、以下が必要です。

- 適切な IAM アクセス許可: Amazon Q Developer と を使用して、基盤となる Billing and Cost Management サービスにアクセスするためのアクセス許可が必要です。詳細については、「the section called “セキュリティとプライバシー”」を参照してください。
- Cost Explorer オプトイン: 履歴コストと予測コストを分析するには、まず Cost Explorer にオプトインする必要があります。オプトインするには、 で Billing and Cost Management コンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/costmanagement/。オプトイン後、 がコストと使用状況データを処理する AWS までに最大 24 時間かかる場合があります。

幅広いコスト管理機能を活用するには、以下を行うこともできます。

- Cost Optimization Hub にオプトインする: パーソナライズされたコスト最適化のレコメンデーションを受け取るには、Cost Optimization Hub にオプトインし、登録を選択します。オプトイン後、レコメンデーションの計算に最大 24 時間かかる場合があります。
- Compute Optimizer にオプトインする: EC2 インスタンスの適切なサイズ設定やアイドル状態の EBS ボリュームの終了などのリソース最適化に関する推奨事項を受け取るには、Compute Optimizer にオプトインします。
- 予算の作成: 予算ターゲットに対する支出をモニタリングするには、 AWS Budgets で予算を作成します。
- コスト異常検出モニターを作成する: 異常な支出パターンを特定するには、コスト異常検出でAWS コスト異常検出モニターを作成します。
- リソースレベルのデータ、時間単位のデータ、拡張履歴を有効にする: リソースレベルのコストデータ、時間単位の詳細度、最大 38 か月のコスト履歴にアクセスするには、コスト管理設定ページでこれらの設定を行います。

Amazon Q Developer との会話を開始する

1. https://console.aws.amazon.com で AWS マネジメントコンソールにサインインします。
2. コンソールナビゲーションバーの右側にある Amazon Q アイコンを選択します。
3. 次のようなコストについて質問します。

- 「先月のコストはいくらですか？」
- 「最高のコスト最適化の機会は何ですか？」
- 「Linux を実行している c8g.2xlarge インスタンスは us-east-1 でいくらかかりますか？」
- 「先週のコストの円グラフをリージョン別に表示」

チャットアプリケーションで Amazon Q Developer を使用する

Microsoft Teams と Slack で AWS コストについてチャットすることもできます。チャットアプリケーションの Amazon Q Developer を使用すると、チームのチャットチャネルから直接コストに関する質問を行うことができ、コンテキストを切り替えることなく、コスト分析と最適化の共同作業を簡単に行うことができます。例えば、「先月の EC2 コストはいくらですか?@Amazon Q?」と聞くことができます。または「@Amazon Q 」 Slack または Teams チャンネルで直接。

チャットアプリケーションで Amazon Q Developer の使用を開始するには、「Amazon Q Developer ユーザーガイド」の「チャットアプリケーションでの Amazon Q Developer とのチャット」を参照してください。

次の手順

コスト管理に Amazon Q Developer の使用を開始したら、次のことができます。

- エージェントアーキテクチャとデータソースを理解するthe section called “仕組み”方法の詳細
- チームに適切なアクセス権があるthe section called “セキュリティとプライバシー”ことを確認する
- 「コストを分析してインサイトを提供する」などの自由回答形式の質問をして、すべての機能を調べる
- Cost Optimization Hub や Budgets などの追加サービスを設定して、より多くの機能をロック解除する

料金

Amazon Q Developer のコスト管理機能は、Amazon Q Developer に含まれています。Amazon Q Developer 無料利用枠では、1 か月あたり 1 アカウントあたり最大 25 の質問に回答するためにアカウントまたはリソースコンテキストが必要です (コスト管理の質問を含む) 。この無料利用枠の制限を超えると、Amazon Q Developer Pro サブスクリプションが必要です。

詳細については、「Amazon Q Developer の料金」を参照してください。

Amazon Q Developer のコスト管理機能の仕組み

エージェントアーキテクチャ

Amazon Q Developer は、エージェントアーキテクチャを使用して AWS コストを分析します。質問すると、Q は回答方法の計画を作成し、複数のソースからデータを収集し、計算を実行し、各ステップで学習した内容に基づいて計画を動的に更新します。このアプローチにより、Q は事前定義されたワークフローを持たない複雑な自由回答形式の質問を処理できます。

質問に答えるために、Amazon Q Developer は次のステップを実行できます。

1. 計画を立てる: 質問すると、Q はリクエストを分析し、必要な情報を収集する方法の初期計画を作成します。
2. データを収集する: Q は、質問に基づいて適切な Billing and Cost Management APIsからデータを取得します。複雑な質問の場合、Q は直列または並行して複数の APIs呼び出すことがあります。
3. 計算を実行する: Q は、vCPU 時間あたりのコストやストレージの GB 月あたりのコストなど、単純なperiod-over-period比の変化から複雑な単位経済メトリクスまで、計算を実行できます。
4. 計画を更新する: Q が各 API コールまたは計算の結果を確認すると、学習内容に基づいて計画を更新します。例えば、Q が EC2 コストが大幅に増加したことに気付いた場合、Savings Plans の有効期限が切れたかどうかを調査できます。
5. 完了するまで続行: Q は、質問に対する包括的な回答を提供するのに十分な情報が得られるまで、データの収集と分析の改良を続けます。

このプロセス全体で、Q は実行する各 API コールの詳細と実行する各計算を表示するため、回答にどのように到達したかを正確に確認できます。

リクエストすると、Q は請求情報とコスト管理データのグラフを作成できます。グラフを作成するには、Q は関連する APIs からデータを収集し、必要な計算を実行し、データをフォーマットしてグラフに入力してから、グラフをレンダリングします。Amazon Q Developer で生成されたグラフには、グラフをリクエストした時点の請求データのスナップショットが反映され、追加料金が発生するため更新されません。

データソースと API 統合

Amazon Q Developer は、7 つの請求情報とコスト管理サービス全体で 38 APIs からコストデータを取得します。この広範な統合により、Q はさまざまなツールやコンソールページを切り替えることなく、複数のデータソースにまたがる質問に回答できます。

Cost Explorer

Amazon Q Developer は Cost Explorer APIsを使用して、コストと使用状況の履歴データと予測データを取得します。

- GetCostAndUsage: 期間とディメンション別に集計されたコストと使用状況データを取得します。
- GetCostAndUsageWithResources: リソースレベルのコストデータを時間単位の詳細度で取得します
- GetCostForecast: 指定された期間の予測コストを取得します。
- GetUsageForecast: 指定された期間の予測使用量を取得します。
- GetDimensionValues: コストディメンション (サービス名やアカウント IDs) に使用できる値を取得します。
- GetTags: 利用可能なコスト配分タグのキーと値を取得します
- GetCostCategories: 利用可能なコストカテゴリのキーと値を取得します
- GetAnomalies: 検出されたコスト異常を取得します
- GetReservationCoverage: 予約の対象となる支出の割合を取得します。
- GetReservationUtilization: 購入した予約の使用率を取得します。
- GetReservationPurchaseRecommendation: 予約の購入に関する推奨事項を取得します
- GetSavingsPlansCoverage: Savings Plans の対象となる支出の割合を取得します。
- GetSavingsPlansUtilization: 購入した Savings Plans の使用率を取得します。
- GetSavingsPlansUtilizationDetails: Savings Plans の詳細な使用率データを取得します
- GetSavingsPlansPurchaseRecommendation: Savings Plans の購入に関する推奨事項を取得します
- GetRightsizingRecommendation: EC2 インスタンスの適切なサイズ設定に関する推奨事項を取得します
- GetCostAndUsageComparisons: 期間間のコスト比較を取得します
- GetCostComparisonDrivers: 期間間のコスト変化の要因を取得します

Cost Optimization Hub

Amazon Q Developer は Cost Optimization Hub APIsを使用して、パーソナライズされたコスト最適化の推奨事項を取得します。

- GetRecommendation: 特定のレコメンデーションの詳細を取得します。

- ListRecommendations: フィルタリングオプションを使用してレコメンデーションのリストを取得します。
- ListRecommendationSummaries: レコメンデーションに関する概要情報を取得します

AWS Compute Optimizer

Amazon Q Developer は Compute Optimizer APIsを使用してリソース最適化の推奨事項を取得します。

- GetAutoScalingGroupRecommendations: Auto Scaling グループの適切なサイズ設定に関する推奨事項を取得します
- GetEBSVolumeRecommendations: EBS ボリュームのレコメンデーションを取得します
- GetEC2InstanceRecommendations: EC2 インスタンスの適切なサイズ設定に関する推奨事項を取得します
- GetECSServiceRecommendations: ECS サービスのレコメンデーションを取得します。
- GetRDSDatabaseRecommendations: RDS データベースの推奨事項を取得します
- GetLambdaFunctionRecommendations: Lambda 関数のレコメンデーションを取得します
- GetIdleRecommendations: アイドル状態のリソースのレコメンデーションを取得します
- GetLicenseRecommendations: ライセンス最適化の推奨事項を取得します
- GetEffectiveRecommendationPreferences: 有効なレコメンデーション設定を取得します。

AWS 予算

Amazon Q Developer は Budgets API を使用して、予算の設定とステータスに関する情報を取得します。

- DescribeBudgets: しきい値や実際の支出を含む予算の詳細を取得します

無料利用枠

Amazon Q Developer は、無料利用枠 APIs を使用して、無料利用枠の使用状況に関する情報を取得します。

- GetFreeTierUsage: 現在の無料利用枠の使用状況を取得します
- GetAccountPlanState: 現在のアカウントタイプと無料利用枠の資格に関する情報を取得します。

- ListAccountActivities: 追加の無料利用枠クレジットを獲得するために実行できるアカウントアクティビティのリストを取得します。
- GetAccountActivity: 追加の無料利用枠クレジットを獲得するために実行できる特定のアカウントアクティビティの詳細を取得します。

AWS 料金表

Amazon Q Developer は Price List APIs を使用して、 AWS サービスのパブリック料金情報を取得します。

- DescribeServices: 利用可能な AWS サービスのリストを取得します。
- GetAttributeValues: 製品属性の有効な値を取得します
- GetProducts: 特定の製品の料金情報を取得します

計算エンジン

Amazon Q Developer には、コストデータに対して幅広い計算を実行できるようにする柔軟な計算エンジンが含まれています。この機能を使用すると、単純なデータ取り出しのみよりも深いインサイトを提供できます。

計算のタイプ

Q は、次のような計算を実行できます。

- Period-over-periodの変化: 2 つの期間間のコストの差を絶対項と変化率の両方で計算します。
- ユニットエコノミクス: vCPU 時間あたりのコスト、ストレージの GB 月あたりのコスト、API リクエストあたりのコストなどのメトリクスを計算します。
- 有効レート: Savings Plans またはリザーブドインスタンスからの割引を適用した後、ユニットあたりの実効コストを計算します。
- 集計: 複数のディメンションの最小値または最大値を合計、平均、または検索します。
- カスタムメトリクス: 複数のデータポイントを組み合わせて、質問に合わせたカスタムメトリクスを作成します。

API の透明性

各レスポンスで、Amazon Q Developer はデータの取得方法と処理方法について完全な透明性を提供します。この透明性により、Q が質問に答えるために何をしたかを正確に理解し、結果を検証したり、フォローアップの質問でより具体的な指示を提供したりできます。

Amazon Q Developer が表示する内容

各レスポンスについて、Q は以下を表示します。

- 実行された API コール: Q は、データを取得するために呼び出した各 API の名前を表示します。
- 使用されるパラメータ: Q は、時間範囲、フィルター、グループ化ディメンション、その他の関連するパラメータなど、各 API コールに使用された正確なパラメータを示します。
- コンソールのディープリンク: 該当する場合、Q は AWS マネジメントコンソールの一致するビューへのリンクを提供します。これらのリンクを使用すると、コンソールの視覚化およびフィルタリング機能を使用して、Q が取得したデータを確認したり、さらにデータを探索したりできます。

透明性を使用して質問を絞り込む

Q が提供する透明性により、Q の動作をより効果的に導くことができます。例えば、次のようになります。

- Q が間違った期間のデータを取得した場合、フォローアップの質問で正確な日付を指定できます。
- Q がコストを 1 つのタグキーでグループ化したが、別のタグキーでグループ化する場合は、Q にデータの再グループ化を求めることができます。

制限事項

Amazon Q Developer には以下の制限があります。

- 料金データ: 料金およびコスト見積もり機能は、 AWS Price List APIs からのパブリック料金データのみを提供します。お客様固有の割引は、料金見積もりには反映されません。Amazon Q Developer は AWS 料金計算ツールと統合されないため、顧客固有の割引や料金を反映するワークロード見積もりを作成または保存することはできません。

- Savings Plans 分析: Amazon Q Developer は Savings Plans のレコメンデーションを提供し、過去の Savings Plans のカバレッジと使用率を分析できます。Q は Savings Plans Purchase Analyzer と統合されていないため、特定の Savings Plans の購入が節約、カバレッジ、または使用率に与える影響をモデル化することはできません。
- ミューテーションアクション: Amazon Q Developer はコストデータを取得して分析できますが、予算の作成や変更、Savings Plans やリザーブドインスタンスの購入、コスト管理の設定の変更など、ユーザーに代わって変更アクションを実行することはできません。

Amazon Q Developer のコスト管理機能のセキュリティ

Amazon Q Developer のコスト管理機能のアクセス許可とデータ保護の概要を以下に示します。

アクセス許可の概要

Amazon Q Developer でコスト管理機能を使用するには、3 セットの Identity and Access Management (IAM) アクセス許可が必要です。

1. Amazon Q アクセス許可: コンソールで Amazon Q とチャットするアクセス許可 (`q:StartConversation`や q:SendMessage など)
2. サービスアクセス許可: コストデータを提供する基盤となる Billing and Cost Management サービスにアクセスするためのアクセス許可
3. PassRequest アクセス許可: Amazon Q がユーザーに代わって AWS APIsを呼び出すことを許可するアクセス`q:PassRequest`許可

管理者がユーザーに Amazon Q Developer へのアクセス権を付与する最も簡単な方法は、`AmazonQFullAccess` マネージドポリシーを使用する方法です。

コスト管理機能のアクセス許可

次の IAM ポリシーステートメントは、Amazon Q Developer のすべてのコスト管理機能へのアクセス権をユーザーに付与します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "AllowAmazonQChatAndPassRequest",
            "Effect": "Allow",
```

```
            "Action": [
                "q:StartConversation",
                "q:SendMessage",
                "q:GetConversation",
                "q:ListConversations",
                "q:UpdateConversation",
                "q:DeleteConversation",
                "q:PassRequest"
            ],
            "Resource": "*"
        },
         {
            "Sid": "AllowCostExplorerAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "ce:GetCostAndUsage",
                "ce:GetCostAndUsageWithResources",
                "ce:GetCostForecast",
                "ce:GetUsageForecast",
                "ce:GetTags",
                "ce:GetCostCategories",
                "ce:GetDimensionValues",
                "ce:GetSavingsPlansUtilization",
                "ce:GetSavingsPlansCoverage",
                "ce:GetSavingsPlansUtilizationDetails",
                "ce:GetReservationUtilization",
                "ce:GetReservationCoverage",
                "ce:GetSavingsPlansPurchaseRecommendation",
                "ce:GetReservationPurchaseRecommendation",
                "ce:GetRightsizingRecommendation",
                "ce:GetAnomalies",
               "ce:GetCostAndUsageComparisons",
               "ce:GetCostComparisonDrivers"
            ],
            "Resource": "*"
        },
         {
            "Sid": "AllowCostOptimizationHubAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "cost-optimization-hub:GetRecommendation",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendations",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendationSummaries"
            ],
```

```
            "Resource": "*"
        },
         {
            "Sid": "AllowComputeOptimizerAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "compute-optimizer:GetAutoScalingGroupRecommendations",
                "compute-optimizer:GetEBSVolumeRecommendations",
                "compute-optimizer:GetEC2InstanceRecommendations",
                "compute-optimizer:GetECSServiceRecommendations",
                "compute-optimizer:GetRDSDatabaseRecommendations",
                "compute-optimizer:GetLambdaFunctionRecommendations",
                "compute-optimizer:GetIdleRecommendations",
                "compute-optimizer:GetLicenseRecommendations",
                "compute-optimizer:GetEffectiveRecommendationPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        },
         {
            "Sid": "AllowBudgetsAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "budgets:ViewBudget"
            ],
            "Resource": "*"
        },
         {
            "Sid": "AllowFreeTierAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "freetier:GetFreeTierUsage",
                "freetier:GetAccountPlanState",
                "freetier:ListAccountActivities",
               "freetier:GetAccountActivity"
            ],
            "Resource": "*"
        },
         {
            "Sid": "AllowPricingAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "pricing:GetProducts",
                "pricing:GetAttributeValues",
                "pricing:DescribeServices"
```

```
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

このポリシーの範囲を絞り込んで、特定のコスト管理機能のみへのアクセスを許可できます。たとえば、ユーザーにリソースレベルのコストデータへのアクセスを許可しない場合は、`ce:GetCostAndUsageWithResources`アクションを削除するか、明示的な拒否ステートメントを追加できます。

q:PassRequest アクセス許可

`q:PassRequest` は、Amazon Q Developer がユーザーに代わって AWS APIs を呼び出すことを許可する Amazon Q Developer アクセス許可です。IAM ID に `q:PassRequest` アクセス許可を追加すると、Amazon Q Developer は IAM ID が呼び出すアクセス許可を持つ API を呼び出すアクセス許可を取得します。例えば、IAM ロールに `ce:GetCostAndUsage` アクセス許可と `q:PassRequest` アクセス許可がある場合、IAM ロールを引き受けるユーザーが Cost Explorer からコストと使用状況データを取得するように Amazon Q Developer に依頼すると、Amazon Q Developer は GetCostAndUsage API を呼び出すことができます。

また、IAM プリンシパルに Cost Explorer へのアクセスと Amazon Q Developer の使用を許可できますが、`aws:CalledVia` グローバル条件キーを使用して、Amazon Q Developer のコスト分析またはコスト最適化の機能の使用を制限することもできます。次の IAM ポリシーは、この条件キーを使用する例を示しています。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
           "Sid": "AllowQDeveloperAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "q:StartConversation",
                "q:SendMessage",
                "q:GetConversation",
                "q:ListConversations",
                "q:PassRequest"
            ],
            "Resource": "*"
        },
```

```
        {
            "Sid": "AllowCostExplorerAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "ce:*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
           "Sid": "DenyCostExplorerAccessViaAmazonQ",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:*"
            ],
            "Resource": "*",
            "Condition": {
                "ForAnyValue:StringEquals": {
                    "aws:CalledVia": [
                        "q.amazonaws.com"
                    ]
                }
            }
        }
    ]
}
```

マルチアカウントアクセス

AWS Organizations のユーザーの場合、管理アカウント管理者は、 AWS 請求情報とコスト管理コンソールのコスト管理設定を使用して、Cost Explorer および Cost Optimization Hub データへのメンバーアカウントユーザーのアクセス (割引、クレジット、返金へのアクセスを含む) を制限できます。これらの設定は、マネジメントコンソール、SDK、および CLI に適用されるのと同じ方法で Amazon Q Developer に適用されます。Amazon Q Developer は、お客様の現在の設定を尊重します。

クロスリージョン呼び出し

Cost Optimization Hub および Cost Explorer サービスのデータは、米国東部 (バージニア北部) リージョンでホストされています。からのデータは、EC2 インスタンスなどの基盤となるリソースがある AWS リージョンで AWS Compute Optimizer ホストされます。 AWS Price List APIsから提供されるデータは、us-east-1、eu-central-1、ap-south-1 でホストされます (AWS Price List APIsは顧客

固有のデータを提供しないことに注意してください）。Amazon Q Developer のコスト管理リクエストでは、クロスリージョン呼び出しが必要になる場合があります。詳細については、Amazon Q Developer User GuideのCross-region processing in Amazon Q Developer を参照してください。

データ保護

Amazon Q Developer 無料利用枠の特定のコンテンツをサービスの改善に使用する場合があります。Amazon Q Developer は、よくある質問への回答の改善、Amazon Q Developer の運用上の問題の修正、デバッグ、モデルトレーニングなどのために、このコンテンツを使用する場合があります。がサービスの改善に使用する AWS 可能性のあるコンテンツには、Amazon Q Developer への質問や、Amazon Q Developer が生成するレスポンスとコードが含まれます。Amazon Q Developer Pro または Amazon Q Business のコンテンツは、サービスの改善には使用されません。

サービス改善のためにコンテンツを使用して Amazon Q Developer 無料利用枠をオプトアウトする方法は、Amazon Q を使用する環境によって異なります。 AWS マネジメントコンソール、 AWS コンソールモバイルアプリケーション、 AWS ウェブサイト、および AWS Chatbot については、AWS Organizations で AI サービスのオプトアウトポリシーを設定します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「AI サービスのオプトアウトポリシー」を参照してください。

Savings Plans でコストを管理する

Savings Plans は、AWS の使用に関する節約を実現する柔軟な料金モデルを提供します。Savings Plans では、1 年または 3 年間指定量の処理能力 (1 時間ごとに測定) を使用するコミットメントと引き換えに、オンデマンド料金を超える節約を提供します。AWS Cost Explorerのレコメンデーション、パフォーマンスレポート、および予算アラートを使用して、計画を管理できます。

Savings Plans の詳細については、Savings Plans ユーザーガイドの「What is Savings Plans」を参照してください。

のセキュリティ AWS Cost Management

のクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。お客様は AWS 、セキュリティを最も重視する組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャを活用できます。

セキュリティは、 AWS とお客様の間の責任共有です。責任共有モデルではこれをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティと説明しています。

- クラウドのセキュリティ – AWS クラウドで AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する AWS 責任があります。 AWS また、 では、安全に使用できるサービスも提供しています。サードパーティーの監査者は、AWS コンプライアンスプログラムコンプライアンスプログラムの一環として、当社のセキュリティの有効性を定期的にテストおよび検証。が適用されるコンプライアンスプログラムの詳細については AWS Cost Management、「コンプライアンスプログラムAWS による対象範囲内のサービスコンプライアンスプログラム」を参照してください。
- クラウドのセキュリティ – お客様の責任は、使用する AWS サービスによって決まります。また、ユーザーは、データの機密性、会社の要件、適用される法律や規制など、その他の要因についても責任を負います。

このドキュメントは、請求情報とコスト管理を使用する際に共有責任モデルを適用する方法を理解するのに役立ちます 以下のトピックでは、セキュリティおよびコンプライアンスの目的を達成するために請求情報とコスト管理を設定する方法を示します。また、請求情報とコスト管理リソースのモニタリングと保護に役立つ他の AWS サービスの使用方法についても説明します。

トピック

- AWS コスト管理でのデータ保護
- AWS コスト管理のための Identity and Access Management
- AWS コスト管理でのログ記録とモニタリング
- AWS コスト管理のコンプライアンス検証
- の耐障害性 AWS Cost Management
- のインフラストラクチャセキュリティ AWS Cost Management

AWS コスト管理でのデータ保護

責任 AWS 共有モデル、 AWS コスト管理のデータ保護に適用されます。このモデルで説明されているように、 AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任がありま

す AWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する「 AWS のサービス 」のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、データプライバシーに関するよくある質問を参照してください。欧州でのデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログに投稿された「AWS 責任共有モデルおよび GDPR」のブログ記事を参照してください。

データ保護の目的で、認証情報を保護し AWS アカウント 、 AWS IAM アイデンティティセンターまたは AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な権限のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします:

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 は必須ですが、TLS 1.3 を推奨します。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。CloudTrail 証跡を使用して AWS アクティビティをキャプチャする方法については、「 AWS CloudTrail ユーザーガイド」のCloudTrail 証跡の使用」を参照してください。
- AWS 暗号化ソリューションと、その中のすべてのデフォルトのセキュリティコントロールを使用します AWS のサービス。
- Amazon Macie などの高度な管理されたセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-3 検証済み暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「連邦情報処理規格 (FIPS) 140-3」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報を、タグ、または [名前] フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに含めないことを強くお勧めします。これは、コンソール、API、AWS CLIまたは SDK を使用して AWS コスト管理または他の AWS のサービス を使用する場合も同様です。 AWS SDKs タグ、または名前に使用される自由記述のテキストフィールドに入力したデータは、請求または診断ログに使用される場合があります。外部サーバーに URL を提供する場合、そのサーバーへのリクエストを検証できるように、認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

AWS コスト管理のための Identity and Access Management

AWS Identity and Access Management (IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つ です。IAM 管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に AWS コスト管理リソースの使用を許可する (アクセス許可を付与する) かを制御します。IAM は、追加料金なしで使用できる AWS のサービス です。

トピック

- ユーザータイプと請求に対するアクセス許可
- オーディエンス
- アイデンティティを使用した認証
- ポリシーを使用したアクセスの管理
- アクセス許可の管理の概要
- AWS コスト管理と IAM の連携方法
- AWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例
- AWS コスト管理にアイデンティティベースのポリシー (IAM ポリシー) を使用する
- AWS コスト管理ポリシーの例
- AWS コスト管理のアクセスコントロールの移行
- サービス間での不分別な代理処理の防止
- AWS コスト管理のアイデンティティとアクセスのトラブルシューティング
- AWS コスト管理のサービスにリンクされたロール
- サービスにリンクされたロールの使用
- AWS AWS 請求とコスト管理の マネージドポリシー

ユーザータイプと請求に対するアクセス許可

この表は、請求ユーザーのタイプごとに AWS コスト管理で許可されるデフォルトのアクションをまとめたものです。

ユーザータイプと請求に対するアクセス許可

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
アカウント所有者	アカウント名として設定した名前を持つ人またはエンティティ。	• すべての請求情報とコスト管理リソースを完全に制御できます。

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
		• AWS 料金の毎月の請求書を受け取ります。
ユーザー	アカウント所有者または管理ユーザーによって、アカウントのユーザーとして定義された人物またはアプリケーション。アカウントには、複数のユーザーを含めることができます。	• ユーザー単位またはユーザーグループ単位で明示的に付与された権限を有します。 • 請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を付与されることができます。詳細については、アクセス許可の管理の概要 を参照してください。 • アカウントを解約することはできません。
組織管理アカウント所有者	AWS Organizations 管理アカウントに関連付けられている個人またはエンティティ。管理アカウントは、組織のメンバーアカウントによって発生した AWS 使用量に対して支払います。	• 管理アカウントについてのみ、すべての請求情報とコスト管理リソースを完全に制御できます。 • 管理アカウントとメンバーアカウントの AWS 料金の毎月の請求書を受け取ります。 • 管理アカウントの請求レポートで、メンバーアカウントのアクティビティを参照できます。

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
組織のメンバーアカウント所有者	AWS Organizations メンバーアカウントに関連付けられている個人またはエンティティ。管理アカウントは、組織のメンバーアカウントによって発生した AWS 使用量に対して支払います。	• 使用状況レポートまたはアクティビティは、当のアカウントに関するもののみ参照できます。組織内の他のメンバーアカウントまたは管理アカウントの使用状況レポートやアカウントアクティビティにはアクセスできません。 • 請求レポートを表示する権限はありません。 • 当のアカウントに関する情報のみ更新できます。他のメンバーアカウントまたは管理アカウントにはアクセスできません。

オーディエンス

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用方法は、ロールによって異なります。

- サービスユーザー - 機能にアクセスできない場合は、管理者にアクセス許可をリクエストします (「AWS コスト管理のアイデンティティとアクセスのトラブルシューティング」を参照)。
- サービス管理者 - ユーザーアクセスを決定し、アクセス許可リクエストを送信します (「AWS コスト管理と IAM の連携方法」を参照)
- IAM 管理者 - アクセスを管理するためのポリシーを作成します (「AWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例」を参照)

アイデンティティを使用した認証

認証とは、ID 認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。、IAM ユーザー AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けることで認証される必要があります。

AWS IAM アイデンティティセンター (IAM Identity Center)、シングルサインオン認証、Google/Facebook 認証情報などの ID ソースからの認証情報を使用して、フェデレーティッド ID としてサインインできます。サインインの詳細については、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「AWS アカウントにサインインする方法」を参照してください。

プログラムによるアクセスの場合、 は SDK と CLI AWS を提供してリクエストを暗号化して署名します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「API リクエストに対するAWS 署名バージョン 4」を参照してください。

AWS アカウント ルートユーザー

を作成するときは AWS アカウント、すべての AWS のサービス および リソースへの完全なアクセス権を持つ AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれる 1 つのサインインアイデンティティから始めます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報を必要とするタスクについては、「IAM ユーザーガイド」の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

フェデレーテッドアイデンティティ

ベストプラクティスとして、人間のユーザーが一時的な認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするには、ID プロバイダーとのフェデレーションを使用する必要があります。

フェデレーティッド ID は、エンタープライズディレクトリ、ウェブ ID プロバイダー、または ID ソースの認証情報 AWS のサービス を使用して Directory Service にアクセスするユーザーです。フェデレーテッドアイデンティティは、一時的な認証情報を提供するロールを引き受けます。

アクセスを一元管理する場合は、 AWS IAM アイデンティティセンターをお勧めします。詳細については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「IAM アイデンティティセンターとは」を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

IAM ユーザーは、特定の個人やアプリケーションに対する特定のアクセス許可を持つアイデンティティです。長期認証情報を持つ IAM ユーザーの代わりに一時的な認証情報を使用することをお勧めします。詳細については、IAM ユーザーガイドの「ID プロバイダーとのフェデレーションを使用して にアクセスする必要がある AWS」を参照してください。

IAM グループは、IAM ユーザーの集合を指定し、大量のユーザーに対するアクセス許可の管理を容易にします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM ユーザーに関するユースケース」を参照してください。

IAM ロール

IAM ロールは、特定のアクセス許可を持つアイデンティであり、一時的な認証情報を提供します。ユーザーから IAM ロール (コンソール) に切り替えるか、 または API オペレーションを呼び出すことで、ロールを引き受けることができます。 AWS CLI AWS 詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「ロールを引き受けるための各種方法」を参照してください。

IAM ロールは、フェデレーションユーザーアクセス、一時的な IAM ユーザーのアクセス許可、クロスアカウントアクセス、クロスサービスアクセス、および Amazon EC2 で実行するアプリケーションに役立ちます。詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM でのクロスアカウントリソースアクセス を参照してください。

ポリシーを使用したアクセスの管理

でアクセスを制御する AWS には、ポリシーを作成し、ID AWS またはリソースにアタッチします。ポリシーは、アイデンティティまたはリソースに関連付けられたときにアクセス許可を定義します。は、プリンシパルがリクエストを行うときにこれらのポリシー AWS を評価します。ほとんどのポリシーは JSON ドキュメント AWS として に保存されます。JSON ポリシードキュメントの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「JSON ポリシー概要」を参照してください。

管理者は、ポリシーを使用して、どのプリンシパルがどのリソースに対して、どのような条件でアクションを実行できるかを定義することで、誰が何にアクセスできるかを指定します。

デフォルトでは、ユーザーやロールにアクセス許可はありません。IAM 管理者は IAM ポリシーを作成してロールに追加し、このロールをユーザーが引き受けられるようにします。IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクセス許可を定義します。

アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーは、アイデンティティ (ユーザー、グループ、またはロール) にアタッチできる JSON アクセス許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、アイデンティティがどのリソースに対してどのような条件下でどのようなアクションを実行できるかを制御します。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、IAM ユーザーガイド の カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、インラインポリシー (単一の ID に直接埋め込む) または管理ポリシー (複数の ID にアタッチされたスタンドアロンポリシー) にすることができます。管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。例としては、IAM ロール信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーなどがあります。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。リソースベースのポリシーでは、プリンシパルを指定する必要があります。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーでは、IAM の AWS マネージドポリシーを使用できません。

その他のポリシータイプ

AWS は、より一般的なポリシータイプによって付与されるアクセス許可の最大数を設定できる追加のポリシータイプをサポートしています。

- アクセス許可の境界 – アイデンティティベースのポリシーで IAM エンティティに付与することのできるアクセス許可の数の上限を設定します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM エンティティのアクセス許可境界」を参照してください。
- サービスコントロールポリシー (SCP) - AWS Organizations内の組織または組織単位の最大のアクセス許可を指定します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「サービスコントロールポリシー」を参照してください。
- リソースコントロールポリシー (RCP) – は、アカウント内のリソースで利用できる最大数のアクセス許可を定義します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「リソースコントロールポリシー (RCP)」を参照してください。
- セッションポリシー – ロールまたはフェデレーションユーザーの一時セッションを作成する際にパラメータとして渡される高度なポリシーです。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「セッションポリシー」を参照してください。

複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成されるアクセス許可を理解するのがさらに難しくなります。が複数のポリシータイプが関与する場合にリクエストを許可するかどうか AWS を決定する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「ポリシー評価ロジック」を参照してください。

アクセス許可の管理の概要

請求の情報およびツールへのアクセス許可

AWS アカウント所有者は、アカウント認証情報 AWS マネジメントコンソール を使用して にサインインすることで、請求情報とツールにアクセスできます。アカウントへの日常的なアクセスにアカウントの認証情報を使用しないことをお勧めします。特に、アカウントの認証情報を他のユーザーと共有してアカウントへのアクセスを許可しないことをお勧めします。

毎日の管理タスクでは、 AWS リソースへのアクセスを安全に制御するための管理ユーザーを作成します。デフォルトでは、ユーザーは AWS コスト管理コンソールにアクセスできません。管理者は、ユーザーが引き受けることができる AWS アカウントでロールを作成できます。ロールを作成したら、必要なアクセス権に基づいて IAM ポリシーをロールにアタッチできます。例えば、請求の情報とツールの一部にアクセスできる制限されたアクセス許可を一部のユーザーに与え、すべての情報とツールに対する完全なアクセス許可を他のユーザーに与えることができます。

> **Note**
>
> IAM は AWS アカウントの機能です。IAM と統合された製品にサインアップ済みである場合は、IAM にサインアップする必要はなく、料金が請求されることもありません。
> Cost Explorer の許可は、IAM ポリシーに関係なくすべてのアカウントとメンバーアカウントに適用されます。Cost Explorer へのアクセスの詳細については、「Cost Explorer へのアクセスの管理」を参照してください。

請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする

AWS アカウント内の IAM ロールは、デフォルトでは Billing and Cost Management コンソールページにアクセスできません。これは、ロールに、特定の請求情報とコスト管理機能へのアクセス権を付与する IAM ポリシーがある場合でも当てはまります。 AWS アカウント管理者は、IAM アクセスのアクティブ化設定を使用して、請求情報とコスト管理コンソールページへのアクセスをロールに許可できます。

AWS コスト管理コンソールで、IAM アクセスのアクティブ化設定は、以下のページへのアクセスを制御します。

- ホーム

- Cost Explorer
- レポート
- 適切なサイジングに関する推奨事項
- Savings Plans に関する推奨事項
- Savings Plans 使用率レポート
- Savings Plans カバレッジレポート
- 予約の概要
- 予約の推奨事項
- 予約使用率レポート
- 予約カバレッジレポート
- 詳細設定

請求コンソールの [IAM アクセスをアクティブ化] 設定が制御しているページの一覧については、「Billing User Guide」の「Activating access to the Billing console」を参照してください。

> **Important**
>
> IAM アクセスをアクティベートするだけでは、これらの請求情報と予算管理コンソールページに必要な許可は、IAM ロールに付与されません。IAM アクセスのアクティベートに加えて、必要な IAM ポリシーをこれらのロールにアタッチする必要があります。詳細については、「AWS コスト管理にアイデンティティベースのポリシー (IAM ポリシー) を使用する」を参照してください。

[IAM アクセスをアクティベートする] 設定では、次のページおよびリソースへのアクセスを制御しません。

- AWS コスト異常検出、Savings Plans の概要、Savings Plans インベントリ、Savings Plans の購入、Savings Plans カートのコンソールページ
- のコスト管理ビュー AWS Console Mobile Application
- Billing and Cost Management SDK APIs (AWS Cost Explorer、 AWS Budgets、および AWS Cost and Usage Reports APIs)
- AWS Systems Manager Application Manager

- コンソール内 AWS 料金見積りツール
- Amazon Q のコスト分析機能
- AWS Activate Console「��

デフォルトでは、[IAM アクセスをアクティブ化] 設定は非アクティブです。この設定を有効にするには、ルートユーザーの認証情報を使用して AWS アカウントにログインし、アカウントページで 設定を選択する必要があります。請求情報とコスト管理コンソールページへの IAM ロールのアクセスを許可する各アカウントで、この設定をアクティベートします。を使用する場合は AWS Organizations、IAM ロールにコンソールページへのアクセスを許可する各管理アカウントまたはメンバーアカウントで、この設定を有効にします。

> **Note**
>
> [IAM アクセスをアクティベートする] 設定は、管理者アクセス権を持つユーザーでは使用できません。この設定は、アカウントのルートユーザーのみが使用できます。

[IAM アクセスをアクティベートする] 設定がアクティベートされていない場合、アカウントの IAM ロールは請求情報とコスト管理コンソールページにアクセスできません。これは、管理者アクセス権または必要な IAM ポリシーがある場合でも当てはまります。

請求情報とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーおよびロールのアクセスをアクティベートするには

1. ルートアカウントの認証情報 (特に、 AWS アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワード) を使用して AWS マネジメントコンソールにサインインします。
2. ナビゲーションバーでアカウント名を選択してから、[アカウント] を選択します。
3. [IAM ユーザーとロールの請求情報へのアクセス] の横で、[編集] を選択します。
4. [IAM アクセスをアクティブ化] チェックボックスをオンにして、Billing and Cost Management コンソールページへのアクセスをアクティベートします。
5. [更新] を選択します。

IAM アクセスをアクティベートした後は、必要な IAM ポリシーを IAM ロールにアタッチする必要もあります。IAM ポリシーでは、特定の請求情報とコスト管理機能へのアクセス権を付与または拒否できます。詳細については、「AWS コスト管理にアイデンティティベースのポリシー (IAM ポリシー) を使用する」を参照してください。

AWS コスト管理と IAM の連携方法

AWS コスト管理は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスと統合されるため、組織内の誰がAWS コスト管理コンソールの特定のページにアクセスできるかを制御できます。請求書、および料金、アカウントアクティビティ、予算、支払い方法、クレジットに関する詳細情報へのアクセスを制御できます。

Billing and Cost Management コンソールへのアクセスをアクティベートする方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Tutorial: Delegate Access to the Billing Console」を参照してください。

IAM を使用して AWS コスト管理へのアクセスを管理する前に、 AWS コスト管理で使用できる IAM 機能を確認してください。

AWS コスト管理で使用できる IAM 機能

IAM 機能	AWS コスト管理のサポート
アイデンティティベースのポリシー	あり
リソースベースのポリシー	なし
ポリシーアクション	あり
ポリシーリソース	部分的
ポリシー条件キー	あり
ACL	なし
ABAC (ポリシー内のタグ)	部分的
一時認証情報	あり
転送アクセスセッション (FAS)	あり
サービスロール	あり
サービスリンクロール	いいえ

AWS コスト管理およびその他の AWS のサービスがほとんどの IAM 機能と連携する方法の概要については、IAM ユーザーガイドのAWS 「IAM と連携する のサービス」を参照してください。

AWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーのサポート: あり

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザー、ユーザーグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、「IAM ユーザーガイド」の「カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する」を参照してください。

IAM アイデンティティベースのポリシーでは、許可または拒否するアクションとリソース、およびアクションを許可または拒否する条件を指定できます。JSON ポリシーで使用できるすべての要素について学ぶには、「IAM ユーザーガイド」の「IAM JSON ポリシーの要素のリファレンス」を参照してください。

AWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例

AWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してくださいAWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例。

AWS コスト管理内のリソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーのサポート: なし

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスをコントロールできます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーで、プリンシパルを指定する必要があります。プリンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーティッドユーザー、または を含めることができます AWS のサービス。

クロスアカウントアクセスを有効にするには、全体のアカウント、または別のアカウントの IAM エンティティを、リソースベースのポリシーのプリンシパルとして指定します。詳細については、IAM ユーザーガイドのIAM でのクロスアカウントリソースアクセスを参照してください。

AWS コスト管理のポリシーアクション

ポリシーアクションのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

JSON ポリシーの `Action` 要素にはポリシー内のアクセスを許可または拒否するために使用できるアクションが記述されます。このアクションは関連付けられたオペレーションを実行するためのアクセス許可を付与するポリシーで使用されます。

AWS コスト管理アクションのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」のAWS 「コスト管理で定義されるアクション」を参照してください。

AWS コスト管理のポリシーアクションは、アクションの前に次のプレフィックスを使用します。

```
ce
```

単一のステートメントで複数のアクションを指定するには、アクションをカンマで区切ります。

```
"Action": [
      "ce:action1",
      "ce:action2"
         ]
```

AWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してくださいAWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例。

AWS コスト管理のポリシーリソース

ポリシーリソースのサポート: 一部

ポリシーリソースがサポートされるのは、モニター、サブスクリプション、およびコストカテゴリのみです。

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Resource JSON ポリシー要素はアクションが適用されるオブジェクトを指定します。ベストプラクティスとして、Amazon リソースネーム (ARN) を使用してリソースを指定します。リソースレベルのアクセス許可をサポートしないアクションの場合は、ステートメントがすべてのリソースに適用されることを示すために、ワイルドカード (*) を使用します。

```
"Resource": "*"
```

AWS Cost Explorer リソースタイプのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」のAWS Cost Explorer のアクション、リソース、および条件キー」を参照してください。

AWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してくださいAWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例。

AWS コスト管理のポリシー条件キー

サービス固有のポリシー条件キーのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Condition 要素は、定義された基準に基づいてステートメントが実行される時期を指定します。イコールや未満などの条件演算子を使用して条件式を作成して、ポリシーの条件とリクエスト内の値を一致させることができます。すべての AWS グローバル条件キーを確認するには、「IAM ユーザーガイド」のAWS 「グローバル条件コンテキストキー」を参照してください。

AWS コスト管理の条件キー、アクション、リソースのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」の AWS 「コスト管理の条件キー」を参照してください。

AWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してくださいAWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例。

AWS コスト管理のアクセスコントロールリスト (ACLs)

ACL のサポート: なし

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするためのアクセス許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

AWS コスト管理による属性ベースのアクセスコントロール (ABAC)

ABAC (ポリシー内のタグ) のサポート: 一部

ABAC (ポリシー内のタグ) がサポートされるのは、モニター、サブスクリプション、およびコストカテゴリのみです。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) は、タグと呼ばれる属性に基づいてアクセス許可を定義する認可戦略です。IAM エンティティと AWS リソースにタグをアタッチし、プリンシパルのタグがリソースのタグと一致するときにオペレーションを許可するように ABAC ポリシーを設計できます。

タグに基づいてアクセスを管理するには、`aws:ResourceTag/key-name`、`aws:RequestTag/key-name`、または `aws:TagKeys` の条件キーを使用して、ポリシーの条件要素でタグ情報を提供します。

サービスがすべてのリソースタイプに対して 3 つの条件キーすべてをサポートする場合、そのサービスの値はありです。サービスが一部のリソースタイプに対してのみ 3 つの条件キーのすべてをサポートする場合、値は「部分的」になります。

ABAC の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「ABAC 認可でアクセス許可を定義する」を参照してください。ABAC をセットアップする手順を説明するチュートリアルについては、「IAM ユーザーガイド」の「属性ベースのアクセスコントロール (ABAC) を使用する」を参照してください。

AWS コスト管理での一時的な認証情報の使用

一時的な認証情報のサポート: あり

一時的な認証情報は、 AWS リソースへの短期的なアクセスを提供し、フェデレーションまたは切り替えロールを使用する場合に自動的に作成されます。長期的なアクセスキーを使用する代わりに、一時的な認証情報を動的に生成 AWS することをお勧めします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM の一時的な認証情報」および「AWS のサービス と IAM との連携」を参照してください。

AWS コスト管理の転送アクセスセッション

転送アクセスセッション (FAS) のサポート: あり

転送アクセスセッション (FAS) は、 を呼び出すプリンシパルのアクセス許可と AWS のサービス、ダウンストリームサービス AWS のサービス へのリクエストをリクエストする を使用します。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「転送アクセスセッション」を参照してください。

AWS コスト管理のサービスロール

サービスロールのサポート: あり

サービスロールとは、サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける IAM ロールです。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除できます。詳細については、IAM ユーザーガイドの AWS のサービスに許可を委任するロールを作成するを参照してください。

> **Warning**
>
> サービスロールのアクセス許可を変更すると、 AWS コスト管理機能が破損する可能性があります。 AWS コスト管理から指示がある場合にのみ、サービスロールを編集します。

AWS コスト管理のアイデンティティベースのポリシーの例

デフォルトでは、ユーザーとロールには AWS コスト管理リソースを作成または変更するアクセス許可はありません。IAM 管理者は、リソースで必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。

これらのサンプルの JSON ポリシードキュメントを使用して IAM アイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM ポリシーを作成する (コンソール)」を参照してください。

各リソースタイプの ARN の形式など、 AWS コスト管理で定義されるアクションとリソースタイプの詳細については、「サービス認可リファレンス」のAWS 「コスト管理のアクション、リソース、および条件キー」を参照してください。 ARNs

トピック

- ポリシーに関するベストプラクティス
- AWS コスト管理コンソールの使用
- 自分の権限の表示をユーザーに許可する

ポリシーに関するベストプラクティス

ID ベースのポリシーは、ユーザーのアカウントで誰かが AWS コスト管理リソースを作成、アクセス、または削除できるかどうかを決定します。これらのアクションでは、 AWS アカウントに費用が

発生する場合があります。アイデンティティベースポリシーを作成したり編集したりする際には、以下のガイドラインと推奨事項に従ってください:

- AWS 管理ポリシーを開始し、最小特権のアクセス許可に移行する – ユーザーとワークロードにアクセス許可の付与を開始するには、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するAWS 管理ポリシーを使用します。これらは で使用できます AWS アカウント。ユースケースに固有の AWS カスタマー管理ポリシーを定義することで、アクセス許可をさらに減らすことをお勧めします。詳細については、IAM ユーザーガイド の AWS マネージドポリシー または ジョブ機能のAWS マネージドポリシー を参照してください。
- 最小特権を適用する – IAM ポリシーでアクセス許可を設定する場合は、タスクの実行に必要な許可のみを付与します。これを行うには、特定の条件下で特定のリソースに対して実行できるアクションを定義します。これは、最小特権アクセス許可とも呼ばれています。IAM を使用して許可を適用する方法の詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM でのポリシーとアクセス許可 を参照してください。
- IAM ポリシーで条件を使用してアクセスをさらに制限する - ポリシーに条件を追加して、アクションやリソースへのアクセスを制限できます。たとえば、ポリシー条件を記述して、すべてのリクエストを SSL を使用して送信するように指定できます。条件を使用して、サービスアクションが などの特定の を通じて使用されている場合に AWS のサービス、サービスアクションへのアクセスを許可することもできます CloudFormation。詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM JSON ポリシー要素:条件 を参照してください。
- IAM アクセスアナライザー を使用して IAM ポリシーを検証し、安全で機能的な権限を確保する - IAM アクセスアナライザー は、新規および既存のポリシーを検証して、ポリシーが IAM ポリシー言語 (JSON) および IAM のベストプラクティスに準拠するようにします。IAM アクセスアナライザーは 100 を超えるポリシーチェックと実用的な推奨事項を提供し、安全で機能的なポリシーの作成をサポートします。詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM Access Analyzer でポリシーを検証する を参照してください。
- 多要素認証 (MFA) を要求する – で IAM ユーザーまたはルートユーザーを必要とするシナリオがある場合は AWS アカウント、MFA をオンにしてセキュリティを強化します。API オペレーションが呼び出されるときに MFA を必須にするには、ポリシーに MFA 条件を追加します。詳細については、IAM ユーザーガイド の MFA を使用した安全な API アクセス を参照してください。

IAM でのベストプラクティスの詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM でのセキュリティのベストプラクティス を参照してください。

AWS コスト管理コンソールの使用

AWS コスト管理コンソールにアクセスするには、最小限のアクセス許可のセットが必要です。これらのアクセス許可により、 の AWS コスト管理リソースの詳細を一覧表示および表示できます AWS アカウント。最小限必要な許可よりも制限が厳しいアイデンティティベースのポリシーを作成すると、そのポリシーを持つエンティティ (ユーザーまたはロール) に対してコンソールが意図したとおりに機能しません。

AWS CLI または AWS API のみを呼び出すユーザーには、最小限のコンソールアクセス許可を付与する必要はありません。代わりに、実行しようとしている API オペレーションに一致するアクションのみへのアクセスが許可されます。

ユーザーとロールが引き続き AWS コスト管理コンソールを使用できるようにするには、エンティティに AWS コスト管理ConsoleAccessまたはReadOnly AWS 管理ポリシーもアタッチします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「ユーザーへのアクセス許可の追加」を参照してください。

自分の権限の表示をユーザーに許可する

この例では、ユーザーアイデンティティにアタッチされたインラインおよびマネージドポリシーの表示を IAM ユーザーに許可するポリシーの作成方法を示します。このポリシーには、コンソールで、または AWS CLI または AWS API を使用してプログラムでこのアクションを実行するアクセス許可が含まれています。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "ViewOwnUserInfo",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:GetUserPolicy",
                "iam:ListGroupsForUser",
                "iam:ListAttachedUserPolicies",
                "iam:ListUserPolicies",
                "iam:GetUser"
            ],
            "Resource": ["arn:aws:iam::*:user/${aws:username}"]
        },
        {
            "Sid": "NavigateInConsole",
            "Effect": "Allow",
```

```
            "Action": [
                "iam:GetGroupPolicy",
                "iam:GetPolicyVersion",
                "iam:GetPolicy",
                "iam:ListAttachedGroupPolicies",
                "iam:ListGroupPolicies",
                "iam:ListPolicyVersions",
                "iam:ListPolicies",
                "iam:ListUsers"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS コスト管理にアイデンティティベースのポリシー (IAM ポリシー) を使用する

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 詳細については、AWS 「請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールのアクセス許可の変更」ブログを参照してください。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションはすでに組織で有効になっています。

このトピックでは、ID ベースのポリシーの例として、アカウント管理者が IAM アイデンティティ (ロールとグループ) に許可ポリシーをアタッチし、これにより許可を付与して請求情報とコスト管理のリソースに対するオペレーションの実行を許可する方法を示します。

AWS アカウントとユーザーの詳細については、IAM ユーザーガイドの「IAM とは」を参照してください。

カスタマー管理ポリシーを更新する方法の詳細については「IAM ユーザーガイド」の「カスタマー管理ポリシーの編集 (コンソール)」を参照してください。

トピック

- 請求情報とコスト管理アクションポリシー
- 請求情報とコスト管理の推奨アクションポリシー
- マネージドポリシー
- AWS AWS マネージドポリシーのコスト管理の更新

請求情報とコスト管理アクションポリシー

次の表は、 ユーザーの請求の情報およびツールへのアクセスを許可または拒否するアクセス許可をまとめたものです。これらのアクセス許可を使用するポリシーの例については、AWS コスト管理ポリシーの例 を参照してください。

請求コンソールのアクションポリシーの一覧については、請求ユーザーガイドの「請求情報とコスト管理アクションポリシー」を参照してください。

アクセス許可名	説明
`aws-portal:ViewBilling`	請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。ポリシーの例については、請求情報ユーザーガイドの請求情報の表示を IAM ユーザーに許可するを参照してください。
`aws-portal:ViewUsage`	AWS 使用状況レポートを表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。

アクセス許可名	説明
	使用状況レポートの表示をユーザーに許可するには、ViewUsage と ViewBilling の両方を許可する必要があります。 ポリシーの例については、「Billing User Guide」の「Allow IAM users to access the reports console page」を参照してください。
aws-portal:ModifyBilling	次の [Billing and Cost Management] コンソールページを変更する権限をユーザーに与えるか拒否します。 • 予算 • 一括請求 • 請求設定 • クレジット • 税金設定 • 支払い方法 • 発注書 • Cost Allocation Tags ユーザーにこれらのコンソールページの変更を許可するには、ModifyBilling と ViewBilling の両方を許可する必要があります。ポリシーの例については「請求情報の変更をユーザーに許可する」を参照してください。
aws-portal:ViewAccount	次の [Billing and Cost Management] コンソールページを表示する権限をユーザーに与えるか拒否します。 • 請求ダッシュボード • アカウント設定

アクセス許可名	説明
aws-portal:ModifyAccount	アカウント設定を変更するアクセス権限をユーザーに許可または拒否します。 ユーザーにアカウント設定の変更を許可するには、ModifyAccount と ViewAccount の両方を許可する必要があります。 [アカウント設定] コンソールページへのアクセスをユーザーに明示的に拒否するポリシーの例については、「アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する」を参照してください。
budgets:ViewBudget	予算を表示するアクセス権限をユーザーに与えるまたは拒否します。 ユーザーに予算の表示を許可するには、ViewBilling も許可する必要があります。
budgets:ModifyBudget	予算を変更するアクセス権限をユーザーに与えるまたは拒否します。 ユーザーに予算の表示および変更を許可するには、ViewBilling も許可する必要があります。
ce:GetPreferences	Cost Explorer の設定ページを表示する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については Cost Explorer 設定ページの表示と更新 を参照してください。

アクセス許可名	説明
ce:UpdatePreferences	Cost Explorer の設定ページを更新する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については「Cost Explorer 設定ページの表示と更新」を参照してください。
ce:DescribeReport	Cost Explorer レポートページを表示する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については「Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除」を参照してください。
ce:CreateReport	Cost Explorer レポートページを使用してレポートを作成する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については「Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除」を参照してください。
ce:UpdateReport	Cost Explorer レポートページを使用して更新する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については「Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除」を参照してください。
ce:DeleteReport	Cost Explorer レポートページを使用してレポートを削除する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については「Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除」を参照してください。

アクセス許可名	説明
ce:DescribeNotificationSubscription	予約概要ページで Cost Explorer の予約の失効アラートを表示する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については「予約および Savings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除」を参照してください。
ce:CreateNotificationSubscription	予約概要ページで Cost Explorer 予約の失効アラートを作成する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については「予約および Savings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除」を参照してください。
ce:UpdateNotificationSubscription	予約概要ページで Cost Explorer 予約の失効アラートを更新する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については「予約および Savings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除」を参照してください。
ce:DeleteNotificationSubscription	予約概要ページで Cost Explorer 予約の失効アラートを削除する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。 ポリシーの例については「予約および Savings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除」を参照してください。

アクセス許可名	説明
ce:CreateCostCategoryDefinition	コストカテゴリを作成するアクセス許可をユーザーに許可または拒否します。 ポリシーの例については、「Billing User Guide」の「View and manage cost categories」を参照してください。 リソースタグは、Create 中にモニターに追加できます。リソースタグでモニターを作成するには、ce:TagResource 許可が必要です。
ce:DeleteCostCategoryDefinition	コストカテゴリを削除するアクセス許可をユーザーに許可または拒否します。 ポリシーの例については、「Billing User Guide」の「View and manage cost categories」を参照してください。
ce:DescribeCostCategoryDefinition	コストカテゴリを表示するアクセス許可をユーザーに許可または拒否します。 ポリシーの例については、「Billing User Guide」の「View and manage cost categories」を参照してください。
ce:ListCostCategoryDefinitions	コストカテゴリを一覧表示するアクセス許可をユーザーに許可または拒否します。 ポリシーの例については、「Billing User Guide」の「View and manage cost categories」を参照してください。

アクセス許可名	説明
ce:ListTagsForResource	所定のリソースに関するすべてのリソースタグをリストする許可をユーザーに与えるまたは拒否します。サポートされているリソースのリストについては、「AWS Billing and Cost Management API Reference」の「ResourceTag」を参照してください。
ce:UpdateCostCategoryDefinition	コストカテゴリを更新するアクセス許可をユーザーに許可または拒否します。 ポリシーの例については、「Billing User Guide」の「View and manage cost categories」を参照してください。
ce:CreateAnomalyMonitor	単一の AWS コスト異常検出モニターを作成する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。リソースタグは、Create 中にモニターに追加できます。リソースタグでモニターを作成するには、ce:TagResource 許可が必要です。
ce:GetAnomalyMonitors	すべての AWS コスト異常検出モニターを表示する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。
ce:UpdateAnomalyMonitor	AWS コスト異常検出モニターを更新する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。
ce:DeleteAnomalyMonitor	AWS コスト異常検出モニターを削除する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。
ce:CreateAnomalySubscription	AWS コスト異常検出の単一のサブスクリプションを作成する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。リソースタグは、Create 中にサブスクリプションに追加できます。リソースタグでサブスクリプションを作成するには、ce:TagResource 許可が必要です。

アクセス許可名	説明
ce:GetAnomalySubscriptions	AWS コスト異常検出のすべてのサブスクリプションを表示する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。
ce:UpdateAnomalySubscription	AWS コスト異常検出のサブスクリプションを更新する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。
ce:DeleteAnomalySubscription	AWS コスト異常検出のサブスクリプションを削除する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。
ce:GetAnomalies	AWS コスト異常検出のすべての異常を表示する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。
ce:ProvideAnomalyFeedback	AWS コスト異常検出で検出されたフィードバックを提供する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。
ce:TagResource	リソースにリソースタグのキーバリューペアを追加する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。サポートされているリソースのリストについては、「AWS Billing and Cost Management API Reference」の「ResourceTag」を参照してください。
ce:UntagResource	リソースからリソースタグを削除する許可をユーザーに与えるまたは拒否します。サポートされているリソースのリストについては、「AWS Billing and Cost Management API Reference」の「ResourceTag」を参照してください。
ce:GetCostAndUsageComparisons	コストと使用状況の比較を取得するアクセス許可をユーザーに許可または拒否します。

アクセス許可名	説明
ce:GetCostComparisonDrivers	コスト要因を取得するアクセス許可をユーザーに許可または拒否します。

請求情報とコスト管理の推奨アクションポリシー

推奨アクションを開始するには、次のコアアクセス許可が必要です。

- bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions

その後、推奨されるアクションタイプに基づいて追加のアクセス許可が必要です。次の表は、推奨されるさまざまなアクションタイプと、推奨されるアクションを表示するために必要な対応する IAM ポリシーのアクセス許可をまとめたものです。

> **Note**
>
> IAM ポリシーのアクセス許可が付与されていても、対応する推奨アクションタイプは、推奨アクションが実際に適用される場合にのみ表示されます。

推奨されるアクションタイプ	必要なアクセス許可名	説明
支払い方法の有効期限切れ	"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "payments:ListPaymentPreferences", "payments:GetPaymentInstrument"	支払い関連の推奨アクション向け。
無効な支払い方法	"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "payments:ListPaymentPreferences",	支払い関連の推奨アクション向け。

推奨されるアクションタイプ	必要なアクセス許可名	説明
	`"payments:GetPaymentInstrument"`	
支払い期限が到来	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "payments:GetPaymentStatus"`	支払い関連の推奨アクション向け。
支払い期限到来	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "payments:GetPaymentStatus"`	支払い関連の推奨アクション向け。
税登録情報を修正	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "tax:GetTaxRegistration"`	税設定に関する推奨アクション向け。
免税証明書を更新	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "tax:GetExemptions"`	税設定に関する推奨アクション向け。

推奨されるアクションタイプ	必要なアクセス許可名	説明
詳細なアクセス許可への移行	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "aws-portal:GetConsoleActionSetEnforced", "ce:GetConsoleActionSetEnforced", "purchase-orders:GetConsoleActionSetEnforced"`	IAM アクセス許可に関する推奨アクション向け。
予算アラートの確認	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "budgets:DescribeBudgetNotificationsForAccount", "budgets:DescribeBudget"`	予算に関連する推奨アクション向け。
超過した予算の確認	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "budgets:DescribeBudgets"`	予算に関連する推奨アクション向け。
無料利用枠アラートの確認	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "freetier:GetFreeTierUsage"`	無料利用枠に関連する推奨アクション向け。
異常値の確認	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "ce:GetAnomalies"`	コスト異常検知に関連する推奨アクション向け。

推奨されるアクションタイプ	必要なアクセス許可名	説明
期限切れ間近の予約の確認	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "ce:GetReservationUtilization"`	コスト最適化に関連する推奨アクション向け。
期限切れ間近の Savings Plans の確認	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "ce:GetSavingsPlansUtilizationDetails"`	コスト最適化に関連する推奨アクション向け。
コスト削減機会の推奨事項の確認	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "cost-optimization-hub:ListEnrollmentStatuses", "cost-optimization-hub:ListRecommendationSummaries"`	コスト最適化に関連する推奨アクション向け。
Cost Optimization Hub の有効化	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "cost-optimization-hub:ListEnrollmentStatuses"`	コスト最適化に関連する推奨アクション向け。
予算を作成する	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "budgets:DescribeBudgets"`	予算に関連する推奨アクション向け。

推奨されるアクションタイプ	必要なアクセス許可名	説明
予約予算の作成	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "budgets:DescribeBudgets", "ce:GetReservationUtilization"`	予算に関連する推奨アクション向け。
Savings Plans 予算の作成	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "budgets:DescribeBudgets", "ce:GetSavingsPlansUtilizationDetails"`	予算に関連する推奨アクション向け。
代替請求連絡先の追加	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "account:GetAlternateContact"`	アカウントに関連する推奨アクション向け。
異常モニターの作成	`"bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions", "ce:GetAnomalyMonitors"`	コスト異常検知に関連する推奨アクション向け。

マネージドポリシー

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間

- *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
- *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*

を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
詳細については、AWS 「請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールのアクセス許可の変更」ブログを参照してください。
2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションはすでに組織で有効になっています。

管理ポリシーは、 AWS アカウントの複数のユーザー、グループ、ロールにアタッチできるスタンドアロンのアイデンティティベースのポリシーです。 AWS マネージドポリシーを使用して、請求情報とコスト管理でアクセスを制御できます。

AWS 管理ポリシーは、 によって作成および管理されるスタンドアロンポリシーです AWS。 AWS 管理ポリシーは、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するように設計されています。AWS 管理ポリシーを使用すると、ポリシーを自分で記述する必要があったよりも、ユーザー、グループ、ロールに適切なアクセス許可を簡単に割り当てることができます。

AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可を変更することはできません。 AWS は、 AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可を更新することがあります。行われた更新は、ポリシーがアタッチされているすべてのプリンシパルエンティティ (ユーザー、グループ、ロール) に影響します。

請求情報とコスト管理には、一般的なユースケース向けの AWS 管理ポリシーがいくつか用意されています。

トピック

- AWS 予算アクションを含む Budgets へのフルアクセスを許可する
- AWS Budgets への読み取り専用アクセスを許可する
- AWS Budgets が請求ビューへのアクセスを検証するために必要なサービスを呼び出すことを許可します

- AWS リソースを制御するアクセス許可を付与します
- Cost Optimization Hub がサービスの動作に必要なサービスを呼び出せるよう許可する
- Cost Optimization Hub への読み取り専用アクセスを許可します。
- Cost Optimization Hub への管理者アクセスを許可します。
- 分割コスト配分データからサービスの動作に必要なサービスを呼び出せるよう許可する
- データエクスポートが他の AWS サービスにアクセスすることを許可する

AWS 予算アクションを含む Budgets へのフルアクセスを許可する

マネージドポリシー名: `AWSBudgetsActionsWithAWSResourceControlAccess`

この管理ポリシーは ユーザーに焦点を当てており、定義されたアクションを実行するためのアクセス許可を AWS Budgets に付与するための適切なアクセス許可があることを確認します。このポリシーは、 AWS 予算アクションを含む Budgets へのフルアクセスを提供し、 を使用してポリシーのステータスを取得し、 AWS リソースを実行します AWS マネジメントコンソール。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "budgets:*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:PassRole"
```

```
            ],
            "Resource": "*",
            "Condition": {
                "StringEquals": {
                    "iam:PassedToService": "budgets.amazonaws.com"
                }
            }
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ModifyBilling",
                "ec2:DescribeInstances",
                "iam:ListGroups",
                "iam:ListPolicies",
                "iam:ListRoles",
                "iam:ListUsers",
                "organizations:ListAccounts",
                "organizations:ListOrganizationalUnitsForParent",
                "organizations:ListPolicies",
                "organizations:ListRoots",
                "rds:DescribeDBInstances",
                "sns:ListTopics"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS Budgets への読み取り専用アクセスを許可する

マネージドポリシー名: `AWSBudgetsReadOnlyAccess`

この管理ポリシーは、 を通じて AWS Budgets への読み取り専用アクセスを許可します AWS マネジメントコンソール。ユーザー、グループおよびロールにポリシーをアタッチできます。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement" : [
```

```
    {
      "Sid": "AWSBudgetsReadOnlyAccess",
      "Effect" : "Allow",
      "Action" : [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "budgets:ViewBudget",
        "budgets:Describe*",
        "budgets:ListTagsForResource"
      ],
      "Resource" : "*"
    }
  ]
}
```

AWS Budgets が請求ビューへのアクセスを検証するために必要なサービスを呼び出すことを許可します

マネージドポリシー名: BudgetsServiceRolePolicy

AWS Budgets がアカウント境界間で共有されている請求ビューへのアクセスを検証できるようにします。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "billing:GetBillingViewData"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

詳細については、Service-linked roles for Budgets を参照してください。

AWS リソースを制御するアクセス許可を付与します

マネージドポリシー名:
AWSBudgetsActions_RolePolicyForResourceAdministrationWithSSM

この管理ポリシーは、特定のアクションを完了するときに AWS Budgets がユーザーに代わって実行する特定のアクションに焦点を当てています。このポリシーは、 AWS リソースを制御するアクセス許可を付与します。たとえば、 は AWS Systems Manager (SSM) スクリプトを実行して Amazon EC2 または Amazon RDS インスタンスを起動および停止します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "ec2:DescribeInstanceStatus",
                "ec2:StartInstances",
                "ec2:StopInstances",
                "rds:DescribeDBInstances",
                "rds:StartDBInstance",
                "rds:StopDBInstance"
            ],
            "Resource": "*",
            "Condition": {
                "ForAnyValue:StringEquals": {
                    "aws:CalledVia": [
                        "ssm.amazonaws.com"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "ssm:StartAutomationExecution"
            ],
            "Resource": [
                "arn:aws:ssm:*:*:document/AWS-StartEC2Instance",
                "arn:aws:ssm:*:*:document/AWS-StopEC2Instance",
```

```
                "arn:aws:ssm:*:*:document/AWS-StartRdsInstance",
                "arn:aws:ssm:*:*:document/AWS-StopRdsInstance",
                "arn:aws:ssm:*:*:automation-execution/*"
            ]
        }
    ]
}
```

Cost Optimization Hub がサービスの動作に必要なサービスを呼び出せるよう許可する

マネージドポリシー名: `CostOptimizationHubServiceRolePolicy`

Cost Optimization Hub が組織情報を取得し、最適化関連のデータとメタデータを収集できるよう許可します。

このポリシーのアクセス許可を表示するには、AWS マネージドポリシーリファレンスガイドの CostOptimizationHubServiceRolePolicy を参照してください。

詳細については、「Cost Optimization Hub のサービスにリンクされたロール」を参照してください。

Cost Optimization Hub への読み取り専用アクセスを許可します。

マネージドポリシー名: `CostOptimizationHubReadOnlyAccess`

このマネージドポリシーは、Cost Optimization Hub への読み取り専用アクセスを提供します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "CostOptimizationHubReadOnlyAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "cost-optimization-hub:ListEnrollmentStatuses",
                "cost-optimization-hub:GetPreferences",
                "cost-optimization-hub:GetRecommendation",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendations",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendationSummaries"
```

```
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Cost Optimization Hub への管理者アクセスを許可します。

マネージドポリシー名: `CostOptimizationHubAdminAccess`

このマネージドポリシーは、Cost Optimization Hub への管理者アクセスを提供します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "CostOptimizationHubAdminAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "cost-optimization-hub:ListEnrollmentStatuses",
                "cost-optimization-hub:UpdateEnrollmentStatus",
                "cost-optimization-hub:GetPreferences",
                "cost-optimization-hub:UpdatePreferences",
                "cost-optimization-hub:GetRecommendation",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendations",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendationSummaries",
                "organizations:EnableAWSServiceAccess"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "AllowCreationOfServiceLinkedRoleForCostOptimizationHub",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:CreateServiceLinkedRole"
            ],
            "Resource": [
                "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/cost-optimization-
hub.bcm.amazonaws.com/AWSServiceRoleForCostOptimizationHub"
```

```
            ],
            "Condition": {
                "StringLike": {
                    "iam:AWSServiceName": "cost-optimization-
hub.bcm.amazonaws.com"
                }
            }
        },
        {
            "Sid": "AllowAWSServiceAccessForCostOptimizationHub",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "organizations:EnableAWSServiceAccess"
            ],
            "Resource": "*",
            "Condition": {
                "StringLike": {
                    "organizations:ServicePrincipal": [
                        "cost-optimization-hub.bcm.amazonaws.com"
                    ]
                }
            }
        }
    ]
}
```

分割コスト配分データからサービスの動作に必要なサービスを呼び出せるよう許可する

マネージドポリシー名: SplitCostAllocationDataServiceRolePolicy

該当する場合は、分割コスト配分データで AWS Organizations 情報を取得し、顧客がオプトインした分割コスト配分データサービスのテレメトリデータを収集できるようにします。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "AwsOrganizationsAccess",
            "Effect": "Allow",
```

```
            "Action": [
                "organizations:DescribeOrganization",
                "organizations:ListAccounts",
                "organizations:ListAWSServiceAccessForOrganization",
                "organizations:ListParents"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "AmazonManagedServiceForPrometheusAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aps:ListWorkspaces",
                "aps:QueryMetrics"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

詳細については、「分割コスト配分データのサービスにリンクされたロール」を参照してください。

データエクスポートが他の AWS サービスにアクセスすることを許可する

マネージドポリシー名: `AWSBCMDataExportsServiceRolePolicy`

データエクスポートがユーザーに代わって Cost Optimization Hub などの他の AWS サービスにアクセスできるようにします。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "CostOptimizationRecommendationAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action":  [
                "cost-optimization-hub:ListEnrollmentStatuses",
                "cost-optimization-hub:ListRecommendations"
            ],
```

```
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

詳細については、「データエクスポートのサービスにリンクされたロール」を参照してください。

AWS AWS マネージドポリシーのコスト管理の更新

このサービスがこれらの変更の追跡を開始してからの AWS コスト管理の AWS マネージドポリシーの更新に関する詳細を表示します。このページの変更に関する自動アラートについては、 AWS コスト管理ドキュメント履歴ページの RSS フィードにサブスクライブしてください。

変更	説明	日付
既存のポリシーに対する更新 CostOptimizationHubReadOnlyAccess CostOptimizationHubAdminAccess	ポリシーを更新して、`"cost-optimization-hub:ListEfficiencyMetrics"` アクションを追加しました。	11/20/2025
新しいポリシーの追加 BudgetsServiceRolePolicy	Budgets は、サービスにリンクされたロールで使用する新しいポリシーを追加しました。これにより、 Budgets が使用または管理する AWS サービスとリソースにアクセスできます。	08/06/2025
既存のポリシーの更新 CostOptimizationHubServiceRolePolicy	ポリシーを更新して、`ce:GetDimensionValues` アクションを追加しました。	07/23/2025

変更	説明	日付
既存のポリシーの更新 CostOptimizationHubServiceRolePolicy	ポリシーを更新して、`organizations:ListDelegatedAdministrators` および `ce:GetCostAndUsage` アクションを追加しました。	07/05/2024
既存のポリシーの更新 AWSBudgetsReadOnlyAccess	ポリシーを更新して、`budgets:ListTagsForResource` アクションを追加しました。	06/17/2024
新しいポリシーの追加 AWSBCMDataExportsServiceRolePolicy	データエクスポートでは、サービスにリンクされたロールで使用する新しいポリシーが追加されました。これにより、Cost Optimization Hub などの他の AWS サービスにアクセスできます。	06/10/2024
新しいポリシーの追加 SplitCostAllocationDataServiceRolePolicy	分割コスト配分データには、サービスにリンクされたロールで使用する新しいポリシーが追加されました。これにより、分割コスト配分データによって使用または管理される AWS サービスとリソースにアクセスできます。	04/16/2024

変更	説明	日付
既存のポリシーの更新 AWSBudgetsActions_RolePolicyForResourceAdministrationWithSSM	制限されたアクセス許可に関するポリシーを更新しました。`ssm:StartAutomationExecution` アクションは、予算アクションで使用される特定のリソースに対してのみ許可されます。	12/14/2023
既存のポリシーに対する更新 CostOptimizationHubReadOnlyAccess CostOptimizationHubAdminAccess	Cost Optimization Hub では、次の 2 つのマネージドポリシーが更新されました。 • `CostOptimizationHubReadOnlyAccess` : 「GetRecommendation」の誤字を修正し、SLR ポリシーの対象となるアクセス許可を削除しました。 • `CostOptimizationHubAdminAccess` : 「GetRecommendation」の誤字を修正しました。SLR ポリシーの対象となるアクセス許可を削除しました。サービスアクセスを有効にして SLR を作成するためのアクセス許可を追加し、Cost Optimization Hub をオプトインして使用するために必要なすべてのアクセス許可をポリシーで提供するようになりました。	12/14/2023

変更	説明	日付
新しいポリシーの追加 CostOptimizationHubServiceRolePolicy	Cost Optimization Hub は、サービスにリンクされたロールで使用する新しいポリシーを追加しました。これにより、Cost Optimization Hub が使用または管理する AWS サービスとリソースにアクセスできます。	11/02/2023
AWS コスト管理が変更の追跡を開始しました	AWS コスト管理が AWS 管理ポリシーの変更の追跡を開始	11/02/2023

AWS コスト管理ポリシーの例

Note

次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。

- *aws-portal* 名前空間
- *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
- *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*

を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
詳細については、AWS 「請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールのアクセス許可の変更」ブログを参照してください。
2023 年 3 月 6 日午前 11:00 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションはすでに組織で有効です。

このトピックには、アカウントの請求情報とツールへのアクセスを制御するために IAM ロールまたはグループに適用できるポリシーの例が含まれています。以下の基本ルールは、請求情報とコスト管理の IAM ポリシーに適用されます。

- `Version` は常に `2012-10-17` です。
- `Effect` は常に `Allow` または `Deny` です。
- `Action` はアクションまたはワイルドカード (*) の名前です。

  アクションプレフィックスは、 AWS 予算`budgets`、`cur` AWS コストと使用状況レポート、`aws-portal` AWS 請求、または Cost Explorer `ce`用です。
- `Resource` は常に AWS 請求*用です。

  `budget` リソースで実行されるアクションの場合、予算の Amazon リソースネーム (ARN) を指定します。
- 1 つのポリシーで複数のステートメントを使用できます。

請求コンソールのポリシー例の一覧については、「Billing User Guide」の「Billing policy examples」を参照してください。

> **Note**
>
> これらのポリシーを使用するには、[Account Settings] (アカウント設定) コンソールページで請求情報とコスト管理コンソールへのユーザーアクセスをアクティベートする必要があります。詳細については、「請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする」を参照してください。

トピック

- 請求情報とコスト管理コンソールへのユーザーアクセスを拒否する
- メンバーアカウントの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する
- 特定のユーザーとロールに対する AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する
- AWS サービスへのフルアクセスを許可するが、請求情報とコスト管理コンソールへのユーザーのアクセスを拒否する
- アカウント設定を除き、請求情報とコスト管理コンソールの表示をユーザーに許可する
- 請求情報の変更をユーザーに許可する

- ユーザーに予算の作成を許可する
- アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する
- レポートを Amazon S3 バケットにデポジットする
- コストと使用状況の表示
- AWS リージョンの有効化と無効化
- Cost Explorer 設定ページの表示と更新
- Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除
- 予約および Savings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除
- AWS コスト異常検出への読み取り専用アクセスを許可する
- AWS Budgets に IAM ポリシーと SCPs の適用を許可する
- AWS Budgets が IAM ポリシーと SCPsし、ターゲット EC2 インスタンスと RDS インスタンスを適用できるようにする
- 料金見積りツールでワークロード見積りの作成、一覧表示、使用量の追加をユーザーに許可する
- 料金見積りツールで料金シナリオに使用量とコミットメントを作成、一覧表示、追加できるようにユーザーに許可する
- 料金見積りツールで請求見積りを作成できるようにユーザーに許可する
- 料金見積りツールでユーザーが設定を作成できるように許可する
- カスタム請求ビューの作成、管理、共有をユーザーに許可する
- 特定のカスタム請求ビューへアクセスする際に、Cost Explorer へアクセスできるようユーザーに許可する

請求情報とコスト管理コンソールへのユーザーアクセスを拒否する

すべての請求情報とコスト管理コンソールページへのユーザーアクセスを明示的に拒否するには、次の例のようなポリシーを使用します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Deny",
```

```
            "Action": "aws-portal:*",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

メンバーアカウントの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する

コストと使用状況のデータへのメンバーアカウント (連結アカウント) のアクセスを制限するには、管理アカウント (支払いアカウント) を使用して Cost Explorer の設定タブにアクセスし、[連結アカウントのアクセス] のチェックを外します。これにより、メンバーアカウントのユーザーまたはロールが持つ IAM アクションに関係なく、Cost Explorer (AWS コスト管理) コンソール、Cost Explorer API、コンソールホームページのコストと AWS 使用状況ウィジェットからのコストと使用状況データへのアクセスが拒否されます。

特定のユーザーとロールに対する AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する

特定のユーザーとロールの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否するには、以下のアクセス許可ポリシーを使用します。

> **Note**
>
> このポリシーをユーザーまたはロールに追加すると、Cost Explorer (AWS Cost Management) コンソールと Cost Explorer APIsも拒否されます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": "ce:*",
            "Resource": "*"
        }
    ]
```

```
}
```

AWS サービスへのフルアクセスを許可するが、請求情報とコスト管理コンソールへのユーザーのアクセスを拒否する

請求情報とコスト管理コンソールのすべてへのユーザーアクセスを拒否するには、次のポリシーを使用します。この場合、ユーザーが請求情報とツールへのアクセスを制御するポリシーにアクセスできないように、 AWS Identity and Access Management (IAM) へのユーザーアクセスも拒否する必要があります。

> **Important**
>
> このポリシーは、一切のアクションを許可しません。特定のアクションを許可する他のポリシーと組み合わせてこのポリシーを使用します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:*",
                "iam:*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

アカウント設定を除き、請求情報とコスト管理コンソールの表示をユーザーに許可する

このポリシーは、Billing and Cost Management コンソールへの読み取り専用アクセスを許可します。これには、[支払い方法] と [レポート] コンソールページが含まれますが、[アカウント設定] ペー

ジへのアクセスは拒否され、アカウントのパスワード、連絡先情報、およびセキュリティに関する質問が保護されます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:View*",
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": "aws-portal:*Account",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

請求情報の変更をユーザーに許可する

請求情報とコスト管理コンソールのアカウント請求情報の変更をユーザーに許可するには、請求情報を表示する許可もユーザーに与える必要があります。次のポリシー例では、一括請求、設定、およびクレジットコンソールページの変更をユーザーに許可します。さらに、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可もユーザーに与えます。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書
- 前払い

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:*Billing",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

ユーザーに予算の作成を許可する

請求情報とコスト管理コンソールでの予算の作成をユーザーに許可するには、請求情報の表示、CloudWatch アラームの作成、および Amazon SNS 通知の作成をユーザーに許可する必要があります。次のポリシー例では、ユーザーに [予算] コンソールページの変更を許可します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "Stmt1435216493000",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling",
                "aws-portal:ModifyBilling",
                "budgets:ViewBudget",
                "budgets:ModifyBudget"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ]
        },
        {
            "Sid": "Stmt1435216514000",
```

```
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "cloudwatch:*"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ]
        },
        {
            "Sid": "Stmt1435216552000",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "sns:*"
            ],
            "Resource": [
                "arn:aws:sns:us-east-1::"
            ]
        }
    ]
}
```

アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する

アカウントのパスワード、連絡先情報、秘密の質問を保護するには、ユーザーに対して [アカウント設定] へのアクセスを拒否する一方で、請求情報およびコスト管理コンソールの残りの機能に対するフルアクセスを許可します。次に例を示します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Billing",
                "aws-portal:*Usage",
                "aws-portal:*PaymentMethods"
            ],
```

```
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": "aws-portal:*Account",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

レポートを Amazon S3 バケットにデポジットする

次のポリシーでは、 AWS アカウントと Amazon S3 バケットの両方を所有している限り、Billing and Cost Management が詳細な AWS 請求書を Amazon S3 バケットに保存することを許可します。このポリシーは、ユーザーではなく Amazon S3 バケットに適用する必要があります。つまり、これはリソースベースのポリシーであり、ユーザーベースのポリシーではありません。請求書にアクセスする必要がないユーザーに対しては、バケットへのユーザーアクセスを拒否する必要があります。

bucketname を実際のバケット名に置き換えます。

詳細については、「Amazon Simple Storage Service ユーザーガイド」のバケットポリシーとユーザーポリシーの使用についてのページを参照してください。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement": [
  {
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "Service": "billingreports.amazonaws.com"
    },
    "Action": [
      "s3:GetBucketAcl",
      "s3:GetBucketPolicy"
    ],
    "Resource": "arn:aws:s3:::bucketname"
  },
  {
    "Effect": "Allow",
```

```
    "Principal": {
      "Service": "billingreports.amazonaws.com"
    },
    "Action": "s3:PutObject",
    "Resource": "arn:aws:s3:::bucketname/*"
  }
  ]
}
```

コストと使用状況の表示

ユーザーに AWS Cost Explorer API の使用を許可するには、次のポリシーを使用してアクセスを許可します。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "ce:*"
      ],
      "Resource": [
        "*"
      ]
    }
  ]
}
```

AWS リージョンの有効化と無効化

リージョンの有効化と無効化をユーザーに許可する IAM ポリシーの例については、IAM ユーザーガイドのAWS「: AWS リージョンの有効化と無効化を許可する」を参照してください。

Cost Explorer 設定ページの表示と更新

このポリシーでは、Cost Explorer 設定ページの表示と更新をユーザーに許可します。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:UpdatePreferences"
       ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示をユーザーに許可しますが、設定ページを表示または編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:GetPreferences",
                "ce:UpdatePreferences"
            ],
```

```
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示をユーザーに許可しますが、設定ページを編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:UpdatePreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除

このポリシーでは、Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除をユーザーに許可します。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:CreateReport",
        "ce:UpdateReport",
        "ce:DeleteReport"
       ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示をユーザーに許可しますが、レポートページを表示または編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:DescribeReport",
```

```
                "ce:CreateReport",
                "ce:UpdateReport",
                "ce:DeleteReport"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示をユーザーに許可しますが、レポートページを編集する許可は拒否します。

予約および Savings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除

このポリシーでは、予約の失効アラートおよびSavings Plansアラートの表示、作成、更新、および削除をユーザーに許可します。予約の失効アラートまたは Savings Plans アラートを編集するには、次の 3 つのきめ細かなアクションすべてが必要です: `ce:CreateNotificationSubscription`、`ce:UpdateNotificationSubscription`、および `ce:DeleteNotificationSubscription`。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:CreateNotificationSubscription",
        "ce:UpdateNotificationSubscription",
        "ce:DeleteNotificationSubscription"
       ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示をユーザーに許可しますが、予約の失効アラートおよびSavings Plans アラートページを表示または編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:DescribeNotificationSubscription",
                "ce:CreateNotificationSubscription",
                "ce:UpdateNotificationSubscription",
                "ce:DeleteNotificationSubscription"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示をユーザーに許可しますが、予約の失効アラートおよび Savings Plans アラートページを編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
```

```
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:CreateNotificationSubscription",
                "ce:UpdateNotificationSubscription",
                "ce:DeleteNotificationSubscription"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS コスト異常検出への読み取り専用アクセスを許可する

AWS コスト異常検出への読み取り専用アクセスをユーザーに許可するには、次のポリシーを使用してアクセスを許可します。 ce:ProvideAnomalyFeedbackは読み取り専用アクセスの一部としてオプションです。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Action": [
        "ce:Get*"
      ],
      "Effect": "Allow",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS Budgets に IAM ポリシーと SCPs の適用を許可する

このポリシーにより、 AWS Budgets はユーザーに代わって IAM ポリシーとサービスコントロールポリシー (SCPs) を適用できます。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:AttachGroupPolicy",
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:AttachUserPolicy",
        "iam:DetachGroupPolicy",
        "iam:DetachRolePolicy",
        "iam:DetachUserPolicy",
        "organizations:AttachPolicy",
        "organizations:DetachPolicy"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS Budgets が IAM ポリシーと SCPsし、ターゲット EC2 インスタンスと RDS インスタンスを適用できるようにする

このポリシーにより、 AWS Budgets は IAM ポリシーとサービスコントロールポリシー (SCPs) を適用し、ユーザーに代わって Amazon EC2 および Amazon RDS インスタンスをターゲットにすることができます。

信頼ポリシー

> **Note**
>
> この信頼ポリシーにより、 AWS Budgets はユーザーに代わって他の サービスを呼び出すことができるロールを引き受けることができます。このようなクロスサービス許可のベストプ

ラクティスの詳細については、「サービス間での不分別な代理処理の防止」を参照してください。

JSON

```
{
"Version":"2012-10-17",
"Statement": [
  {
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "Service": "budgets.amazonaws.com"
    },
    "Action": "sts:AssumeRole",
    "Condition": {
      "ArnLike": {
        "aws:SourceArn": "arn:aws:budgets::123456789012:budget/*"
      },
      "StringEquals": {
        "aws:SourceAccount": "123456789012"
      }
    }
  }
]
}
```

アクセス許可ポリシー

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "ec2:DescribeInstanceStatus",
        "ec2:StartInstances",
        "ec2:StopInstances",
```

```
        "iam:AttachGroupPolicy",
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:AttachUserPolicy",
        "iam:DetachGroupPolicy",
        "iam:DetachRolePolicy",
        "iam:DetachUserPolicy",
        "organizations:AttachPolicy",
        "organizations:DetachPolicy",
        "rds:DescribeDBInstances",
        "rds:StartDBInstance",
        "rds:StopDBInstance",
        "ssm:StartAutomationExecution"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

料金見積りツールでワークロード見積りの作成、一覧表示、使用量の追加をユーザーに許可する

このポリシーにより、IAM ユーザーはワークロード見積りを作成、一覧表示、および使用量を追加できます。また、過去のコストと使用状況データを取得するために、Cost Explorer データをクエリする権限も付与されます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "WorkloadEstimate",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "ce:GetCostCategories",
                "ce:GetDimensionValues",
                "ce:GetCostAndUsage",
                "ce:GetTags",
                "bcm-pricing-calculator:GetWorkloadEstimate",
                "bcm-pricing-calculator:ListWorkloadEstimateUsage",
                "bcm-pricing-calculator:CreateWorkloadEstimate",
```

```
                "bcm-pricing-calculator:ListWorkloadEstimates",
                "bcm-pricing-calculator:CreateWorkloadEstimateUsage",
                "bcm-pricing-calculator:UpdateWorkloadEstimateUsage"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

料金見積りツールで料金シナリオに使用量とコミットメントを作成、一覧表示、追加できるようにユーザーに許可する

このポリシーにより、IAM ユーザーは料金シナリオを作成、一覧表示し、使用量やコミットメントを追加できます。Cost Explorer のアクセス許可は付与されないため、過去のデータを読み込むことはできません。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "BillScenario",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "bcm-pricing-calculator:CreateBillScenario",
                "bcm-pricing-calculator:GetBillScenario",
                "bcm-pricing-calculator:ListBillScenarios",
                "bcm-pricing-calculator:CreateBillScenarioUsageModification",
                "bcm-pricing-calculator:UpdateBillScenarioUsageModification",
                "bcm-pricing-calculator:ListBillScenarioUsageModifications",

                "bcm-pricing-calculator:ListBillScenarioCommitmentModifications"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

料金見積りツールで請求見積りを作成できるようにユーザーに許可する

このポリシーにより、IAM ユーザーは請求見積りを作成し、請求見積りの明細項目を一覧表示できます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "BillEstimate",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "bcm-pricing-calculator:CreateBillEstimate",
                "bcm-pricing-calculator:GetBillEstimate",
                "bcm-pricing-calculator:UpdateBillEstimate",
                "bcm-pricing-calculator:ListBillEstimates",
                "bcm-pricing-calculator:ListBillEstimateLineItems",
                "bcm-pricing-calculator:ListBillEstimateCommitments",
                "bcm-pricing-calculator:ListBillEstimateInputUsageModifications",
                "bcm-pricing-
calculator:ListBillEstimateInputCommitmentModifications"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

料金見積りツールでユーザーが設定を作成できるように許可する

このポリシーにより、IAM ユーザーは料金設定を作成して取得できます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "RatePreferences",
```

```
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "bcm-pricing-calculator:GetPreferences",
                "bcm-pricing-calculator:UpdatePreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

カスタム請求ビューの作成、管理、共有をユーザーに許可する

このポリシーにより、IAM ユーザーはカスタム請求ビューを作成、管理、共有できます。Billing View を使用してカスタム請求ビューを作成および管理し、Resource Access Manager (AWS RAM) を使用して AWS リソース共有を作成および関連付ける機能が必要です。

JSON

```
{
   "Version":"2012-10-17",
   "Statement": [
        {
           "Effect": "Allow",
           "Action": [
               "billing:CreateBillingView",
               "billing:UpdateBillingView",
               "billing:DeleteBillingView",
               "billing:GetBillingView",
               "billing:ListBillingViews",
               "billing:ListTagsForResource",
               "billing:PutResourcePolicy",
               "ce:GetCostAndUsage",
               "ce:GetTags",
               "organizations:ListAccounts",
               "ram:ListResources",
               "ram:ListPermissions",
               "ram:CreateResourceShare",
               "ram:AssociateResourceShare",
               "ram:GetResourceShares",
               "ram:GetResourceShareAssociations",
               "ram:ListResourceSharePermissions",
```

```
                "ram:ListResourceTypes",
                "ram:ListPrincipals",
                "ram:DisassociateResourceShare"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

特定のカスタム請求ビューへアクセスする際に、Cost Explorer へアクセスできるようユーザーに許可する

このポリシーにより、IAM ユーザーは、特定のカスタム請求ビュー (custom-1a2b3c4d) にアクセスする際に、Cost Explorerにアクセスできるようになります。を 12 桁の AWS アカウント ID 123456789012に置き換え、 をカスタム請求ビューの一意の識別子1a2b3c4dに置き換えます。

JSON

```
{
   "Version":"2012-10-17",
   "Statement": [
       {
           "Effect": "Allow",
           "Action": [
               "ce:GetDimensionValues",
               "ce:GetCostAndUsageWithResources",
               "ce:GetCostAndUsage",
               "ce:GetCostForecast",
               "ce:GetTags",
               "ce:GetUsageForecast",
               "ce:GetCostCategories"
           ],
           "Resource": [
               "arn:aws:billing::123456789012:billingview/custom-1a2b3c4d"
           ]
       },
       {
           "Effect": "Allow",
           "Action": [
               "billing:ListBillingViews",
               "billing:GetBillingView"
```

```
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS コスト管理のアクセスコントロールの移行

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 詳細については、AWS 「請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールのアクセス許可の変更」ブログを参照してください。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11:00 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションはすでに組織で有効です。

きめ細かなアクセスコントロールを使用して、組織内の個人に AWS Billing and Cost Management サービスへのアクセスを提供できます。例えば、 AWS 請求コンソールへのアクセスを提供せずに Cost Explorer へのアクセスを提供できます。

きめ細かなアクセス制御を使用するには、ポリシーを `aws-portal` から新しい IAM アクションに移行する必要があります。

アクセス許可ポリシーまたはサービスコントロールポリシー (SCP) の次の IAM アクションは、この移行で更新する必要があります。

- aws-portal:ViewAccount
- aws-portal:ViewBilling
- aws-portal:ViewPaymentMethods
- aws-portal:ViewUsage
- aws-portal:ModifyAccount
- aws-portal:ModifyBilling
- aws-portal:ModifyPaymentMethods
- purchase-orders:ViewPurchaseOrders
- purchase-orders:ModifyPurchaseOrders

[影響を受けたポリシー] ツールを使用して影響を受ける IAM ポリシーを特定する方法については、「影響を受けたポリシーツールの使用方法」を参照してください。

> **Note**
>
> プログラムによる AWS Cost Explorer、、 AWS コストと使用状況レポート、および AWS Budgets へのリクエストは影響を受けません。
> 請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする は変更しないでください。

トピック

- アクセス許可の管理
- 影響を受けたポリシーツールの使用方法

アクセス許可の管理

AWS コスト管理は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスと統合されるため、組織内の誰がAWS コスト管理コンソールの特定のページにアクセスできるかを制御できます。 AWS コスト管理機能へのアクセスを制御できます。例えば、 AWS Cost Explorer、Savings Plans、予約レコメンデーション、Savings Plans、予約の使用率とカバレッジレポートなどです。

AWS コスト管理コンソールのきめ細かな制御には、次の IAM アクセス許可を使用します。

きめ細かな AWS コスト管理アクションの使用

次の表は、コストおよび使用状況へのアクセス権を IAM ユーザーとロールに付与または拒否するアクセス許可をまとめたものです。これらのアクセス許可を使用するポリシーの例については、AWS コスト管理ポリシーの例 を参照してください。

AWS 請求コンソールのアクションのリストについては、AWS 「請求ユーザーガイド」の「請求アクションポリシー」を参照してください。 AWS

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
AWS コスト管理ホーム	ce:GetCostAndUsage ce:GetDimensionValues ce:GetCostForecast ce:GetReservationUtilization ce:GetReservationPurchaseRecommendation ce:DescribeReport	[AWS Cost Management Home] (コスト管理ホーム) ページを表示するアクセス許可をユーザーに与えるまたは拒否します。ページを表示するには、すべての IAM アクションが必要です。
AWS Cost Explorer	ce:GetCostCategories ce:GetDimensionValues ce:GetCostAndUsageWithResources ce:GetCostAndUsage ce:GetCostForecast ce:GetTags	[AWS Cost Explorer] (コストエクスプローラー) ページを表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	ce:GetUsageForecast ce:DescribeReport	
	ce:CreateReport	Cost Explorer レポートを表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
レポート	ce:DescribeReport	保存されたレポートの一覧を表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
	ce:DeleteReport	保存されたレポートを削除するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
AWS Budgets	budgets:ViewBudget budgets:DescribeBudgetActionsForBudget budgets:DescribeBudgetAction budgets:DescribeBudgetActionsForAccount budgets:DescribeBudgetActionHistories	[予算] ページを表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	budgets:CreateBudgetAction budgets:ExecuteBudgetAction budgets:DeleteBudgetAction budgets:UpdateBudgetAction budgets:ModifyBudget	予算および予算アクションを作成、削除、および変更するアクセス許可をユーザーに許可または拒否します。

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
AWS コスト異常検出	ce:GetDimensionValues ce:GetCostAndUsage ce:CreateAnomalyMonitor ce:GetAnomalyMonitors ce:UpdateAnomalyMonitor ce:DeleteAnomalyMonitor ce:CreateAnomalySubscription ce:GetAnomalySubscriptions ce:UpdateAnomalySubscription ce:DeleteAnomalySubscription ce:GetAnomalies ce:ProvideAnomalyFeedback	[コスト異常検出] ページでの閲覧、作成、削除、および更新のアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
適切なサイジングに関する推奨事項	ce:GetDimensionValues ce:GetTags ce:GetRightsizingRecommendation	[Savings Plans Overview] (Savings Plans の概要) ページを表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
Savings Plans の概要	ce:GetSavingsPlansUtilizationDetails ce:GetSavingsPlansPurchaseRecommendation	
	ce:DescribeNotificationSubscription	有効期限が近づいている Savings Plans アラートやキューに登録されている貯蓄プランアラートに関する既存の通知設定を表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
	ce:CreateNotificationSubscription ce:UpdateNotificationSubscription ce:DeleteNotificationSubscription	有効期限が近づいている Savings Plans アラートやキューに登録されている貯蓄プランアラートに関する既存の通知設定を更新するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
Savings Plans インベントリ	savingsplans:DescribeSavingsPlans ce:GetSavingsPlansUtilizationDetails	購入した Savings Plans を表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
	savingsplans:DescribeSavingsPlansOfferings	更新したい Savings Plans をカートに追加するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
Savings Plans に関する推奨事項	ce:GetSavingsPlansPurchaseRecommendation ce:ListSavingsPlansPurchaseRecommendationGeneration	生成された Savings Plans の推奨を表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
	ce:StartSavingsPlansPurchaseRecommendationGeneration	最新の利用状況と Savings Plans のインベントリに基づいて、新しいレコメンデーションを計算するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
Savings Plans を購入	savingsplans:DescribeSavingsPlansOfferings	Savings Plans をカートに追加するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
Savings Plans 使用状況レポート	ce:DescribeReport ce:GetSavingsPlansUtilization ce:GetSavingsPlansUtilizationDetails ce:GetDimensionValues	既存の Savings Plans の利用状況を表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
	savingsplans:DescribeSavingsPlanRates	Savings Plans の料金を表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
Savings Plans カバレッジレポート	ce:GetDimensionValues ce:GetSavingsPlansCoverage ce:GetCostCategories ce:DescribeReport ce:GetSavingsPlansPurchaseRecommendation	Savings Plans の対象となる支払いを表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
Savings Plans のカート	savingsplans:DescribeSavingsPlansOfferings savingsplans:DescribeSavingsPlans	Savings Plans を購入するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	savingsplans:CreateSavingsPlan	
予約の概要	ce:GetReservationUtilization ce:GetReservationCoverage ce:GetReservationPurchaseRecommendation ce:DescribeReport	[Reservations Overview] (予約の概要) ページを表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
	ce:DescribeNotificationSubscription	期限切れのリザーブドインスタンス (RI) アラートに関する既存の通知設定を表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
	ce:CreateNotificationSubscription ce:UpdateNotificationSubscription ce:DeleteNotificationSubscription	期限切れ間近の RI アラートの通知設定を更新するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
予約の推奨事項	ce:GetReservationPurchaseRecommendation ce:GetDimensionValues	予約の推奨事項を表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
予約利用状況レポート	ce:GetDimensionValues ce:GetReservationUtilization ce:DescribeReport	既存の RI の使用状況を表示するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
	ce:CreateReport	RI レポートを保存するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
予約カバレッジレポート	ce:GetReservationCoverage ce:GetReservationPurchaseRecommendation ce:DescribeReport ce:GetDimensionValues ce:GetCostCategories	予約 (RI) の対象となる対象となる料金を閲覧するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
	ce:CreateReport	RI カバレッジレポートを保存するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。
詳細設定	ce:GetPreferences	AWS コスト管理の設定を表示するアクセス許可をユーザーに許可または拒否します。

AWS コスト管理コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	ce:UpdatePreferences	AWS コスト管理の設定を更新するアクセス許可をユーザーに付与または拒否します。

影響を受けたポリシーツールの使用方法

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 詳細については、AWS 「請求、 AWS コスト管理、アカウントコンソールのアクセス許可の変更」ブログを参照してください。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11:00 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションはすでに組織で有効です。

請求コンソールの [影響を受けたポリシー] ツールを使用して IAM ポリシー (SCP を除く) を特定し、この移行によって影響を受ける IAM アクションを参照します。[影響を受けたポリシー] ツールを使用して、以下のタスクを実行します。

- IAM ポリシーを特定し、この移行によって影響を受ける IAM アクションを参照します。
- 更新したポリシーをクリップボードにコピーします。
- 影響を受けたポリシーを IAM ポリシーエディターで開きます。

- アカウントの更新したポリシーを保存します。
- 詳細な権限を有効にして、古いアクションを無効にします。

このツールは、サインインしている AWS アカウントの境界内で動作し、他の AWS Organizations アカウントに関する情報は公開されません。

[影響を受けたポリシー] ツールを使用するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [影響を受けたポリシー] ツールにアクセスするには、URL (https://console.aws.amazon.com/poliden/home?region=us-east-1#/) をブラウザに貼り付けます。

   > **Note**
   >
   > `iam:GetAccountAuthorizationDetails` アクセス許可は、このページを表示するために必要です。

3. 影響を受ける IAM ポリシーが記載されている表を確認します。ポリシーで参照されている特定の IAM アクションを確認するには、[非推奨の IAM アクション] 列を使用してください。
4. [更新したポリシーをコピー] 列で [コピー] を選択し、更新したポリシーをクリップボードにコピーします。更新したポリシーには、既存のポリシーと、それに追加された詳細な推奨アクションが個別の `Sid` ブロックとして含まれます。このブロックには、ポリシーの末尾にプレフィックス `AffectedPoliciesMigrator` が付きます。
5. [IAM コンソールでポリシーを編集] 列で、[編集] を選択して IAM ポリシーエディターに移動します。既存のポリシーの JSON が表示されます。
6. 既存のポリシー全体を、ステップ 4 でコピーした更新済みのポリシーに置き換えます。必要に応じて他の変更を加えることができます。
7. [次へ]、[変更を保存] の順に選択します。
8. 影響を受けるすべてのポリシーについて、ステップ 3 ~ 7 を繰り返します。
9. ポリシーを更新したら、[影響を受けたポリシー] ツールを更新して、影響を受けたポリシーがリストにないことを確認します。すべてのポリシーの [新しい IAM アクションが見つかりました] 列に [はい] が表示され、[コピー] ボタンと [編集] ボタンは無効になります。影響を受けたポリシーが更新されます。

アカウントで詳細なアクションを有効にするには

ポリシーを更新したら、次の手順に従ってアカウントで詳細なアクションを有効にします。

[新しい IAM アクションを管理] セクションを使用できるのは、組織の管理アカウント (支払人) または個人アカウントだけです。個人アカウントは、新しいアクションを自分で有効にできます。管理アカウントは、組織全体または一部のメンバーアカウントに対して新しいアクションを有効にできます。管理アカウントの場合は、すべてのメンバーアカウントの影響を受けたポリシーを更新し、組織で新しいアクションを有効にします。詳細については、 AWS ブログ記事の「How to toggle accounts between new fine-grained actions or existing IAM actions?」セクションを参照してください。

> **Note**
>
> これを実行するには、次のアクセス許可が必要です。
>
> - `aws-portal:GetConsoleActionSetEnforced`
> - `aws-portal:UpdateConsoleActionSetEnforced`
> - `ce:GetConsoleActionSetEnforced`
> - `ce:UpdateConsoleActionSetEnforced`
> - `purchase-orders:GetConsoleActionSetEnforced`
> - `purchase-orders:UpdateConsoleActionSetEnforced`

[新しい IAM アクションを管理] セクションが表示されない場合は、アカウントで詳細な IAM アクションがすでに有効になっていることを意味します。

1. [新しい IAM アクションを管理] では、[強制される現在のアクションセット] 設定は [既存] ステータスになります。

   [新しいアクションを有効にする (詳細)] を選択し、[変更を適用] を選択します。
2. ダイアログボックスで、[はい] を選択します。「強制される現在のアクションセット] ステータスが [詳細] に変わります。つまり、新しいアクションがユーザーの AWS アカウント または組織に強制されます。
3. (オプション) その後、既存のポリシーを更新して、古いアクションをすべて削除できます。

Example例: IAM ポリシーの前と後

次の IAM ポリシーには古い `aws-portal:ViewPaymentMethods` アクションが含まれています。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewPaymentMethods"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

更新したポリシーをコピーすると、次の例では詳細なアクションを含む新しい `Sid` ブロックが作成されます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewPaymentMethods"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "AffectedPoliciesMigrator0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "account:GetAccountInformation",
                "invoicing:GetInvoicePDF",
```

```
                "payments:GetPaymentInstrument",
                "payments:GetPaymentStatus",
                "payments:ListPaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

関連リソース

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の Sid についてのページを参照してください。

新しいきめ細かなアクションの詳細については、「きめ細かな IAM アクションのマッピングリファレンス」および「きめ細かな AWS コスト管理アクションの使用」を参照してください。

サービス間での不分別な代理処理の防止

混乱した代理問題は、アクションを実行するためのアクセス許可を持たないエンティティが、より特権のあるエンティティにアクションの実行を強制できてしまう場合に生じる、セキュリティ上の問題です。では AWS、サービス間のなりすましにより、混乱した代理問題が発生する可能性があります。サービス間でのなりすましは、1 つのサービス (呼び出し元サービス) が、別のサービス (呼び出し対象サービス) を呼び出すときに発生する可能性があります。呼び出し元サービスは、本来ならアクセスすることが許可されるべきではない方法でその許可を使用して、別のお客様のリソースに対する処理を実行するように操作される場合があります。これを防ぐため、 AWS では、アカウントのリソースへのアクセス権が付与されたサービスプリンシパルで、すべてのサービスのデータを保護するために役立つツールを提供しています。

リソースポリシーで aws:SourceArnおよび aws:SourceAccount グローバル条件コンテキストキーを使用して、 AWS コスト管理機能が別のサービスに付与できるリソースへのアクセス許可を制限することをお勧めします。両方のグローバル条件コンテキストキーを同じポリシーステートメントで使用する場合は、aws:SourceAccount 値と、aws:SourceArn 値に含まれるアカウントが、同じアカウント ID を示している必要があります。

混乱した代理問題から保護するための最も効果的な方法は、リソースの完全な ARN を指定して aws:SourceArn グローバル条件コンテキストキーを使用することです。リソースの完全な ARN が不明な場合や、複数のリソースを指定する場合は、aws:SourceArn グローバルコンテキスト条件キーを使用して、ARN の未知部分をワイルドカード (*) で表します。例

えば、arn:aws:*servicename*::*123456789012*:* です。 AWS Budgets の場合、 の値は aws:SourceArnである必要がありますarn:aws:budgets::*123456789012*:budget/*。

次の例は、 AWS Budgets で aws:SourceArnおよび aws:SourceAccount グローバル条件コンテキストキーを使用して、混乱した代理問題を防ぐ方法を示しています。

JSON

```
{
"Version":"2012-10-17",
"Statement": [
  {
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "Service": "budgets.amazonaws.com"
    },
    "Action": "sts:AssumeRole",
    "Condition": {
      "ArnLike": {
        "aws:SourceArn": "arn:aws:budgets::123456789012:budget/*"
      },
      "StringEquals": {
        "aws:SourceAccount": "123456789012"
      }
    }
  }
]
}
```

AWS コスト管理のアイデンティティとアクセスのトラブルシューティング

以下の情報は、 AWS コスト管理と IAM を使用する際に発生する可能性がある一般的な問題の診断と修正に役立ちます。

トピック

- AWS コスト管理でアクションを実行する権限がない
- iam:PassRole を実行する権限がない
- アクセスキーを表示したい
- 管理者としてコスト AWS 管理へのアクセスを他のユーザーに許可したい

- 自分の 以外のユーザーに自分の AWS コスト管理リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

AWS コスト管理でアクションを実行する権限がない

にアクションを実行する権限がないと AWS マネジメントコンソール 通知された場合は、管理者に連絡してサポートを依頼する必要があります。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

以下のエラー例は、mateojackson ユーザーがコンソールを使用して架空の *my-example-widget* リソースに関する詳細情報を表示しようとしているが、架空の ce:*GetWidget* 許可がないという場合に発生します。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform:
 ce:GetWidget on resource: my-example-widget
```

この場合、Mateo は、ce:*GetWidget* アクションを使用して *my-example-widget* リソースにアクセスできるように、管理者にポリシーの更新を依頼します。

iam:PassRole を実行する権限がない

iam:PassRole アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、 AWS ポリシーを更新してコスト管理にロールを渡すことができるようにする必要があります。

一部の AWS のサービス では、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、既存のロールをそのサービスに渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡すアクセス許可が必要です。

以下のサンプルエラーは、marymajor という IAM ユーザーがコンソールを使用して AWS コスト管理でアクションを実行しようするときに発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与されたアクセス許可が必要です。Mary には、ロールをサービスに渡すアクセス許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
 iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新してメアリーに iam:PassRole アクションの実行を許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、 AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

アクセスキーを表示したい

IAM ユーザーアクセスキーを作成した後は、いつでもアクセスキー ID を表示できます。ただし、シークレットアクセスキーを再表示することはできません。シークレットアクセスキーを紛失した場合は、新しいアクセスキーペアを作成する必要があります。

アクセスキーは、アクセスキー ID (例: AKIAIOSFODNN7EXAMPLE) とシークレットアクセスキー (例: wJalrXUtnFEMI/K7MDENG/bPxRfiCYEXAMPLEKEY) の 2 つで構成されています。ユーザー名とパスワードと同様に、リクエストを認証するために、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーの両方を使用する必要があります。ユーザー名とパスワードと同様に、アクセスキーは安全に管理してください。

> **Important**
>
> 正規のユーザー ID を確認するためであっても、アクセスキーを第三者に提供しないでください。これにより、 への永続的なアクセス権をユーザーに付与できます AWS アカウント。

アクセスキーペアを作成する場合、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを安全な場所に保存するように求めるプロンプトが表示されます。このシークレットアクセスキーは、作成時にのみ使用できます。シークレットアクセスキーを紛失した場合、IAM ユーザーに新規アクセスキーを追加する必要があります。アクセスキーは最大 2 つまで持つことができます。既に 2 つある場合は、新規キーペアを作成する前に、いずれかを削除する必要があります。手順を表示するには、IAM ユーザーガイドの「アクセスキーの管理」を参照してください。

管理者としてコスト AWS 管理へのアクセスを他のユーザーに許可したい

他のユーザーが AWS コスト管理にアクセスできるようにするには、アクセスを必要とするユーザーまたはアプリケーションにアクセス許可を付与する必要があります。 AWS IAM アイデンティティセンター を使用してユーザーとアプリケーションを管理する場合は、アクセスレベルを定義するアクセス許可セットをユーザーまたはグループに割り当てます。アクセス許可セットは、ユーザーまたはアプリケーションに関連付けられている IAM ロールに自動的に IAM ポリシーを作成して割り当てます。詳細については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「アクセス許可セット」を参照してください。

IAM アイデンティティセンターを使用していない場合は、アクセスを必要としているユーザーまたはアプリケーションの IAM エンティティ (ユーザーまたはロール) を作成する必要があります。次に、 AWS コスト管理の適切なアクセス許可を付与するポリシーをエンティティにアタッチする必

要があります。アクセス許可が付与されたら、ユーザーまたはアプリケーション開発者に認証情報を提供します。これらの認証情報を使用して AWSにアクセスします。IAM ユーザー、グループ、ポリシー、アクセス許可の作成の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM アイデンティティ」と「IAM のポリシーとアクセス許可」を参照してください。

自分の 以外のユーザーに自分の AWS コスト管理リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまたはアクセスコントロールリスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- AWS コスト管理がこれらの機能をサポートしているかどうかを確認するには、「」を参照してくださいAWS コスト管理と IAM の連携方法。
- 所有 AWS アカウント している のリソースへのアクセスを提供する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「所有 AWS アカウント している別の の IAM ユーザーへのアクセスを提供する」を参照してください。
- リソースへのアクセスをサードパーティーに提供する方法については AWS アカウント、IAM ユーザーガイドの「サードパーティー AWS アカウント が所有する へのアクセスを提供する」を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイド の 外部で認証されたユーザー (ID フェデレーション) へのアクセスの許可 を参照してください。
- クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの使用方法の違いについては、IAM ユーザーガイド の IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス を参照してください。

AWS コスト管理のサービスにリンクされたロール

サービスにリンクされたロールは、 にリンクされたサービスロールの一種です AWS のサービス。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは に表示され AWS アカウント 、サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。

サービスにリンクされたロールの作成または管理の詳細については、「IAM と提携するAWS のサービス」を参照してください。表の「サービスリンクロール」列に Yes と記載されたサービスを見つけます。サービスにリンクされたロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、[はい] リンクを選択します。

サービスにリンクされたロールの使用

サービスにリンクされたロールは、 サービスにリンクされた AWS サービスロールの一種です。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは AWS アカウントに表示され、サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスリンクロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。

トピック

- Cost Optimization Hub のサービスにリンクされたロール
- 分割コスト配分データのサービスにリンクされたロール
- データエクスポートのサービスにリンクされたロール
- Budgets のサービスリンクロール
- コスト配分用のユーザー属性のサービスにリンクされたロール

Cost Optimization Hub のサービスにリンクされたロール

Cost Optimization Hub は、 AWS Identity and Access Management (IAM) サービスにリンクされたロールを使用します。サービスにリンクされたロールは、Cost Optimization Hub に直接リンクされた IAM ロールの一意のタイプです。サービスにリンクされたロールは Cost Optimization Hub によって事前定義されており、サービスがユーザーに代わって他の AWS サービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可が含まれています。

サービスにリンクされたロールを使用することで、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、Cost Optimization Hub の設定が簡単になります。Cost Optimization Hub は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を定義します。特に定義されている場合を除き、Cost Optimization Hub のみがそのロールを引き受けることができます。定義されたアクセス許可には、信頼ポリシーとアクセス権限ポリシーが含まれ、そのアクセス権限ポリシーを他の IAM エンティティに適用することはできません。

サービスにリンクされたロールをサポートするその他のサービスについては、「IAM と連携する AWS のサービス」を参照し、[Service-Linked Role] (サービスにリンクされたロール) 列が [Yes] (は

い) になっているサービスを検索してください。そのサービスに関するサービスにリンクされたロールのドキュメントを表示するには、リンクが設定されている [はい] を選択します。

Cost Optimization Hub のサービスにリンクされたロールのアクセス許可

Cost Optimization Hub は、`AWSServiceRoleForCostOptimizationHub` という名前のサービスにリンクされたロールを使用します。これにより、Cost Optimization Hub が使用または管理する AWS サービスやリソースにアクセスできます。

`AWSServiceRoleForCostOptimizationHub` サービスにリンクされたロールは、ロールを継承するために `cost-optimization-hub.bcm.amazonaws.com` のサービスを信頼します。

このロールの許可ポリシー `CostOptimizationHubServiceRolePolicy` は、Cost Optimization Hub が指定されたリソースで以下のアクションを完了することを許可します。

- organizations:DescribeOrganization
- organizations:ListAccounts
- organizations:ListAWSServiceAccessForOrganization
- organizations:ListParents
- organizations:DescribeOrganizationalUnit
- organizations:ListDelegatedAdministrators
- ce:ListCostAllocationTags
- ce:GetCostAndUsage
- ce:GetDimensionValues

詳細については、「Cost Optimization Hub がサービスの動作に必要なサービスを呼び出せるよう許可する」を参照してください。

サービスにリンクされたロール `CostOptimizationHubServiceRolePolicy` の完全なアクセス許可の詳細については、「AWS Managed Policy Reference Guide」の「CostOptimizationHubServiceRolePolicy」を参照してください。

サービスリンクロールの作成、編集、削除を IAM エンティティ (ユーザー、グループ、ロールなど) に許可するにはアクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスにリンクされたロールのアクセス許可」を参照してください。

Cost Optimization Hub サービスにリンクされたロールの作成

サービスにリンクされたロールを手動で作成する必要はありません。Cost Optimization Hub を有効にすると、サービスにリンクされたロールが自動的に作成されます。Cost Optimization Hub は、AWS コスト管理コンソール、または API または CLI AWS を使用して有効にできます。詳細については、このユーザーガイド内にある、Cost Optimization Hub の有効化についてのセクションを参照してください。

このサービスリンクロールを削除した後で再度作成する必要が生じた場合は同じ方法でアカウントにロールを再作成できます。

Cost Optimization Hub サービスにリンクされたロールの編集

さまざまなエンティティから参照される可能性があるため、AWSServiceRoleForCostOptimizationHub サービスにリンクされたロールの名前またはアクセス許可を編集することはできません。ただし、IAM を使用してロールの説明を編集することはできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Editing a service-linked role」を参照してください。

AWSServiceRoleForCostOptimizationHub サービスにリンクされたロールの説明を IAM エンティティで編集できるよう許可するには

サービスにリンクされたロールの説明を編集する必要のある IAM エンティティの許可ポリシーに次のステートメントを追加します。

```
{
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
        "iam:UpdateRoleDescription"
    ],
    "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/cost-optimization-
hub.bcm.amazonaws.com/AWSServiceRoleForCostOptimizationHub",
    "Condition": {"StringLike": {"iam:AWSServiceName": "cost-optimization-
hub.bcm.amazonaws.com"}}
}
```

Cost Optimization Hub サービスにリンクされたロールの削除

Cost Optimization Hub が不要になった場合は、AWSServiceRoleForCostOptimizationHub サービスにリンクされたロールを削除することをお勧めします。これにより、使用していないエンティティがアクティブにモニタリングされたり、メンテナンスされたりすることがなくなります。た

だし、サービスにリンクされたロールを手動で削除する前に、Cost Optimization Hub をオプトアウトする必要があります。

Cost Optimization Hub をオプトアウトするには

Cost Optimization Hub のオプトアウトの詳細については、「Cost Optimization Hub のオプトアウト」を参照してください。

サービスリンクロールを IAM で手動削除するには

IAM コンソール、コマンドラインインターフェイス (AWS CLI)、または AWS API AWS を使用して、`AWSServiceRoleForCostOptimizationHub`サービスにリンクされたロールを削除します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスリンクロールの削除」を参照してください。

Cost Optimization Hub のサービスにリンクされたロールがサポートされているリージョン

Cost Optimization Hub では、このサービスが利用可能なすべての AWS リージョンで、サービスにリンクされたロールの使用をサポートしています。詳細については、 AWS 「 サービスエンドポイント」を参照してください。

分割コスト配分データのサービスにリンクされたロール

分割コスト配分データは、 AWS Identity and Access Management (IAM) サービスにリンクされたロールを使用します。サービスにリンクされたロールは、分割コスト配分データに直接リンクされた一意のタイプの IAM ロールです。サービスにリンクされたロールは、分割コスト配分データによって事前定義されており、サービスがユーザーに代わって他の AWS サービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可が含まれています。

サービスにリンクされたロールを使用することで、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、分割コスト配分データの設定が簡単になります。分割コスト配分データは、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を定義し、別に定義されていない限り、分割コスト配分データのみがそのロールを引き受けることができます。定義されたアクセス許可には、信頼ポリシーとアクセス権限ポリシーが含まれ、そのアクセス権限ポリシーを他の IAM エンティティに適用することはできません。

サービスにリンクされたロールをサポートするその他のサービスについては、「IAM と連携する AWS のサービス」を参照し、[Service-Linked Role] (サービスにリンクされたロール) 列が [Yes] (はい) になっているサービスを検索してください。そのサービスに関するサービスにリンクされたロールのドキュメントを表示するには、リンクが設定されている [はい] を選択します。

分割コスト配分データのサービスにリンクされたロールのアクセス許可

分割コスト配分データは、 という名前のサービスにリンクされたロールを使用します。これによりAWSServiceRoleForSplitCostAllocationData、分割コスト配分データによって使用または管理される AWS サービスとリソースにアクセスできます。

AWSServiceRoleForSplitCostAllocationData サービスにリンクされたロールは、ロールを継承するために split-cost-allocation-data.bcm.amazonaws.com のサービスを信頼します。

SplitCostAllocationDataServiceRolePolicy というロールアクセス許可ポリシーは、分割コスト配分データに、指定されたリソースで次のアクションを完了することを許可します。

- organizations:DescribeOrganization
- organizations:ListAccounts
- organizations:ListAWSServiceAccessForOrganization
- organizations:ListParents
- aps:ListWorkspaces
- aps:QueryMetrics

詳細については、「分割コスト配分データからサービスの動作に必要なサービスを呼び出せるよう許可する」を参照してください。

サービスにリンクされたロール SplitCostAllocationDataServiceRolePolicy の許可の詳細をすべて表示するには、「AWS Managed Policy Reference Guide」の「SplitCostAllocationDataServiceRolePolicy」を参照してください。

サービスリンクロールの作成、編集、削除を IAM エンティティ (ユーザー、グループ、ロールなど) に許可するにはアクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスにリンクされたロールのアクセス許可」を参照してください。

分割コスト配分データのサービスにリンクされたロールの作成

サービスにリンクされたロールを手動で作成する必要はありません。分割コスト配分データにオプトインすると、サービスにリンクされたロールが自動的に作成されます。コスト管理コンソールを使用して、分割 AWS コスト配分データを有効にできます。詳細については、「Enabling split cost allocation data」を参照してください。

このサービスリンクロールを削除した後で再度作成する必要が生じた場合は同じ方法でアカウントにロールを再作成できます。

分割コスト配分データのサービスにリンクされたロールの編集

さまざまなエンティティから参照される可能性があるため、AWSServiceRoleForSplitCostAllocationData サービスにリンクされたロールの名前またはアクセス許可を編集することはできません。ただし、IAM を使用してロールの説明を編集することはできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Editing a service-linked role」を参照してください。

AWSServiceRoleForSplitCostAllocationData サービスにリンクされたロールの説明を IAM エンティティで編集できるよう許可するには

サービスにリンクされたロールの説明を編集する必要のある IAM エンティティの許可ポリシーに次のステートメントを追加します。

```
{
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
        "iam:UpdateRoleDescription"
    ],
    "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/split-cost-allocation-
data.bcm.amazonaws.com/AWSServiceRoleForSplitCostAllocationData",
    "Condition": {"StringLike": {"iam:AWSServiceName": "split-cost-allocation-
data.bcm.amazonaws.com"}}
}
```

分割コスト配分データのサービスにリンクされたロールの削除

分割コスト配分データが不要になった場合は、AWSServiceRoleForSplitCostAllocationData のサービスにリンクされたロールを手動で削除することをお勧めします。これにより、使用していないエンティティがアクティブにモニタリングされたり、メンテナンスされたりすることがなくなります。ただし、サービスにリンクされたロールを手動で削除するには、分割コスト配分データをオプトアウトする必要があります。

分割コスト配分データをオプトアウトするには

分割コスト配分データのオプトアウトについては、「Enabling split cost allocation data」を参照してください。

サービスリンクロールを IAM で手動削除するには

IAM コンソール、コマンドラインインターフェイス (AWS CLI)、または AWS API AWS を使用して、AWSServiceRoleForSplitCostAllocationDataサービスにリンクされたロールを削除します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスリンクロールの削除」を参照してください。

分割コスト配分データのサービスにリンクされたロールでサポートされているリージョン

分割コスト配分データは、分割コスト配分データが利用可能なすべての AWS リージョンで、サービスにリンクされたロールの使用をサポートしています。詳細については、 AWS 「 サービスエンドポイント」を参照してください。

データエクスポートのサービスにリンクされたロール

データエクスポートでは、 AWS Identity and Access Management (IAM) サービスにリンクされたロールを使用します。サービスにリンクされたロールは、データエクスポートに直接リンクされた特殊なタイプの IAM ロールです。サービスにリンクされたロールはデータエクスポートによって事前に定義されており、サービスがユーザーに代わって他の AWS のサービスを呼び出すために必要な、すべての許可が含まれています。

サービスにリンクされたロールを使用することで、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、データエクスポートの設定が簡単になります。サービスにリンクされたロールの許可はデータエクスポートが定義し、別段の定義がない限り、データエクスポートのみがそのロールを引き受けることができます。定義されたアクセス許可には、信頼ポリシーとアクセス権限ポリシーが含まれ、そのアクセス権限ポリシーを他の IAM エンティティに適用することはできません。

サービスにリンクされたロールをサポートするその他のサービスについては、「IAM と連携する AWS のサービス」を参照し、[Service-Linked Role] (サービスにリンクされたロール) 列が [Yes] (はい) になっているサービスを検索してください。そのサービスに関するサービスにリンクされたロールのドキュメントを表示するには、リンクが設定されている [はい] を選択します。

データエクスポートのサービスにリンクされたロールの許可

データエクスポートでは、AWSServiceRoleForBCMDataExports という名前のサービスにリンクされたロールを使用します。これにより、お客様に代わって Amazon S3 など、ターゲット場所にデータをエクスポートするための AWS サービスデータにアクセスすることが可能になります。このサービスにリンクされたロールは、必要最小限の AWS サービスデータを収集するための読み取り専用アクションに使用されます。サービスにリンクされたロールは、セキュリティを確保し、ターゲット場所のエクスポートデータの更新を継続するために、長期的に使用されます。

AWSServiceRoleForBCMDataExports サービスにリンクされたロールは、ロールを継承するために bcm-data-exports.amazonaws.com のサービスを信頼します。

AWSBCMDataExportsServiceRolePolicy というロールアクセス許可ポリシーは、データエクスポートに、指定されたリソースで次のアクションを完了することを許可します。

- cost-optimization-hub:ListEnrollmentStatuses
- cost-optimization-hub:ListRecommendation

詳細については、「データエクスポートが他の AWS サービスにアクセスできるように許可する」を参照してください。

サービスにリンクされたロール AWSBCMDataExportsServiceRolePolicy の許可の詳細をすべて表示するには、「AWS Managed Policy Reference Guide」の「AWSBCMDataExportsServiceRolePolicy」を参照してください。

サービスリンクロールの作成、編集、削除を IAM エンティティ (ユーザー、グループ、ロールなど) に許可するにはアクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスにリンクされたロールのアクセス許可」を参照してください。

データエクスポートのサービスにリンクされたロールの作成

データエクスポートのサービスにリンクされたロールを手動で作成する必要はありません。データエクスポートのコンソールページで、サービスにリンクされたロールを必要とするテーブルのエクスポートを作成すると、自動的にロールが作成されます。

このサービスリンクロールを削除した後で再度作成する必要が生じた場合は同じ方法でアカウントにロールを再作成できます。

データエクスポートのサービスにリンクされたロールの編集

さまざまなエンティティから参照される可能性があるため、AWSServiceRoleForBCMDataExports サービスにリンクされたロールの名前またはアクセス許可を編集することはできません。ただし、IAM を使用してロールの説明を編集することはできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Editing a service-linked role」を参照してください。

AWSServiceRoleForBCMDataExports サービスにリンクされたロールの説明を IAM エンティティで編集できるよう許可するには

サービスにリンクされたロールの説明を編集する必要のある IAM エンティティの許可ポリシーに次のステートメントを追加します。

```
{
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
        "iam:UpdateRoleDescription"
    ],
    "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/bcm-data-exports.amazonaws.com/
AWSServiceRoleForBCMDataExports",
    "Condition": {"StringLike": {"iam:AWSServiceName": "bcm-data-
exports.amazonaws.com"}}
}
```

データエクスポートのサービスにリンクされたロールの削除

データエクスポートが不要になった場合は、AWSServiceRoleForBCMDataExports サービスにリンクされたロールを削除することをお勧めします。これにより、使用していないエンティティがアクティブにモニタリングされたり、メンテナンスされたりすることがなくなります。ただし、サービスにリンクされたロールを手動で削除する前に、それを必要とするデータエクスポートを削除する必要があります。

エクスポートを削除するには

エクスポートの削除については、「Editing and deleting exports」を参照してください。

サービスリンクロールを IAM で手動削除するには

IAM コンソール、コマンドラインインターフェイス (AWS CLI)、または AWS API AWS を使用して、AWSServiceRoleForBCMDataExportsサービスにリンクされたロールを削除します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスリンクロールの削除」を参照してください。

データエクスポートのサービスにリンクされたロールがサポートされるリージョン

データエクスポートでは、データエクスポートが利用可能なすべての AWS リージョンで、サービスにリンクされたロールの使用がサポートされています。詳細については、 AWS 「 サービスエンドポイント」を参照してください。

Budgets のサービスリンクロール

Budgets は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスにリンクされたロールを使用します。サービスにリンクされたロールは、Budgets に直接リンクされた一意のタイプの IAM ロールで

す。サービスリンクロールは、Budgets による事前定義済みのロールであり、ユーザーに代わってサービスから他の AWS のサービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可を備えています。

Budgets は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を定義します。特に定義されている場合を除き、これらのロールを引き受けることができるのは、Budgets のみです。定義されたアクセス許可には、信頼ポリシーとアクセス権限ポリシーが含まれ、そのアクセス権限ポリシーを他の IAM エンティティに適用することはできません。

サービスにリンクされたロールをサポートするその他のサービスについては、「IAM と連携する AWS のサービス」を参照し、[Service-Linked Role] (サービスにリンクされたロール) 列が [Yes] (はい) になっているサービスを検索してください。サービスにリンクされた役割に関するドキュメントをサービスで表示するには[はい] リンクを選択してください。

Budgets のサービスにリンクされたロールのアクセス許可

Budgets では `AWSServiceRoleForBudgets` というサービスにリンクされたロールを使用します。このロールにより、Budgets はアカウントをまたいで共有されている請求ビューへのアクセスを検証できるようになります。

このサービスにリンクされたロールの目的は、予算の支出額を更新する際に、その予算に関連付けられた基盤となる請求ビューのデータに対して、お客様がアクセス権を持っていることを検証することです。

`AWSServiceRoleForBudgets` サービスにリンクされたロールは、ロールを継承するために `budgets.amazonaws.com` のサービスを信頼します。

ロールの権限ポリシーである `BudgetsServiceRolePolicy` は、Budgets が、お客様がアクセス可能なすべての請求ビューリソースに対して、次のアクションを実行できるようにします。

- billing:GetBillingViewData

詳細については、Budgets が請求ビューへのアクセスを検証するために必要なサービスを呼び出せるようにするを参照してください。

サービスにリンクされたロール `BudgetsServiceRolePolicy` のアクセス許可の詳細をすべて表示するには、AWS マネージドポリシーリファレンスガイドの BudgetsServiceRolePolicy を参照してください。

サービスリンクロールの作成、編集、削除を IAM エンティティ (ユーザー、グループ、ロールなど) に許可するにはアクセス許可を設定する必要があります。詳細についてはIAM ユーザーガイド の「サービスにリンクされた役割のアクセス許可」を参照してください。

Budgets のサービスリンクロールを作成する

サービスリンクロールを手動で作成する必要はありません。別のアカウントの BillingView にアクセスできる状態で CreateBudget または UpdateBudget を実行すると、サービスによってこのロールが自動的に作成されます。

このサービスリンクロールを削除した後で再度作成する必要が生じた場合は同じ方法でアカウントにロールを再作成できます。

Budgets サービスリンクロールの編集

さまざまなエンティティから参照される可能性があるため、AWSServiceRoleForBudgets サービスにリンクされたロールの名前またはアクセス許可を編集することはできません。ただし、IAM を使用してロールの説明を編集することはできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Editing a service-linked role」を参照してください。

AWSServiceRoleForBudgets サービスにリンクされたロールの説明を IAM エンティティで編集できるよう許可するには

サービスにリンクされたロールの説明を編集する必要のある IAM エンティティの許可ポリシーに次のステートメントを追加します。

```
{
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
        "iam:UpdateRoleDescription"
    ],
    "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/budgets.amazonaws.com/
AWSServiceRoleForBudgets",
    "Condition": {"StringLike": {"iam:AWSServiceName": "budgets.amazonaws.com"}}
}
```

Budgets サービスリンクロールを削除する

Budgets が不要になった場合は、AWSServiceRoleForBudgets サービスリンクロールを削除することをお勧めします。これにより、使用していないエンティティがアクティブにモニタリングされたり、メンテナンスされたりすることがなくなります。ただし、このサービスリンクロールを手動で削除する前に、他のアカウントの Billing View に関連付けられた Budgets を、あなたのアカウントからすべて削除しておく必要があります。これを行う前にサービスリンクロールを削除しようとすると、リクエストは失敗します。

サービスリンクロールを IAM で手動削除するには

IAM コンソール、コマンドラインインターフェイス (AWS CLI)、または AWS API AWS を使用して、AWSServiceRoleForBudgetsサービスにリンクされたロールを削除します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスリンクロールの削除」を参照してください。

Budgets のサービスにリンクされたロールをサポートするリージョン

Budgets は、サービスが利用可能なすべての AWS リージョンでサービスにリンクされたロールの使用をサポートしています。詳細については、 AWS 「 サービスエンドポイント」を参照してください。

コスト配分用のユーザー属性のサービスにリンクされたロール

コスト配分のユーザー属性は、 AWS Identity and Access Management (IAM) サービスにリンクされたロールを使用します。サービスにリンクされたロールは、コスト配分のためにユーザー属性に直接リンクされた一意のタイプの IAM ロールです。サービスにリンクされたロールは、コスト配分のためにユーザー属性によって事前定義されており、サービスがユーザーに代わって他の AWS サービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可が含まれています。

サービスにリンクされたロールを使用すると、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、コスト配分のためのユーザー属性の設定が簡単になります。コスト配分のユーザー属性は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を定義します。特に定義されている場合を除き、コスト配分のユーザー属性のみがそのロールを引き受けることができます。定義されたアクセス許可には、信頼ポリシーとアクセス権限ポリシーが含まれ、そのアクセス権限ポリシーを他の IAM エンティティに適用することはできません。

サービスにリンクされたロールをサポートするその他のサービスについては、「IAM と連携する AWS のサービス」を参照し、[Service-Linked Role] (サービスにリンクされたロール) 列が [Yes] (はい) になっているサービスを検索してください。サービスにリンクされた役割に関するドキュメントをサービスで表示するには[はい] リンクを選択してください。

コスト配分のためのユーザー属性のサービスにリンクされたロールのアクセス許可

コスト配分のユーザー属性は、 という名前のサービスにリンクされたロールを使用します。このロールはAWSServiceRoleForUserAttributeCostAllocation、ユーザーに代わって IAM Identity Center AWS からユーザー属性を読み取るためのコスト配分アクセス許可をユーザー属性に付与します。

AWSServiceRoleForUserAttributeCostAllocation サービスにリンクされたロールは、ロールを継承するために user-attribute-cost-allocation-data.amazonaws.com のサービスを信頼します。

サービスにリンクされたロールは、次の 2 種類のポリシーを使用します。

- インラインロールのアクセス許可ポリシー: コスト配分のためにユーザー属性が Identity Store API を介して IAM Identity Center AWS インスタンスからユーザー情報にアクセスできるようにするアクセス許可が含まれています。 APIs このポリシーには、顧客が Identity Center データを暗号化するときに必要な KMS アクセス許可が含まれており、特定のアカウントと Identity Center インスタンスに限定されます。
- AWS マネージドポリシー (AWSUserAttributeCostAllocationPolicy): 内部使用のためにサービスにリンクされたロールを取得するための追加のアクセス許可をサービスに提供します。

AWSUserAttributeCostAllocationPolicy 管理ポリシーの更新の詳細については、AWSAWS 「Billing and Cost Management」の「 管理ポリシー」を参照してください。

サービスリンクロールの作成、編集、削除を IAM エンティティ (ユーザー、グループ、ロールなど) に許可するにはアクセス許可を設定する必要があります。詳細については、IAM ユーザーガイドの「サービスにリンクされたロールのアクセス許可」を参照してください。

コスト配分サービスにリンクされたロールのユーザー属性の作成

サービスリンクロールを手動で作成する必要はありません。 AWS コスト管理コンソールでコスト配分のユーザー属性を有効にすると、サービスにリンクされたロールが自動的に作成されます。

このサービスリンクロールを削除した後で再度作成する必要が生じた場合は同じ方法でアカウントにロールを再作成できます。コスト配分のためにユーザー属性を有効にすると、サービスにリンクされたロールが再度作成されます。

コスト配分サービスにリンクされたロールのユーザー属性の編集

さまざまなエンティティから参照される可能性があるため、AWSServiceRoleForUserAttributeCostAllocation サービスにリンクされたロールの名前またはアクセス許可を編集することはできません。ただし、IAM を使用してロールの説明を編集することはできます。詳細については、IAM ユーザーガイドの「サービスにリンクされたロールの編集」を参照してください。

コスト配分サービスにリンクされたロールのユーザー属性の削除

コスト配分にユーザー属性を使用する必要がなくなった場合は、AWSServiceRoleForUserAttributeCostAllocationサービスにリンクされたロールを削除することをお勧めします。これにより、使用していないエンティティがアクティブにモニタリング

されたり、メンテナンスされたりすることがなくなります。ただし、サービスにリンクされたロールを手動で削除する前に、まずコスト配分のためにユーザー属性をオプトアウトする必要があります。

サービスにリンクされたロールのクリーンアップ

IAM を使用してサービスにリンクされたロールを削除する前に、まずコスト配分設定のユーザー属性ですべてのユーザー属性を無効にすることで、コスト配分のユーザー属性をオプトアウトする必要があります。

サービスリンク役割の手動による削除

IAM コンソール、 AWS CLI、または AWS API を使用して、`AWSServiceRoleForUserAttributeCostAllocation`サービスにリンクされたロールを削除します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスにリンクされたロールの削除」を参照してください。

コスト配分サービスにリンクされたロールのユーザー属性でサポートされているリージョン

コスト配分のユーザー属性は、サービスが利用可能なすべての AWS リージョンでサービスにリンクされたロールの使用をサポートします。詳細については、 AWS サービスエンドポイントを参照してください。

AWS AWS 請求とコスト管理の マネージドポリシー

チームに必要なアクセス許可のみを持つ IAM カスタマー管理ポリシーを作成するには、時間と専門知識が必要です。管理 AWS ポリシーを使用すると、すぐに開始できます。これらのポリシーは、一般的なユースケースをターゲット範囲に含めており、 AWS アカウントで利用できます。 AWS マネージドポリシーの詳細については「IAM ユーザーガイド」の「AWS マネージドポリシー」を参照してください。

AWS サービスは、 AWS 管理ポリシーを維持および更新します。 AWS 管理ポリシーのアクセス許可は変更できません。サービスでは新しい機能を利用できるようにするために、 AWS マネージドポリシーに権限が追加されることがあります。この種類の更新はポリシーがアタッチされている、すべてのアイデンティティ (ユーザー、グループおよびロール) に影響を与えます。新しい機能が立ち上げられた場合や、新しいオペレーションが使用可能になった場合に、各サービスが AWS マネージドポリシーを更新する可能性が最も高くなります。サービスは AWS マネージドポリシーからアクセス許可を削除しないため、ポリシーの更新によって既存のアクセス許可が損なわれることはありません。

AWSUserAttributeCostAllocationPolicy

このポリシーは、コスト配分サービスにリンクされたロールのユーザー属性に、内部サービスオペレーションのロール情報を取得するためのアクセス許可を提供します。

このポリシーは、AWSServiceRoleForUserAttributeCostAllocation サービスにリンクされたロールにアタッチされます。

AWS AWS マネージドポリシーの請求情報とコスト管理の更新

このサービスがこれらの変更の追跡を開始してからの AWS 請求情報とコスト管理の AWS マネージドポリシーの更新に関する詳細を表示します。

ポリシー	バージョン	変更
AWSUserAttributeCostAllocationPolicy	1	2025 年 12 月 15 日: 初期ポリシーの作成。このポリシーは、コスト配分サービスにリンクされたロールのユーザー属性に、内部サービスオペレーションのロール情報を取得するためのアクセス許可を提供します。

AWS コスト管理でのログ記録とモニタリング

モニタリングは、 AWS アカウントの信頼性、可用性、パフォーマンスを維持する上で重要な部分です。請求情報とコスト管理の使用状況をモニタリングするためのツールがいくつかあります。

AWS コストと使用状況レポート

AWS コストと使用状況レポートは AWS 、使用状況を追跡し、アカウントに関連する推定請求額を提供します。各レポートには、 AWS アカウントで使用する製品、使用タイプ、オペレーションの AWS 一意の組み合わせごとに明細項目が含まれます。 AWS コストと使用状況レポートをカスタマイズして、時間単位または日単位で情報を集計できます。

AWS コストと使用状況レポートの詳細については、「 コストと使用状況レポートガイド」を参照してください。

AWS Cost Explorer

Cost Explorer を使用すると、コストと使用状況を表示および分析できます。過去 13 か月までのデータをモニタリングし、今後 3 か月間の消費量を予測して、リザーブドインスタンスを購入するための推奨事項を参照できます。Cost Explorer により、さらに調べる必要がある分野を特定し、コストを把握するために使用できる傾向を確認できます。

Cost Explorer の詳細については、「AWS Cost Explorer を使用してコストと使用状況を分析する」を参照してください。

AWS 予算

予算を使用すると、Cost Explorer が提供する AWS コスト可視化を使用して、コストと使用状況を追跡できます。予算は、予算のステータスを表示し、推定コストの予測を提供し、無料利用枠を含む AWS 使用状況を追跡します。推定コストが予算を超えた場合に通知を受け取ることもできます。

Budgets の詳細については、「AWS Budgets によるコストの管理」を参照してください。

AWS CloudTrail

Billing and Cost Management は AWS CloudTrail、Billing and Cost Management のユーザー、ロール、または のサービスによって実行されたアクションを記録する AWS サービスである と統合されています。CloudTrail は、請求情報とコスト管理コンソールからの呼び出し、および請求情報とコスト管理 API へのコード呼び出しを含む、請求情報とコスト管理のすべての書き込みおよび変更の API 呼び出しをイベントとしてキャプチャします。

詳細については AWS CloudTrail、「 を使用した AWS コスト管理 API コールのログ記録 AWS CloudTrail」を参照してください。

AWS 料金見積りツール

コンソール内 AWS 料金見積りツール は、割引と購入のコミットメントを使用して、計画されたクラウドコストを見積もることができる AWS Billing and Cost Management 機能です。料金見積りツールを使用して、ワークロードの移行、新規ワークロードの作成または既存のワークロードの増加の計画、コミットメント購入の計画に関するコストへの影響を評価できます。

コンソール内の料金見積りツールの詳細については、料金見積りツールを使用して見積りを生成するを参照してください。

を使用した AWS コスト管理 API コールのログ記録 AWS CloudTrail

AWS コスト管理は、 AWS コスト管理のユーザー AWS CloudTrail、ロール、または によって実行されたアクションを記録するサービスである と統合 AWS のサービス されています。CloudTrail は、 AWS コスト管理の API コールをイベントとしてキャプチャします。キャプチャされた呼び出しには、 AWS コスト管理コンソールとアプリケーションからの API 呼び出しが含まれます。

証跡を作成する場合は、 AWS コスト管理のイベントなど、Amazon S3 バケットへの CloudTrail イベントの継続的な配信を有効にすることができます。証跡を設定しない場合でも、CloudTrail コンソールの [イベント履歴] で最新のイベントを表示できます。CloudTrail によって収集された情報を使用して、 AWS コスト管理に対するリクエスト、リクエスト元の IP アドレス、リクエスト者、リクエスト日時などの詳細を確認できます。

CloudTrail の詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」を参照してください。

AWS CloudTrail のコスト管理情報

CloudTrail は、アカウントの作成 AWS アカウント 時に で有効になります。 AWS コスト管理でアクティビティが発生すると、そのアクティビティはイベント履歴の他の AWS のサービス イベントとともに CloudTrail イベントに記録されます。 で最近のイベントを表示、検索、ダウンロードできます AWS アカウント。詳細については、CloudTrail イベント履歴でのイベントの表示を参照してください。

AWS コスト管理のイベントなど AWS アカウント、 のイベントの継続的な記録については、証跡を作成します。証跡により、CloudTrail はログファイルを Amazon S3 バケットに配信できます。デフォルトで、CloudTrail コンソールで証跡を作成すると、その証跡はすべての AWS リージョンに適用されます。証跡は、 AWS パーティション内のすべてのリージョンからのイベントをログに記録し、指定した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。さらに、CloudTrail ログで収集されたイベントデータを分析して処理 AWS のサービス するように他の を設定できます。

詳細については、「CloudTrail ユーザーガイド」の次のセクションを参照してください。

- の証跡の作成 AWS アカウント (概要)
- CloudTrail がサポートされているサービスと統合
- CloudTrail の Amazon SNS 通知の設定
- CloudTrail ログ ファイルを複数のリージョンから受け取る
- 複数のアカウントから CloudTrail ログファイルを受け取る

AWS コスト管理アクションは CloudTrail によってログに記録され、 AWS Billing and Cost Management API リファレンスに記載されています。例えば、GetDimensionValues、GetCostCategories、GetCostandUsage の各エンドポイントを呼び出すと、CloudTrail ログファイルにエントリが生成されます。

各イベントまたはログエントリには、リクエストの生成者に関する情報が含まれます。この ID 情報は、リクエストがどのようにして送信されたかを確認するのに役立ちます:

- ルートまたはユーザーロールの認証情報を使用して行われたか。
- ロールまたはフェデレーティッドユーザーの一時的なセキュリティ認証情報を使用して行われたか。
- 別の AWS のサービス。

詳細については、「CloudTrail userIdentity 要素」を参照してください。

AWS コスト管理ログファイルエントリについて

「トレイル」は、指定した Amazon S3 バケットにイベントをログファイルとして配信するように設定できます。イベントは任意の発生元からの 1 つのリクエストを表し、リクエストされたアクション、アクションの日時、リクエストのパラメータなどに関する情報が含まれます。

CloudTrail ログファイルには、1 つ以上のログエントリがあります。CloudTrail ログファイルは、公開 API コールの順序付けられたスタックトレースではないため、特定の順序では表示されません。

以下の例は、GetCostandUsage エンドポイントの CloudTrail ログエントリを示しています。

```
{
        "eventVersion":"1.08",
        "userIdentity":{
            "accountId":"111122223333",
            "accessKeyId":"AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE"
        },
        "eventTime":"2022-05-24T22:38:51Z",
        "eventSource":"ce.amazonaws.com",
        "eventName":"GetCostandUsage",
        "awsRegion":"us-east-1",
        "sourceIPAddress":"100.100.10.10",
        "requestParameters":{
           "TimePeriod":{
              "Start":"2022-01-01",
```

```
            "End":"2022-01-31"
         },
         "Metrics":[
            "UnblendedCost",
            "UsageQuantity"
         ],
         "Granularity":"MONTHLY",
         "GroupBy":[
            {
               "Type":"DIMENSION",
               "Key":"SERVICE"
            }
         ]
      },
      "responseElements":null,
      "requestID":"3295c994-063e-44ac-80fb-b40example9f",
      "eventID":"5923c499-063e-44ac-80fb-b40example9f",
      "readOnly":true,
      "eventType":"AwsApiCall",
      "managementEvent":true,
      "recipientAccountId":"1111-2222-3333",
      "eventCategory":"Management",
      "tlsDetails":{
         "tlsVersion":"TLSv1.2",
         "clientProvidedHostHeader":"ce.us-east-1.amazonaws.com"
      }
}
```


Cost Optimization Hub ログファイルエントリについて

「トレイル」は、指定した Amazon S3 バケットにイベントをログファイルとして配信するように設定できます。CloudTrail のログファイルは、単一か複数のログエントリを含みます。イベントは、任意の出典からの単一のリクエストを表し、リクエストされたアクション、アクションの日時、リクエストパラメータなどに関する情報が含まれます。CloudTrail ログファイルは、パブリック API 呼び出しの順序付けられたスタックトレースではないため、特定の順序では表示されません。

以下の例は、Cost Optimization Hub の API アクションと例外を示す CloudTrail ログエントリです。

例

- 例外
  - スロットリング例外

  - アクセス拒否の例外
- API アクション
  - ListEnrollmentStatus
  - ListRecommendations
  - ListRecommendationSummaries
  - GetRecommendation
  - UpdateEnrollmentStatus
  - UpdatePreferences

スロットリング例外

以下の例は、スロットリング例外に対するログエントリを示しています。

```
{
  "eventVersion": "1.09",
  "userIdentity": {
    "type": "AssumedRole",
    "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC:john-doe",
    "arn": "arn:aws:sts::111122223333:assumed-role/Admin/john-doe",
    "accountId": "111122223333",
    "accessKeyId": "AKIAIOSFODNN7EXAMPLE",
    "sessionContext": {
      "sessionIssuer": {
        "type": "Role",
        "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC",
        "arn": "arn:aws:iam::111122223333:role/Admin",
        "accountId": "111122223333",
        "john-doe": "Admin"
      },
      "attributes": {
        "creationDate": "2023-10-14T00:48:50Z",
        "mfaAuthenticated": "false"
      }
    }
  },
  "eventTime": "2023-10-14T01:16:45Z",
  "eventSource": "cost-optimization-hub.amazonaws.com",
  "eventName": "ListEnrollmentStatuses",
  "awsRegion": "us-east-1",
  "sourceIPAddress": "192.0.2.0",
```

```
      "userAgent": "PostmanRuntime/7.28.3",
      "errorCode": "ThrottlingException",
      "requestParameters": null,
      "responseElements": null,
      "requestID": "cc04aa10-7417-4c46-b1eb-EXAMPLE1df2b",
      "eventID": "754a3aad-1b54-456a-ac1f-EXAMPLE0e9c3",
      "readOnly": true,
      "eventType": "AwsApiCall",
      "managementEvent": true,
      "recipientAccountId": "111122223333",
      "eventCategory": "Management",
      "tlsDetails": {
        "clientProvidedHostHeader": "localhost:8080"
      }
    }
```

アクセス拒否の例外

以下の例は、AccessDenied 例外に対するログエントリを示しています。

```
{
      "eventVersion": "1.09",
      "userIdentity": {
        "type": "AssumedRole",
        "principalId": "EXAMPLEAIZ5FTKD2BZKUK:john-doe",
        "arn": "arn:aws:sts::111122223333:assumed-role/ReadOnly/john-doe",
        "accountId": "111122223333",
        "accessKeyId": "AKIAIOSFODNN7EXAMPLE",
        "sessionContext": {
          "sessionIssuer": {
            "type": "Role",
            "principalId": "EXAMPLEAIZ5FTKD2BZKUK",
            "arn": "arn:aws:iam::111122223333:role/ReadOnly",
            "accountId": "111122223333",
            "john-doe": "ReadOnly"
          },
          "attributes": {
            "creationDate": "2023-10-16T19:08:36Z",
            "mfaAuthenticated": "false"
          }
        }
      },
      "eventTime": "2023-10-16T19:11:04Z",
      "eventSource": "cost-optimization-hub.amazonaws.com",
```

```
      "eventName": "ListEnrollmentStatuses",
      "awsRegion": "us-east-1",
      "sourceIPAddress": "192.0.2.0",
      "userAgent": "PostmanRuntime/7.28.3",
      "errorCode": "AccessDenied",
      "errorMessage": "User: arn:aws:sts::111122223333:assumed-role/ReadOnly/john-
doe is not authorized to perform: cost-optimization-hub:ListEnrollmentStatuses
 on resource: * because no identity-based policy allows the cost-optimization-
hub:ListEnrollmentStatuses action",
      "requestParameters": null,
      "responseElements": null,
      "requestID": "1e02d84a-b04a-4b71-8615-EXAMPLEdcda7",
      "eventID": "71c86695-d4ec-4caa-a106-EXAMPLEe0d94",
      "readOnly": true,
      "eventType": "AwsApiCall",
      "managementEvent": true,
      "recipientAccountId": "111122223333",
      "eventCategory": "Management",
      "tlsDetails": {
        "clientProvidedHostHeader": "localhost:8080"
      }
    }
```

ListEnrollmentStatus

以下の例は、ListEnrollmentStatus API アクションに対するログエントリを示しています。

```
    {
      "eventVersion": "1.09",
      "userIdentity": {
        "type": "AssumedRole",
        "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC:john-doe",
        "arn": "arn:aws:sts::111122223333:assumed-role/Admin/john-doe",
        "accountId": "111122223333",
        "accessKeyId": "AKIAIOSFODNN7EXAMPLE",
        "sessionContext": {
          "sessionIssuer": {
            "type": "Role",
            "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC",
            "arn": "arn:aws:iam::111122223333:role/Admin",
            "accountId": "111122223333",
            "john-doe": "Admin"
          },
          "attributes": {
```

```
            "creationDate": "2023-10-14T00:48:50Z",
            "mfaAuthenticated": "false"
          }
        }
      },
      "eventTime": "2023-10-14T01:16:43Z",
      "eventSource": "cost-optimization-hub.amazonaws.com",
      "eventName": "ListEnrollmentStatuses",
      "awsRegion": "us-east-1",
      "sourceIPAddress": "192.0.2.0",
      "userAgent": "PostmanRuntime/7.28.3",
      "requestParameters": {
        "includeOrganizationInfo": false
      },
      "responseElements": null,
      "requestID": "cba87aa3-4678-41b8-a840-EXAMPLEaf3b8",
      "eventID": "57f04d0e-61f7-4c0f-805c-EXAMPLEbbbf5",
      "readOnly": true,
      "eventType": "AwsApiCall",
      "managementEvent": true,
      "recipientAccountId": "111122223333",
      "eventCategory": "Management",
      "tlsDetails": {
        "clientProvidedHostHeader": "localhost:8080"
      }
    }
```

ListRecommendations

以下の例は、ListRecommendations API アクションに対するログエントリを示しています。

```
    {
      "eventVersion": "1.09",
      "userIdentity": {
        "type": "AssumedRole",
        "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC:john-doe",
        "arn": "arn:aws:sts::111122223333:assumed-role/Admin/john-doe",
        "accountId": "111122223333",
        "accessKeyId": "AKIAI44QH8DHBEXAMPLE",
        "sessionContext": {
          "sessionIssuer": {
            "type": "Role",
            "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC",
            "arn": "arn:aws:iam::111122223333:role/Admin",
```

```
            "accountId": "111122223333",
            "john-doe": "Admin"
          },
          "attributes": {
            "creationDate": "2023-10-16T23:47:55Z",
            "mfaAuthenticated": "false"
          }
        }
      },
      "eventTime": "2023-10-17T00:45:29Z",
      "eventSource": "cost-optimization-hub.amazonaws.com",
      "eventName": "ListRecommendations",
      "awsRegion": "us-east-1",
      "sourceIPAddress": "192.0.2.0",
      "userAgent": "PostmanRuntime/7.28.3",
      "requestParameters": {
        "filter": {
          "resourceIdentifiers": [
            "arn:aws:ecs:us-east-1:111122223333:service/
EXAMPLEAccountsIntegrationService-EcsCluster-ClusterEB0386A7-7fsvP2MMmxZ5/
EXAMPLEAccountsIntegrationService-EcsService-Service9571FDD8-Dqm4mPMLstDn"
          ]
        },
        "includeAllRecommendations": false
      },
      "responseElements": null,
      "requestID": "a5b2df72-2cfd-4628-8a72-EXAMPLE7560a",
      "eventID": "a73bef13-6af7-4c11-a708-EXAMPLE6af5c",
      "readOnly": true,
      "eventType": "AwsApiCall",
      "managementEvent": true,
      "recipientAccountId": "111122223333",
      "eventCategory": "Management",
      "tlsDetails": {
        "clientProvidedHostHeader": "cost-optimization-hub.us-east-1.amazonaws.com"
      }
    }
```


ListRecommendationSummaries

以下の例は、ListRecommendationSummaries API アクションに対するログエントリを示しています。

```
{
  "eventVersion": "1.09",
  "userIdentity": {
    "type": "AssumedRole",
    "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC:john-doe",
    "arn": "arn:aws:sts::111122223333:assumed-role/Admin/john-doe",
    "accountId": "111122223333",
    "accessKeyId": "AKIAI44QH8DHBEXAMPLE",
    "sessionContext": {
      "sessionIssuer": {
        "type": "Role",
        "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC",
        "arn": "arn:aws:iam::111122223333:role/Admin",
        "accountId": "111122223333",
        "userName": "Admin"
      },
      "attributes": {
        "creationDate": "2023-10-16T23:47:55Z",
        "mfaAuthenticated": "false"
      }
    }
  },
  "eventTime": "2023-10-17T00:46:16Z",
  "eventSource": "cost-optimization-hub.amazonaws.com",
  "eventName": "ListRecommendationSummaries",
  "awsRegion": "us-east-1",
  "sourceIPAddress": "192.0.2.0",
  "userAgent": "PostmanRuntime/7.28.3",
  "requestParameters": {
    "groupBy": "ResourceType"
  },
  "responseElements": null,
  "requestID": "ab54e6ad-72fe-48fe-82e9-EXAMPLEa6d1e",
  "eventID": "9288d9fa-939d-4e5f-a49a-EXAMPLEeb14b",
  "readOnly": true,
  "eventType": "AwsApiCall",
  "managementEvent": true,
  "recipientAccountId": "111122223333",
  "eventCategory": "Management",
  "tlsDetails": {
    "clientProvidedHostHeader": "cost-optimization-hub.us-east-1.amazonaws.com"
  }
}
```

GetRecommendation

以下の例は、GetRecommendation API アクションに対するログエントリを示しています。


```
    {
      "eventVersion": "1.09",
      "userIdentity": {
        "type": "AssumedRole",
        "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC:john-doe",
        "arn": "arn:aws:sts::111122223333:assumed-role/Admin/john-doe",
        "accountId": "111122223333",
        "accessKeyId": "AKIAI44QH8DHBEXAMPLE",
        "sessionContext": {
          "sessionIssuer": {
            "type": "Role",
            "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC",
            "arn": "arn:aws:iam::111122223333:role/Admin",
            "accountId": "111122223333",
            "john-doe": "Admin"
          },
          "attributes": {
            "creationDate": "2023-10-16T23:47:55Z",
            "mfaAuthenticated": "false"
          }
        }
      },
      "eventTime": "2023-10-17T00:47:48Z",
      "eventSource": "cost-optimization-hub.amazonaws.com",
      "eventName": "GetRecommendation",
      "awsRegion": "us-east-1",
      "sourceIPAddress": "192.0.2.0",
      "userAgent": "PostmanRuntime/7.28.3",
      "requestParameters": {
        "recommendationId":
"EXAMPLEwMzEwODU5XzQyNTFhNGE4LWZkZDItNDUyZi1hMjY4LWRkOTFkOTA1MTc1MA=="
      },
      "responseElements": null,
      "requestID": "e289a76a-182c-4bc9-8093-EXAMPLEbed0e",
      "eventID": "f1ed7ee6-871c-41fd-bb27-EXAMPLE24b64",
      "readOnly": true,
      "eventType": "AwsApiCall",
      "managementEvent": true,
      "recipientAccountId": "111122223333",
      "eventCategory": "Management",
```

```
      "tlsDetails": {
        "clientProvidedHostHeader": "cost-optimization-hub.us-east-1.amazonaws.com"
      }
    }
```

UpdateEnrollmentStatus

以下の例は、UpdateEnrollmentStatus API アクションに対するログエントリを示しています。

```
{
      "eventVersion": "1.09",
      "userIdentity": {
        "type": "AssumedRole",
        "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC:john-doe",
        "arn": "arn:aws:sts::111122223333:assumed-role/Admin/john-doe",
        "accountId": "111122223333",
        "accessKeyId": "AKIAI44QH8DHBEXAMPLE",
        "sessionContext": {
          "sessionIssuer": {
            "type": "Role",
            "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC",
            "arn": "arn:aws:iam::111122223333:role/Admin",
            "accountId": "111122223333",
            "john-doe": "Admin"
          },
          "attributes": {
            "creationDate": "2023-10-16T19:11:30Z",
            "mfaAuthenticated": "false"
          }
        }
      },
      "eventTime": "2023-10-16T19:12:35Z",
      "eventSource": "cost-optimization-hub.amazonaws.com",
      "eventName": "UpdateEnrollmentStatus",
      "awsRegion": "us-east-1",
      "sourceIPAddress": "192.0.2.0",
      "userAgent": "PostmanRuntime/7.28.3",
      "requestParameters": {
        "status": "Inactive"
      },
      "responseElements": {
        "status": "Inactive"
      },
      "requestID": "6bf0c8a3-af53-4c4e-8f50-EXAMPLE477f0",
```

```
    "eventID": "d2bfa850-ef3d-4317-8ac4-EXAMPLEc16b1",
    "readOnly": false,
    "eventType": "AwsApiCall",
    "managementEvent": true,
    "recipientAccountId": "111122223333",
    "eventCategory": "Management",
    "tlsDetails": {
      "clientProvidedHostHeader": "localhost:8080"
    }
  }
```

UpdatePreferences

以下の例は、UpdatePreferences API アクションに対するログエントリを示しています。

```
  {
    "eventVersion": "1.09",
    "userIdentity": {
      "type": "AssumedRole",
      "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC:john-doe",
      "arn": "arn:aws:sts::111122223333:assumed-role/Admin/john-doe",
      "accountId": "111122223333",
      "accessKeyId": "AKIAI44QH8DHBEXAMPLE",
      "sessionContext": {
        "sessionIssuer": {
          "type": "Role",
          "principalId": "EXAMPLEAIZ5FYRFP3POCC",
          "arn": "arn:aws:iam::111122223333:role/Admin",
          "accountId": "111122223333",
          "john-doe": "Admin"
        },
        "attributes": {
          "creationDate": "2023-10-16T19:11:30Z",
          "mfaAuthenticated": "false"
        }
      }
    },
    "eventTime": "2023-10-16T19:16:00Z",
    "eventSource": "cost-optimization-hub.amazonaws.com",
    "eventName": "UpdatePreferences",
    "awsRegion": "us-east-1",
    "sourceIPAddress": "192.0.2.0",
    "userAgent": "PostmanRuntime/7.28.3",
    "requestParameters": {
```

```
        "costMetricsType": "AfterDiscounts"
      },
      "responseElements": {
        "costMetricsType": "AfterDiscounts",
        "memberAccountDiscountVisibility": "None"
      },
      "requestID": "01e56ca3-47af-45f0-85aa-EXAMPLE30b42",
      "eventID": "7350ff23-35f5-4760-98b2-EXAMPLE61f13",
      "readOnly": false,
      "eventType": "AwsApiCall",
      "managementEvent": true,
      "recipientAccountId": "111122223333",
      "eventCategory": "Management",
      "tlsDetails": {
        "clientProvidedHostHeader": "localhost:8080"
      }
    }
```


AWS 料金見積りツール ログファイルエントリについて

証跡は、イベントを含む指定した Amazon S3 バケットにイベントをログファイルとして配信できるようにする設定です AWS 料金見積りツール。証跡を設定しない場合でも、CloudTrail コンソールの [イベント履歴] で最新のイベントを表示できます。CloudTrail によって収集された情報を使用して、リクエストの実行元の IP アドレス AWS 料金見積りツール、リクエストの実行者、リクエストの実行日時などの詳細を確認できます。

AWS 料金見積りツール CloudTrail イベント

このセクションでは、料金見積りツールに関連する CloudTrail イベントの完全なリストを示しています。

> **Note**
>
> 次のイベントのイベントソースは `bcm-pricing-calculator.amazonaws.com` です。

イベント名	定義
`CreateWorkloadEstimate`	変更オペレーション。顧客がワークロード見積りを作成できるようにします。

イベント名	定義
UpdateWorkloadEstimate	変更オペレーション。お客様がワークロード見積りメタデータを更新できるようにします。
DeleteWorkloadEstimate	変更オペレーション。お客様がワークロードの見積りを削除できるようにします。
GetWorkloadEstimate	非変更オペレーション。顧客がワークロード見積りの詳細を取得できるようにします。
ListWorkloadEstimates	非変更オペレーション。お客様が自分のアカウント内のすべてのワークロード見積りを一覧表示できるようにします。
ListWorkloadEstimateUsage	非変更オペレーション。お客様がワークロードの見積り内のすべての使用行を一覧表示できるようにします。
BatchCreateWorkloadEstimateUsage	変更オペレーション。お客様がワークロードの見積り内のすべての使用行を作成できるようにします。
BatchUpdateWorkloadEstimateUsage	変更オペレーション。お客様がワークロードの見積り内の既存の使用行を変更できるようにします。
BatchDeleteWorkloadEstimateUsage	変更オペレーション。お客様がワークロードの見積り内の追加された使用行を削除できるようにします。
CreateBillScenario	変更オペレーション。お客様が請求シナリオを作成できるようにします。
GetBillScenario	変更オペレーション。お客様が請求シナリオの詳細を取得できるようにします。
UpdateBillScenario	変更オペレーション。お客様が請求シナリオのメタデータを更新できるようにします。
DeleteBillScenario	変更オペレーション。お客様が請求シナリオを削除できるようにします。
ListBillScenarios	非変更オペレーション。お客様が自分のアカウント内のすべての請求シナリオを一覧表示できるようにします。

イベント名	定義
BatchCreateBillScenarioUsageModifications	変更オペレーション。お客様が請求シナリオで使用行を作成できるようにします。
BatchUpdateBillScenarioUsageModifications	変更オペレーション。お客様が請求シナリオで既存の使用行を変更できるようにします。
BatchDeleteBillScenarioUsageModifications	変更オペレーション。お客様が請求シナリオで既存の使用行を削除できるようにします。
ListBillScenarioUsageModifications	非変更オペレーション。お客様が請求シナリオですべての使用行を一覧表示できるようにします。
BatchCreateBillScenarioCommitmentModifications	変更オペレーション。お客様が請求シナリオでコミットメントをモデル化できるようにします。
BatchUpdateBillScenarioCommitmentModifications	変更オペレーション。お客様が請求シナリオでモデル化されたコミットメント行を変更できるようにします。
BatchDeleteBillScenarioCommitmentModifications	変更オペレーション。お客様が請求シナリオでモデル化されたコミットメント行を削除できるようにします。
ListBillScenarioCommitmentModifications	非変更オペレーション。お客様が請求シナリオでモデル化されたすべてのコミットメントを一覧表示できるようにします。
CreateBillEstimate	変更オペレーション。お客様が請求シナリオから新しい請求見積りを作成できるようにします。
GetBillEstimate	変更オペレーション。顧客が請求見積りの詳細を取得できるようにします。

イベント名	定義
UpdateBillEstimate	変更オペレーション。お客様が請求見積りのメタデータを更新できるようにします。
DeleteBillEstimate	変更オペレーション。お客様が請求見積りを削除できるようにします。
ListBillEstimates	非変更オペレーション。お客様が自分のアカウント内のすべての請求見積りを一覧表示できるようにします。
ListBillEstimateLineItems	非変更オペレーション。お客様が正常に完了した請求見積りのすべての結果行を一覧表示できるようにします。
ListBillEstimateCommitments	非変更オペレーション。お客様が正常に完了した請求見積りのすべてのコミットメントを一覧表示できるようにします。
ListBillEstimateInputUsageModifications	非変更オペレーション。お客様が請求見積りの作成に使用した請求シナリオでモデル化されたすべてのコミットメントを一覧表示できるようにします。
GetPreferences	非変更オペレーション。お客様が支払者またはスタンドアロンアカウントによって設定された料金設定を取得できるようにします
UpdatePreferences	変更オペレーション。お客様がワークロード見積りで使用する料金設定を設定できるようにします。これは支払者またはスタンドアロンアカウントのみの API オペレーションです。
TagResource	変更オペレーション。お客様が料金見積りリソースにタグを付けることができるようにします。
UntagResource	変更オペレーション。お客様が料金見積りリソースのタグを削除できるようにします。
ListTagsForResource	非変更オペレーション。お客様が料金見積りリソースに付けられたすべてのタグを一覧表示できるようにします。

CreateWorkloadEstimate

次の例は、CreateWorkloadEstimate API アクションを使用する CloudTrail ログエントリです。


```
{
    "eventVersion": "1.08",
    "userIdentity": {
        "accountId": "111122223333",
        "accessKeyId": "AKIAI44QH8DHBEXAMPLE"
    },
    "eventTime": "2024-11-11T02:09:08Z",
    "eventSource": "bcm-pricing-calculator.amazonaws.com",
    "eventName": "CreateWorkloadEstimate",
    "awsRegion": "us-east-1",
    "sourceIPAddress": "100.100.10.10",
    "requestParameters": {
        "name": "example-estimate-name",
        "resourceTags": [],
        "rateType": "BEFORE_DISCOUNTS"
    },
    "responseElements": {
        "costCurrency": "USD",
        "costSummary": {
            "cost": 0,
            "costStatus": "VALID",
            "currency": "USD"
        },
        "createdAt": 1731290948.299,
        "expiresAt": 1765418948.299,
        "id": "15cf39cc-ce14-4943-9dcb-35ccec39ae21",
        "name": "example-estimate-name",
        "rateDescription": "BEFORE_DISCOUNTS|2024-11-11T02:09:08.299974018Z",
        "rateTimestamp": 1731290948.299,
        "rateType": "BEFORE_DISCOUNTS",
        "status": "READY",
        "totalCost": 0
    },
    "eventID": "22bb9d97-6f0c-4482-830d-cde1c9ea00be",
    "readOnly": false,
    "eventType": "AwsApiCall",
    "managementEvent": true,
    "recipientAccountId": "111122223333",
    "eventCategory": "Management"
```

```
}
```

AWS コスト管理のコンプライアンス検証

サードパーティーの監査者は、複数のコンプライアンスプログラムの一環として AWS サービスのセキュリティと AWS コンプライアンスを評価します。 AWS コスト管理は AWS コンプライアンスプログラムの対象ではありません。

特定のコンプライアンスプログラムの対象となる AWS サービスのリストについては、「コンプライアンスAWS プログラムによる対象範囲内のサービスコンプライアンス」を参照してください。一般的な情報については、AWS 「 Compliance ProgramsAssurance」を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「Downloading Reports in AWS Artifact 」を参照してください。

AWS コスト管理を使用する際のお客様のコンプライアンス責任は、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。 は、コンプライアンスに役立つ以下のリソース AWS を提供します。

- 「セキュリティ＆コンプライアンスクイックリファレンスガイド」 – これらのデプロイガイドには、アーキテクチャ上の考慮事項の説明と、 AWSでセキュリティとコンプライアンスに重点を置いたベースライン環境をデプロイするための手順が記載されています。
- AWS コンプライアンスリソース – このワークブックとガイドのコレクションは、お客様の業界や地域に適用される場合があります。
- 「 デベロッパーガイド」の「ルールによるリソースの評価」 – この AWS Config サービスは、リソース設定が内部プラクティス、業界ガイドライン、および規制にどの程度準拠しているかを評価します。 AWS Config
- AWS Security Hub CSPM – この AWS サービスは、 内のセキュリティ状態を包括的に把握 AWS し、セキュリティ業界標準とベストプラクティスへの準拠を確認するのに役立ちます。

の耐障害性 AWS Cost Management

AWS グローバルインフラストラクチャは、 AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンを中心に構築されています。 AWS リージョンは、低レイテンシー、高スループット、高度に冗長なネットワークで接続された、物理的に分離された複数のアベイラビリティーゾーンを提供します。アベイラビリティーゾーンでは、ゾーン間で中断することなく自動的にフェールオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティーゾーンは、従来の単一

または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性、フォールトトレランス、および拡張性が優れています。

AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンの詳細については、AWS 「 グローバルインフラストラクチャ」を参照してください。

のインフラストラクチャセキュリティ AWS Cost Management

マネージドサービスである AWS Cost Management は、ホワイトペーパー「Amazon Web Services: セキュリティプロセスの概要」に記載されている AWS グローバルネットワークセキュリティ手順で保護されています。

AWS 公開された API コールを使用して、ネットワーク経由で請求情報とコスト管理にアクセスします。クライアントで Transport Layer Security (TLS) 1.0 以降がサポートされている必要があります。TLS 1.2 以降が推奨されています。また、Ephemeral Diffie-Hellman (DHE) や Elliptic Curve Ephemeral Diffie-Hellman (ECDHE) などの Perfect Forward Secrecy (PFS) を使用した暗号スイートもクライアントでサポートされている必要があります。これらのモードは、Java 7 以降など、最近のほとんどのシステムでサポートされています。

また、リクエストにはアクセスキー ID と、IAM プリンシパルに関連付けられているシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。または、AWS Security Token Service (AWS STS) を使用して、一時的なセキュリティ認証情報を生成し、リクエストに署名することもできます。

クォータと制限

次の表は、 AWS コスト管理機能内の現在のクォータ、制限、および命名に関する制約を示しています。

AWS 請求コンソールの機能のクォータと制限のリストについては、AWS 「請求ユーザーガイド」の「クォータと制限」を参照してください。

トピック

- 予算
- 予算レポート
- Cost Explorer
- AWS コスト異常検出
- AWS 料金見積りツール
- 請求ビュー
- AWS 請求とコスト管理ダッシュボード

予算

アカウントあたりのアクションにおける無料の予算の数	2
予算あたりのアクション数	10
アカウントあたりの予算アクションの数	100
管理アカウントあたりの予算の合計数	20,000
カスタム請求ビューを使用した予算の合計数	150
予算名に使用できる文字	• 0-9 • A-Z および a-z • Space • 次の記号: _.:/=+-%@

予算レポート

予算レポートの最大数	50
予算レポートあたりの予算の最大数	50
予算レポートの E メール受信者の最大数	50

Cost Explorer

アカウントごとに保存できるレポートの最大数	300
`GetCostAndUsage` オペレーション (API) のフィルターの最大数	100

AWS コスト異常検出

AWS Managed Monitor のクォータ

AWS アカウント AWS のサービス あたりの のマネージドモニター (管理およびメンバー)	1
AWS 管理アカウントあたりの追加のマネージドモニター (連結アカウント、コスト配分タグ、またはコストカテゴリ)	1
AWS 管理アカウントあたりのマネージドモニターの合計	2
メンバーアカウントあたりの AWS マネージドモニターの合計数	1
AWS マネージドモニターごとに追跡される値	5,000

Customer Managed Monitor のクォータ

管理アカウントあたりのカスタマーマネージドモニターの合計	500
カスタマーマネージドモニターあたりの値 (リンクされたアカウントまたはタグ値)	10
カスタマーマネージドモニターあたりの値 (コストカテゴリ値)	1

一般的なクォータ (両方に適用)

アカウントあたりのアラートサブスクリプション	100
サブスクリプションあたりの E メール受信者数	10
サブスクリプションあたりの Amazon SNS トピック	1
アラートサブスクリプションあたりのモニター数	最大 502 (すべてのモニターをアタッチ可能)
使用後に異常を検出する時間	最長 24 時間
検出に必要な履歴データ	最小 10 日間
サポートされていないサービス	• AWS Marketplace • AWS サポート • WorkSpaces • Cost Explorer • 予算 • AWS Shield • Amazon Route 53 • AWS Certificate Manager

	• 使用料タイプと NetUnblendedCost のみを分析する

AWS 料金見積りツール

1 か月にアカウントが作成できるワークロード見積りの最大数	50
1 件のワークロード見積りで実行できる変更の最大数	350
1 件のワークロード見積りで追加できる使用量行の最大数	2000
1 件の請求見積りで追加できる使用量行の最大数	2000

請求ビュー

1 つのアカウントで作成できる請求ビューの最大数	3000

AWS 請求とコスト管理ダッシュボード

ダッシュボードあたりのウィジェットの最大数。	20
アカウントあたりのダッシュボードの最大数	50

ドキュメント履歴

次の表に、 AWS コスト管理コンソールのこのリリースのドキュメントを示します。

変更	説明	日付
コスト配分用のユーザー属性の起動	コスト配分のユーザー属性を使用すると、IAM Identity Center AWS のユーザー属性に基づいてコストを割り当てることができます。AWSUserAttributeCostAllocationPolicy マネージドポリシーが導入されました。	2025 年 12 月 15 日
Cost Optimization Hub でのコスト効率メトリクスの起動	コスト効率は、顧客が AWS クラウドリソースをどの程度効果的に最適化しているかを測定するメトリクスです。	2025 年 11 月 19 日
AWS コスト異常検出が AWS マネージドモニタリングを拡張	AWS コスト異常検出では、単一の AWS マネージドモニターを使用して、リンクされたすべてのアカウント、コスト配分タグ、またはコストカテゴリをモニタリングできるようになりました。	2025 年 11 月 19 日
Amazon Q のコスト管理機能の強化	Amazon Q は、分析機能の改善やサービス統合の追加など、強化されたコスト管理機能を提供するようになりました。	2025 年 11 月 18 日
Amazon Q Developer において料金に関する機能を開始	生成 AI アシスタントである Amazon Q Developer を使用して、サービスの料金を理解	2025 年 10 月 8 日

	し AWS、新しいワークロードのコストを見積もることができます。	
AWS Billing and Cost Management ダッシュボード	AWS Billing and Cost Management ダッシュボードを追加し、 AWS コストと使用状況のデータを組み合わせたカスタマイズされたビューを 1 ページに作成しました。複数の可視化ウィジェットを追加し、アカウント間でダッシュボードを共有できるようになりました。	2025 年 8 月 19 日
AWS 管理ポリシーの更新	次の 管理ポリシーを更新しました。 • AWSBudgetsActionsWithAWSResourceControlAccess • AWSBudgetsReadOnlyAccess	2025 年 8 月 15 日
AWS 管理ポリシーの更新	次の 管理ポリシーを更新しました。 • AWSBudgetsActionsWithAWSResourceControlAccess • AWSBudgetsReadOnlyAccess	2025 年 8 月 15 日

AWS Billing and Cost Management 推奨されるアクション	コンソールの 15 個の推奨アクションの既存のリストに 6 個の新しい推奨アクションを追加しました。すべての推奨アクションが重要、推奨、参考の 3 種類に分類されるようになり、特定された請求に関する問題の優先順位付けと対応が容易になりました。	2025 年 8 月 15 日
請求ビューを使用して予算を作成する機能を追加	自分のアカウントまたは共有されている請求ビューから請求ビューに基づいて予算を作成できます。 • 請求ビューを使用した予算の表示と作成 • BudgetsServiceRolePolicy	2025 年 8 月 6 日
AWS 管理ポリシーの更新	Cost Optimization Hub の CostOptimizationHubServiceRolePolicy を更新しました。	2025 年 7 月 23 日
Amazon Q Developer でコスト最適化機能を開始	生成 AI アシスタントである Amazon Q Developer を使用して AWS、Cost Optimization Hub、Savings Plans AWS Compute Optimizer、予約のレコメンデーションからコスト削減の機会を特定できます。	2025 年 6 月 2 日
Cost Optimization Hub に Amazon Aurora の推奨事項を追加	Cost Optimization Hub が Amazon Aurora データベースのインスタンスおよびクラスターストレージの推奨事項をサポート	2025 年 6 月 2 日

コンソール内 AWS 料金見積りツール	割引と購入コミットメントを使用して、計画されたクラウドコストを見積もることができる、新しいコンソール内の料金見積りツールの機能を追加しました。	2025 年 5 月 29 日
新しいコスト比較 in AWS Cost Explorer	お客様が組織全体の月次コストの変動を把握し、支出変化の主要因を特定できる機能を追加しました。	2025 年 5 月 28 日
Cost Optimization Hub にコミットメント設定を追加	予約および Savings Plans の推奨に対して、希望する期間と支払いオプションをカスタマイズできる機能を追加しました。	2025 年 5 月 28 日
AWS コスト異常検出での AWS ユーザー通知による高度なアラート	AWS ユーザー通知コンソールで拡張アラート機能を作成する機能を追加しました。	2025 年 5 月 20 日
AWS Budgets に新機能を追加	コストをより適切に追跡および管理するために、新しい予算フィルタリング機能とコストメトリクスを追加しました。	2025 年 4 月 29 日
Cost Optimization Hub に MemoryDB と DynamoDBの予約の推奨事項を追加	MemoryDB リザーブドインスタンスと DynamoDB リザーブドキャパシティのコスト最適化に関する推奨事項を追加しました。	2025 年 4 月 8 日

Cost Optimization Hub に EC2 Auto Scaling グループの推奨事項を追加	単一インスタンスタイプおよび複数のインスタンスタイプを使用する EC2 Auto Scaling グループに対するコスト最適化の推奨事項を追加しました。	2025 年 2 月 6 日
新しい請求ビュー	複数のメンバーアカウントにわたって、チームが関連するコスト管理データへアクセスできるようにするため、クラウド財務データの可視性を共有できる新しい請求ビュー機能を追加しました。	2024 年 12 月 20 日
Amazon Q Developer でコスト分析機能を開始 (一般提供)	生成 AI アシスタントである Amazon Q Developer を使用して AWS、 AWS Cost Explorer からコストデータを取得および分析できます。	2024 年 11 月 26 日
AWS コスト異常検出での根本原因分析の強化	AWS コスト異常検出で強化された根本原因分析により、異常を迅速に解決する機能を追加しました。	2024 年 11 月 24 日
コンソール内 AWS 料金見積りツール (プレビュー)	割引と購入コミットメントを使用して、計画されたクラウドコストを見積もることができる、新しいコンソール内の料金見積りツールの機能を追加しました。	2024 年 11 月 22 日

Cost Explorer に DynamoDB 予約の推奨事項を追加	Amazon DynamoDB のリザーブドキャパシティの推奨事項を購入して、プロビジョンドキャパシティをリザーブドキャパシティにより割引料金でカバーできます。	2024 年 9 月 18 日
Cost Optimization Hub の委任管理者を追加	組織内のメンバーアカウントを Cost Optimization Hub の管理者として委任できます。	2024 年 8 月 6 日
AWS 管理ポリシーの更新	Cost Optimization Hub の CostOptimizationHubServiceRolePolicy を更新しました。	2024 年 7 月 5 日
AWS 管理ポリシーの更新	AWSBudgetsReadOnlyAccess ポリシーを更新しました。	2024 年 6 月 17 日
AWS 管理ポリシーを追加	データエクスポートに AWSBCMDataExportsServiceRolePolicy を追加しました。	2024 年 6 月 10 日
Amazon Q でコスト分析機能を開始 (プレビュー)	生成 AI アシスタントである Amazon Q を使用して AWS、AWS Cost Explorer からコストデータを取得および分析できます。	2024 年 4 月 29 日
AWS 管理ポリシーを追加	分割コスト配分データに SplitCostAllocationDataServiceRolePolicy を追加しました。	2024 年 4 月 16 日
AWS 管理ポリシーの更新	AWSBudgetsActions_RolePolicyForResourceAdministrationWithSSM ポリシーを更新しました。	2023 年 12 月 14 日

AWS 管理ポリシーの更新	Cost Optimization Hub では、次の 2 つのマネージドポリシーが更新されました。 • CostOptimizationHubReadOnlyAccess • CostOptimizationHubAdminAccess	2023 年 12 月 14 日
更新版	AWS クラウド財務管理データの概要については、請求情報とコスト管理ホームページの AWS Billing and Cost Management ウィジェットを使用します。 以下の更新を参照してください。 • AWS Billing and Cost Management ホームページの使用 • AWS 請求データと AWS Cost Explorer データの違いを理解する	2023 年 11 月 26 日
新しい Cost Optimization Hub	AWS アカウントとリージョン全体でコスト最適化の推奨事項を統合して AWS 優先順位を付けるのに役立つ新しい Cost Optimization Hub 機能を追加しました。	2023 年 11 月 26 日
AWS 管理ポリシーを追加	Cost Optimization Hub に CostOptimizationHubServiceRolePolicy を追加しました。	2023 年 11 月 26 日

更新版	影響を受ける IAM ポリシーツールの使用法に関して情報を更新しました。	2023 年 11 月 17 日
Cost Explorer に複数年データおよび詳細なデータを追加	過去 14 日間の複数年データ (月単位の詳細度) とより詳細なデータ (時間単位および日単位の詳細度) を最大 38 か月有効にできるようになりました。	2023 年 11 月 16 日
新しい AWS コスト異常検出異常モニターの制限	他のモニタータイプ (連結アカウント、コストカテゴリ、コスト配分タグ) について作成できる異常モニターの数を増加した	2023 年 9 月 12 日
デフォルトでは、新しい AWS コスト異常検出設定	すべての new AWS Cost Explorer ユーザーの AWS コスト異常検出の自動設定を追加しました。	2023 年 3 月 27 日
新しい AWS コスト異常検出の割合ベースのしきい値	異常アラートの AWS コスト異常検出でパーセンテージベースのしきい値のサポートを追加しました。	2022 年 12 月 15 日
アラート通知の新しい AWS コスト異常検出の詳細	アラートメール、コンソール、SNS 経由で Slack または Chime に送信される通知に、アカウント名、モニター名、モニターの種類などの重要な詳細を追加しました。	2022 年 12 月 8 日

AWS Budgets の新しいテンプレートとチュートリアル	推奨設定のテンプレートを使用して予算を作成する新機能と、さまざまな種類の予算の作成方法を学ぶためのウォークスルーチュートリアルを追加しました。	2022 年 9 月 27 日
新しい AWS コスト異常検出履歴値	コンソールに合わせて、 AWS コスト管理ガイドの AWS コスト異常検出履歴タブに新しい値に関する情報を追加しました。	2022 年 8 月 16 日
AWS Budgets の新しい分割ビューパネル	[Budgets Overview] (予算の概要) ページから移動せずに、予算の詳細を表示できる分割ビューパネルを追加することで、コンソールの利便性を高める新機能を追加しました。	2022 年 6 月 15 日
新しい AWS コスト管理ガイド	Billing and Cost Management ユーザーガイドを分割し、機能の詳細を Billing ガイドと AWS Cost Management ガイドに合わせ、コンソールに合わせます。	2021 年 10 月 20 日
新しい AWS コスト異常検出	機械学習を使用してコストと使用状況を継続的にモニタリングし、異常な支出を検出する新しい AWS コスト異常検出機能を追加しました。	2020 年 12 月 16 日

AWS 管理ポリシーの更新	Cost Optimization Hub では、次の 2 つのマネージドポリシーが更新されました。 • CostOptimizationHubReadOnlyAccess • CostOptimizationHubAdminAccess	2020 年 11 月 19 日
で RI/SP 共有を起動しました AWS 料金見積りツール	リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有設定を指定するために、Bill Estimates でグループ共有設定を指定できます。	2020 年 11 月 19 日
新しい発注書管理	購入が請求書に反映される方法を設定する新しい発注書機能が追加されました。	2020 年 10 月 15 日
新しい Budget アクション	AWS 予算が特定のコストまたは使用量のしきい値を超えたときにユーザーに代わってアクションを実行する新しい Budgets アクション機能を追加しました。	2020 年 10 月 15 日
新しい中国銀行リダイレクト支払い方法	を使用して中国人民元のお客様に対して、中国銀行リダイレクトを使用した延滞 AWS 支払いを許可する新しい支払い方法を追加しました。	2020 年 2 月 20 日
セキュリティに関する新しい章	さまざまなセキュリティ制御に関する情報を提供する新しいセキュリティの章が追加されました。この章に、以前の「アクセス制御」章の内容を移行しました。	2020 年 2 月 6 日

AWS Budgets を使用した新しいレポート方法	AWS Budgets レポートを使用して新しいレポート機能を追加しました。	2019 年 6 月 27 日
正規化された単位を AWS Cost Explorer に追加しました	AWS Cost Explorer レポートに正規化された単位が含まれるようになりました。	2019 年 2 月 5 日
新しい支払いの動作	AWS インドのお客様は、支払いの自動請求機能を有効にできるようになりました。	2018 年 12 月 20 日
AWS Cost Explorer一 UI を更新しました	AWS Cost Explorer一 UI を更新しました。	2018 年 11 月 15 日
予算履歴を追加	予算の履歴を表示する機能が追加されました。	2018 年 11 月 13 日
予算のサービスを拡張	RI 予算が Amazon OpenSearch Service に拡張されました。	2018 年 11 月 8 日
新しい支払い方法の追加	SEPA 銀行デビットの支払い方法が追加されました。	2018 年 10 月 25 日
予算エクスペリエンスを再設計	予算 UI とワークフローが更新されました。	2018 年 10 月 23 日
リザーブドインスタンスの推奨事項に新しい列を追加	AWS Cost Explorer RI レコメンデーションに新しい列を追加しました。	2018 年 10 月 18 日
リザーブドインスタンスの新しいレポートを追加	RI レポートが Amazon OpenSearch Service に拡張されました。	2018 年 10 月 10 日
AWS Cost Explorer チュートリアル	AWS Cost Explorer で、最も一般的な機能のウォークスルーが提供されるようになりました。	2018 年 9 月 24 日

新しい支払い方法の追加	ACH 銀行デビット支払い方法を追加しました。	2018 年 7 月 24 日
その他のサービスの RI 購入の推奨事項を追加	AWS Cost Explorer の追加サービスに関する RI 購入の推奨事項を追加しました。	2018 年 7 月 11 日
連結アカウントの RI 購入の推奨事項の追加	AWS Cost Explorer にリンクされたアカウントの RI 購入レコメンデーションを追加しました。	2018 年 6 月 27 日
予算 AWS CloudFormation にを追加	の Budgets テンプレートを追加しました AWS CloudFormation。	2018 年 5 月 22 日
連結アカウントの RI 割り当て動作の更新	連結アカウントのサイズ柔軟 RI の割り当て動作を更新しました。	2018 年 5 月 9 日
RI カバレッジアラート	RI カバレッジアラートを追加しました。	2018 年 5 月 8 日
リンクされたアカウント請求書のブレンドを解除する	連結アカウント請求書に組織の混合料金が表示されなくなりました。	2018 年 5 月 7 日
Amazon RDS レコメンデーションを AWS Cost Explorer に追加	Amazon RDS Recommendations を AWS Cost Explorer に追加しました。	2018 年 4 月 19 日
new AWS Cost Explorer ディメンションと AWS コストと使用状況レポートの明細項目を追加	new AWS Cost Explorer ディメンションと AWS コストと使用状況レポートの明細項目を追加しました。	2018 年 3 月 27 日

AWS Cost Explorer API に購入に関する推奨事項を追加	AWS Cost Explorer API を介した Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) 購入レコメンデーションへのアクセスを追加しました。	2018 年 3 月 20 日
Amazon RDS、Amazon Redshift、および ElastiCache の RI カバレッジを追加	Amazon RDS、Amazon Redshift、および ElastiCache のリザーブドインスタンス (RI) カバレッジ。	2018 年 3 月 13 日
AWS Cost Explorer API に RI カバレッジを追加	AWS Cost Explorer API `GetReservationCoverage` に追加されました。	2018 年 2 月 22 日
RI 推奨事項	以前の使用状況に基づく RI 推奨事項が追加されました。	2017 年 11 月 20 日
AWS Cost Explorer API	API を介した AWS Cost Explorer へのプログラムによるアクセスを有効にしました。	2017 年 11 月 20 日
その他のサービスの RI 使用率のアラート	その他のサービスに通知が追加されました。	2017 年 11 月 10 日
RI レポートの追加	RI レポートを Amazon RDS、Redshift、ElastiCache に拡張しました。	2017 年 11 月 10 日
共有設定の割引	AWS クレジットと RI 割引共有をオフにできるように設定を更新しました。	2017 年 11 月 6 日
RI 使用率アラート	RI 使用率がプリセットのパーセント値に基づくしきい値を下回った場合の通知を追加しました。	2017 年 8 月 21 日

Updated AWS Cost Explorer UI	new AWS Cost Explorer UI をリリースしました。	2017 年 8 月 16 日
AWS Marketplace データ統合	請求書ページ、 AWS Cost Explorer など、すべての請求アーティファクトにデータが反映され AWS Marketplace るように を追加しました。	2017 年 8 月 10 日
予算のアカウントアクセスと使用タイプグループをリンク	特定の使用タイプと使用タイプグループに基づいたコストと使用予算の作成、およびすべてのアカウントタイプの拡張予算の作成機能のサポートが追加されました。	2017 年 6 月 19 日
Added AWS Cost Explorer の詳細オプション	返金、クレジット、RI 前払い料金、RI 経常料金、サポート料金などの追加の高度なオプションで AWS Cost Explorer レポートをフィルタリングできるようになりました。	2017 年 3 月 22 日
AWS Cost Explorerーレポートを追加	リザーブドインスタンス (RI) カバレッジを AWS Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2017 年 3 月 20 日
Added AWS Cost Explorer フィルター	テナンシー、プラットフォーム、Amazon EC2 スポットおよびスケジュールされたリザーブドインスタンスの購入オプションで AWS Cost Explorer レポートをフィルタリングできるようになりました。	2017 年 3 月 20 日

AWSAWS インドの Cost Explorer と予算	AWS インドのユーザーは AWS Cost Explorer と予算を使用できるようになりました。	2017 年 3 月 6 日
AWS Cost Explorer の使用タイプのグループ化を追加	AWS Cost Explorer では、コストと使用状況の両方のデータのグループ化がサポートされているため、お客様はコストと使用状況のグラフを相互参照してコスト要因を特定できます。	2017 年 2 月 24 日
AWS Cost Explorerーレポートを追加しました	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の月別使用率を AWS Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 16 日
AWS Cost Explorerーレポートを追加しました	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の日別使用率を AWS Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 15 日
Added AWS Cost Explorer の詳細オプション	AWS Cost Explorer レポートからタグ付けされたリソースを除外できるようになりました。	2016 年 11 月 18 日
予算の機能の拡張	予算を使用して、使用量データを追跡できるようになりました。	2016 年 10 月 20 日
Expanded AWS Cost Explorer の機能	AWS Cost Explorerーを使用して、使用タイプグループ別にコストを視覚化できるようになりました。	2016 年 9 月 15 日

AWS Cost Explorer レポートマネージャ	これで、 AWS Cost Explorer クエリを保存できるようになりました。	2015 年 12 月 11 日
予算と予測	予算とコスト予測を使用して、 AWS 使用量とコストを管理できるようになりました。	2015 年 6 月 29 日
Amazon Web Services India Private Limited	Amazon Web Services India Private Limited (AWS インド) アカウントのアカウント設定と支払い方法を管理できるようになりました。	2015 年 6 月 1– 日
Expanded AWS Cost Explorer の機能	AWS Cost Explorerーを使用して、アベイラビリティーゾーン、API オペレーション、購入オプション、または複数のコスト配分タグ別にコストを視覚化できるようになりました。	2015 年 2 月 19 日
優先する支払い通貨	クレジットカードに関連付けられた支払い通貨を変更できるようになりました。	2015 年 2 月 16 日
Expanded AWS Cost Explorer の機能	AWS Cost Explorerーを使用して、Amazon EC2 インスタンスタイプまたはリージョン別にコストを視覚化できるようになりました。	2015 年 1 月 5 日

ユーザーアクセス許可	フェデレーティッドユーザーあるいはロールに、アカウント設定のアクセスおよび管理、請求書の表示、コスト管理の実行を許可できるようになりました。例えば、財務部門のユーザーに、本番環境へのアクセスを許可することなく、 AWS アカウントの財務セットアップと管理へのフルアクセスを許可できます AWS 。	2014 年 7 月 7 日
AWS Cost Explorer の起動	AWS Cost Explorer は、 AWS コストを可視化し、複数の方法でコストを分析できるようにします。	2014 年 4 月 8 日
請求情報ガイドのバージョン 2.0 の発行	AWS 請求情報ユーザーガイドは、新しい請求情報とコスト管理コンソールに合わせて再編集され、記述内容が改められています。	2013 年 10 月 25 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。